－茨城県土浦市－

# 入ノ上遺跡

－都市計画道路田村沖宿線道路事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書－

1997
土浦市教育委員会
土浦市遺跡調査会

－茨城県土浦市－

# 入ノ上遺跡

－都市計画道路田村沖宿線道路事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書－

1997
土浦市教育委員会
土浦市遺跡調査会

遺跡周辺航撮（平成9年撮影）

馬埋葬土坑（SK-57）

「青毛」墨書土器

青磁・白磁

緑釉陶器

常滑・渥美

青銅製品

# 序

土浦市は霞ケ浦や桜川などの水資源に恵まれ、原始古代から人々が生活するのに適したところでした。そのため市内には貝塚や、集落跡、古墳などの遺跡が数多く存在しています。このような遺跡は当時の様子を解明する手掛かりとなることはもちろんのこと、現代に生きる私たちが豊かに生活することができる先人の業績でもあります。

このような貴重な文化財を保護し、後世に伝えることは私たちの大切な任務であり、郷土の発展のためにも重要なことと思われます。

このたび、田村沖宿地区の区画整理事業地内と沖宿町を結ぶ都市計画道路が計画されました。そのため、記録保存を目的として発掘調査が行われました。

調査の結果、平安時代から中世にかけての集落跡や墓地が発見されました。特に中国産の陶磁器や、馬に関する資料が発見されたことは、大きな成果だと思われます。

今回の調査が、土浦地域の古代文化の解明に少しでも役立てていただければ幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書の発行にあたり、関係者の皆様方のご協力とご助言に対し、心から厚く御礼を申し上げます。

平成9年8月
土浦市教育委員会
教育長　尾見　彰一

# 例　　言

1 本書は都市計画道路田村沖宿線道路事業に伴う、土浦市沖宿町字入ノ上2014他所在の入ノ上A遺跡、入ノ上B遺跡の発掘調査報告書である。遺跡台帳にはA遺跡、B遺跡に分かれて登録されているが、調査の結果から、同一の遺跡と判断し、本文では入ノ上遺跡の名称を使用する。

2 調査は土浦市遺跡調査会が実施した。

3 発掘調査は1996年7月25日～1997年3月29日まで行い、その後1997年8月29日まで整理作業を行った。

4 発掘調査は窪田恵一が担当し、調査員として黒田友紀が当たった。

5 本書の編集は窪田・黒田が行い、黒澤春彦が補佐した。

6 本書の執筆は下記の通りである。

第1章　第1節　黒澤　第2節　窪田
第2章　第1節　黒田　第2節　黒澤
第3章　窪田
第4章　第1節・第2節　窪田
　　第3節　窪田・黒田
　　第4節　黒田(遺物・SI＜位置～覆土＞)・窪田(概要・SI＜遺物～所見＞・SB・SK・SX)
　　第5節　窪田・黒田(遺物)
第5章　窪田

7 整理の分担は下記の通りである。

遺物実測　窪田・小松葉子・福田礼子・鶴町明子・加藤寛生・天谷瑛子・新井栄子・石山春美・大野美津子・川田光子・富田シズエ・長嶺道子・浜田久美子
トレース　小松崎廣子　松川さち子　石山春美　長嶺道子
図　　版　窪田・黒田・大坪美知子・福田・加藤
写　　真　黒澤・本田信之(遺構の撮影は黒田・窪田、航空撮影は㈱中央航業が行った。)
レイアウト　窪田・黒田・黒澤
陶磁器の鑑定は上高津貝塚ふるさと歴史の広場学芸員橋場君男が行った。

8 本調査及び報告書作成には下記の諸機関に御援助、御協力を賜った。
土浦市都市計画部街路課　茨城県教育委員会　県南教育事務所　土浦市文化財保護審議委員会

9 本調査及び整理作業には下記の方々より御協力、御助言を賜った。記して感謝の意を表したい。(敬称略)
大島庄二　大関武　鈴木素行　千葉隆司　富田徹　中野耕太郎　日高慎　茂木雅博　桃崎祐輔　柳沢こう　吉澤悟

10 本遺跡の資料は上高津貝塚ふるさと歴史の広場が保管する。

# 目　　次

序
例　　言
凡　　例
調査会組織
調査者名簿

第1章　調査経過 …… 1
第2章　環　　境 …… 3
第3章　調査の概要 …… 7
第4章　遺構と遺物 …… 13
　第1節　旧石器時代 …… 13
　第2節　縄文時代 …… 15
　第3節　弥生時代 …… 17
　第4節　古墳時代～平安時代 …… 18
　第5節　中世以降 …… 122
第5章　結　　語 …… 137
報告書抄録
写真図版

# 図 版 目 次

第1図　周辺の遺跡 …… 4
第2図　周辺地形と調査区位置図 …… 8
第3図　遺構全体図 …… 9～10
第4図　旧石器時代の石器 …… 14
第5図　陥し穴状遺構(SK-4・9・20・27・75) … 16
第6図　竪穴住居跡(SI-66) …… 17
第7図　竪穴住居跡(SI-1) …… 19
第8図　出土遺物 …… 19
第9図　竪穴住居跡(SI-2) …… 20
第10図　出土遺物 …… 20
第11図　竪穴住居跡(SI-3) …… 21
第12図　出土遺物 …… 21
第13図　竪穴住居跡(SI-4) …… 22
第14図　竪穴住居跡(SI-5) …… 23
第15図　出土遺物 …… 23
第16図　竪穴住居跡(SI-7) …… 24
第17図　出土遺物 …… 24
第18図　竪穴住居跡(SI-8) …… 25
第19図　出土遺物 …… 25
第20図　竪穴住居跡(SI-11) …… 26
第21図　出土遺物 …… 26
第22図　竪穴住居跡(SI-14) …… 27
第23図　出土遺物 …… 27
第24図　竪穴住居跡(SI-16・17) …… 28
第25図　竪穴住居跡(SI-18) …… 29
第26図　SI-18出土遺物 …… 30
第27図　竪穴住居跡(SI-19) …… 30
第28図　竪穴住居跡(SI-20ａ・20ｂ) … 31

第29図　竪穴住居跡(SI-21)　…… 32
第30図　竪穴住居跡(SI-15)　…… 32
第31図　竪穴住居跡(SI-22)　…… 33
第32図　出土遺物　…… 33
第33図　竪穴住居跡(SI-23・24)　…… 34
第34図　SI-23・24出土遺物　…… 35
第35図　竪穴住居跡(SI-25)　…… 35
第36図　SI-25竈　…… 36
第37図　出土遺物　…… 36
第38図　竪穴住居跡(SI-26・27)　…… 37
第39図　竪穴住居跡(SI-28・30)　…… 39
第40図　竪穴住居跡(SI-31)　…… 40
第41図　竪穴住居跡(SI-32)　…… 41
第42図　竪穴住居跡(SI-33)　…… 43
第43図　竪穴住居跡(SI-34・126ｂ)　…… 44
第44図　SI-34・126ｂ出土遺物　…… 45
第45図　竪穴住居跡(SI-35)　…… 45
第46図　竪穴住居跡(SI-36)　…… 46
第47図　出土遺物　…… 46
第48図　竪穴住居跡(SI-37)　…… 47
第49図　竪穴住居跡(SI-38)　…… 48
第50図　竪穴住居跡(SI-39・40)　…… 49
第51図　SI-39・40出土遺物　…… 50
第52図　竪穴住居跡(SI-42)　…… 51
第53図　竪穴住居跡(SI-43・50)　…… 53
第54図　竪穴住居跡(SI-45・46)　…… 54
第55図　竪穴住居跡(SI-47)　…… 55
第56図　出土遺物　…… 55
第57図　竪穴住居跡(SI-48・49ａ)　…… 56
第58図　竪穴住居跡(SI-49ｂ・6)　…… 57
第59図　竪穴住居跡(SI-51)　…… 58
第60図　竪穴住居跡(SI-52)　…… 59
第61図　竪穴住居跡(SI-53・117)　…… 60
第62図　SI-117出土遺物　…… 61
第63図　竪穴住居跡(SI-54)　…… 61
第64図　竪穴住居跡(SI-56)　…… 62
第65図　出土遺物　…… 62
第66図　竪穴住居跡(SI-57・64)　… 63～64
第67図　竪穴住居跡(SI-58)　…… 65
第68図　竪穴住居跡(SI-59)　…… 66
第69図　竪穴住居跡(SI-62)　…… 66
第70図　竪穴住居跡
(SI-67・68・69・70)　…… 67
第71図　竪穴住居跡(SI-72)　…… 68
第72図　竪穴住居跡(SI-73・74)　…… 69
第73図　竪穴住居跡(SI-75・77)　…… 70
第74図　竪穴住居跡(SI-78)　…… 71
第75図　竪穴住居跡(SI-81・84)　…… 72
第76図　SI-84出土遺物　…… 72
第77図　竪穴住居跡(SI-85・86)　…… 73
第78図　SI-85・86出土遺物　…… 74
第79図　竪穴住居跡(SI-87)　…… 74
第80図　竪穴住居跡(SI-88)　…… 75
第81図　竪穴住居跡(SI-91・92)　…… 76
第82図　SI-92出土遺物　…… 77
第83図　竪穴住居跡(SI-93)　…… 77
第84図　竪穴住居跡(SI-95)　…… 78
第85図　竪穴住居跡(SI-96・98)　…… 79
第86図　竪穴住居跡(SI-97)　…… 80
第87図　竪穴住居跡(SI-100・105・122)　… 81
第88図　SI-100・105・122出土遺物　…… 82
第89図　竪穴住居跡(SI-101)　…… 83
第90図　竪穴住居跡(SI-106・119)　…… 84
第91図　竪穴住居跡(SI-108)　…… 85
第92図　竪穴住居跡(SI-107)　…… 86
第93図　出土遺物　…… 86
第94図　竪穴住居跡(SI-112)　…… 87
第95図　SI-118出土遺物　…… 87
第96図　竪穴住居跡(SI-118)　…… 88
第97図　竪穴住居跡(SI-104)　…… 88
第98図　竪穴住居跡(SI-120)　…… 89
第99図　出土遺物　…… 89
第100図　竪穴住居跡(SI-123)　…… 89
第101図　竪穴住居跡(SI-124)　…… 90

第102図　竪穴住居跡(SI-126ａ) …… 91
第103図　竪穴住居跡(SI-128・137) …… 91
第104図　SI-128出土遺物 …… 92
第105図　竪穴住居跡(SI-129・132) …… 93
第106図　SI-129・132出土遺物 …… 94
第107図　竪穴住居跡(SI-133) …… 94
第108図　竪穴住居跡(SI-130) …… 95
第109図　出土遺物 …… 95
第110図　竪穴住居跡(SI-134) …… 96
第111図　出土遺物 …… 96
第112図　竪穴住居跡(SI-131) …… 97
第113図　SI-131出土遺物 …… 98
第114図　竪穴住居跡(SI-135) …… 98
第115図　出土遺物 …… 98
第116図　竪穴住居跡(SI-136) …… 99
第117図　竪穴住居跡
(SI-140～144・146・147) … 100
第118図　SI-140～144・146・147出土遺物 … 102
第119図　竪穴住居跡(SI-145・148) … 103
第120図　竪穴住居跡(SI-12・13) …… 104
第121図　竪穴住居跡(SI-113) …… 105
第122図　掘立柱建物跡(SB-1) …… 106
第123図　掘立柱建物跡(SB-2) …… 107
第124図　掘立柱建物跡(SB-3・6) … 108
第125図　掘立柱建物跡(SB-7・8) … 110
第126図　掘立柱建物跡(SB-9) …… 111
第127図　掘立柱建物跡(SB-10・11) … 112
第128図　特殊遺構(SX-12・13・14) … 113
第129図　土壙・土坑
(SK-5・17・25・28・61) … 115
第130図　SK-5・61出土遺物 …… 116
第131図　SK-65出土遺物 …… 117
第132図　土坑セクション …… 118
第133図　土坑集中部 …… 119～120
第134図　溝跡(SD-10) …… 121
第135図　掘立柱建物跡(SB-4) …… 122
第136図　掘立柱建物跡(SB-5) …… 123
第137図　出土遺物 …… 123
第138図　方形竪穴状遺構(SX-1) …… 124
第139図　方形竪穴状遺構(SX-3)・
土坑(SK-12・13) …… 125
第140図　方形竪穴状遺構(SX-10) … 126
第141図　方形竪穴状遺構(SX-11) … 127
第142図　土壙
(SK-23・57・77・80・82・105) … 129
第143図　土壙
(SK-51・62・76・88・91・104・106) … 130
第144図　SK-62・76・91出土遺物 … 131
第145図　土坑
(SK-21・86・87・94・95・96・97・107) … 132
第146図　土坑
(SK-98・99・100・101・102・103) … 134
第147図　遺構外・その他出土遺物 … 136

# 写真図版目次


PL1　入ノ上遺跡調査区全景
PL2　試掘・調査前風景・遺跡北部全景・基本層序・SK-4・SI-66
PL3　SI-1・SI-2・SI-3
PL4　SI-3・SI-4・SI-5
PL5　SI-6・SI-7・SI-8
PL6　SI-8・SI-11・SI-12・SI-14・SI-15
PL7　SI-16・17・SI-16・SI-17・SI-18
PL8　SI-19・SI-20 a・b ・SI-21・SI-22
PL9　SI-22・SI-23・24・SI-23・24・25 SI-23・SI-24・SI-25・SI-26
PL10　SI-26・SI-27・SI-28
PL11　SI-30・SI-28・30・SI-31・SI-32・SI-33
PL12　SI-34・SI-36・SI-38・SI-39
PL13　SI-40・SI-42・SI-43・50・SI-43・SI-50
PL14　SI-47・SI-49 a・b ・SI-51・SI-52・SI-57
PL15　SI-57・SI-58・SI-64・SI-74・SI-85・SI-87
PL16　SI-93・SI-96・SI-97・SI-14・19・20 a・b
PL17　SI-100・105・122・SI-105・SI-101・SI-106・119・SI-106・135・SI-113
PL18　SI-113・SI-117・SI-118・SI-119・SI-123
PL19　SI-123・SI-124・SI-126 a ・SI-126 b ・SI-128
PL20　SI-129・SI-130・SI-131・SI-133・SI-134
PL21　SI-135・SI-136・SI-137・SI-140～144・146・147・SI-140・SI-141
PL22　SI-143・SI-144・SI-146・SB-1・SB-2・SB-3・SB-9
PL23　SX-12・SK-5・SK-110・SK-116・SK-122・SD-10
PL24　SX-1・SX-10・SX-11
PL25　土坑集中部・SK-62・SK-91・SK-76・SK-23
PL26　SK-57・SK-82・SK-88・SK-104・SK-107・SK-21・現地説明会風景
PL27　旧石器・SI-66・SI-1～6出土遺物
PL28　SI-7・8・11・14・SI-16～18・SI-20 a ～22出土遺物
PL29　SI-23～26・SI-30～32・SI-34・36・38・126 b 出土遺物
PL30　SI-39・40・42・43・46・47・51・52・54・56・117出土遺物
PL31　SI-57・59・74・75・78・84・85・86・88・91・92出土遺物
PL32　SI-93・95・96・97・100・101・105・106・107出土遺物
PL33　SI-112・118・120・123 ・124・128～133・135出土遺物
PL34　SI-140～146・13・SB-2・SX-12・13・SK-5出土遺物
PL35　青銅製品・青磁・白磁・陶器・石製品・SX-11・SK-104・SB-5・遺構外出土遺物

# 凡　　例

1　遺構番号については、遺構の種別ごとに調査順を原則として付したが、調査や整理の過程で遺構でないと判断したものは欠番とした。

2　土層観察における色相の判定は「新版標準土色帖」(日本色研事業株式会社)を使用した。
土層図に表記したA層とは、炭化物粒などの混入物が認められない遺物包含層である。H層とは、炭化物粒と焼土粒が多量に混入した遺物包含層である。

3　各遺構の実測図は、原図20分の1を使用し、縮尺4分の1を基本としたが、状況により3分の1、2分の1等を用いた。カマドは、原図10分の1を使用し縮尺4分の1を基本とした。

4　実測図中の標高は、すべてm単位で示している。

5　本文・図版の記号について、「SI」は住居址、「SK」は土壙・土坑、「P」はpit、「SB」は掘立柱建物跡、「SX」は方形竪穴状遺構・特殊遺構、「SD」は溝跡・道路跡、「K」は撹乱を示している。また原図や台帳、遺物注記はこれらの記号を用いている。

6　実測図中の出土遺物に付した番号は、遺物図版及び写真図版の番号に一致する。また接合関係にある遺物は、各々を実線で結んだ。

7　実測図中の破線は推定線を示している。

8　遺構実測図中におけるスクリーントーンの指示は下記のとおりである。
焼土　カマド袖部粘土

9　遺構の観察項目は以下の通り。規模　長軸×短軸×壁高　ピット　(3つの場合)長径×短径×深さ(2つの場合)径×深さ　貯蔵穴　①位置　②長軸×短軸×深さ、形状　③覆土、遺物　炉　①位置　②長軸×短軸、形態　③掘り込み　④特記事項　竈　①位置　②住居の主軸と異なる場合の方位　③煙道部～焚口部×最大幅　④壁への掘り込み　⑤火床部掘り込み　⑥煙道部壁斜角度　⑦煙道部径長軸×短軸　⑧構築材　⑨支脚、補強材などの特記事項

10　遺物の縮尺は3分の1を基本としたが、大きさにより原寸、3分の2、2分の1、6分の1に縮尺した。

11　各部位の名称と法量表現は下記のとおりである。
A－口径　B－器高　C－底径　D－高台径　E－高台高

12　遺物実測図中、中心線の一点鎖線は復元実測を表す。

13　遺物実測図中の赤色は赤彩を表す。その他スクリントーンの指示は下記のとおりである。
黒色処理・釉　須恵器断面　灰釉陶器断面
煤・タール付着・墨痕

14　土器観察表は下記の要領で記載した。
種類で、土師器の色調を呈するが、須恵器の技法を用い、還元焔焼成を試みたもの(須恵器を作ろうとしたが還元焔焼成が不完全)であれば須恵器とした。
法量は、上記11の表記を用い、(　)は現存値、〔　〕は復元推定値を表す。
技法の特徴は、整形、成形について記した。また黒色処理や赤彩も当欄に記した。
胎土は、半透明、透明の鉱物(1～2mm)を石英、白色の鉱物(1～2mm)を長石とした。色調は原則として外面、内面の順に記した。焼成は良好、普通、不良の三段階に分けた。
備考欄には実測図に対しての残存率と、その他の特記事項で煤などの付着物や、墨書等を記載した。

15　遺構の時代判定について、遺構内出土遺物の実測図を掲示していない場合は、遺構の重複関係や出土遺物により判定している。

## 調査会組織

会　　長　　須田直之　土浦市文化財保護審議会長

副 会 長　　青木利次・尾見彰一　土浦市教育委員会教育長

理　　事　　大塚博　土浦市文化財保護審議会委員／廣田宣治　土浦市参事兼企画調整課長／五頭英明　土浦市企画調整課長／内海崎保生・出地隆治　土浦市区画整理課長／坂入勇　土浦市建築指導課長／野口幹雄・石神進一　土浦市都市計画課長／金塚文雄・細田俊雄　土浦市耕地課長／大塚重治・内海崎保生　土浦市土木課長

幹　　事　　飯田章二・中川茂男　土浦市教育委員会教育次長／小野政夫　土浦市監査事務局長

幹 事 長　　宮本昭　土浦市教育委員会文化課長

幹　　事　　矢口俊則　上高津貝塚ふるさと歴史の広場副館長／萩島優　土浦市教育委員会文化課長補佐／小貫俊男　同主査兼文化財係長／塩谷修・石川功・榎陽介　上高津貝塚ふるさと歴史の広場主幹／黒澤春彦同主事　同主幹／中沢達也　土浦市教育委員会文化課主事　土浦市立博物館主幹／関口満・橋場君男・宮本礼子　上高津貝塚ふる歴の広場主事／窪田恵一・黒田友紀・鶴町明子

## 調査者名簿

**発掘調査**

**主任調査員**　窪田恵一

**調 査 員**　黒田友紀　車廣錦

**調査補助員**　糸賀淳晃・小杉山大輔・柳田真(明治大学学生)

**整　　理**

**主任調査員**　窪田恵一

**調 査 員**　黒田友紀　福田礼子　小松葉子　黒澤春彦　本田信之　鶴町明子

**調査補助員**　加藤寛生(国学院大学学生)

**事務担当**　鈴木ひと美　　**事 務 局**　上高津貝塚ふるさと歴史の広場

**発掘参加者**(10日以上)

赤池定雄　安達浩二　飯田トミ　飯村洋子　今泉代志子　岩本よし子　岩本照男　大竹きみ子
大坪美知子　岡本君子　岡村くに　小沼さと　折本秀子　加藤博司　川島敏子　川俣茂子
河原井秋彦　木村時政　久保田賢司　久保田たけ子　小柳道雄　坂本滝子　坂本みつい
坂本たい子　清水たまの　清水としえ　武井しずえ　富島利治　富島栄子　野口絹子　埜口てつ子
堀越方子　羽成美香　松浦澄子　松浦正美　松延貞子　松延貞次郎　矢の中たつ　吉田源一

**室内作業参加者**

齋藤智恵子　高野文江　塚本忍　鈴木久美子　鈴木身知子

**整理参加者**

天谷瑛子　新井栄子　石山春美　大野美津子　大坪美知子　川田光子　小松崎廣子　富田シズエ
長嶺道子　浜田久美子　松川さち子

# 第1章　調査経過

## 第1節　調査に至る経緯

土浦市北東の田村・沖宿地区において、近年大規模な土地区画整理事業が行われ、それに伴い、道路の整備が必要となってきた。土浦市では区画整理地内と沖宿町を結ぶ、都市計画道路田村沖宿線が計画された。

工事に先立ち、土浦市は平成6年に土浦市教育委員会に対し、事業地内の遺跡の有無についての照会をした。これを受け、同教育委員会は現地踏査を行い、事業地内に入ノ上A遺跡、入ノ上B遺跡が存在することを確認した。同教育委員会はその旨を土浦市に回答し、協議の結果、事業地内における遺跡の範囲と密度を確認するために、試掘調査を行うことにした。試掘調査は土浦市遺跡調査会に委託し、平成7年7月7日から同年7月11日まで行われた。試掘の結果、台地南端に非常に濃密な分布がみられ、北に向かうほど薄くなる傾向にあることが分かった。同教育委員会では試掘調査の結果をもとに遺跡の範囲を決定し、土浦市に報告した。その後、埋蔵文化財の措置について協議を重ね、その結果、記録保存の措置を講ずる事となった。平成8年4月26日、土浦市より調査の依頼があり、同教育委員会は調査機関として土浦市遺跡調査会を紹介した。土浦市遺跡調査会は7月1日に土浦市と埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、7月25日から入ノ上A遺跡、入ノ上B遺跡の発掘調査を実施した。

## 第2節　調査の経過

平成8年(1996)7月16日より作業準備に着手する。Ⅲ区より重機を使用して表土除去作業を始める。排土の処理は重機の使用期間は場外搬出とし、人力による掘削作業に入ったら場内積み置きとする。7月18日～19日、現地事務所と器材庫の設営。7月24日、発掘用器材を現地に搬入する。7月25日、本調査を開始する。発掘作業員の出勤初日でⅢ区南側よりジョレンを使用して遺構確認作業に入る。確認した遺構には白線により表示を行うが、H層が広がる一帯では個別の遺構確認は困難を極めた。7月26日、重機による表土除去作業は終了する。Ⅰ・Ⅱ区では遺構の密度が低く、確認は比較的容易であった。7月29日、現場に測量用の基準杭設置が行われる。8月5日、SD-1～3の掘削から遺構調査に着手する。8月10日～18日、お盆期間中の作業員休暇。8月26日、SI-2の竈脇より青銅製の丸鞆が1点出土。裏座も残っており良好な状態で出土した。8月27日、SI-1の床面上から炭化した木製品が出土した。この頃は降雨もなく乾燥が進み、Ⅱ区・Ⅲ区の遺構確認はなかなか進まなかった。8月28日、Ⅱ区の遺構調査に着手。SI、SKの掘削に入る。9月2日、Ⅲ区に3m×3mの掘削区を設定始める。9月6日、SI-3の床面から鍛造剥片を検出し、平安時代の鍛冶工房跡であることを確認した。以後床面や鍛冶炉内の覆土から鍛冶関連試料を回収するため試料採取作業に入る。採取方法は第3章第1節3.「遺物の取り扱いについて」の項を参照されたい。9月11日にSD-10の覆土中より馬の歯が上下分揃って出土する。9月20日、Ⅲ区で遺構の形状が容易に確認できた遺構から掘削開始。10月3日、Ⅰ区東側にてそれまで個別のピットと考えていた遺構が掘立柱建物跡であると再確認してSB-2と遺構名を付す。一方の梁行間を拡張した状態が観察された。10月11日、Ⅰ区西側にてSB-1、3の範囲を確認する。特にSB-3周辺は多数のピットが重複しており、後日SB-4、5を抽出する。10月18日、O-60区で埋葬された人骨1体を検出(SK-76)。人

手が回らないため調査は後日に回す。10月22日、関東ローム層の堆積状況を確認するためF-35区に3m×3mの掘削区を設けて調査。GL-1.0mでは暗色帯を、GL-1.5m付近にて赤城山鹿沼軽石(Ag-KP)のブロックを確認した。関東地方で層位対比の基準に用いられる姶良丹沢火山灰(AT)は確認できなかった。Ⅰ区では縄文時代、平安時代、鎌倉時代の遺構を中心に調査を行い、10月23日に全体の写真撮影を行って作業を終了した。以後は南側を休憩用のテント設営場と排土積み置場として使用することにする。10月28日、Ⅲ区SI-39覆土中より埋葬人骨1体を検出する(SK-62)。この遺構には副葬品を伴っておりその遺物の年代から、鎌倉時代の土壙と判断した。N-72区のSK-61覆土中より土師器小皿と共に、変形・縮小した青銅製の八稜鏡1面が出土した。10月30日午前中に海蔵寺住職を招聘して出土した遺骨の供養を行う。10月31日、SK-5の掘削調査。人間の歯数点と骨片が出土。副葬品として足下に土師器杯が1点、歯の下から短刀(「呑口式腰刀」)が1振出土した。11月6日、Ⅱ区の全景写真撮影を行う。以後はⅢ区の調査に人員を集中する。11月7日、SE-1が中世以降の井戸跡と判断してGL-2mまで掘削を行うが底面にまで到達せず。これ以上の深度の掘削は危険と判断したため、やむを得ず掘削を中止する。11月11日、SK-57を掘削。馬の埋葬土壙と確認する。11月15日、土浦市文化財保護審議員一行の現場視察がある。G-63区にて土師質土器小皿の集中箇所(SX-12)を検出。12月9日、先に調査したSK-57に隣接して2基の馬の埋葬土壙(SK-77・80)を検出。12月10日、それまで停滞していた遺構の実測作業を進めるべく、実測専従の増員が行われた。12月26日、Ⅲ区北東側の土坑集中部分の写真撮影を行う。12月27日～1月7日、年末年始の休暇。平成9年(1997)1月8日、作業を再開する。1月は東側の重複の著しい住居跡群を中心に掘削・実測を集中して行う。2月10日、それまでⅡ区とⅢ区にわたって約1,000m$^2$の未買収地が残っていた。周囲の状況から遺構の分布密度が高い範囲に位置しており、工程や期日を考えた場合早期に解決すべき大きな懸案であったが、ようやくこの部分の調査に着手可能な環境になった。木の伐採後に重機による表土除去を行ったが、その際それまで場内に積み置きしていた排土も、今回の排土と一緒に場外搬出することとした。また重機の作業中に遺構の検出作業を急遽行った。今回の表土除去では、西側一帯では昭和30年代に幅約10m、長さ40m、深さ1m以上に達する大規模な撹乱が行われていることが判明したので、作業工程を考慮した結果、この部分には手を付けないことにした。なお、この撹乱範囲は遺構全体図にその範囲のみを図示した。今回の対象範囲からは住居跡27軒、土壙3基、(人2基、馬1基)、土坑10基の遺構を検出した。3月19日、報道関係者に対し記者発表を現地で行った。3月22日、一般を対象とした現地説明会を実施した。当日は雨天となってしまったが、約50名の参加者があった。3月29日、現場から発掘用器材を撤収し現場作業を終了した。

整理作業は発掘作業と平行して、遺物の洗浄作業を行った。洗浄後、遺物注記作業や、遺物台帳作成、遺物の接合、実測等の諸作業を行った。報告書刊行に向けての版下作成・原稿執筆作業は、4月1日から行った。

# 第2章　環　　境

## 第1節　地理的環境

入ノ上遺跡は、茨城県土浦市沖宿町字入ノ上2014他に所在し、霞ヶ浦まで直線距離にして約0.8kmの土浦市の東端部に位置する。

土浦市は北は新治郡千代田町、東は同郡霞ヶ浦町に接するとともに霞ヶ浦の土浦入りに面している。南は稲敷郡阿見町、牛久市、西はつくば市、新治郡新治村に接している。地形的にみると、北西から市街地を流れて霞ヶ浦に注ぐ桜川によって形成された沖積低地とそれを境にして二分された常総台地とからなる。北側を新治台地、南側を筑波稲敷台地と呼ぶ。新治台地は標高25～27m、筑波稲敷台地は標高約24mの洪積台地である。台地上はほとんどが畑地として利用され、また、霞ヶ浦に面した広大な低地は見渡す限りの蓮田となっており、全国でも有数のレンコンの産地として知られている。

地質は、基盤に手野層とも呼ばれる海成堆積の砂粒で構成される層があり、その上に成田層、竜ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層、表土が順次堆積している。成田層は下層は灰色を呈する中砂粒、上部は中粒の砂粒から成る。竜ヶ崎砂礫層は、赤褐色の砂、礫及び粘土から成り、古東京湾海退期に堆積したと考えられている。常総粘土層は上半部は青灰色で緻密であり、下半部は灰白色でやや砂質となっている。関東ローム層は風成堆積層で、層厚は1m前後である。

本遺跡は霞ヶ浦の土浦入と高浜入に挟まれて半島状に突出する新治台地上に立地する。標高は北側で約28m、南側で約26mを測り、北側から南側にかけて2m程傾斜している。低地との比高は24mである。台地の南側には小さな谷が入り、低地へ続いている。

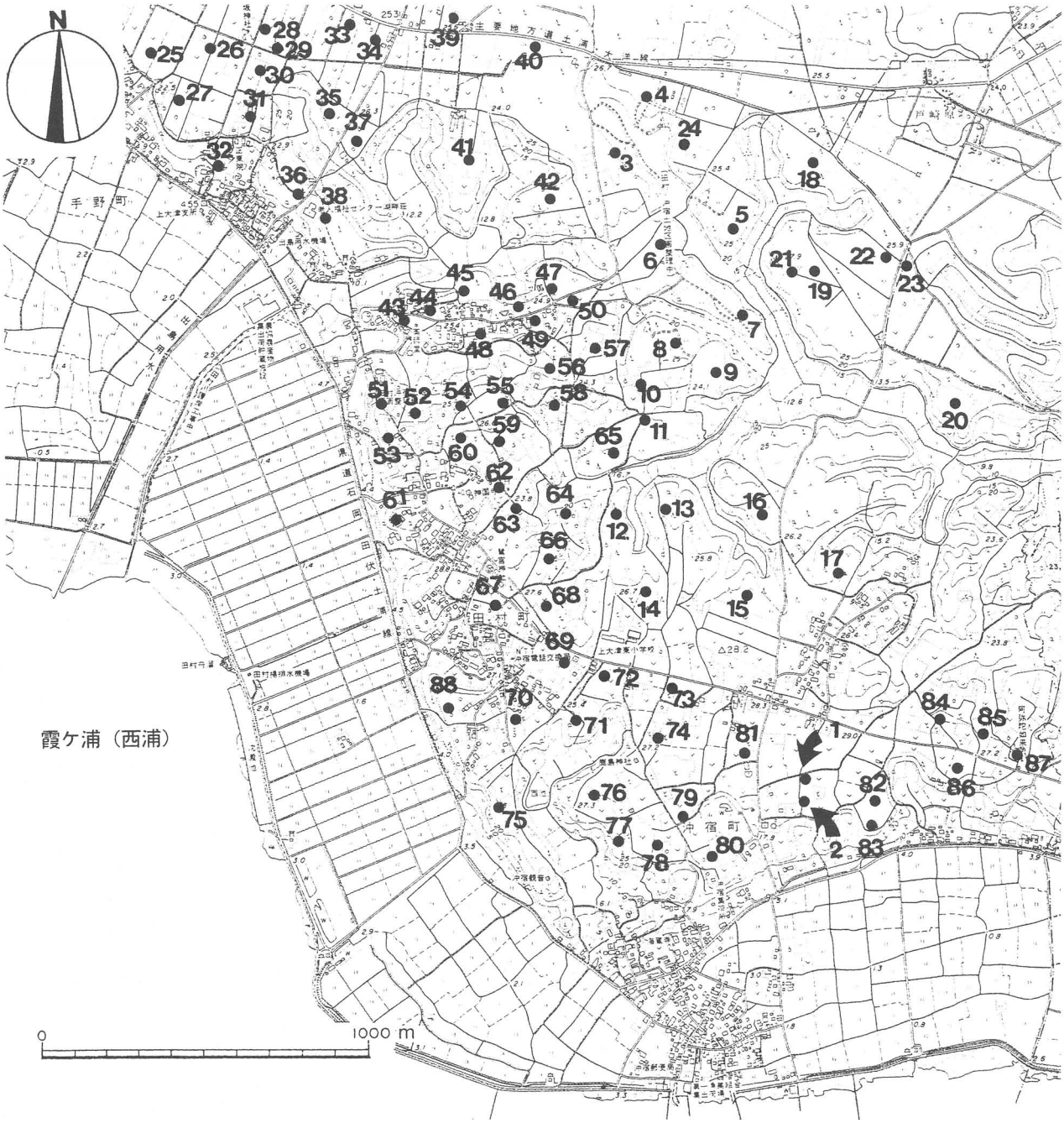
## 第2節　歴史的環境

入ノ上遺跡(1・2)の存在する台地は南に霞ヶ浦を臨み、霞ヶ浦に注ぐ小河川によって開析された地形となっている。そのため生活の場として適しており、市内でも遺跡が密集する地域である。

旧石器時代の遺跡として寺畑遺跡(6)、前谷東遺跡(9)、金澤遺跡(12)、石橋南遺跡(14)、寿行地遺跡(21)等がある。寺畑遺跡からは焼土址(炉)と、ガラス質黒色安山岩を中心としたブロックが発見された。焼土址は金澤遺跡、石橋北遺跡(13)からも発見されているがブロックは伴っていない。前谷東遺跡からはチャート、石橋南遺跡からはメノウのブロックが発見されている。遺構外ではあるが、壱杯清水西遺跡(5)からナイフ形石器、前谷東遺跡から東内野型尖頭器、寺畑遺跡からは荒屋型彫刻刀などが発見されている。

縄文時代の遺跡は早期から晩期まで数多く発見されている。早期の遺跡として夏島式や稲荷台式など撚糸文土器が発見された壱杯清水西遺跡や長峯遺跡(7)、条痕文土器が発見された金澤遺跡などがある。また壱杯清水西遺跡や長峯遺跡からは撚糸文土器を利用した土器片錘も発見されている。前期の遺跡は壱杯清水西遺跡や、長峯遺跡、前谷西遺跡、金澤遺跡、尻替遺跡(17)などが挙げられる。これらの遺跡からは黒浜式から浮島式にかけての良好な資料が出土している。また、前谷西遺跡(8)からは表採ではあるが、完形の板状土偶が発見された。

中期では初頭の下小野式土器が壱杯清水西遺跡や寺畑遺跡、長峯遺跡から発見されている。寺畑遺




**第1図　周辺の遺跡**

周辺遺跡一覧表

| 番号 | 遺　跡　名 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈平 | 中近 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 入ノ上A遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 入ノ上B遺跡 | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 三夜原東遺跡 | | ○ | | | | |
| 4 | 新堀東遺跡 | | ○ | | | | |
| 5 | 壱杯清水西遺跡 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 6 | 寺畑遺跡 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 7 | 長峯遺跡 | ○ | ○ | | | ○ | |
| 8 | 前谷西遺跡 | | ○ | | | ○ | |

| 番号 | 遺　跡　名 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈平 | 中近 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9 | 前谷東遺跡 | ○ | ○ | | | | |
| 10 | 東原遺跡 | | ○ | | | ○ | |
| 11 | 東原観音塚 | | | | | | ○ |
| 12 | 金澤遺跡 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| 13 | 石橋北遺跡 | ○ | ○ | | | ○ | |
| 14 | 石橋南遺跡 | ○ | ○ | | ○ | ○ | |
| 15 | 八幡脇遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | |
| 16 | 六十塚遺跡 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

| 番号 | 遺　跡　名 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈平 | 中近 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 17 | 尻替遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| 18 | 寿行地北遺跡 | ○ | ○ | | ○ | | ○ |
| 19 | 寿行地古墳 | | | | ○ | | |
| 20 | 養老田遺跡 | ○ | ○ | | | ○ | ○ |
| 21 | 寿行地遺跡 | | ○ | | | | |
| 22 | 寿行地所在土塁 | | | | | | ○ |
| 23 | 寿行地所在塚 | | | | | | ○ |
| 24 | 申橋遺跡 | | ○ | | | | |
| 25 | 坂の上遺跡 | | | | ○ | | |
| 26 | 天王前遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | |
| 27 | 手野天神遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | |
| 28 | 八坂東遺跡 | | | | | ○ | |
| 29 | 井戸山遺跡 | | | | | | ○ |
| 30 | 宿後遺跡 | | | | | ○ | |
| 31 | 平遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 32 | 寺上一字一石積経塚 | | | | | | ○ |
| 33 | 天王場遺跡 | | ○ | | | | |
| 34 | 手野原口遺跡 | | ○ | | | ○ | |
| 35 | 吉池遺跡 | | | | ○ | | |
| 36 | 下郷遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 37 | 向原遺跡 | | ○ | | | | |
| 38 | 下郷遺跡・下郷古墳群 | | | | ○ | | |
| 39 | 戊開供養塚 | | | | | | ○ |
| 40 | 清水脇遺跡 | | | | ○ | | |
| 41 | 清水遺跡 | | ○ | | | | |
| 42 | 三夜原西遺跡 | | ○ | | | ○ | |
| 43 | 池島古墳 | | | | ○ | | |
| 44 | 池島遺跡 | | | | ○ | | |
| 45 | 砂子田上遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | |
| 46 | 山王北遺跡 | | | | | ○ | |
| 47 | 東原庚申塚 | | | | | | ○ |
| 48 | 山王下遺跡 | | | | | ○ | |
| 49 | 山王遺跡 | | | | | ○ | |
| 50 | 広月遺跡・田村上郷古墳群 | | ○ | | ○ | ○ | |
| 51 | 田村船塚古墳群 | | | | ○ | | |
| 52 | 八幡梶内遺跡 | | ○ | | ○ | | |

| 番号 | 遺　跡　名 | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈平 | 中近 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 53 | 船塚遺跡 | | | | ○ | | |
| 54 | 八幡後遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 55 | 鐘付堂遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 56 | 木ノ内久保遺跡 | | | | ○ | | |
| 57 | 柏原遺跡・柏原南古墳 | | | | ○ | | |
| 58 | 山川久保遺跡 | | | | | ○ | |
| 59 | 鐘付堂西遺跡 | | | | ○ | | |
| 60 | 平後遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 61 | 根寄上古墳 | | | | ○ | | |
| 62 | 後久保遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 63 | 梨の木遺跡 | | | | | ○ | |
| 64 | 梨の木東遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | |
| 65 | 東原古墳 | | | | ○ | | |
| 66 | 宮北遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 67 | 宮南遺跡 | | | | | ○ | |
| 68 | 宮尻遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 69 | 原ノ坊遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | |
| 70 | 原ノ坊南遺跡 | | | | ○ | | |
| 71 | 宮背遺跡 | | | | ○ | | |
| 72 | 北ノ内A遺跡 | | ○ | | | ○ | |
| 73 | 北ノ内B遺跡・北ノ内貝塚 | | ○ | | | ○ | |
| 74 | 上縄遺跡・上縄貝塚 | | ○ | | | ○ | |
| 75 | 峯久保遺跡 | | ○ | | | ○ | |
| 76 | 宮西A遺跡 | | ○ | | | ○ | |
| 77 | 宮西B遺跡 | ○ | ○ | | | ○ | |
| 78 | 宮西C遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 79 | 宮東遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 80 | 山ノ上遺跡 | | ○ | | | ○ | |
| 81 | 小森遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | |
| 82 | 小山台遺跡 | | | | ○ | ○ | |
| 83 | 大日塚 | | | | | | ○ |
| 84 | 三嶋遺跡 | | | | | ○ | |
| 85 | 三嶋東遺跡 | | ○ | | | ○ | |
| 86 | 道上遺跡 | | ○ | | | ○ | |
| 87 | 原山西遺跡 | | ○ | | | ○ | |
| 88 | 富士峯遺跡 | | ○ | | ○ | | |

跡では発見例の少ない住居址も検出された。阿玉台式期は、前谷西遺跡や前谷東遺跡、加曽利E式期は八幡脇遺跡(15)から住居址などが発見されている。後晩期になると遺跡の数も減り、新堀東遺跡(4)から堀之内式期の土坑が発見され、晩期では壱杯清水西遺跡から安行式土器が出土したに過ぎない。

弥生時代の遺跡は少なく、集落は六十塚遺跡(16)で確認された程度である。六十塚遺跡は弥生後期の遺跡で、櫛描文をもつ土器とともに銅鏃が発見された。銅鏃は県内での発見例は少なく貴重な資料である。他、壱杯清水西遺跡や金澤遺跡で住居址が1軒検出された。

古墳時代になると遺跡数は増加する。特に川尻川右岸の遺跡からは貴重な資料が発見された。前期の遺跡として寿行地北遺跡(18)、壱杯清水西遺跡、八幡脇遺跡、尻替遺跡などがある。壱杯清水西遺跡からは方形周溝墓が、八幡脇遺跡、尻替遺跡からは集落が発見された。注目すべき遺構として八幡

脇遺跡、尻替遺跡から発見された鍛冶工房址がある。鍛冶炉のまわりからは碗形鉄滓や鍛造剥片や粒状滓がみられた。この時期の鍛冶炉としては県内で最も古いものである。八幡脇遺跡からは鍛冶炉以外に、メノウの玉作工房址が発見された。この工房址からはメノウの原石や、内磨き砥石、筋砥石など製作にかかわる遺物も発見された。メノウを原料とした玉作工房址は、市内の烏山遺跡とともに日本最古のもので、2種類の初期工房が存在する貴重な遺跡である。古墳では王塚や后塚、田村船塚古墳群(51)が前期と考えられる。后塚や田村船塚2号墳は前方後方墳の可能性が強い。中期の遺跡は寺畑遺跡で住居址が2軒発見された。2軒の住居址は貯蔵穴内や周辺から多量の高杯や椀などが廃棄された状態で出土し、祭祀的な様相を窺わせている。後期になると金澤遺跡、石橋南遺跡、尻替遺跡などで集落が発見されている。古墳では未盗掘の石棺を調査した寿行地古墳や、人物埴輪が発見された田村上郷古墳(50)、箱式石棺が発見された下郷古墳(38)などがある。この時期の古墳の特徴として、低い墳丘で、筑波周辺で採れる雲母片岩で石棺を作る例が多い。入ノ上遺跡に隣接した畑からも耕作中に発見された石棺が置かれている。また、上大津東小学校の南に位置する畑からも雲母片岩を使用した石棺が発見されている。

奈良時代になると遺跡の数は減少する。明らかに奈良時代と言える遺跡は少ない。この時代、この地域は茨城郡に属していた。

平安時代(前期)になると遺跡は再び増加する。奈良時代後半から平安時代にかけては全国的に開発が盛んになり、集落が増加し、また開発に絡んで、有力層が支配地に小規模な寺院を建て、民間に仏教が広がるのもこの時期である。川尻川上流の寺畑遺跡や長峯遺跡からは平安時代の寺院跡が発見された。寺畑遺跡からは四面廂付掘立柱建物跡が2棟発見され、周辺から「千手寺」の墨書土器が数点見つかったことから、「千手観音」を祀った寺であったことが想像できる。また、鉄鉢形土器や水瓶などの仏具も発見され寺の存在を裏付けている。この他、皇朝十二銭の「富寿神宝」、二彩、緑釉陶器などが出土した。長峯遺跡からは、寺畑遺跡よりは小規模であるが四面廂付掘立柱建物跡が1棟発見され、近くから「長谷寺」と書かれた墨書土器が出土している。長峯遺跡は墨書土器が多く、「万福」などの吉祥句が目立つ。また「国厨」の墨書土器が出土し、国府との関連が窺える遺跡である。これらから川尻川をやや下った石橋北遺跡からは竪穴住居址(60軒)とほぼ同数の掘立柱建物跡が発見された。ここからは多量の灰釉陶器や、三彩、皇朝十二銭「神功開宝」などが発見された。これらのことから物資の集積地の可能性が考えられる遺跡である。これらの遺跡が存在する台地は火葬墓が多く見つかっている。ほとんどの蔵骨器は土師器や須恵器を使用しているが、八幡脇遺跡で発見された火葬墓は灰釉陶器の短頸壷を使用しており極めて貴重なものである。これらから、平安時代前期の入ノ上遺跡周辺は、交通の要所であり、国府と関係を持つ重要な地域であったことが推測できる。平安時代後期になると遺跡は減少する。現在確認されているのは、今回調査した入ノ上遺跡などである。これは村落の低地への移動、住居の変化、木器の普及により遺存する遺物が少ないことなどが考えられよう。

中世以降になると台地上の痕跡はさらに減少し、住居と思われる遺跡は発見されていない。特殊なものとして井戸山遺跡で痕跡が確認された井戸や、手野で3か所から発見された埋蔵銭などがある。

# 第3章　調査の概要

## 第1節　調査の方法

### 1.　調査区の設定

現地作業では重機による表土除去の後に測量会社に業務委託して、現地測量と調査区内に測量用基準杭を敷設した。今回の調査では測量用基準杭を敷設するにあたって、国土地理院により日本全域に設定された平面直角座標系の第Ⅸ系を使用している。この座標系のうち第1象限にあたるX＝＋8380、Y＝＋38480の交点を基準原点とした。座標系の方向に準拠して調査区全域に東西、南北の基準方眼線を設定し、それぞれ4mを一単位とする区画を測量方眼とした。調査区内の名称はX軸方向に西から東に向かってA、B、C、…とし、Y軸方向に北から南に向かって1、2、3、…とし、測量方眼の呼称はA1区、B2区、…とした。この基準杭を使用して平面測量用の遣り方の釘を必要な箇所に1m毎に打ち、水準測量用の標高杭を調査区内に設置した。

なお、今回の調査区は南北に細長いため便宜上3分割した。北端から中央の市道までをⅠ区、市道から基準方眼線の54区までをⅡ区、それより南をⅢ区とした。

### 2.　遺構・遺物の調査

遺構の調査は、人力で鋤簾掛けを行い、遺構の平面形・基数を確認する。その後覆土観察用のセクションベルトを設定して、この箇所を当初残すように覆土を掘削する。この設定は遺構を2つ以上に分割することになるが、住居跡は竈に掛かるように2分割から4分割にした。古墳時代後期の住居跡は8mを超える大型の場合があり、9分割となった住居跡もあった。覆土の掘削作業中には大量の遺物が出土したが、床面直上と折重なる状態の集中箇所を除き分割区ごとに一括して回収した。床面直上と集中箇所の遺物は写真撮影後、平面微細図を作成して標高の計測後に番号を付け取上げを行った。竈のある住居跡では、覆土の掘削終了後に新たにセクションベルトを設定して2分割ないしは4分割して掘削した。竈の調査後に完掘状態の写真撮影を行い、平面形状の実測や標高値の計測を行い住居跡の記録とした。土坑などの住居跡以外の遺構では半截や4分割の千鳥状の掘削を行い、写真撮影、平面形状や覆土の実測を行った。

試掘調査の段階で、Ⅲ区には非常に高密度な遺構の存在が確認されていた。実際に表土除去を行った段階では、Ⅲ区の東側は炭化物粒と焼土粒が多く混入した遺物包含層(H層)により覆われていた。そのためⅢ区の調査方法はⅠ・Ⅱ区と若干異なる。ここでは鋤簾掛けによる遺構の輪郭の確認が困難なため、やむを得ず方眼線を中心に幅1mのセクションベルトを残して3m×3mの掘削区を設定して掘削を行った。ローム面を露出したり遺構の切り合いが認められたら、必要に応じて新たにセクションベルトを設定したり平面形状の実測をするなどの方策を考えたが、作業中の期間は長引く渇水のため土壌が乾燥し覆土の分層が困難で、柱穴や土坑などの小規模な遺構は記録したもの以上の基数があったものと思われる。遺物は遺構名称が判明するまでは掘削区名で取り扱った。

実測作業では縮尺20分の1を基本として、竈や遺物の密集箇所の実測などは縮尺10分の1に、調査区全体図などは縮尺200分の1などで作図した。実測には遣り方と平板を併用している。写真撮影には1眼レフカメラと大判カメラ、小型カメラを使用して、モノクロフィルムとリバーサルフィルム、プリントフィルムの3種類のフィルムを使用して撮影を行った。

第2図　周辺地形と調査区位置図

第3図　遺構全体図

3.　遺物の取り扱いについて

今回の調査中に、Ⅰ区ではSI-3が平安時代の鍛冶工房跡であることが判明した。また数軒の住居跡からは炭化材や炭化した木製品が出土した。そして土壙からは人間や馬の骨が検出された。ここでは、このような遺物の取り扱いについて記しておく。

鍛冶工房跡では鍛造剥片や粒状滓など微細な遺物が大量に検出されるので、住居跡の床面上に残る土壌を完全に除去する前に、通常の検出作業では検出困難な微細遺物の採取を目的に試料採取作業を行った。方法は採取範囲全体に25cm×25cmの方眼を設けて名称を付けた。その1区画内の土壌を移植ゴテやスプーンなどを使用して採取し袋に入れる。今回は工程の関係上試料の採取作業までで、洗浄以降の作業は行っていない。

炭化した木製品、骨などの遺物は非常に脆くなっているため、固化・補強を目的に薬品を使用している。薬品は「BINDE-17」を使用し、原液を水で希釈して遺物に塗布した。塗布した溶液の濃度は薄い方から順に10%、20%、30%、…と段階的に濃くしていき、最後には100%の原液を塗布した。固化・補強が完了してから取上げ、ビニール袋や新聞紙で梱包してコンテナに収容した。なお炭化材のうち樹種同定に使用可能な試料については、薬剤の塗布は行わずに、部分的に切り取って採取している。

その他に土壌分析試料として、住居跡の竈内や土坑に堆積していた灰や粘土の一部を採取している。

## 第2節　調査の概要

今回の発掘調査では、現在より約18,000年前の後期旧石器時代後半から、途中断片的で連続しない時期もあるが、太平洋戦争の頃までの資料を検出した。その中でも中心となる時代は古墳時代から平安時代が主体を占めている。第4章の各節に時代毎の内容を記すので、ここでは時代を追って遺跡の中での土地利用の変遷を中心に記す。

旧石器時代の資料は、本来の包含層である関東ローム層中からは今回出土していない。いずれの資料も後世の遺構内覆土からの検出であり、資料の技術形態的な観察により2時期、或いは3時期の資料が存在していたことを推察するに留まっている。しかし、二次堆積の資料中にも剥片剥離工程を観察できる接合資料が存在することから、当時石器製作作業を行った場所があり、後世の住居構築という土地利用と重複した結果と理解する。この時代には定住用の住居を構築した痕跡を認めにくいこともあり、土地利用の視点では最も内容が貧弱である。

縄文時代では陥し穴状遺構が台地全体に分布することは確認したが、本来この場が狩猟用施設を設ける場所だけだったのかは現時点では不明である。しかし土器や石器などを検出したことから、周辺にも居住域がある可能性の余地を残しておきたい。また陥し穴状遺構の分布がⅢ区に認められない点は、検出した遺構の規模(特に深さ)が後世の住居とほぼ一致することから削平された可能性が高い。

弥生時代では住居跡1軒のみの検出となったが、後世の遺構内覆土中より土器が出土していることから、やはり古墳時代以降の土地利用により削平を受けた住居があったものと思われる。

古墳時代になると土地利用の状況がやや明瞭になってくる。前期の住居は横長で地床炉を設けた構造で、中期も同様な構造である。後期になると住居内に竈を設けて前期・中期の規模と比較すると大型でしかも掘り込みが深い。これらの住居は崖線より台地奥に約120mの範囲までその構築範囲としているため、ほとんどの遺構が重複している。この範囲は調査区内での状況であるため不確実的要素も

残るが、少なくともこの120mという幅は、古墳時代を通じて住居設置範囲として認識されていた場ではなかったかと思われる。特にⅢ区の中央東側のK～O-60～65区付近は異常とも言えるほどに遺構の重複が著しい。逆にここまで重複を繰り返していると、この部分の地面は埋没が完了せずに凹地として残っていたのではないかと思われる。

平安時代になると、古墳時代までの規制を受けたかのような120mという住居設置範囲を超えて、一気に台地平坦面一帯に拡大している。9世紀代の遺構はやはり遺構集中範囲に重なっているが、10世紀代になるとそれまでの範囲を今回の調査範囲である台地奥290mまで住居が構築されている。今回の開発区域の周囲にも遺物が散布していることから、古墳時代ほどの重複を生じるような同所を繰返し掘削して住居を構築する利用法をとらずに住居を設けている。そしてK～O-55～60区には10世紀後半から11世紀にかけて、円形を呈する土坑を集中的に構築している。そのため深さが0.3mから1.5mまでと一様ではなく多様である。覆土の堆積を観察した範囲では、重複の有無に関係なく必ずと言ってよいほどに埋め戻している。特に1mを超える深さの土坑内には、ほぼ完形の土師器が中央に置かれたような状態で出土する例があった。この土坑群の場所には同時期の住居が隣接しておらず、住居の構築範囲とは分離している可能性が高い。このような状況から考えると居住用地の範囲は拡大したが、逆に土坑を構築する場所を一定の場所に固定してしまったと思われる。遺物の中に「青毛」という馬の等級を示す文字を墨書で土器に記すことや、鉄製馬具の引手の出土など、馬との関わりが考えられる事例がいくつか認められる。

中世以降は、方形竪穴状遺構、掘立柱建物跡などの柱穴を伴う建物跡と、地下式坑、土壙、溝跡などの地下構造物に大別できる。この遺構は占地が異なり、場の使い分けが行われていたものと考えられる。方形竪穴状遺構と掘立柱建物跡は、台地端より約180m奥まった平坦面に位置している。方形竪穴状遺構は2基が一対の状態で検出している。掘立柱建物跡は調査区西際で検出したので、隣接して遺構が存在する可能性がある。それも柱穴内より出土した渥美・常滑の大半の破片が同一個体とは認識できるが接合しない部分が多いことがあり、さらに破砕した破片を投棄した遺構が隣接して存在すると思われるからである。土壙などの地下構造物は台地南端を主要な構築範囲としている。特に被熱により硬化した土坑は主軸方位を南北に置き、調査区のほぼ中央に集中している。土壙としたものは、土坑内より骨が出土したものを抽出した。馬や人間の埋葬土壙の場合は副葬品が伴っている例があり、土師質土器や銅銭の時期から13世紀以降のものと思われる。この時期には、墓地と上物建造物の配置において用途別の区割りが意識されていたものと思われる。遺物に関しては遺構を中心に13世紀から14世紀の渥美・常滑が出土しているが、その他に12世紀後半から13世紀前半の青磁・白磁などの輸入陶磁器や16世紀以降の瀬戸系天目茶碗が出土している。16世紀以降の遺物は表土層からの出土で詳細は不明である。

昭和の遺物としては、住居跡の覆土中から真鍮を使用した線状痕の残る機銃弾を検出している。

# 第4章　遺構と遺物

## 第1節　旧石器時代

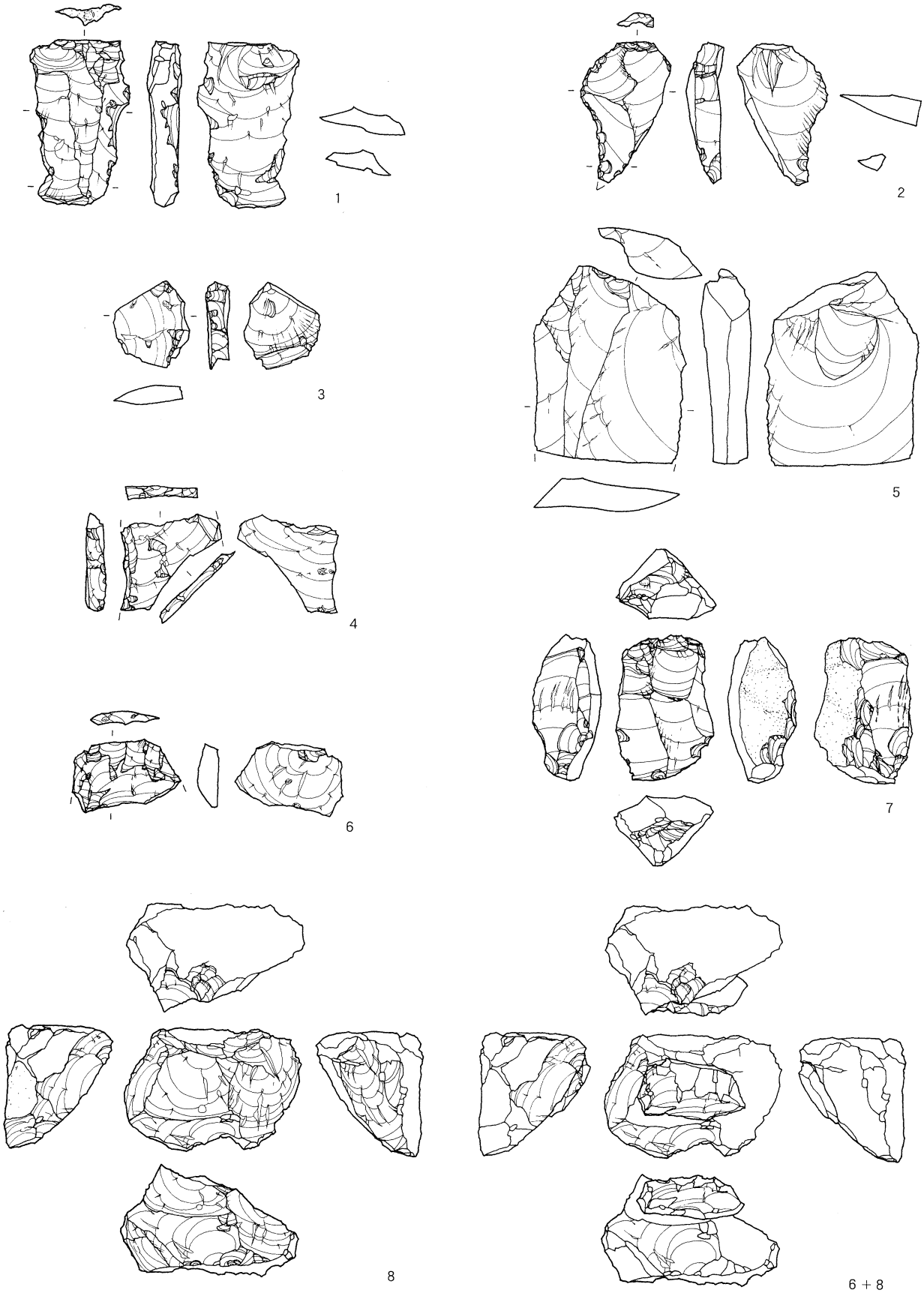
本遺跡では旧石器時代の遺物が後世の遺構内覆土中より多数出土している。遺物の出土範囲はL～O-61～70区付近の約640m²であるが、この部分は、古墳時代から鎌倉時代にかけての住居・土壙等の施設が高密度で重複する部分である。特に古墳時代後期の住居は下部施設の構築のため、地表面より1.5mの深度まで掘削している。この深度ではAg-KP層準に達してしまい、後期旧石器時代の遺物包含層を損壊する結果になっている。かろうじて土手状に残ったローム層を掘削調査したが、石器の出土は確認できなかった。

1は微細剥離がある剥片である。縦長剥片の先端部に近い左側縁に、バルブを形成せずヒンジフラクチャーを起こす微細剥離が連続する。2は微細剥離がある剥片である。縦長剥片の右側縁にバルブ未形成の微細剥離が点在する。3は石核打面調整剥片である。右側縁には石核打面縁辺部を取り込んでいて、ステップフラクチャーを起こしている。4は石核打面調整剥片である。左側縁には石核打面縁辺部を取り込んでいる。5は剥片である。単剥離面打面を使用している。先端側は節理面で折損している。6は横長剥片である。背面には180°剥離方向が異なる剥離面があり、剥離作業面の縁辺調整を行っている。先端側は方珪石部分を中心に剥離と同時に折損している。8の石核と接合する。7は石核である。上下両端に打面を設定して180°の打面転移を行いながら縦長剥片を剥離している。作業の最終段階ではヒンジフラクチャーを起こし始めて剥片剥離作業を中止している。なおこの時点での剥離角は76°～82°となっている。8は石核である。転礫面を一部残して剥片剥離作業面と打面を頻繁に交替させながら横長剥片を剥離している。打面転移角度は90°や180°であったりと規則性は看取できない。

出土した石器は上述のように出土層位がまったく不明なため、武蔵野台地や下総台地の資料と技術形態的な比較を行い出土資料の所属時期を推定した。その結果、少なくとも2段階の石器群が含まれているものと判断した。1つは6・8の石器を含めた高原山産黒曜石を使用した石器群で、南関東地域の区分ではⅣ層下部～Ⅴ層段階の石器群に相当するものである。横長剥片を目的的剥片とすること、黒曜石を主要石材とする点を特徴として指摘できる。土浦市南部の花室川流域に所在する向原遺跡の石器群と共通する点が多い。もう1つはそれ以外の石器群で、縦長剥片が目的的剥片である点や石核の消費度から考えて、指標となりうる二次加工を施した石器の出土は未確認であるが、いわゆる「砂川段階」の石器群の可能性を指摘しておきたい。

旧石器時代石器観察表

| 図No. | 遺物No. | 器　種 | 石　材 | 長さ(mm) | 幅(mm) | 厚さ(mm) | 重量(g) | 打面形状 | 剥離角 | 打面幅(mm) | 打面厚(mm) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | M-65区.1303 | 微細剥離がある剥片 | 黒曜石 | 36.5 | 22.8 | 7.1 | 5.2 | 自然面 | 115° | 14.1 | 5.0 |
| 2 | P-71区.1392 | 〃 | 珪質頁岩 | 32.1 | 17.7 | 6.7 | 3.2 | 複剥離面 | 104° | 8.2 | 4.0 |
| 3 | SI-117.No30 | 石核打面調整剥片 | 黒曜石 | 18.4 | 16.9 | 4.4 | 1.4 | 点　状 | 120° | 2.3 | 2.8 |
| 4 | SI-37.1239 | 〃 | 〃 | 19.0 | 23.8 | 4.0 | 1.4 | — | — | — | — |
| 5 | SI-15.ベ1.481 | 剥　片 | 頁岩 | 42.7 | 41.5 | 10.5 | 15.8 | 単剥離面 | 110° | 25.3 | 10.0 |
| 6 | 0-66区.1387 | 〃 | 黒曜石 | 14.6 | 23.8 | 4.6 | 1.6 | 〃 | 108° | 15.1 | 3.5 |
| 7 | F-70区.995 | 石　核 | 玉髄 | 30.2 | 21.5 | 15.4 | 9.7 | — | — | — | — |
| 8 | SI-36. | 〃 | 黒曜石 | 31.4 | 38.9 | 16.4 | 21.7 | — | — | — | — |




第4図　旧石器時代の石器

## 第2節　縄文時代

本遺跡では縄文時代の遺構・遺物を調査区全域から散発的に検出した。

検出した遺構は陥し穴状遺構が5基である。構築形態と覆土中より縄文時代中期前半阿玉台式土器片が出土する点などから、縄文時代の遺構と判断した。陥し穴状遺構は住居跡等の遺構密度の低い範囲で検出している。南部では古墳時代以降の住居建設によって、かなりな深度まで掘削が及んでいるため、縄文時代の同規模な遺構は残らなかったものと思われる。主軸方向は、概ね東西方向に向いて並んでいる。覆土中には特記すべき堆積物(火山灰、植物遺存体など)は検出できなかった。遺構間の距離は最短でも8mあり、隣接し切り合っているものはなかった。

遺物としては、縄文土器、石器類、焼破礫片がある。縄文土器は早期中葉沈線文系の田戸下層式、後半条痕文系の野島式、茅山式、前期中葉羽状縄文系の黒浜式、終末期の興津式、中期前半の阿玉台式土器などが認められた。土器の遺存度は低く細片が大半を占め、器形の復元可能なものは検出できなかった。石器としては石鏃、磨製石斧、磨石類が出土した。こうした遺物の分布範囲は、北側の段丘間斜面付近の暗褐色土層中と、調査区南東側一帯の後世遺構中より検出した。

以下、陥し穴状遺構の各説明を記す。

**SK-4**(第5図、PL2)

**位置**　J-44、K-44区　**規模**　2.8×1.5×0.9m　**主軸方位**　N-83°-W　**壁**　60°～76°の急傾斜。　**底面**　平坦で中央に小坑あり。　**覆土**　15層で構成。中央付近は黒褐色～暗褐色土が主体で、底面付近は褐色土が主体となる。　**遺物**　土器細片が数点出土。　**所見**　北壁の一部が最近の耕作により破壊されている。

**SK-9**(第5図)

**位置**　D～E-16～17区　**規模**　2.7×2.8×1.0m　**主軸方位**　N-30°-E　**壁**　35°の傾斜を持つ。　**底面**　平坦。　**覆土**　7層で構成。　**遺物**　3～4層から土器片が出土。　**所見**　鎌倉時代の竪穴状遺構に北東側を削平されている。

**SK-20**(第5図)

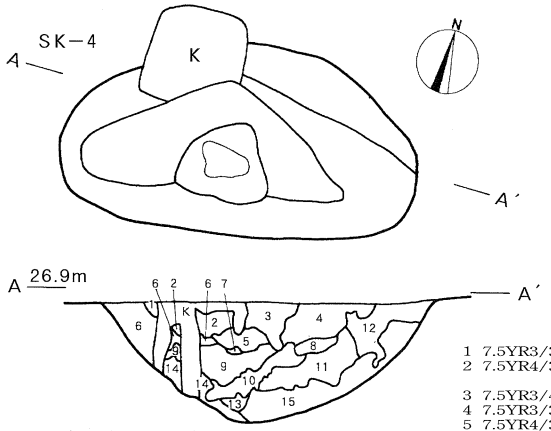
**位置**　G～H-28～29区　**規模**　2.3×1.7×0.9m　**主軸方位**　N-90°-E　**覆土**　18層で構成。

**SK-27**(第5図)

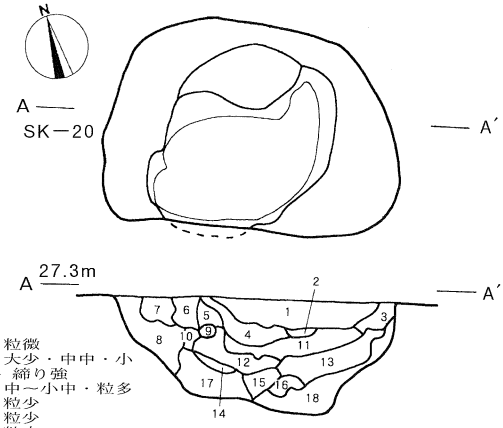
**位置**　C～D-28～29区　**規模**　2.8×2.1×1.2m　**主軸方位**　N-75°-E　**壁**　60°～70°の傾斜。全体に段階状になる。　**底面**　全体に凹凸がある。　**覆土**　20層で構成。中央の深さまで暗褐色土と明褐色土の互層堆積となっている。　**所見**　堆積土中にハードロームブロックの板状塊を含んだりするなど人為的に埋め戻しを行っている可能性がある。

**SK-75**(第5図)

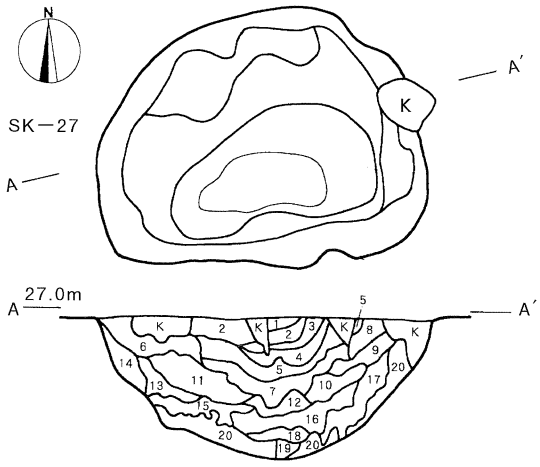
**位置**　G-32区　**規模**　2.1×1.9×0.8m　**主軸方位**　N-60°-E　**壁**　北壁は下部が抉り込む。南壁は中間平坦面が設けられている。　**底面**　平坦。　**所見**　西壁の一部が最近の耕作により破壊されている。



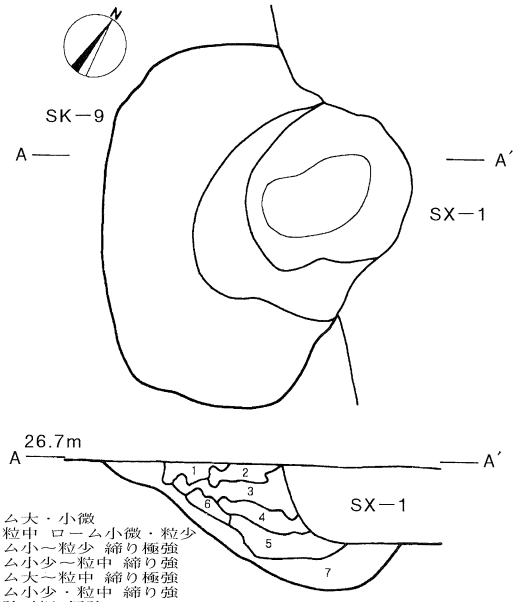

1 10YR4/6 褐　色 ローム粒微 締り強
2 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少
3 10YR3/3 暗褐色 ローム粒少 締り強
4 7.5YR3/2 黒褐色 ローム中微・粒微 締り強
5 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 ローム粒中 締り強
6 10YR4/6 褐　色 ローム粒少
7 7.5YR4/4 褐　色 ローム粒中 黒色土粒中 締り極強
8 10YR3/4 暗褐色 ローム粒微 締り強
9 10YR3/4 暗褐色 炭化粒微 ローム粒少 締り強
10 7.5YR3/3 暗褐色 ローム中中・小〜粒少
11 7.5YR4/4 褐　色 ローム中微・小少 締り強
12 7.5YR4/4 褐　色 ローム中微・小〜粒中
13 7.5YR4/4 褐　色 ローム粒多
14 7.5YR4/6 褐　色 ローム大微・小〜粒少 粘性強
15 10YR4/6 褐　色 ローム中多 黒色土大微



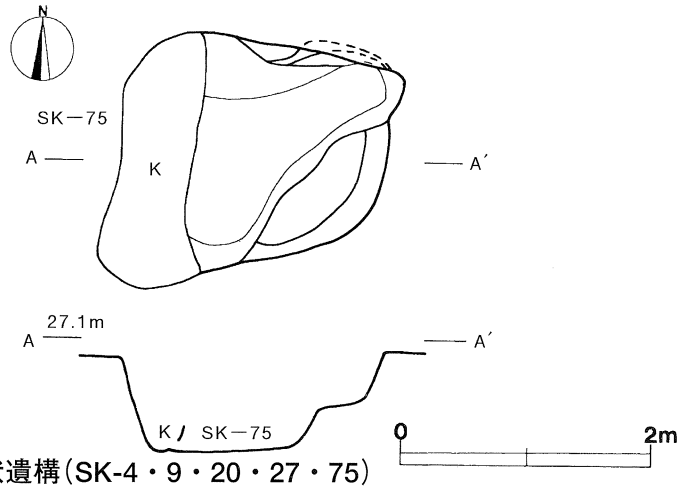

1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒微
2 7.5YR4/3 褐　色 ローム大少・中中・小〜粒多 締り強
3 7.5YR3/4 暗褐色 ローム中〜小中・粒多
4 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少
5 7.5YR4/3 褐　色 ローム粒少
6 7.5YR4/6 褐　色 ローム粒中
7 7.5YR4/4 褐　色 ローム大〜粒多 締り強
8 7.5YR5/6 明褐色 ローム大〜粒多 粘性強 締り強
9 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒微 締り強
10 7.5YR4/6 褐　色 ローム粒少
11 7.5YR3/3 暗褐色 ローム大〜中中・小〜粒少
12 7.5YR3/2 黒褐色 ローム小〜粒中
13 7.5YR4/4 褐　色 ローム大多・小〜粒少
14 7.5YR4/6 褐　色 ローム中中
15 7.5YR5/6 明褐色 ローム小多
16 7.5YR4/4 褐　色 ローム粒少
17 7.5YR5/6 明褐色 ローム大〜中中・小〜粒多 粘性強
18 7.5YR5/6 明褐色 ローム小中




1 7.5YR4/4 褐　色 ローム粒少 黒色土粒少
2 7.5YR2/3 極暗褐色 ローム粒少
3 7.5YR3/3 暗褐色 炭化粒微 ローム粒少
4 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒極
5 7.5YR4/4 褐　色 炭化粒少 ローム小少
6 7.5YR4/6 褐　色 ローム小少 黒色土粒少
7 7.5YR4/4 褐　色 ローム小〜粒中 黒色土粒中
8 7.5YR3/4 暗褐色 ローム小〜粒中
9 7.5YR5/6 明褐色 ローム中多・小〜粒中
10 7.5YR3/4 暗褐色 ローム大中・中〜粒多
11 7.5YR5/8 明褐色 ローム大〜粒多 締り強
12 7.5YR4/4 褐　色 ローム大〜粒中 黒色土粒中
13 7.5YR4/6 褐　色 ローム大少・中中・小〜粒多
14 7.5YR5/6 明褐色 ローム中多・小〜粒中 締り強
15 7.5YR4/3 褐　色 ローム中中・小〜粒多 黒色土粒中
16 7.5YR3/3 暗褐色 ローム大少・中中・小〜粒多 黒色土粒少
17 7.5YR4/6 褐　色 ローム大少・中中・小〜粒多 黒色土粒中
18 7.5YR4/6 褐　色 ローム少〜粒少 黒色土粒少
19 7.5YR5/8 明褐色 ローム中〜粒中 黒色土粒中
20 7.5YR5/6 明褐色 ローム大〜粒多 締り強




1 10YR3/3 暗褐色 ローム大・小微
2 10YR3/4 暗褐色 炭化粒中 ローム小微・粒少
3 7.5YR4/4 褐　色 ローム小〜粒少 締り極強
4 10YR3/3 暗褐色 ローム小少〜粒中 締り強
5 7.5YR4/4 褐　色 ローム大〜粒中 締り極強
6 7.5YR4/4 褐　色 ローム小少・粒中 締り強
7 10YR4/6 褐　色 粘性強 締り極強




第5図　陥し穴状遺構(SK-4・9・20・27・75)

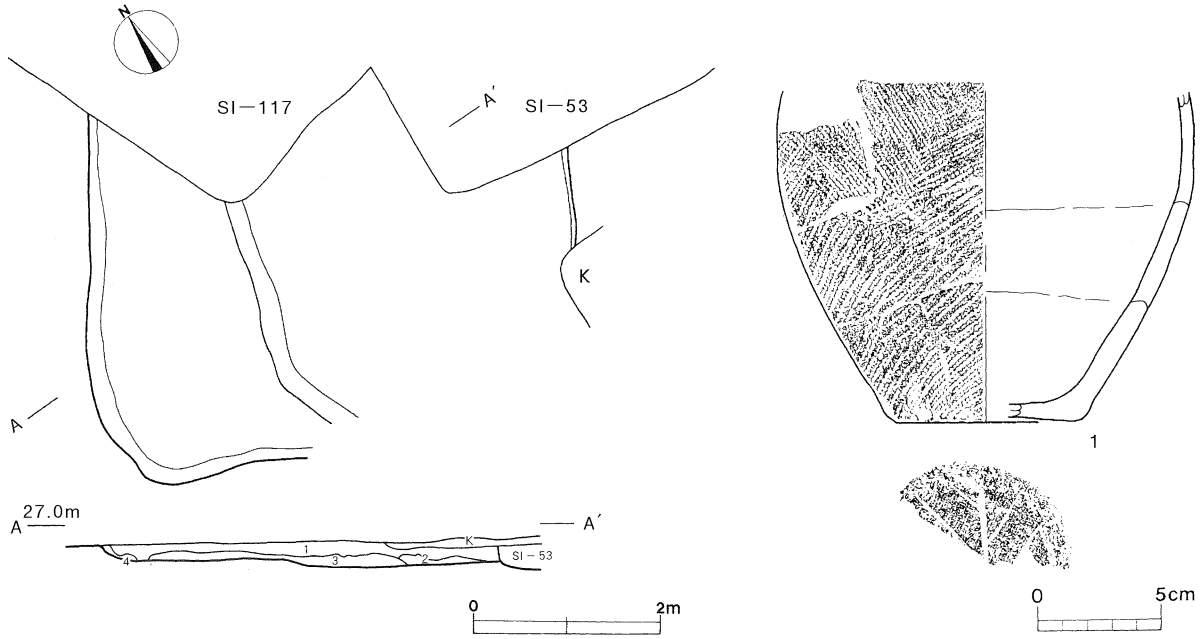
## 第3節　弥生時代

弥生時代の遺構としては住居跡1軒を検出した。この時代の遺物は住居跡の範囲外でも後世の遺構覆土内より出土していることから、検出遺構の他にも住居跡等が存在した可能性は高い。

**SI-66**（第6図、PL2・27）

**位置**　L～M-69区　**規模**　〔5.26〕×(3.76)×0.23m　**形態**　隅丸方形あるいは隅丸長方形。　**主軸方位**〔N-28°-E〕　**壁**　垂直に立ち上がる。　**床**　北西壁側に7cm程の段差があり中央側は低くなっている。段差壁は直線的で南壁付近では東側に向って屈曲する。　**覆土**　黒褐色土を主体とする。　**遺物**　覆土上面付近では土師器を検出する。床面では弥生土器片を少なくとも3個体分以上検出した。　**所見**　北側でSI-53・117と重複し北壁側を失っている。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第6図<br>1 | 壺<br>弥生土器 | B　(13.1)<br>C　[ 7.1] | 胴～底部片。平底。胴部は内彎して立ち上がる。底部縁辺が擦れている。 | 施文は、LRを軸に付加縄2本を巻いたものと、RLを軸に付加縄L2本を巻いたものにより羽状構成をとる。底部木葉痕。 | 長石・石英<br>橙色<br>普通 | 25%<br>覆土一括 |




1 7.5YR2/2 黒褐色 焼土粒少 ローム粒少
2 7.5YR4/4 褐　色 焼土粒微 ローム粒中
3 7.5YR2/2 黒褐色 ローム大少・小～粒中
4 7.5YR4/6 褐　色 ローム粒中

**第6図　竪穴住居跡（SI-66）**

## 第4節　古墳時代～平安時代

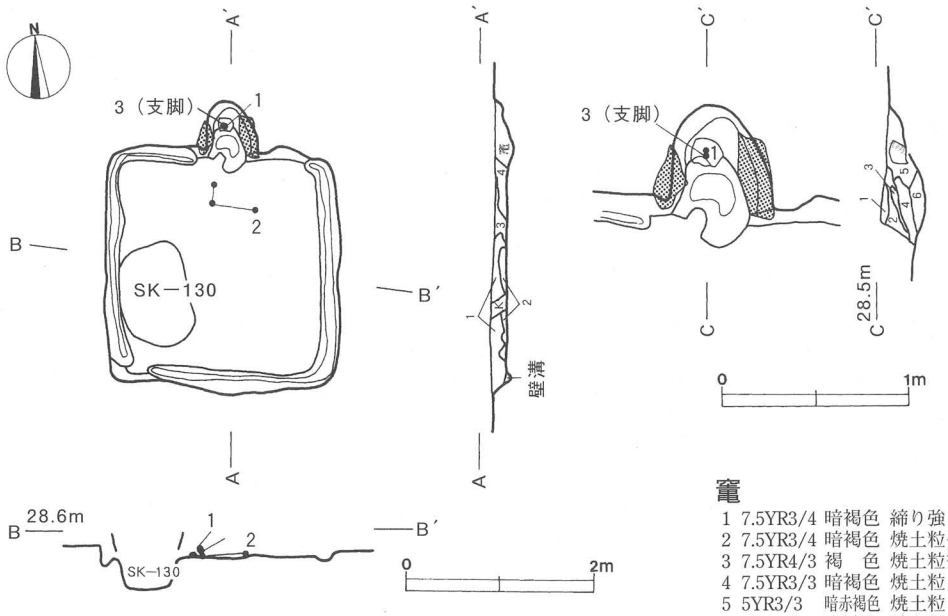
古墳時代以降平安時代にかけては、調査区一帯で掘削行為を伴った最も著しい土地利用を行った時代として捉えることができる。特にK～P-60～70区の範囲を中心にした調査区東側約600m$^2$の部分は、平均して約1.5mの深度に分布するAg-KP層準に達する掘削が行われ、旧石器時代から弥生時代に至る遺物包含層は悉く撹乱され、遺物は古墳時代以降の遺構覆土中に二次堆積した状態で検出している。また住居埋没後も繰返し住居の建設や、後には土壙・土坑の設置など掘削行為が繰り返されており、資料の遺存状態は劣悪な条件である。

古墳時代前期では住居跡9軒を検出した。どの住居跡も後世の遺構といずれかの範囲で重複するため、形状をそのまま検出はできなかった。形状を推定すると、方形から長方形の形状が主流を占めていたと思われる。4本の主柱と地床炉を設置することが大半である。なおSI-40では床に「ベッド状遺構」と呼ばれる段差を設ける例があった。出土遺物では容器として平底甕を中心に器台、高杯が主体を占めている。その中でもSI-107、SI-126bの覆土からは複合口縁に棒状浮文を貼り付けたものや、肩部に箆状工具により沈線や刺突文を施文した土器が出土しており、東海地方中部～東部の影響を考慮すべき資料が出土している。

古墳時代中期では住居跡8軒を検出した。この時期の遺構も前期と同様に重複が著しいため完全な形では検出できなかった。住居の形態は長方形となるものが多い。SI-119のように隅の一部に小規模な棚が設けられているものがある。また床面の一角に楕円形の貯蔵穴や地床炉が設けられている。そして床面の一角に完形の土器が数個体一括して置かれた状態で出土する例(SI-107、119)を確認している。遺物では土師器の甕、椀、高杯、坩などがある。

古墳時代後期では住居跡24軒を検出した。この時期の住居跡は掘削深度が大きく1～1.5mを持つものが主体を占める。SI-47では竈と対峙する南東壁に雛壇状の棚が設けられていた。竈は大半が北壁に設置されているが、一部には西壁に設置するものもあった。貯蔵穴も大半の住居跡では1軒につき1基設けるが、SI-131のように竈は設置せずに2基設ける例がある。出土遺物では杯、甕を中心に高杯、鉢、甑などの土師器がある。

奈良・平安時代では住居跡68軒、掘立柱建物跡9棟、溝跡1条、土壙1基、土坑200基以上を検出した。古墳時代までは構築物設置範囲が台地縁辺より約120mを限度としていたものが、平安時代以降は台地全域に拡大している。北端では調査区幅員16mしかないため遺構の確認は散発的であるが、調査区域外に隣接する耕作地にも遺物の散布が認められることから、遺跡の範囲はさらに広範囲にあることが予想される。内部施設としては竈をもち前半の住居では竈脇に貯蔵穴が設けられている。後半になると貯蔵穴の設置率が低くなり柱穴も検出することが出来ず、付属施設は竈のみの住居跡が増加している。掘立柱建物跡は梁行2間×桁行3間の形態のみを確認しているが、調査区外に位置するもの(SB-6・8)は未確認の要素が残る。分布は北側の17～24ラインの2棟と南側の54ライン以南の7棟の二つに分かれている。溝跡では、覆土中位より頭蓋骨と下顎骨を解体した痕跡を示す馬の歯1組が出土した。土壙では人間の埋葬土壙1基を検出した。その他には2軒の住居跡覆土中から馬の歯や骨片を検出している。土坑は全域から検出したが、K～P-60～70区付近に特に集中している。深さ1mの円形の土坑では灰層や粘土層が覆土下部に堆積しており、その下から2～3個の完形の杯が出土する例がある。



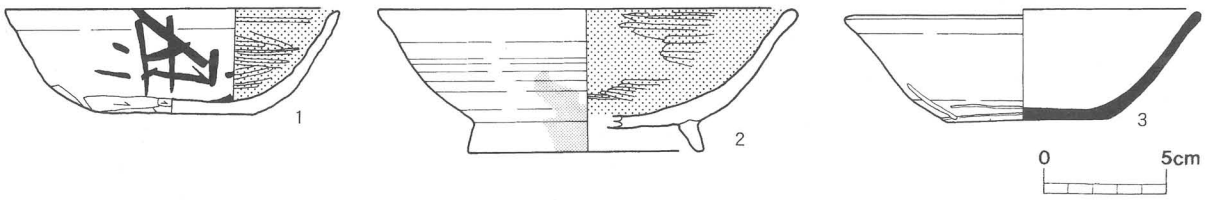

竈
1 7.5YR3/4 暗褐色 締り強
2 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒少 炭化粒微 締り強
3 7.5YR4/3 褐 色 焼土粒微 炭化材多 締り強
4 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒多 締り強
5 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒中 締り強
6 5YR3/4 暗赤褐色 焼土粒中 締り強

1 10YR4/4 褐 色 焼土粒微 炭化材中・粒少 ローム小〜粒少
2 7.5YR3/3 暗褐色 炭化物・粒少 ローム粒少
3 10YR4/4 褐 色 焼土粒少 炭化物少 ローム粒少 締り極強
4 10YR4/6 褐 色 焼土小〜粒微 ローム粒少 ロームブロック微 締り極強

**第7図 竪穴住居跡（SI-1）**

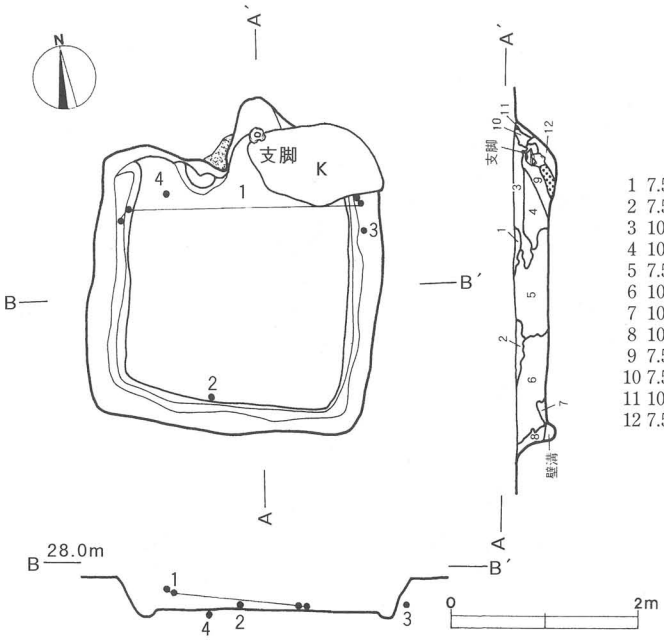
**SI-1**（第7・8図、PL3・27）〈平安時代〉

**位置** B-7区 **規模** 2.62×2.48×0.14m **形態** 方形 **主軸方位** N-3.5°-E **床** 壁溝は竈東側の一部と南西隅を除き全周。**竈** ①北壁中央部 ③0.76×0.63m ④0.53m ⑤0.07m ⑥段階状 26°〜60° ⑧袖部が焼土ブロック状に残存するため不明。⑨火床部付近にほぼ完形の杯と小形の鉢が伏せて重ね合わせた状態で検出。最下位の杯は支脚に転用、上位の杯と鉢は竈廃止後に置かれたものと考えられる。**覆土** 上から褐色土、暗褐色土が堆積する。**遺物** 土師器、須恵器の他に炭化した杭状木製品が南壁傍から出土。**所見** SK-130により床が掘り込まれる。




**第8図 出土遺物**

| 図版番号 | 器 種 | 法量(cm) | 器 形 の 特 徴 | 技 法 の 特 徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第8図<br>1 | 杯<br>土 師 器 | A 13.3<br>B 4.1<br>C 6.3 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がり、体部中位で若干外傾する。 | 底部回転ヘラ切り後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 石英・赤色粒<br>にぶい橙色・黒色<br>普通 | 95%<br>体部外面に墨書 |
| 2 | 高台付椀<br>土 師 器 | A 16.5<br>B 5.6<br>D 9.3<br>E 1.2 | 平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で僅かに外反する。 | 口縁部外面横ナデ。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい褐色・黒色<br>不良 | 50%<br>口縁〜高台部にかけてタール付着 |
| 3 | 杯<br>須 恵 器 | A 13.3<br>B 4.8<br>C 6.2 | 平底。体部はほぼ直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後、雑なナデ。 | 石英・雲母・小石<br>灰黄褐色・灰色<br>不良 | 95%<br>支脚に転用 |

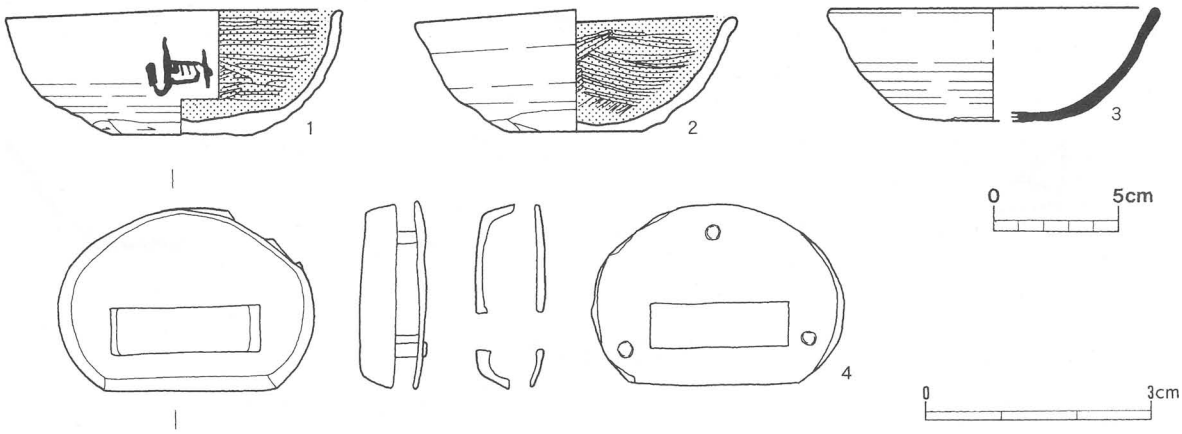



1 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 ローム粒少
2 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 ローム小微・粒少
3 10YR3/3 暗褐色 焼土粒少 ローム粒少 灰白色砂質粘土中～小極多 粘性強
4 10YR3/3 暗褐色 焼土粒微 ローム粒微
5 7.5YR3/3 暗褐色 焼土中・粒微 ローム中微・小少・粒中 黒色土粒少
6 10YR3/4 暗褐色 焼土粒微 炭化粒少 ローム中少・小中・粒多 締り強
7 10YR4/4 褐 色 ローム中中・粒少 締り強
8 10YR3/4 暗褐色 ローム大中・小中・粒中 黒色土粒少
9 7.5YR4/6 褐 色 焼土小中・粒多 ローム粒多
10 7.5YR4/6 褐 色 焼土中微・粒中 黒色土大微 灰黄色砂質粘土粒微
11 10YR4/4 褐 色 ローム大多 締り強
12 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 ローム粒少

**第9図　竪穴住居跡(SI-2)**

**SI-2**(第9・10図、PL3・27・35)〈平安時代〉

**位置**　D-13区　**規模**　3.04×2.90×0.34m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-14°-E　**床**　壁溝は竈西側を除き全周、中央部が主軸方向に細長く硬化。**竈**　①北壁中央部　③0.9m×不明　④0.72m　⑤0.07m　⑥49°　⑧灰白色砂質粘土　⑨火床部付近にほぼ完形の杯と甕の破片が雲母片岩の立石上に伏せて重ね合わせた状態で検出。立石と甕は支脚に転用、上の杯は竈廃止後に置かれたものと考えられる。**覆土**　暗褐色土を主体とする。**遺物**　「真」と記した墨書土器が3点、青銅製の丸鞆1点が含まれている。**所見**　竈右袖から北東壁を後世の攪乱により損壊している。

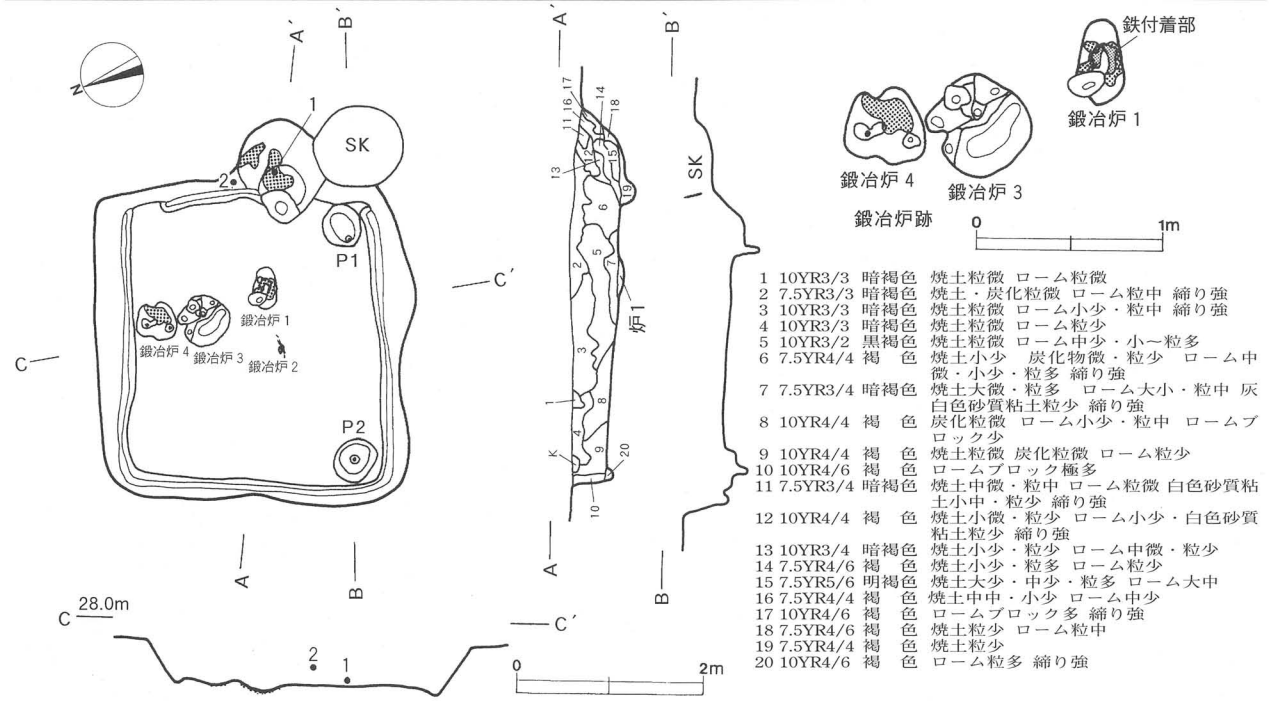



**第10図　出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第10図<br>1 | 杯<br>土　師　器 | A　13.3<br>B　4.9<br>C　5.4 | 平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 底部切り離した後、多方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 石英・雲母・赤色粒、にぶい黄橙色・黒色、普通 | 85%<br>体部外面に墨書「真」 |
| 2 | 杯<br>土　師　器 | A　12.7<br>B　4.8<br>C　5.3 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部切り離し後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 雲母・赤色粒<br>橙色・黒色<br>普通 | 95% |

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第10図<br>3 | 杯<br>須　恵　器 | A　[13.1]<br>B　　4.4<br>C　[ 4.6] | 平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部回転ヘラ切り後無調整。口縁部体部内・外面横ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黄灰色<br>普通 | 40% |

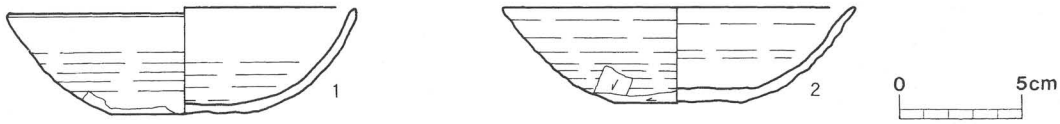
| 図版番号 | 器　種 | 法　　量 | | | | 特　　徴 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 4 | 丸　　鞆 | 2.4 | 3.3 | 0.9 | 11.2 | 表と裏は3点を径2mmの鋲で留める。 | 青銅製品 |




**第11図　竪穴住居跡(SI-3)**

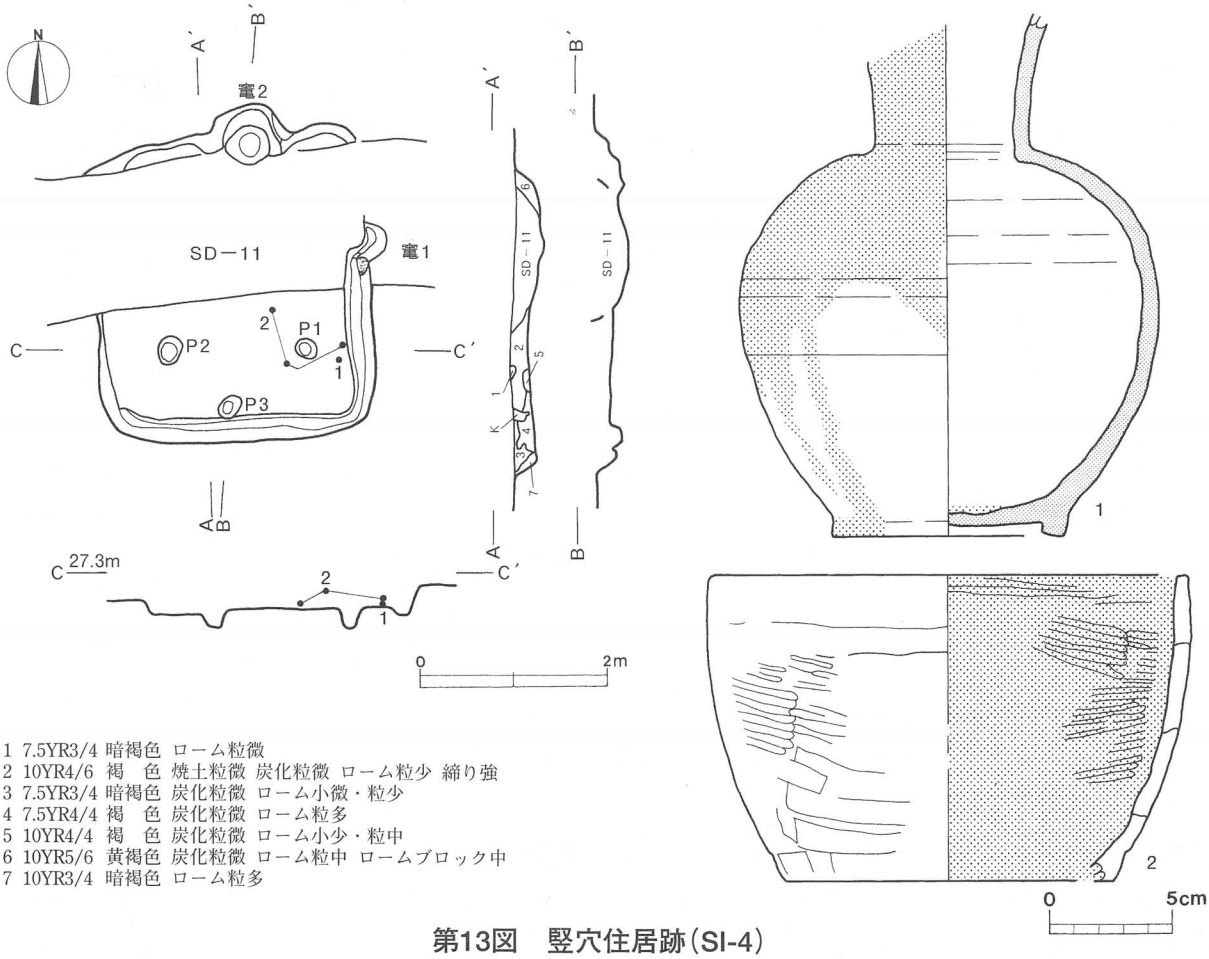
**SI-3**(第11・12図、PL3・4・27)〈平安時代〉

**位置**　C～D-14～15区　**規模**　3.42×3.37×0.45m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-114°-E　**床**　壁溝は北東隅を除きほぼ全周。**ピット**　**$P_1$** 0.42×0.14×0.27m　**$P_2$**　0.46×0.10×0.25m　$P_1$、$P_2$ともに皿状の掘り込みの中を更に細長く掘り込んでいる。　**竈**　①東壁の中央やや南寄り　③1.12×0.94m　④0.64m　⑤0.18m　⑥47°　⑨完形の杯が伏せた状態で検出。**鍛冶炉1**　①東壁寄り　②0.46×0.24m　③0.07m　④炉床付近は鉄が付着しており、それを囲む形に被熱により赤変硬化。覆土中に径3㎜程度の鉄滓を少量含む。　**鍛冶炉2**　①中央　④0.03m程度の掘り込みと炉床の一部を確認したが、規模・形態は不明。覆土の褐色土中に鉄滓と大型鍛造剥片を微量含む。　**鍛冶炉3**　①北壁寄り　②0.57m　円形　③0.06m　**鍛冶炉4**　①北壁寄り　②0.43m　円形　③0.03m　④炉床は被熱のため赤変硬化している。**覆土**　上から暗褐色土、黒褐色土、褐色土が堆積する。床直上の覆土より、多量の鍛造剥片及び鉄滓を検出している。**所見**　本遺構は複数の鍛冶炉跡から多数の鍛造剥片や鉄滓が出土しており、平安時代の鍛冶工房跡と思われる。




**第12図　出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第12図<br>1 | 杯<br>土　師　器 | A　13.8<br>B　4.2<br>C　5.7 | 平底。体部は内彎して立ち上がる。歪みが大きい。 | 底部回転ヘラ切り後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・赤色粒<br>にぶい橙色<br>良好 | 100% |
| 2 | 杯<br>土　師　器 | A　14.0<br>B　3.8<br>C　5.2 | 平底。体部は内彎気味に浅めに立ち上がり、口縁部で僅かに外反する。 | 底部切り離し後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい橙色・にぶい赤褐色、普通 | 60% |




1 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒微
2 10YR4/6 褐　色 焼土粒微 炭化粒微 ローム粒少 締り強
3 7.5YR3/4 暗褐色 炭化粒微 ローム小微・粒少
4 7.5YR4/4 褐　色 炭化粒微 ローム粒多
5 10YR4/4 褐　色 炭化粒微 ローム小少・粒中
6 10YR5/6 黄褐色 炭化粒微 ローム粒中 ロームブロック中
7 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多

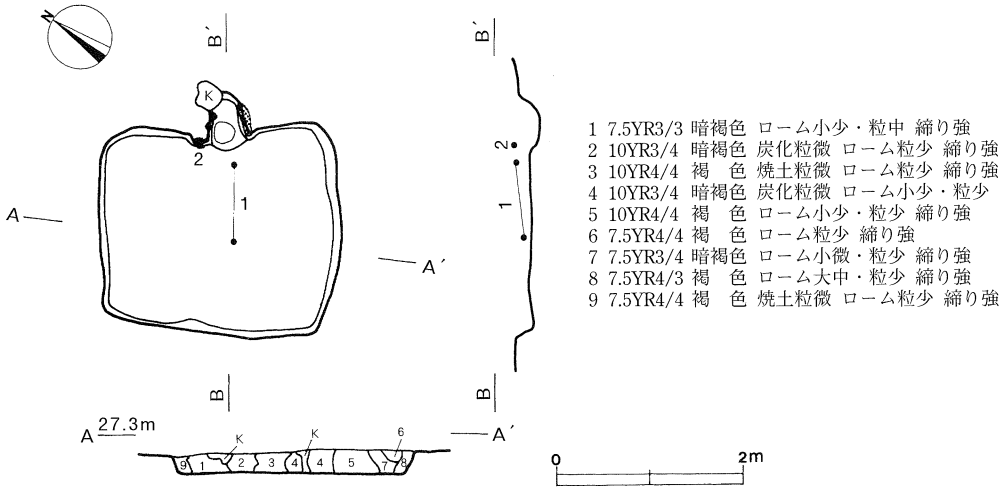
**第13図　竪穴住居跡(SI-4)**

**SI-4**(第13図、PL4・27)〈平安時代〉

**位置**　H～I-35～36区　**規模**　3.30×2.92×0.18m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-3°-W　**床**　壁溝は東壁から南壁にかけて検出、中央部が硬化。　**ピット**　**$P_1$**　0.22×0.21m　**$P_2$**　0.29×0.24×0.21m　**$P_3$**　0.26×0.19×0.12m　$P_1$、$P_2$は主柱穴で$P_3$は出入口施設に伴うピットと考えられる。　**竈1**　壁が0.20m掘り込まれ、南側袖部と思われる部分の壁に灰白色砂質粘土が付着している。竈1は残存状況から見て住居使用期間中に廃止、撤去したものと考えられる。　**竈2**　①北壁中央やや東寄り　③0.66×1.04m　④0.30m　⑤0.13m　⑥階段状　49°～59°　**覆土**　褐色土を主体とする。**遺物**　灰釉陶器の長頸瓶が床面やや上より検出。　**所見**　SD-11と重複し北半分を損壊している。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第13図<br>1 | 長　頸　瓶<br>灰　釉　陶　器 | B　(20.6)<br>D　9.3<br>E　0.6 | 口縁部欠損。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。接地面は縁辺。頸部と胴部は三段接合で、頸部は外反して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削り。胴部下半回転ヘラ削り。 | 長石・黒色粒子<br>灰白色・オリーブ灰色(釉)<br>良好 | 80% |

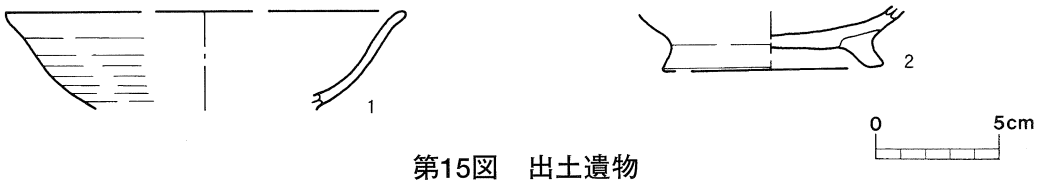
| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第13図<br>2 | 鉢<br>土　師　器 | A　[18.7]<br>B　12.0<br>C　[13.1] | 胴部は若干内彎しながら、口縁部は直線的に立ち上がる。 | 口縁部横ナデ。胴部外面中位に横位平行タタキ。下位に弱い横位ヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・雲母<br>橙色・黒褐色<br>普通 | 30% |




**第14図　竪穴住居跡(SI-5)**

**SI-5**(第14・15図、PL4・27)〈平安時代〉

**位置**　B-23区　**規模**　2.54×2.22×0.22m　**形態**　長方形　**主軸方向**　N-63.5°-E　中央部が主軸方向に細長く硬化。　**竈**　①北東壁中央部　③0.62×0.73m　④0.43m　⑤0.10m　⑥46°　⑧黄色砂質粘土。　**覆土**　褐色土、暗褐色土を主体とする。

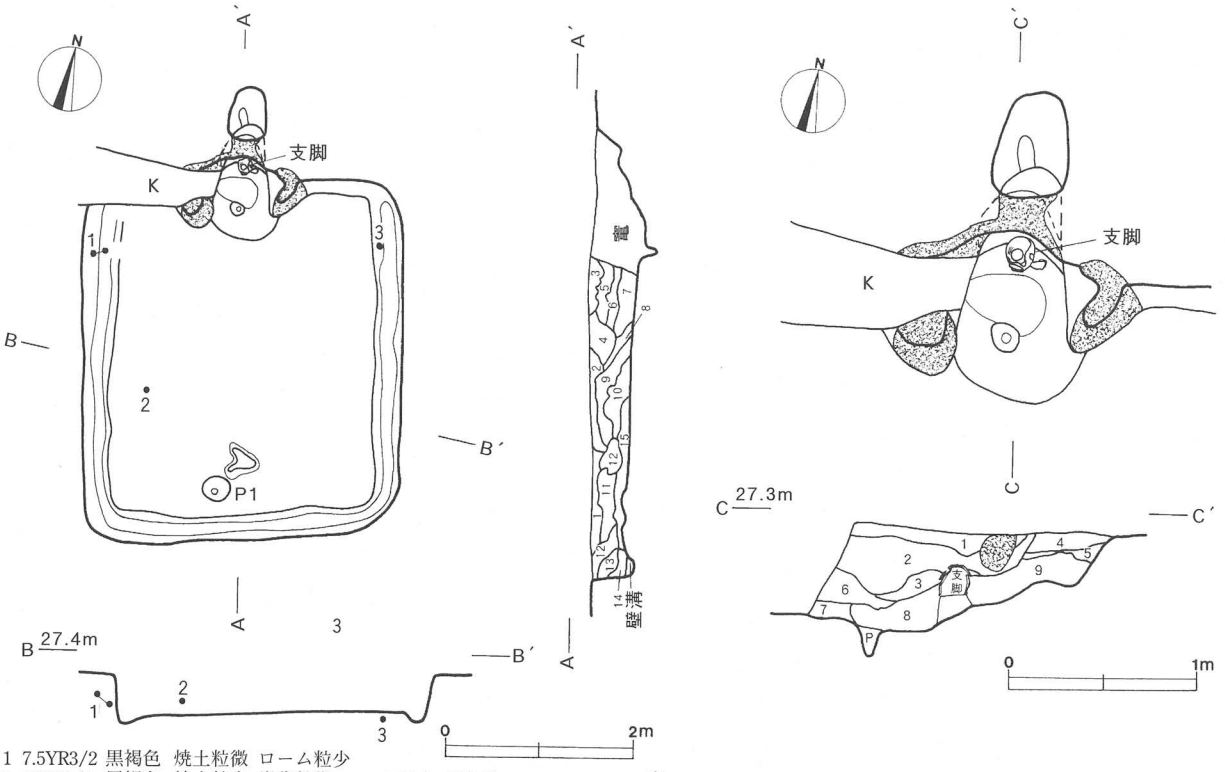



**第15図　出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第15図<br>1 | 高台付椀<br>土　師　器 | A　[15.9]<br>B　( 3.8) | 口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。 | 体部内・外面横ナデ。 | 長石・雲母<br>にぶい赤褐色・黒褐色、普通 | 40% |
| 2 | 高台付椀<br>土　師　器 | B　( 2.4)<br>D　[ 8.5]<br>E　0.8 | 底部片。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。 | 底部回転糸切り後、高台貼り付け。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい橙色・灰褐色、普通 | 40% |

**SI-7**(第16・17図、PL5・28)〈平安時代〉

**位置**　C～D-23～24区　**規模**　3.77×3.42×0.41m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-7.5°-W　**壁**　北壁東寄りに0.4m程の範囲で黄色～灰白色砂質粘土ブロックが付着している。**床**　壁溝は北壁を除き、全周。　竈前面から東壁、南壁にかけて硬化。　**ピット**　$P_1$　0.29×0.11m　出入口施設に伴うピットと思われる。**竈**　①北壁中央部　③1.65×1.40m　④1.00m　⑤0.13m　⑥階段状　26°～53.5°　⑦0.55×0.41m　⑧灰白色砂質粘土　⑨火床部付近にほぼ完形の椀と小型甕が伏せて重ね合わせた状態で検出。甕と内部に入っていた鉢の破片は支脚に転用、上の椀は竈廃止後に置かれたものと思われる。**覆土**

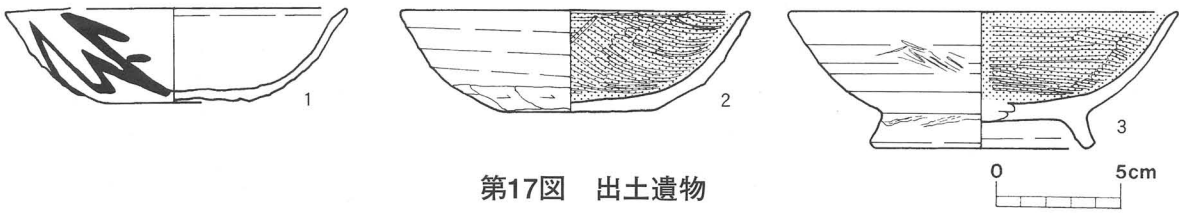



1 7.5YR3/2 黒褐色 焼土粒微 ローム粒少
2 10YR3/2 黒褐色 焼土粒少 炭化粒微 ローム粒中 締り強
3 10YR3/3 暗褐色 炭化物微 ローム小少・粒中 締り強
4 10YR3/3 暗褐色 ローム粒少 白色砂質粘土小微 締り強
5 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小～粒少 白色砂質粘土中・粒少 締り強
6 10YR3/4 暗褐色 ローム小～粒少
7 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 ローム粒少 白色砂質粘土粒微
8 10YR3/3 暗褐色 ローム粒微
9 10YR2/3 黒褐色 焼土粒少 ローム小微・粒少
10 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒中 ローム小少・粒多 白色砂質粘土小～粒少
11 10YR2/3 黒褐色 焼土粒微 ローム小～粒少
12 10YR3/3 暗褐色 焼土粒少 ローム小少・粒中
13 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 ローム粒微 白色砂質粘土粒微
14 10YR3/4 暗褐色 焼土小～粒少 ローム中少・小中・粒多 締り強
15 7.5YR4/4 褐　色 焼土中中・小多・粒極多 炭化粒少 ローム小多・粒中 白色砂質土大・小少

竈
1 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 炭化粒微 ローム小少・粒多 締り極強
2 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒少 ローム小～粒少 白色砂質粘土中～小中・粒多 締り強
3 5YR3/3 暗赤褐色 焼土大少・小中・粒多 炭化粒微 白色砂質粘土小微 黒色土中微
4 10YR3/4 暗褐色 焼土粒少 ローム粒微
5 10YR3/4 暗褐色 焼土粒少 ローム小中・粒多
6 10YR3/4 暗褐色 焼土粒微 炭化粒微 白色砂質粘土小・粒微
7 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒少 炭化粒少 白色砂質粘土粒少
8 5YR3/4 暗赤褐色 焼土小中・粒多 ロームブロック少 白色砂質粘土粒微
9 10YR4/6 褐　色 焼土粒少 ローム粒少

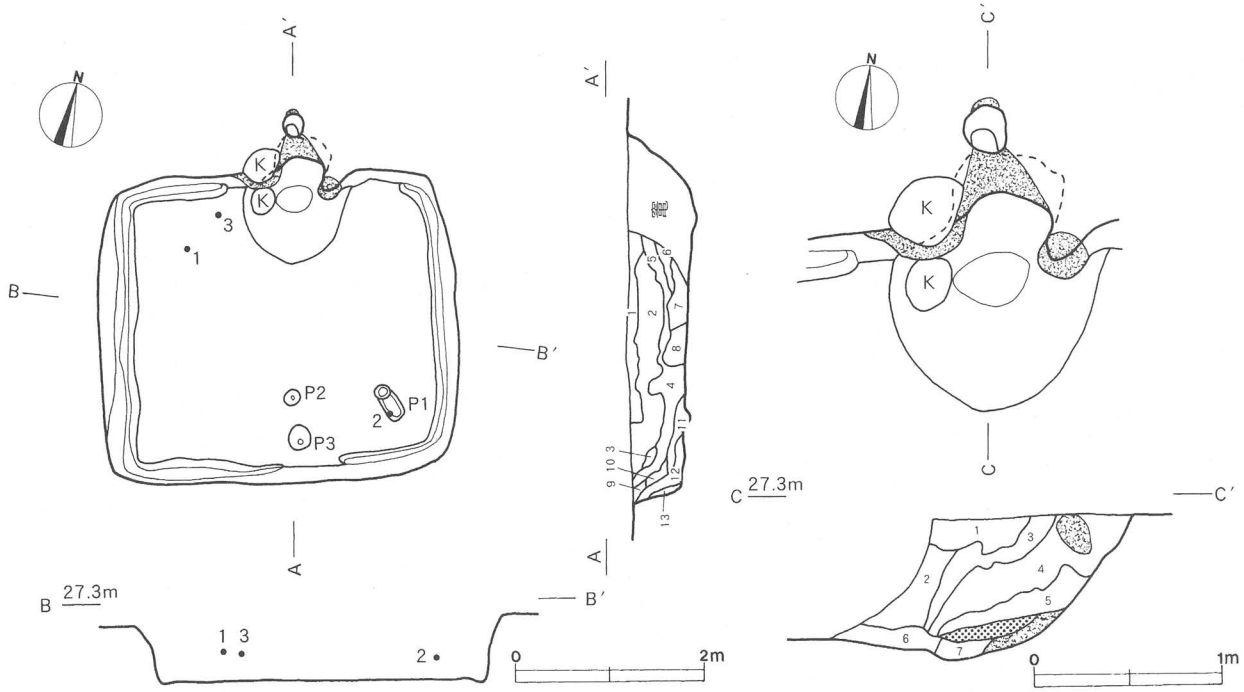
**第16図　竪穴住居跡(SI-7)**

上から黒褐色土、暗褐色土、褐色土が堆積する。**遺物**　東壁北側で未焼成の土玉が壁に密着する様に出土。また北東隅を中心に完成した土玉が47点出土した。**所見**　北西壁が後世の撹乱により損壊している。




**第17図　出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第17図<br>1 | 杯<br>土　師　器 | A　13.5<br>B　3.7<br>C　5.7 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部は、粘土貼り付け後回転ヘラ切り。 | 長石・石英・雲母にぶい黄橙色・にぶい橙色、普通 | 70%<br>体部外面に墨書 |
| 2 | 杯<br>土　師　器 | A　13.8<br>B　4.0<br>C　6.0 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 底部切り離し後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母赤色粒、橙色・黒色、普通 | 95% |
| 3 | 高台付椀<br>土　師　器 | A　15.5<br>B　5.4<br>D　8.6<br>E　1.1 | 平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で若干外反する。 | 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母にぶい褐色・黒色普通 | 70% |




1 10YR3/2 黒褐色 焼土粒少 ローム小少・粒中
2 7.5YR3/4 暗褐色 ローム中少・小中・粒多 ロームブロック微 黒色土粒少 締り強
3 10YR3/2 黒褐色 ローム粒中 黒色土大少 締り強
4 10YR3/2 黒褐色 焼土粒少 ローム大少・小中・粒多 ロームブロック微 黒色土小・粒少 灰白色砂質粘土大～中微 締り強
5 10YR3/3 暗褐色 ローム小少・粒中 黒色土粒少 灰白色砂質粘土大少・粒中
6 7.5YR4/3 褐 色 ローム小中・粒多 灰白色砂質粘土大中 締り強
7 10YR3/4 暗褐色 焼土粒微 ローム粒少 灰白色砂質粘土大多 締り強
8 10YR3/4 暗褐色 ローム中中・小多・粒極多 ロームブロック少 黒色土大中・小多
9 10YR3/4 暗褐色 ローム粒微
10 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少 締り強
11 10YR3/3 暗褐色 焼土粒微 ローム粒少 締り強
12 10YR3/4 暗褐色 ローム大中
13 10YR4/6 褐 色 ローム大多

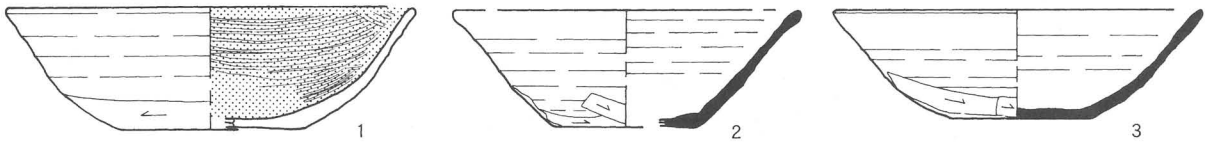
竈
1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小微・粒少 灰黄色砂質粘土粒微 締り強
2 10YR3/3 暗褐色 ローム粒少 黒土粒中 灰黄砂粘大中・粒少
3 10YR3/4 暗褐色 焼土粒微 ローム小少・粒微 灰黄色砂質粘土大少・小中・粒多 黒土粒少 締り強
4 10YR3/4 暗褐色 焼土粒微 ローム小少・粒多 黒土粒中
5 7.5YR4/4 褐 色 焼土小～粒多 炭化粒微 灰黄色砂質粘土小少
6 10YR2/3 黒褐色 焼土小少・粒中 炭化粒少 灰黄色砂質粘土粒微
7 7.5YR5/2 灰褐色 焼土粒微 ローム粒少 黄色砂質粘土粒中

**第18図　竪穴住居跡(SI-8)**

**SI-8**(第18・19図、PL5・6・28)〈平安時代〉

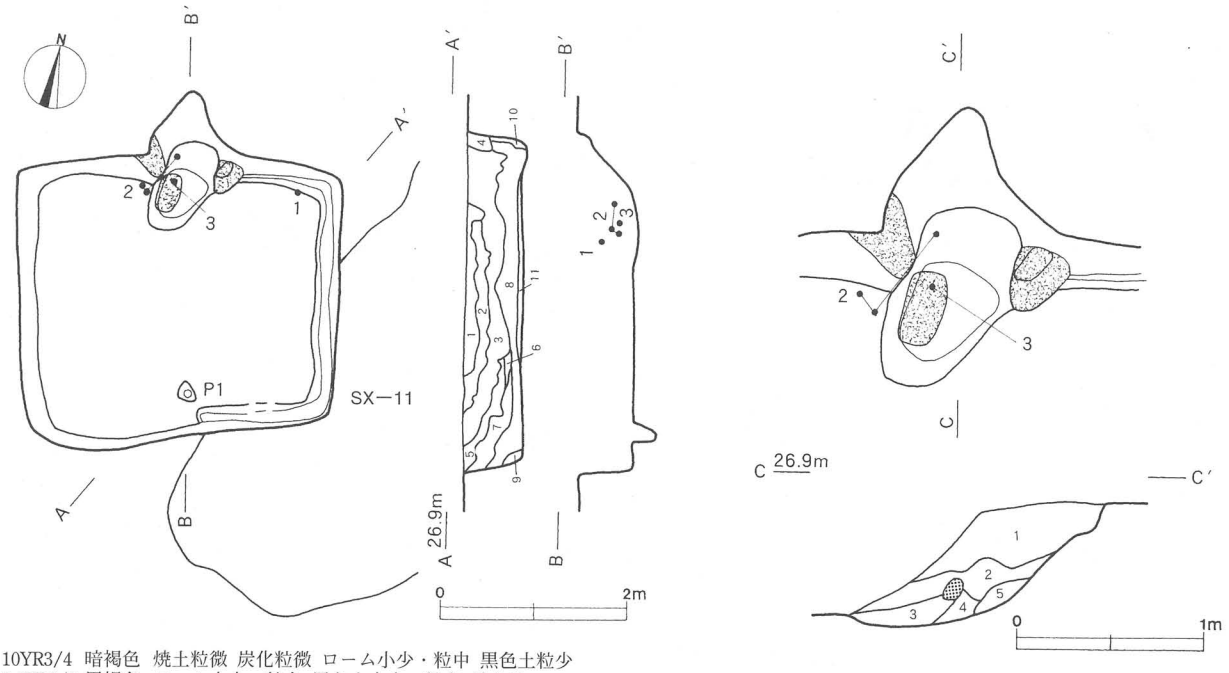
**位置**　B-25～26、C-26区　**規模**　3.81×3.27×0.67m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-12°-W　**床**　壁溝は南壁中央部を除きほぼ全周、竈前面から南壁にかけて帯状に硬化。　**ピット**　**P₁**　0.41×0.19×0.20m　**P₂**　0.18×0.18×0.08m　**P₃**　0.26×0.23×0.05m　$P_3$は出入口施設に伴うピットと考えられる。

**竈**①北壁中央部　③1.63×1.38m　④0.65m　⑤0.14m　⑥48°　⑦0.27×0.22m　⑧黄色砂質粘土　**覆土**　黒褐色土、暗褐色土を主体とする。




**第19図　出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第19図 1 | 椀 土師器 | A [16.0] B 4.8 C [7.2] | 平底。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 底部切り離し後、回転ヘラ削り。体部下端回転ヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母にぶい黄橙色・黒色、普通 | 40% |
| 2 | 杯 須恵器 | A [13.6] B 4.6 C [5.8] | 平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。 | 底部回転ヘラ切り後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・雲母黄灰色・灰黄色普通 | 20% |
| 3 | 杯 須恵器 | A [14.7] B 4.3 C 5.7 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 石英・雲母・赤色粒、にぶい黄褐色・にぶい褐色、不良 | 40% |



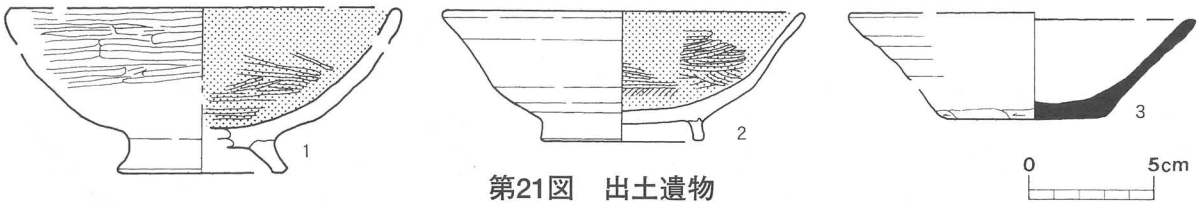

1 10YR3/4 暗褐色 焼土粒微 炭化粒微 ローム小少・粒中 黒色土粒少
2 7.5YR3/2 黒褐色 ローム小少・粒多 黒色土大少・粒多 締り強
3 7.5YR4/4 褐 色 焼土小少 ローム大中・小～粒多 黒色土中少・粒中
4 7.5YR4/4 褐 色 ローム大少・粒多 黒色土粒中
5 10YR3/4 暗褐色 焼土小微・粒少 ローム小少・粒中 黒色土粒中
6 10YR2/3 黒褐色 ローム粒中
7 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 炭化粒微 ローム小～粒少 黒色土粒中
8 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒少 ローム小少・粒多 黒色土粒多 締り強
9 10YR4/6 褐 色 ローム大少・粒少
10 10YR4/6 褐 色 ロームの崩落土
11 10YR3/4 暗褐色 焼土小少・粒中 ローム粒少 灰黄色砂質粘土大微・粒多 黒色土粒少

竈
1 10YR3/4 暗褐色 焼土粒少 炭化粒少 ローム粒多 締り強
2 10YR3/4 暗褐色 焼土大少・小～粒少 炭化物微 ローム粒少 灰白色砂質粘土大中 黒色土粒微
3 10YR3/4 暗褐色 焼土中～粒中
4 5YR3/4 暗赤褐色 焼土小～粒多 炭化粒少
5 7.5YR3/4 暗褐色 焼土大微・中少・粒少

**第20図　竪穴住居跡(SI-11)**

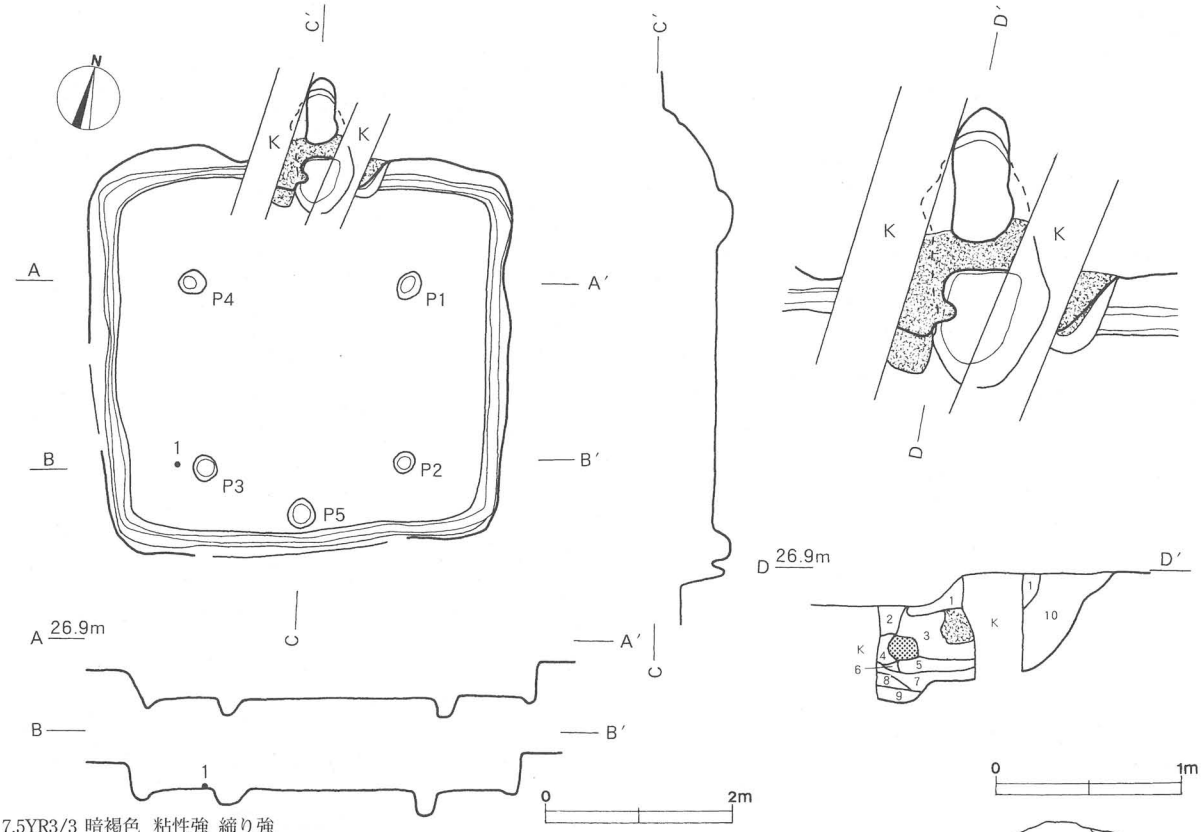
**SI-11**(第20・21図、PL6・28)〈平安時代〉

**位置**　C-36区　**規模**　3.46×3.12×0.62m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-13.5°-W　**床**　壁溝は竈東脇から東壁に沿って南壁中央部までの半周。竈前面から南壁にかけて帯状に硬化。**ピット**　$P_1$　0.24×0.18×0.25m　出入口施設に伴うものと思われる。**竈**　①北壁中央部　③1.51×1.18m　④0.68m　⑤0.04m　⑥46°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　褐色土、暗褐色土を主体とする。**所見**　SX-11と重複、南東側壁の一部を削平されている。



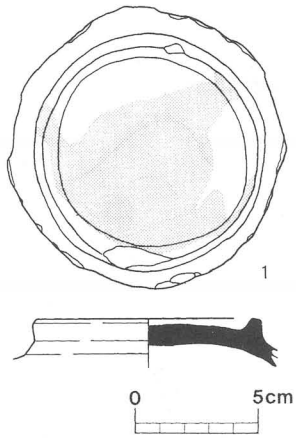

**第21図　出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第21図<br>1 | 高台付椀<br>土師器 | A [15.4]<br>B [ 6.5]<br>D [ 6.4]<br>E 1.0 | 平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 体部内・外面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母<br>灰黄褐色・黒色<br>普通 | 25% |
| 2 | 高台付椀<br>土師器 | A [14.2]<br>B 5.1<br>D 6.4<br>E 0.8 | 平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は、中位から外反気味に立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後、弱い回転ヘラ削りを施し高台貼り付け。体部下端回転ヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい褐色・黒色<br>普通 | 60% |
| 3 | 杯<br>須恵器 | A [13.7]<br>B 4.2<br>C 6.7 | 平底。体部は外反気味に立ち上がる。 | 底部切り離し後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>赤色粒、褐灰色<br>普通 | 50% |




1 7.5YR3/3 暗褐色 粘性強 締り強
2 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒微 締り強
3 7.5YR4/3 褐 色 焼土大・小中 灰白色砂質粘土多 灰多 粘性強 締り強
4 7.5YR6/1 褐灰色 焼土粒少 灰白色砂質粘土多 粘性強 締り強
5 7.5YR4/3 褐 色 焼土中～小中・粒多 灰白色砂質粘土少 灰少 粘性強 締り強
6 7.5YR5/2 灰褐色 灰白色砂質粘土少 灰少 粘性強 締り強
7 7.5YR4/3 褐 色 焼土粒微 ローム粒少 粘性強 締り強
8 7.5YR5/3 にぶい褐色 焼土小少 灰白色砂質粘土中 灰中 粘性強 締り強
9 7.5YR6/4 にぶい橙色 ローム大多・中中 粘性強 締り強
10 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 ローム中少・小～粒中 灰白色砂質粘土少 締り強

**第22図 竪穴住居跡(SI-14)**




**第23図 出土遺物**

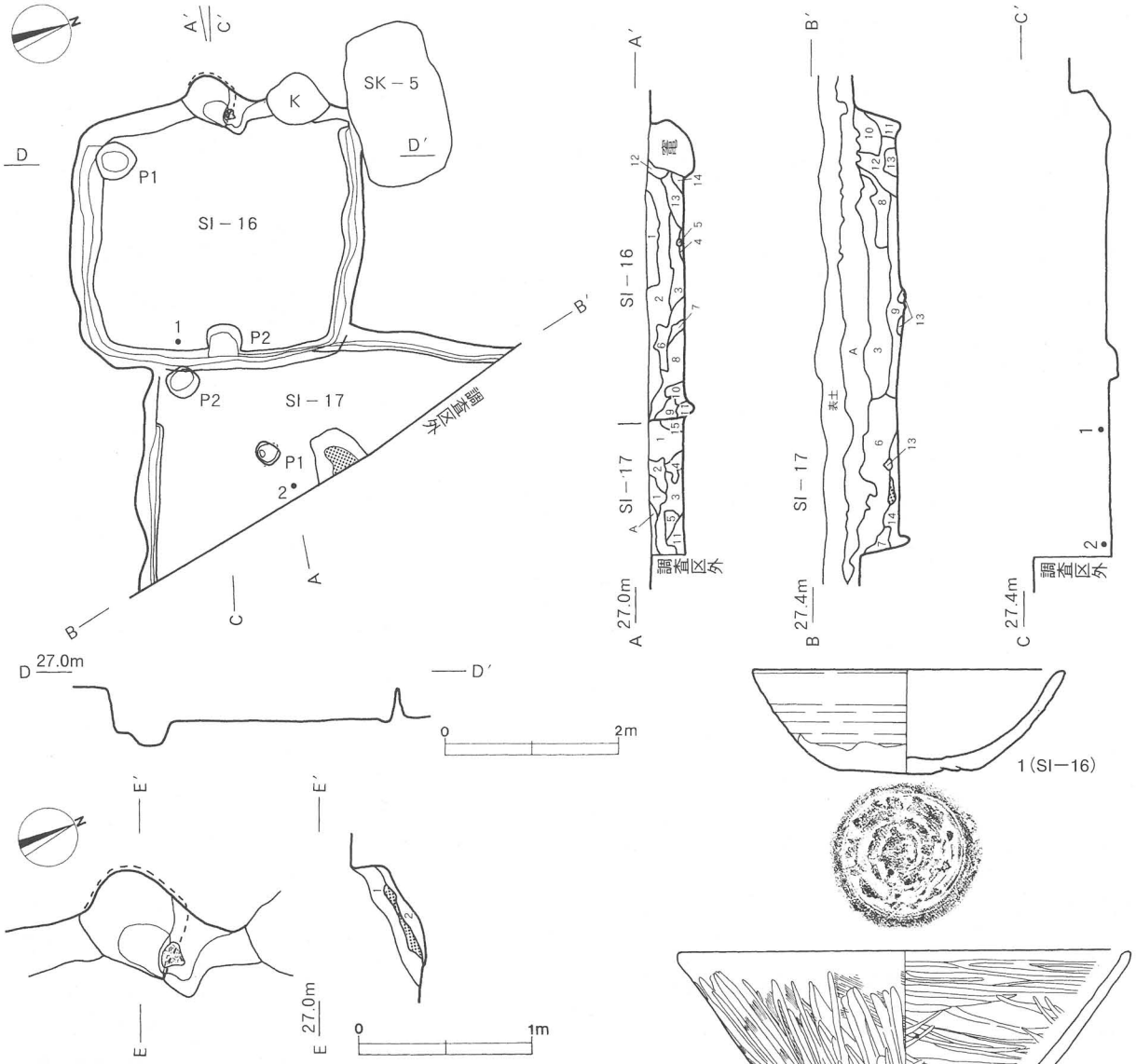
**SI-14**(第22・23図、PL6・28)〈平安時代〉

**位置** I-43～44区 **規模** 4.46×4.40×0.40m **形態** 方形 **主軸方位** N-11.5°-W **床** 壁溝は全周、中央部が硬化。 **ピット** **$P_1$** 0.32×0.24×0.20m **$P_2$** 0.23×0.23×0.25m **$P_3$** 0.28×0.28×0.15m **$P_4$** 0.30×0.25×0.19m **$P_5$** 0.32×0.32×0.16m $P_1$～$P_4$は主柱穴で$P_5$は出入口施設に伴うピットと思われる。**竈** ①北壁中央部 ③1.46×〔1.40〕m ④0.90m ⑤0.15m ⑥34° ⑦0.71×0.32m ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 上から黒褐色土、褐色土が堆積する。**所見** 撹乱により遺存状態は劣悪であった。

| 図版番号 | 器 種 | 法量(cm) | 器 形 の 特 徴 | 技 法 の 特 徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第23図<br>1 | 転 用 硯<br>須 恵 器 | B ( 1.9)<br>D 8.8<br>E 0.5 | 体部欠損の高台付杯底部を転用。平底で下方へほぼ垂直にのびる高台が付く。 | 底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削りを施し高台貼り付け。 | 長石・石英・雲母<br>黒色粒、灰黄色<br>不良 | 100%<br>外面に墨滴痕 |

**SI-16**(第24図、PL7)〈平安時代〉

**位置** M-52～53区 **規模** 3.36×2.96×0.42m **形態** 長方形 **主軸方位** N-69°-W **床** 壁溝は北壁を除き全周、竈前面から出入口施設にかけて硬化。 **ピット** **$P_1$** 0.44×0.44×0.25m **$P_2$** 0.40×0.40×0.12m $P_2$は出入口施設に伴うものと思われる。**竈** ①西壁中央部 ③0.68m×不明 ④0.44m




**SI-16**

1 7.5YR3/1 黒褐色 焼土粒微 ローム粒少 粘性強 締り強
2 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 ローム大微・中中・小～粒多 粘性強 締り強
3 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒微
4 7.5YR4/4 褐 色 ローム大・中多
5 7.5YR6/1 褐灰色
6 7.5YR4/3 褐 色 ローム大極多・粒多 締り強
7 7.5YR5/6 明褐色 ローム大中・粒極多 粘性強 締り強
8 7.5YR5/4 にぶい褐色 粘性強 締り強
9 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒極多 粘性強 締り強
10 7.5YR4/4 褐 色 ローム大中・粒多 粘性強 締り強
11 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒極多 粘性強 締り強
12 7.5YR5/3 にぶい褐色 焼土大多 炭化粒中 ローム中少 灰白色砂質粘土中多 粘性強 締り強
13 7.5YR6/4 にぶい橙色 焼土粒少 炭化粒中 ローム中・小多 灰白色砂質粘土大多 締り強
14 5YR5/3 にぶい赤褐色 焼土小中・粒多 炭化粒少 粘性強 締り強

**SI-16 竈**

1 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒中 炭化粒少 ローム粒中 締り強
2 10YR4/6 褐 色 ローム粒中

**SI-17**

1 7.5YR4/4 褐 色 ローム中～小少・粒多 粘性強 締り強
2 7.5YR5/6 明褐色 ローム大・小・粒多 粘性強 締り強
3 7.5YR4/6 褐 色 ローム中中・小～粒極多 粘性強 締り強
4 7.5YR4/6 褐 色 ローム大微 粘性強 締り強
5 7.5YR3/4 暗褐色 ローム大微・粒中 粘性強 締り強
6 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒少 粘性強 締り強
7 7.5YR5/4 にぶい橙色 ローム大多・中中 粘性強 締り強
8 7.5YR5/6 明褐色 ローム小・粒少 粘性強 締り強
9 7.5YR4/4 褐 色 ローム中中・小～粒多 粘性強 締り強
10 7.5YR4/2 灰褐色 ローム粒中 粘性強 締り強
11 7.5YR5/6 明褐色 ローム大多・中中 粘性強 締り強
12 7.5YR5/3 にぶい褐色 ローム中中・小多・粒少 粘性強 締り強
13 7.5YR7/1 黒 色 ローム粒微 粘性強 締り強
14 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒微 粘性強 締り強
15 7.5YR6/4 にぶい橙色 ローム大～小極多 粘性強 締り強

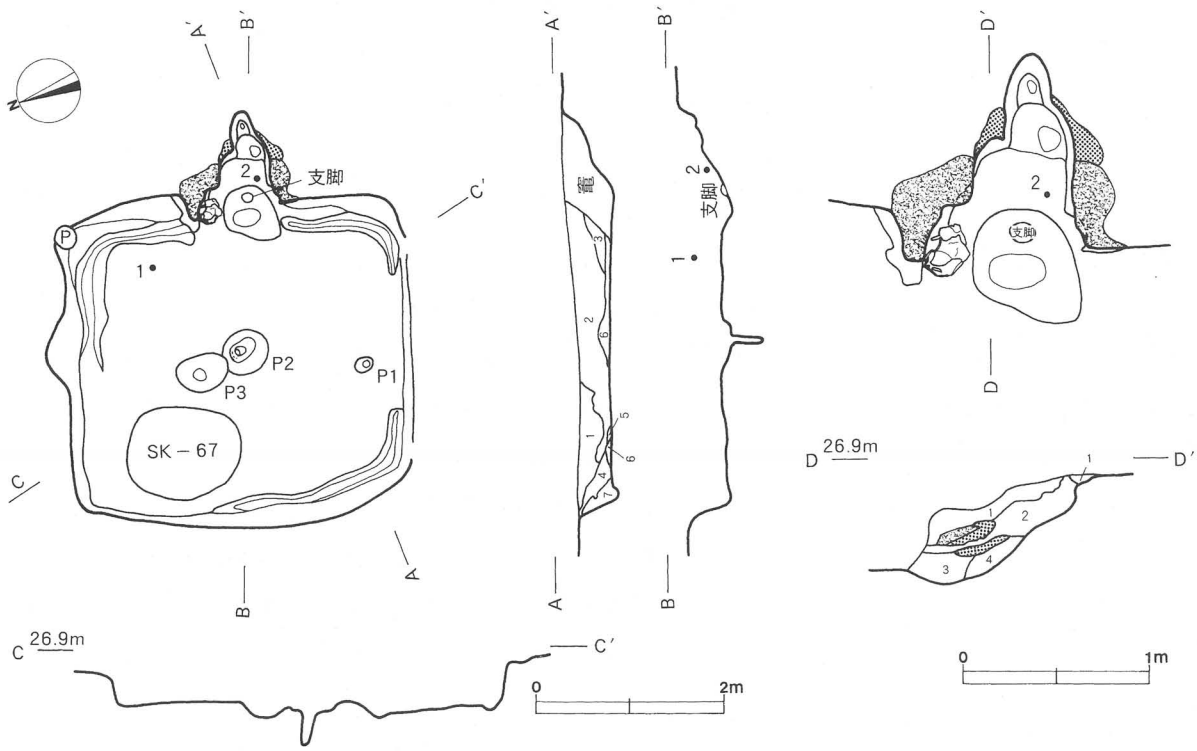
**第24図 竪穴住居跡(SI-16・17)**

⑤0.03m ⑥階段状 37°～102° ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 黒褐色土、暗褐色土を主体とする。**所見** SI-17、SK-5と重複。本遺構は、SI-17より新しく、SK-5より古い。

**SI-17**(第24図、PL7・28)〈古墳時代前期〉

**位置**　M-52～53区　**規模**　(3.80)×(2.56)×0.48m　**形態**　方形あるいは長方形。　**床**　壁溝は西壁と南壁の一部で検出、中央部が硬化。　**ピット**　$P_1$　0.24×0.29×0.68m　$P_2$　0.38×0.38×0.24m　$P_2$は主柱穴と思われる。　**炉**　①ほぼ中央部　②(0.64)×(0.48)m　③0.06m　**覆土**　褐色土を主体とし、覆土下部から焼土ブロック、炭化材を検出。　**遺物**　古墳時代前期の土器片が最下部から出土する。　**所見**　遺構範囲の東側1/2以上が調査範囲外に残る。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第24図<br>1<br>SI-16 | 杯<br>土　師　器 | A　13.2<br>B　4.4<br>C　5.9 | 平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 底部は、粘土粘り付け後回転ヘラ切り。体部下端指ナデ。 | 雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | 95% |
| 2<br>SI-17 | 坩<br>土　師　器 | A　19.1<br>B　12.2<br>C　4.5 | 平底。体部上位に最大径を持ち、口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部外面刷毛目調整後、縦位ヘラ磨き。内面横位ヘラ磨き。体部外面刷毛目調整後、横位ヘラ磨き。 | 長石・赤色粒<br>にぶい黄橙色<br>普通 | 70%<br>外面に煤付着 |




1 10YR3/4 暗褐色 焼土粒微 ローム大少・粒中 締り強
2 10YR3/3 暗褐色 焼土粒微 炭化粒微 ローム大・小少・粒多 白色砂質粘土小微 締り強
3 10YR3/4 暗褐色 ローム小～粒少
4 10YR3/2 黒褐色 ローム小～粒少
5 10YR3/3 暗褐色 焼土粒小 ローム大中・粒少 白色砂質粘土小少 締り極強
6 10YR3/3 暗褐色 焼土粒中 炭化粒少 ローム大～中少・小～粒多 ロームブロック多 白色砂質粘土大少・小～粒多 締り強
7 10YR4/4 褐　色 炭化粒微 ローム大微・粒多

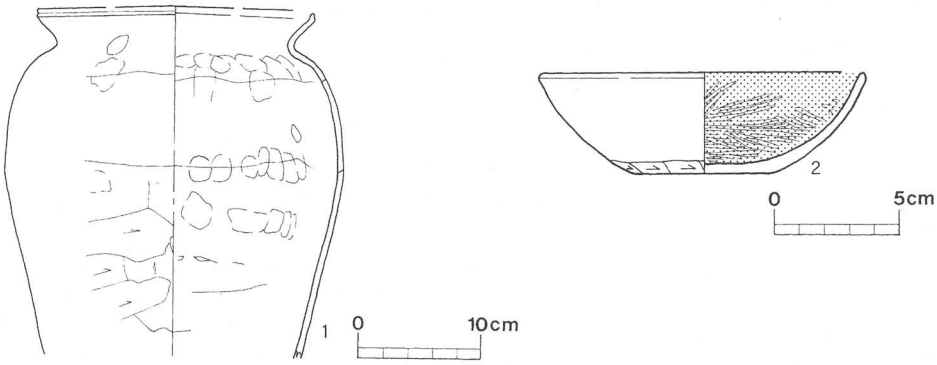
竈
1 10YR3/4 暗褐色 焼土小少・粒中 炭化粒微 ローム粒微 白色砂質粘土小中・粒多 締り強
2 5YR4/4 にぶい赤褐色 焼土大～中少・小～粒多 白色砂質粘土粒中 締り強
3 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒少 ローム粒少 黒色土粒少
4 7.5YR4/6 褐　色

**第25図　竪穴住居跡(SI-18)**

**SI-18**(第25・26図、PL7・28)〈平安時代〉

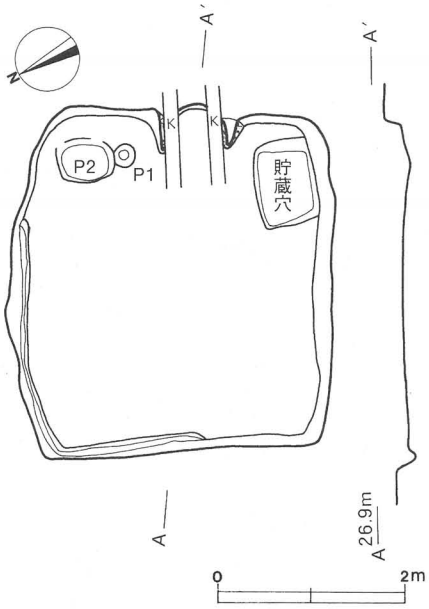
**位置**　J-48～49区　**規模**　3.70×3.51×0.40m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-109°-E　**壁**　北壁やや北寄りが幅0.94m、奥に0.24m掘り込まれている。覆土に灰白色砂質粘土を含むことから、移設前の竈の痕跡とも思われる。**床**　壁溝は東壁から北壁の途中までと、西壁から南壁にかけての一部に検出。南壁寄りに粘土質の貼床を施す。全面硬化。　**ピット**　$P_1$　0.22×0.15×0.31m　$P_2$　0.48×0.12×0.46m　$P_3$　0.54×0.40×0.19m　**竈**　①東壁中央部　③1.37×1.28m　④0.94m　⑤0.13m　⑥階段状　40°～57°

⑧灰白色砂質粘土　⑨北側袖には2個体の甕を補強材として使用。底部を欠き胴部側どうしを合わせる様に組み込み、内部を竈と同材の粘土で充填している。火床部付近に支脚の一部が残存。**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　SK-67が重複、本遺構が古い。




**第26図　SI-18出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第26図<br>1 | 甕<br>土　師　器 | A　[21.9]<br>B　(28.3) | 口縁～胴部片。胴部上位に最大径を持つ。口縁部は強く外反し、口唇部を上方につまみ上げる。 | 胴部外面下半部に縦位ヘラ削り後、横位ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>明赤褐色・にぶい褐色、普通 | 30% |
| 2 | 杯<br>土　師　器 | A　12.8<br>B　4.0<br>C　5.7 | 平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後、弱いナデ。体部下端手持ちヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・雲母<br>にぶい橙色・黒色<br>普通 | 98% |




**第27図　竪穴住居跡(SI-19)**

**SI-19**(第27図、PL8)〈平安時代〉

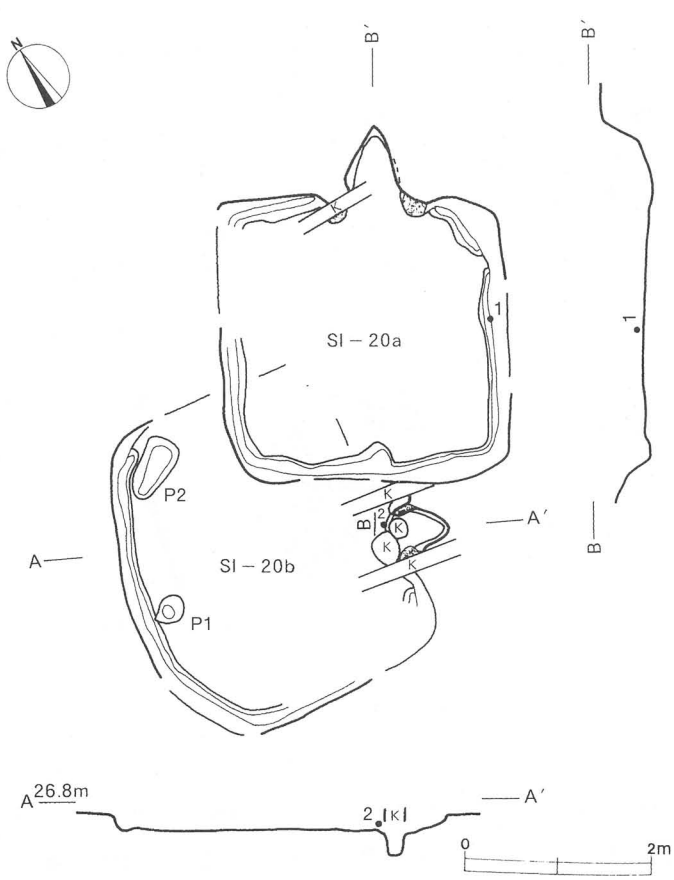
**位置**　I-45～46区　**規模**　3.76×3.42×0.18m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-111°-E　**床**　壁溝は北壁東寄りから西壁の途中まで検出。中央部が硬化。　**ピット**　$P_1$　0.24×0.24×0.14m　$P_2$　0.61×〔0.48〕×0.22m　**貯蔵穴**　①南東隅　②0.92×0.64×0.41m　長方形。**竈**　①東壁中央部　③(0.48)×1.08m　④0.08m　⑤0.09m　⑥77.5°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　褐色土を主体とする。**所見**　撹乱のため遺構の遺存状態は悪い。

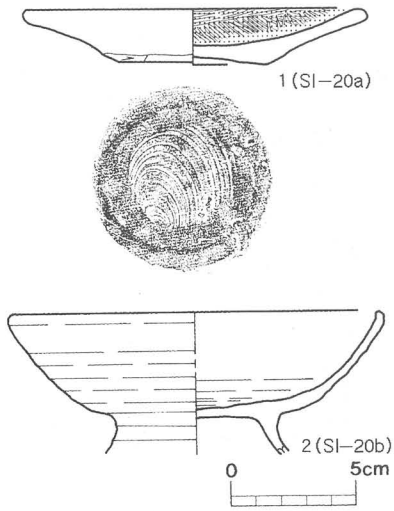
**SI-20a**(第28図、PL8・28・35)〈平安時代〉

**位置**　H-45～46区　**規模**　〔3.51〕×3.03×0.41m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-29.5°-E　**床**　竈前面から南壁にかけて帯状に硬化。　**ピット**　$P_1$　0.40×0.09m　出入口施設に伴うピットと思われる。　**竈**　① 北壁中央部　③(1.00)×1.16m　④0.73m　⑤0.12m　⑥60.5°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　褐色土を主体とする。**所見**　撹乱のため遺構の遺存状態は悪い。SI-20bと重複、本遺構が古い。

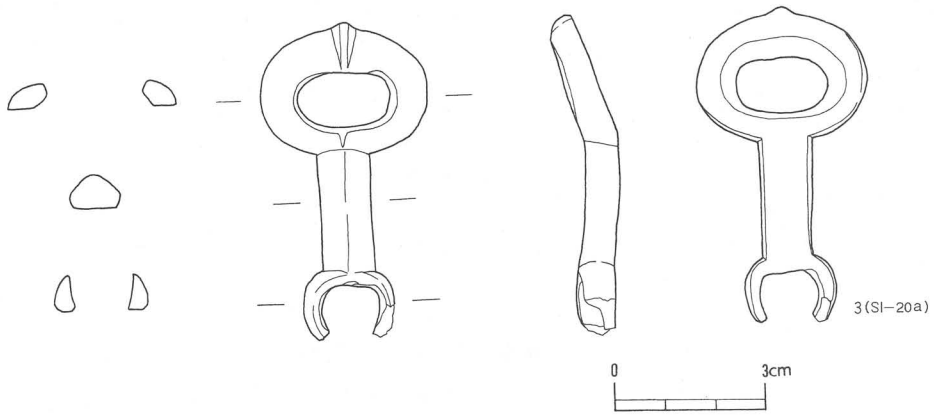
**SI-20b**(第28図、PL8・28)〈平安時代〉

**位置**　G～H-46区　**規模**　〔3.48〕×〔3.22〕×0.17m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-107°-E　**床**　壁溝は南東隅から南壁に沿い西壁北隅まで検出。竈寄り2/3が南北方向に硬化。　**ピット**　$P_1$　0.36×0.28×



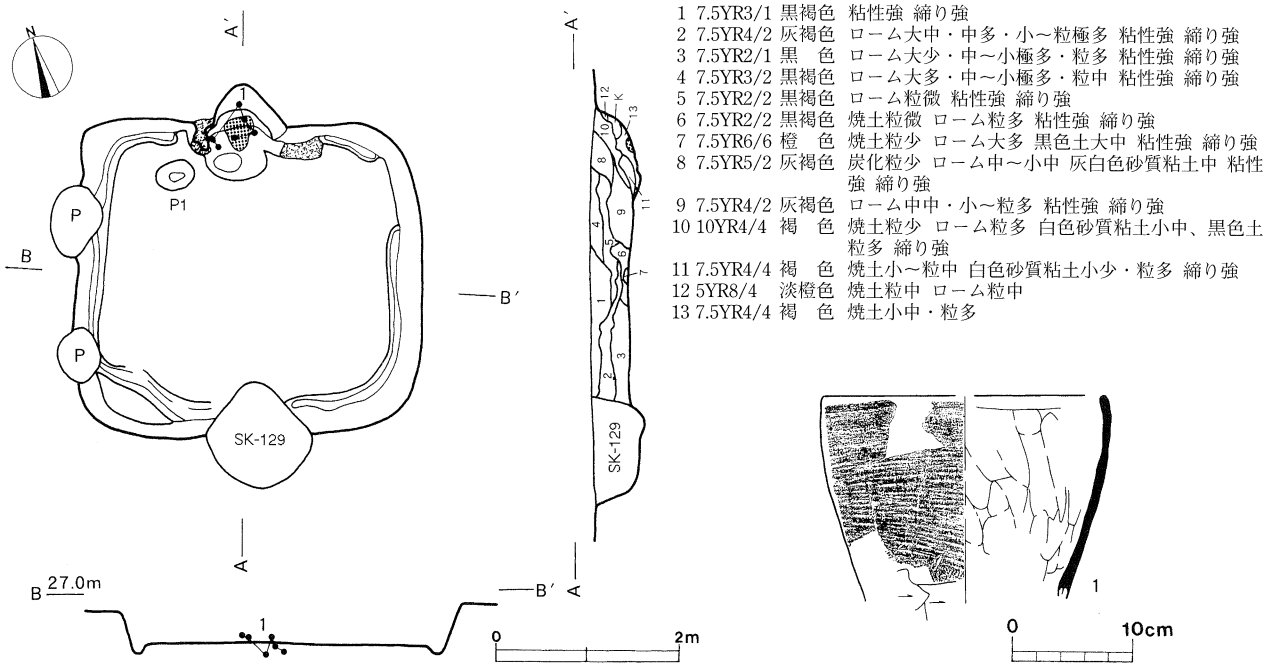

0.22m **P₂**　0.69×0.38×0.16m　$P_1$は出入口施設に伴うピットと思われる。**竈**　①東壁やや南寄り　③〔0.68〕×〔1.08〕m　④〔0.38〕m　⑤ 0.07m　⑥65°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　暗褐色土を主体とする。　**所見**　深耕により遺構の遺存状態は悪い。SI-20aと重複、本遺構が新しい。




**第28図　竪穴住居跡(SI-20a・20b)**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第28図<br>1<br>SI-20a | 皿<br>土　師　器 | A　13.3<br>B　2.2<br>C　5.7 | やや窪んだ平底。体部は外反しながら浅く開く。 | 底部回転糸切り。体部下端手持ちヘラ削り。内面丁寧なヘラ磨き。内面黒色処理。 | 雲母・赤色粒<br>にぶい黄橙色・黒色、普通 | 100% |
| 2<br>SI-20b | 高台付杯<br>土　師　器 | A　14.6<br>B　(5.6) | 平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 底部回転糸切り後、高台貼り付け。 | 長石・石英<br>橙色<br>普通 | 80% |

| 図版番号 | 器　種 | 法　　量 | | | | 特　　徴 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 3<br>SI-20a | 連繋金具 | 6.2 | 3.4 | 0.7 | 31.4 | 頭部は先端に稜を有する蓮葉形を呈し、双葉状に透し穴をあける。足部断面は三角形を呈する。 | 青銅製品<br>仏具？<br>覆土一括 |

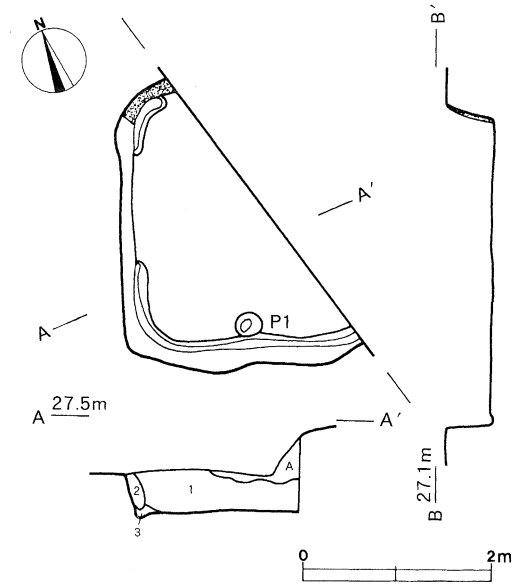



第29図　竪穴住居跡(SI-21)

**SI-21**(第29図、PL8・28)〈平安時代〉

**位置**　L-53区　**規模**　3.76×3.50×0.42m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-15.5°-E　**床**　壁溝は東壁の一部を除きほぼ全周。　竈前面から南壁にかけて帯状に硬化。**ピット**　$P_1$　0.43×0.32×0.22m　**竈**　①北壁中央部　③1.07×1.44m　④0.44m　⑤0.17m　⑥37°　⑧灰白色砂質粘土　覆土　黒褐色土を主体とする。**所見**　本遺構より新期の土坑、SK-129と重複。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第29図<br>1 | 鉢<br>須　恵　器 | A　[23.2]<br>C　(16.8) | 口縁～胴部片。胴部は内彎気味に外傾する。 | 体部外面に横位平行タタキ。下位に横位ヘラ削り。内面指頭痕。 | 長石・石英・雲母にぶい橙色・にぶい黄橙色、不良 | 40% |

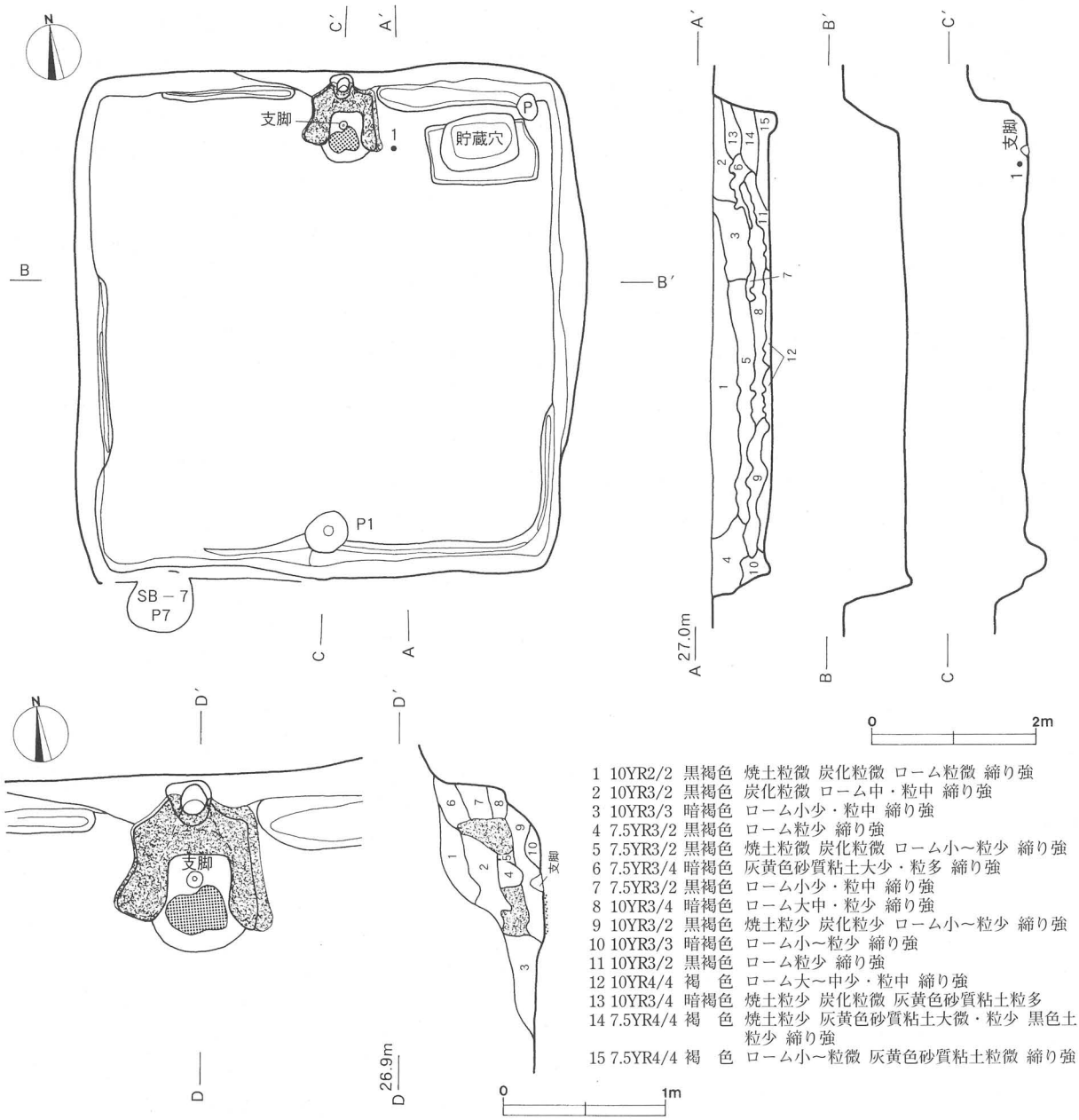



第30図　竪穴住居跡(SI-15)

**SI-15**(第30図、PL6)〈平安時代〉

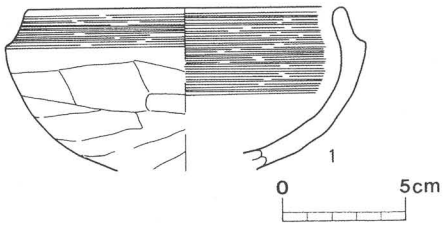
**位置**　M-50区　**規模**　〔3.18〕×〔2.64〕×0.48m　**形態**　長方形　**主軸方位**　〔N-22°-E〕　**壁**　北西隅から北壁一帯に厚さ約4cmの灰白色砂質粘土を塗布している。**床**　壁溝は北西隅と南西隅から南壁を経て調査区境界まで検出。中央部が硬化。**ピット**　$P_1$　0.27×0.12m　出入口施設に伴うピットと考えられる。**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　遺構の半分程が調査区外に残る。

1 7.5YR3/3 暗褐色 焼土中～小少 ローム大～粒多
2 7.5YR5/4 にぶい褐色 ローム中・小多
3 7.5YR7/8 黄橙色 ローム大極多・中多




1 10YR2/2 黒褐色 焼土粒微 炭化粒微 ローム粒微 締り強
2 10YR3/2 黒褐色 炭化粒微 ローム中・粒中 締り強
3 10YR3/3 暗褐色 ローム小少・粒中 締り強
4 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少 締り強
5 7.5YR3/2 黒褐色 焼土粒微 炭化粒微 ローム小～粒少 締り強
6 7.5YR3/4 暗褐色 灰黄色砂質粘土大少・粒多 締り強
7 7.5YR3/2 黒褐色 ローム小少・粒中 締り強
8 10YR3/4 暗褐色 ローム大中・粒少 締り強
9 10YR3/2 黒褐色 焼土粒少 炭化粒少 ローム小～粒少 締り強
10 10YR3/3 暗褐色 ローム小～粒少 締り強
11 10YR3/2 黒褐色 ローム粒少 締り強
12 10YR4/4 褐 色 ローム大～中少・粒中 締り強
13 10YR3/4 暗褐色 焼土粒少 炭化粒微 灰黄色砂質粘土粒多
14 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 灰黄色砂質粘土大微・粒少 黒色土粒少 締り強
15 7.5YR4/4 褐 色 ローム小～粒微 灰黄色砂質粘土粒微 締り強

竈
1 7.5YR3/4 暗褐色 灰黄色砂質粘土大少・粒多 締り強
2 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 灰黄色砂質粘土大微・粒少 黒色土粒少 締り強
3 7.5YR4/4 褐 色 ローム小～粒微 灰黄色砂質粘土粒微 締り強
4 7.5YR4/6 褐 色 焼土小少・粒多 灰黄色砂質粘土大微 黒色土粒少
5 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 灰黄色砂質粘土粒多 締り強
6 10YR4/6 褐 色 ローム粒少 黒色土粒少
7 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 黒色土粒中
8 10YR4/6 褐 色 ローム粒中 黒色土粒少
9 5YR3/3 暗赤褐色 焼土小～粒中 ローム粒微 黒色土粒中
10 5YR3/4 暗赤褐色 焼土粒中 灰黄色砂質粘土粒少 黒色土粒多




第32図　出土遺物

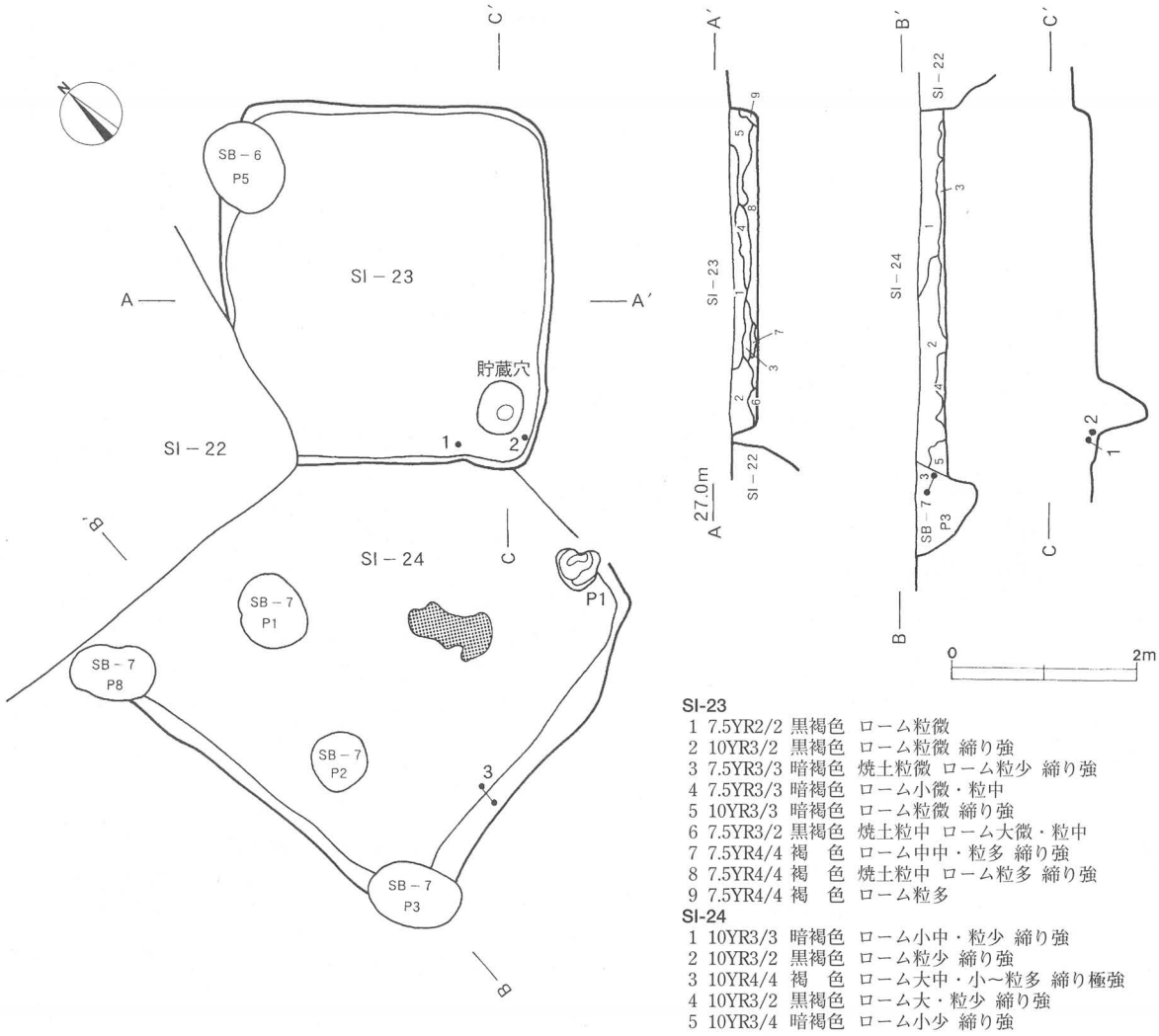
第31図　竪穴住居跡(SI-22)

**SI-22**(第31・32図、PL8・9・28)〈古墳時代後期〉

**位置**　L-54～55区　**規模**　6.24×6.21×0.79m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-5°-E　**床**　壁溝は北壁、南東隅から南壁に沿い西壁の一部で検出。竈前面から南壁にかけて硬化。**ピット**　$P_1$　0.54×0.45×0.25m　出入口施設に伴うものと思われる。**貯蔵穴**　①北東隅　②長方形の浅い掘り込み(1.32×0.73×

0.04m)とその内側に深い掘り込み(0.94×0.65×0.59m)を組み合わせている。③覆土はローム粒を含む褐色土。　**竈**　①北壁中央部　③1.04×0.97m　④煙道部のみ壁面を削り込んでいる。⑤0.05m　⑥階段状　47°～84°　⑦0.27×0.23m　⑧灰白色砂質粘土　⑨支脚の一部が残存。　**覆土**　上から黒褐色土、褐色土が堆積する。**遺物**　中央部の覆土中位に多量の土器が廃棄されている。　**所見**　SI-23・24と重複、本遺構が新しい。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第32図<br>1 | 杯<br>土　師　器 | A　[12.6]<br>C　(　6.4) | 口縁部片。丸底。口縁部との境に稜を持ち、口縁部は内傾する。 | 底体部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>灰褐色<br>普通 | 30% |



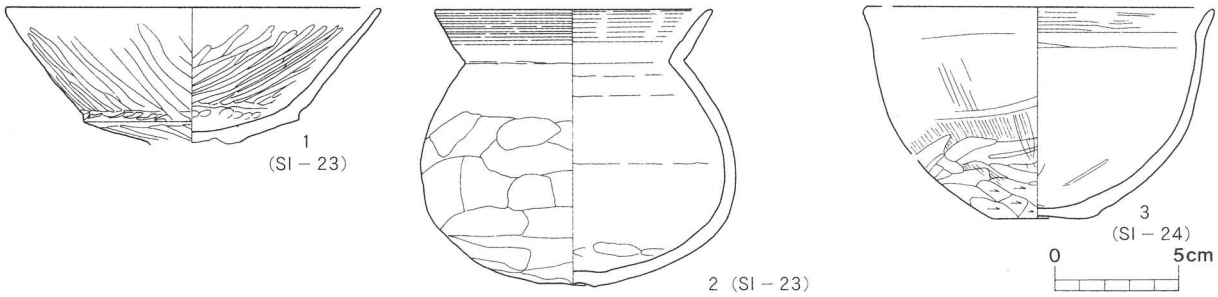

**第33図　竪穴住居跡(SI-23・24)**

**SI-23**(第33・34図、PL9・29)〈古墳時代中期〉

**位置**　M-55区　**規模**　3.91×3.56×0.32m　**形態**　方形　**主軸方位**　[N-44°-E]　**貯蔵穴**　①南東隅　②0.57×0.48×0.58m　隅丸長方形　③覆土はローム粒子を多量に含む暗褐色土。**覆土**　上から黒褐色土、暗褐色土、褐色土が堆積する。**遺物**　大半は壁際から出土。　**所見**　SI-22・24、SB-6-P5と重複。本遺構はSI-24より新しくSI-22、SB-6より古い。

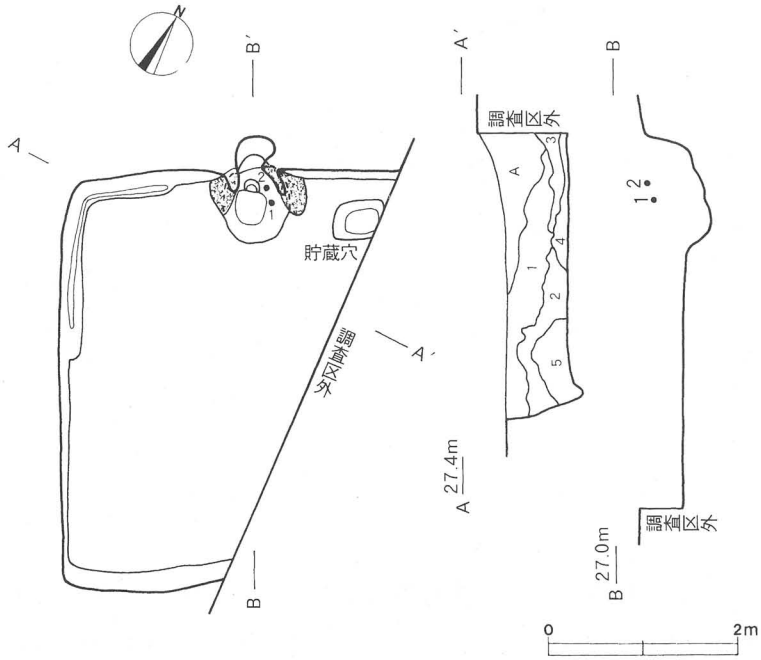
**SI-24**(第33・34図、PL9・29)〈古墳時代前期〉

**位置**　L～M-56区　**規模**　(4.73)×〔4.64〕×0.27m　**形態**　長方形と推定。　**主軸方位**　N-84°-E　**床**　全面にロームブロックを主体とする貼床。　**ピット**　$P_1$　0.47×0.45m　**炉**　①南東寄りのほぼ中央部　②0.94×0.36m　不整楕円形　**覆土**　黒褐色土と暗褐色土を主体とする。　**遺物**　大半の遺物は覆土中位から出土。　**所見**　SI-22・23、SB-7-P1～3・8と重複し、本遺構が最も古い。



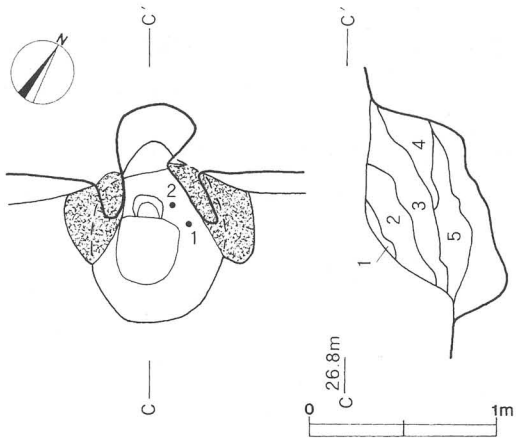

**第34図　SI-23・24出土遺物**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第34図<br>1<br>SI-23 | 高杯<br>土師器 | A 14.8<br>B ( 5.4) | 脚部欠損。外面下位に稜を持つ。口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 内・外面横ナデ後、斜位ヘラ磨き。 | 長石・石英<br>灰黄褐色(一部黒色)、普通 | 100% |
| 2<br>SI-23 | 小型壺<br>土師器 | A 11.0<br>B 10.9<br>C 2.0 | 非常に底径の小さい平底。胴部下半に最大径を持つ。頸部は「く」の字状に屈曲し口縁部は外傾する。 | 胴部外面横位ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>橙色・黒褐色<br>普通 | 90% |
| 3<br>SI-24 | 鉢<br>土師器 | A [13.7]<br>B 8.3<br>C 3.7 | 平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は僅かに外傾する。 | 体部外面刷毛目調整後、下端にヘラ削りを施した後横位ヘラ磨き。 | 長石・石英<br>橙色<br>普通 | 40% |




1 10YR3/2 黒褐色 焼土粒微 炭火粒微 ローム小～粒少 締り強
2 7.5YR4/3 褐　色 炭火粒微 ローム小～粒中 締り強
3 10YR2/3 黒褐色 焼土粒微 ローム中・粒少 締り強
4 7.5YR4/4 褐　色 焼土粒少 ローム中少・小～粒多 締り強
5 10YR4/4 褐　色 ローム中少・小～粒中 締り強

**第35図　竪穴住居跡(SI-25)**

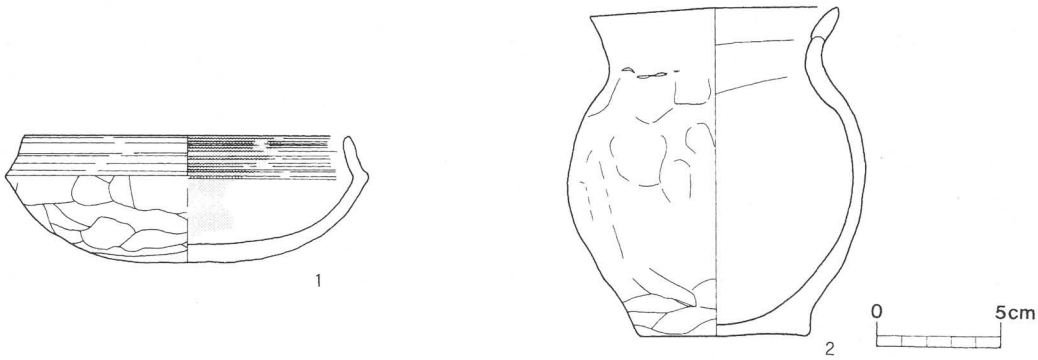



1 7.5YR4/6 褐　色 焼土粒少 ローム粒多 黒色土粒中
2 7.5YR4/4 褐　色 ローム粒少 黒色土粒少
3 7.5YR4/4 褐　色 焼土小・粒少 灰黄色砂質粘土粒少 黒色土粒少
4 7.5YR4/6 褐　色 焼土中少・小～粒多 黒色土粒少 締り強
5 7.5YR4/6 褐　色 焼土粒中 ローム大微 灰黄色砂質粘土大中 締り強

**第36図　SI-25　竈**

**SI-25**(第35～37図、PL9・29)〈古墳時代後期〉

**位置**　N-56～57区　**規模**　4.50×〔4.06〕×0.68m　**形態**　長方形と推定。　**主軸方位**　N-32.5°-W　**床**　壁溝は北西隅で検出、竈前面から南東壁にかけて硬化。　**貯蔵穴**　①北東隅　②〔0.54〕×0.41×0.47m　長方形　③覆土は焼土ブロック～粒子、ローム粒子を多量に含む褐色土。**竈**　①北西壁中央部。　③1.15×1.00m　④0.36m　⑤0.31m　⑥階段状　33°～67°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　上から黒褐色土、褐色土が堆積する。**遺物**　住居中央の覆土中位に廃棄された遺物が多量に出土。　**所見**　遺構東側1/2が調査範囲外に残る。

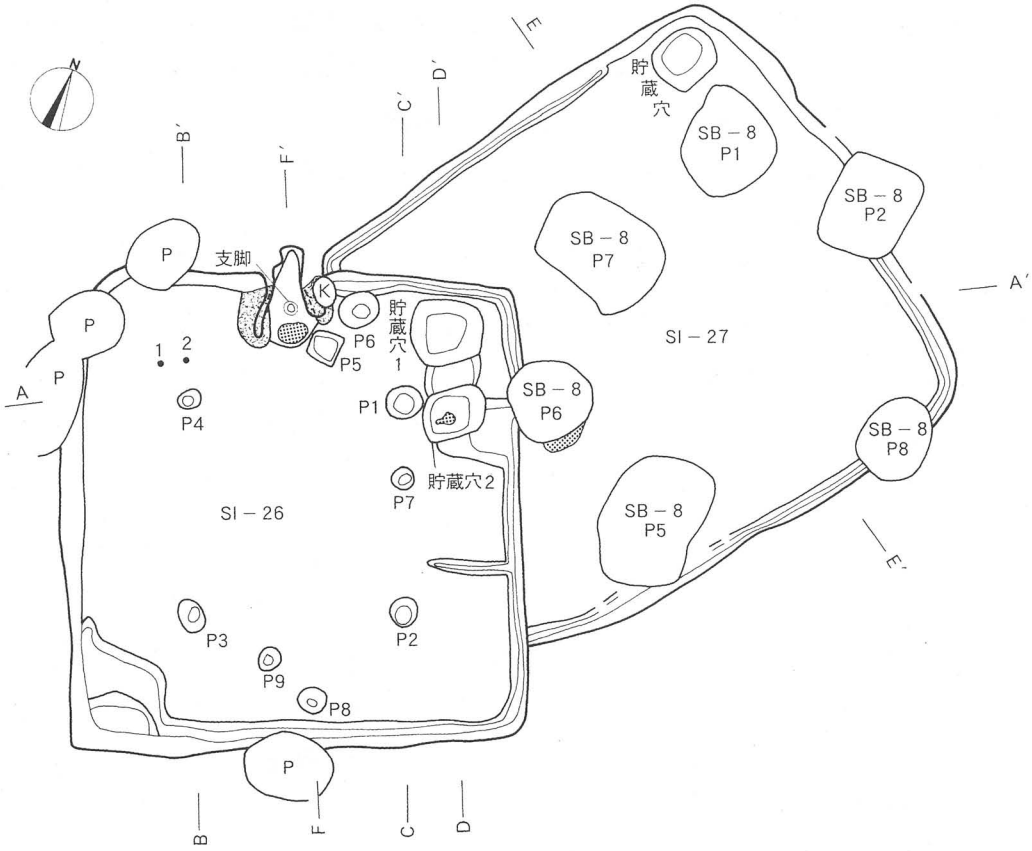


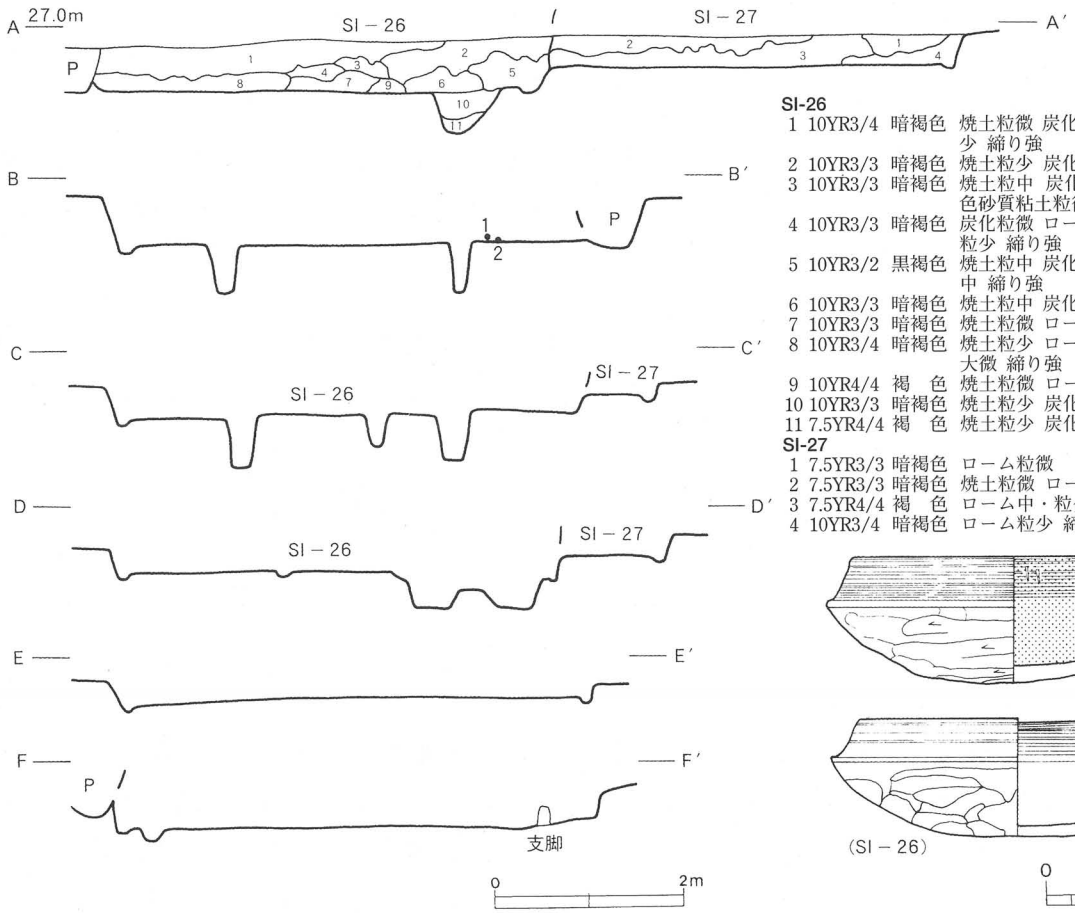

**第37図　出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第37図<br>1 | 杯<br>土　師　器 | A　[13.0]<br>B　5.0 | 丸底。口縁部との境に稜を持ち、口縁部は外反気味に内傾する。 | 底体部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。 | 長石・雲母<br>にぶい褐色・橙色<br>普通 | 45%<br>内面に煤付着 |
| 2 | 小　型　甕<br>土　師　器 | A　9.7<br>B　13.2<br>C　6.5 | 平底。胴部上半に最大径を持ち、口縁部は外反する。 | 底部切り離し後、多方向ヘラ削り。胴部外面ヘラナデ、下端ヘラ削り。内面丁寧なヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | 100% |

**SI-26**(第38図、PL9・10・29)〈古墳時代後期〉

**位置**　M-58～59区　**規模**　5.24×5.04×0.51m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-22°-W　**床**　壁溝は竈東側から東壁に沿って周り、南壁西隅まで検出。東壁南寄りから中心に向かって間仕切り溝1条を検出。中央部から南壁にかけて硬化。　**ピット**　$P_1$　0.40×0.50m　$P_2$　0.31×0.59m　$P_3$　0.38×0.26×0.54m　$P_4$　0.24×0.54m　$P_5$　0.32×0.25m　$P_6$　0.46×0.36×0.61m　$P_7$　0.24×0.35m　$P_8$　0.32×0.16m　$P_9$



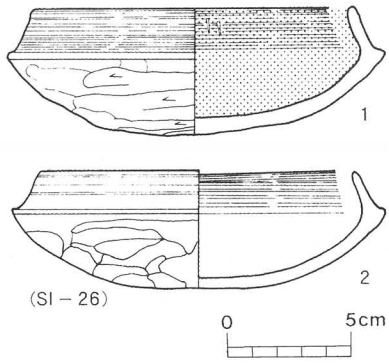




**SI-26**

1 10YR3/4 暗褐色 焼土粒微 炭化粒微 ローム小微・粒少 締り強
2 10YR3/3 暗褐色 焼土粒少 炭化粒微 ローム粒少
3 10YR3/3 暗褐色 焼土粒中 炭化粒少 ローム粒中 白色砂質粘土粒微 締り強
4 10YR3/3 暗褐色 炭化粒微 ローム粒微 白色砂質粘土粒少 締り強
5 10YR3/2 黒褐色 焼土粒中 炭化粒少 ローム中微・粒中 締り強
6 10YR3/3 暗褐色 焼土粒中 炭化物微 ローム中～粒少
7 10YR3/3 暗褐色 焼土粒微 ローム中微・粒少 締り強
8 10YR3/4 暗褐色 焼土粒少 ローム粒少 白色砂質粘土大微 締り強
9 10YR4/4 褐　色 焼土粒微 ローム小～粒多
10 10YR3/3 暗褐色 焼土粒少 炭化物中 ローム粒少
11 7.5YR4/4 褐　色 焼土粒少 炭化粒微 ローム粒多

**SI-27**

1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒微
2 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 ローム粒少 締り強
3 7.5YR4/4 褐　色 ローム中・粒少 締り強
4 10YR3/4 暗褐色 ローム粒少 締り強




**第38図　竪穴住居跡(SI-26・27)**

0.26×0.26m　$P_1$～$P_4$は主柱穴、$P_8$は出入口施設に伴うピットと思われる。**貯蔵穴**　①北東隅に2基検出。深さ0.18m程の浅い掘り方で連結している。**貯蔵穴1**　②0.78×0.70×0.48m　長方形　③上層に炭化物を中量含む暗褐色土、下層にローム粒を多量に含んだ褐色土。**貯蔵穴2**　②0.70×0.51×0.42m　長方形　③焼土粒子を含む。**所見**　SI-27、SB-8-P6と重複。本遺構はSI-27より新しくSB-8より古い。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第38図<br>1<br>SI-26 | 杯<br>土　師　器 | A　12.7<br>B　5.1 | 丸底。口縁部との境に稜を持ち、口縁部は内傾する。 | 底体部ヘラ削り、ヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。内面黒色処理。 | 石英<br>灰褐色(一部黒色)<br>にぶい褐色、良好 | 100% |
| 2<br>SI-26 | 杯<br>土　師　器 | A　12.5<br>B　4.7 | 丸底。口縁部との境に稜を持ち、口縁部は内傾する。 | 底体部ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。 | 石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | 98% |

**SI-27**(第38図、PL10)〈古墳時代前期〉

**位置**　M-58、N-57～58区　**規模**　〔5.68〕×5.30×0.32m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-145°-W　**床**　壁溝は南東壁から北東壁中央までと北西壁で検出。**貯蔵穴**　①北東隅　②0.68×0.56×0.30m 隅丸長方形　③焼土粒子、ローム粒子を含んだ暗褐色土。**炉**　①南西寄りに僅かに残存。**覆土**　上から暗褐色土、褐色土が堆積する。**所見**　SI-26、SB-8-P1・2・5～8と重複。本遺構が古い。

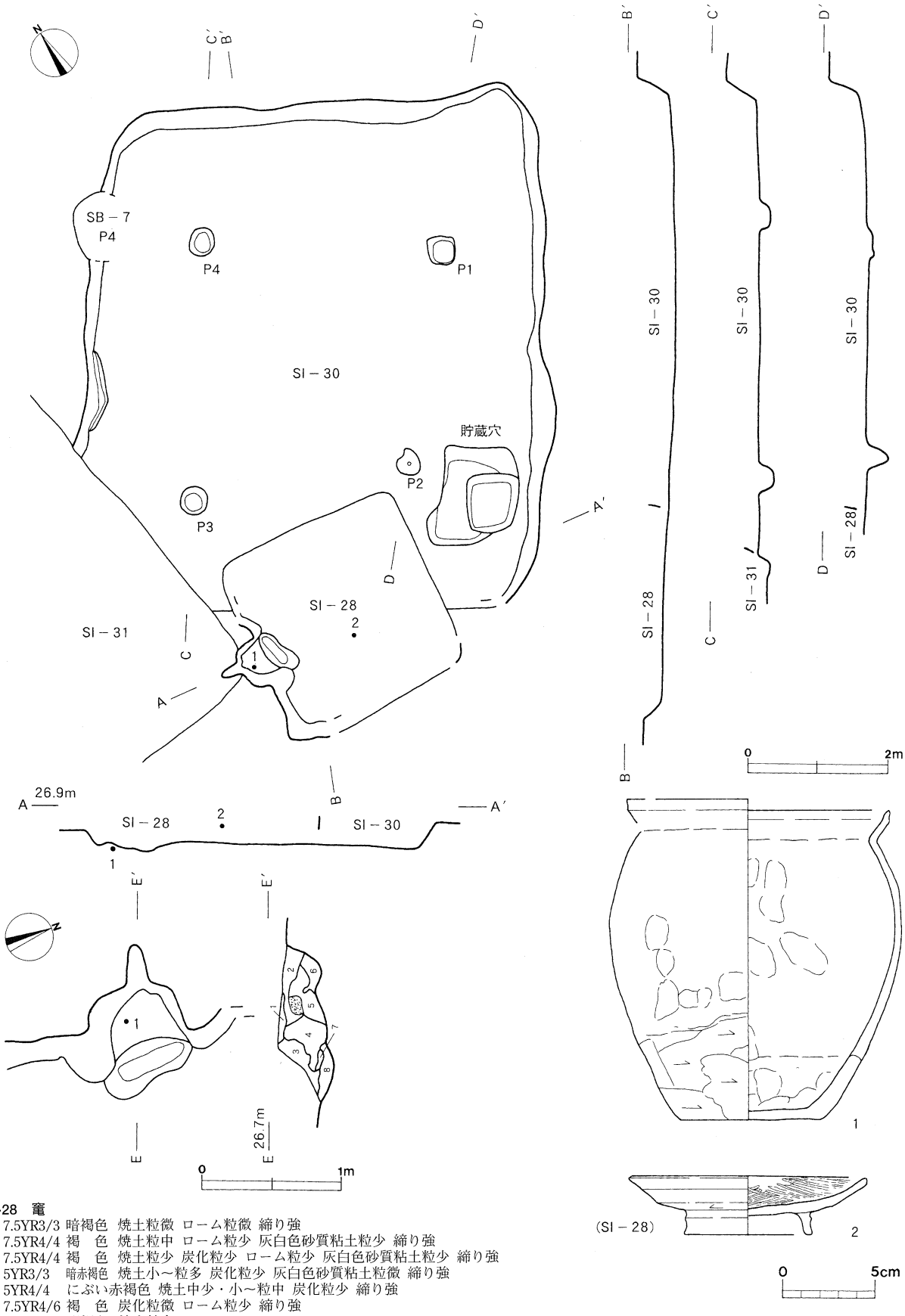
**SI-28**(第39図、PL10・11・29)〈平安時代〉

**位置**　K-58区　**規模**　〔2.86〕×〔2.78〕×0.26m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-78°-W　**床**　中央部が硬化。**竈**　①西壁中央部　③0.99×1.24m　④0.55m　⑤0.14m　⑥階段状 19°～58°　⑧灰白色砂質粘土　**所見**　SI-30・31と重複、本遺構が新しい。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第39図<br>1<br>SI-28 | 小　型　甕<br>土　師　器 | A　14.0<br>B　16.4<br>C　7.6 | 平底。胴部上位に最大径を持つ。頸部は「く」の字状に屈曲し、口唇部を上方につまみ上げる。 | 胴部外面下位に横位ヘラ削り。内面ヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | 75%<br>二次焼成 |
| 2<br>SI-28 | 高台付皿<br>土　師　器 | A　12.5<br>B　3.1<br>D　6.7<br>E　1.2 | 平底でやや外反気味に下方へのびる高台が付く。体部は内彎気味に浅く開く。 | 底部回転ヘラ切り後、ヘラ削りを施し高台貼り付け。体部下端回転ヘラ削り。内面丁寧なヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>暗赤褐色・にぶい褐色<br>普通 | 75% |

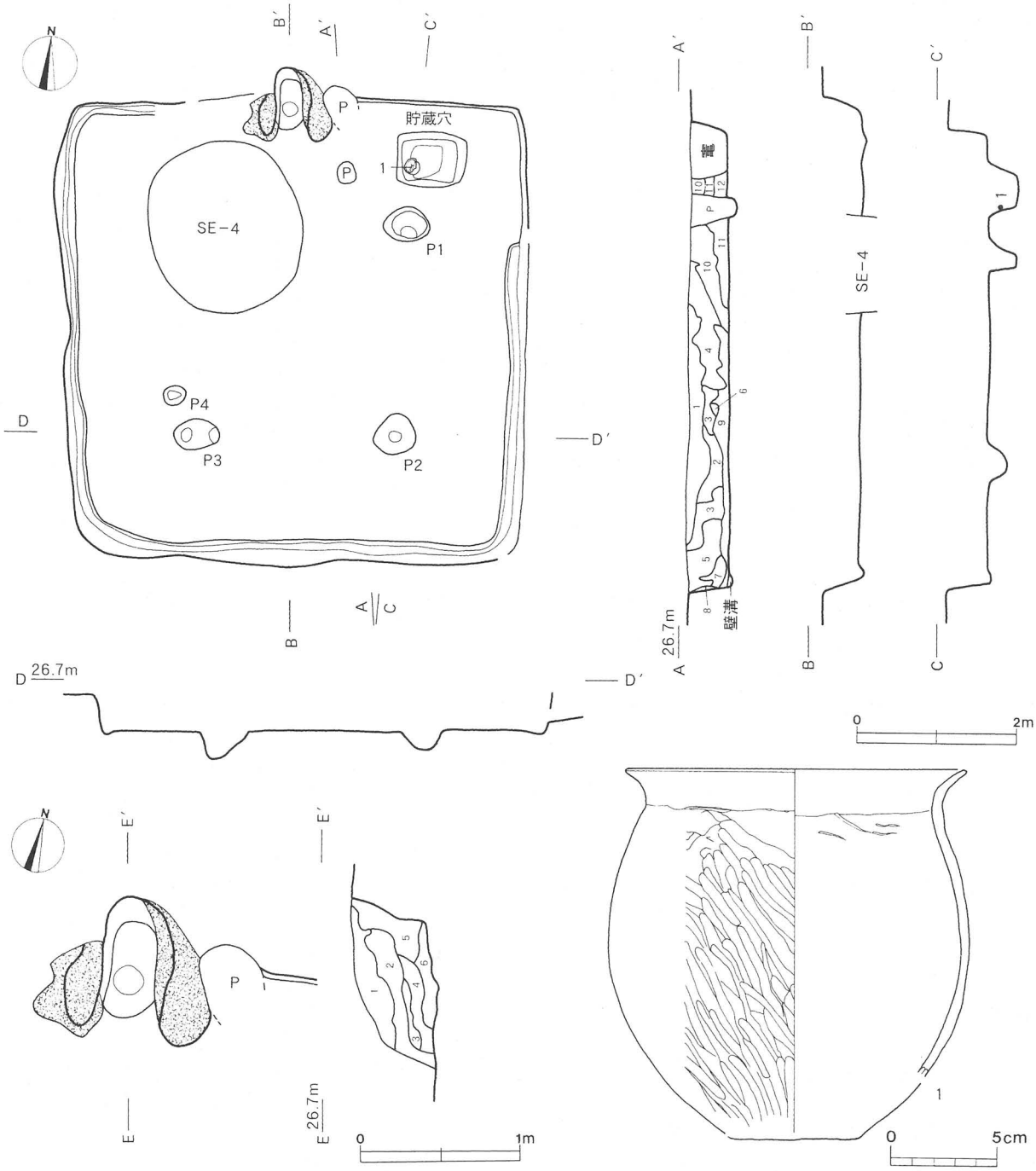
**SI-30**(第39図、PL11)〈古墳時代中期〉

**位置**　K～L-57区　**規模**　〔7.30〕×6.92×0.56m　**形態**　方形　**主軸方位**　[N-35°-E]　**床**　主柱穴4本で囲まれた中央部範囲が硬化。**ピット**　**$P_1$**　0.40×0.38×0.08m　**$P_2$**　0.38×0.34×0.22m　**$P_3$**　0.40×0.21m　**$P_4$**　0.40×0.38×0.15m　$P_1$～$P_4$は主柱穴と考えられる。**貯蔵穴**　①南東隅　②2段構築　上段1.43×1.08×0.10m　下段0.85×0.76×0.34m　③ロームブロックを多量に含む暗褐色土。**所見**　SI-28・31と重複、本遺構が古い。




SI-28　竈
1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　ローム粒微　締り強
2 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒中　ローム粒少　灰白色砂質粘土粒少　締り強
3 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土粒少　締り強
4 5YR3/3　暗赤褐色　焼土小～粒多　炭化粒少　灰白色砂質粘土粒微　締り強
5 5YR4/4　にぶい赤褐色　焼土中少・小～粒中　炭化粒少　締り強
6 7.5YR4/6 褐　色　炭化粒微　ローム粒少　締り強
7 7.5YR5/6 明褐色　焼土粒多
8 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中　締り強

**第39図　竪穴住居跡(SI-28・30)**




1 7.5YR4/6 褐　色 焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中
2 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒中　炭化粒少　ローム粒中
3 7.5YR3/4 暗褐色 炭化粒少　ローム粒中
4 7.5YR5/6 明褐色 炭化粒少　ローム粒多
5 7.5YR4/6 褐　色 ローム粒中
6 7.5YR4/6 褐　色 ローム粒多
7 7.5YR4/6 褐　色 ローム少・粒多
8 7.5YR5/6 明褐色 ローム中～粒多
9 7.5YR5/6 明褐色 炭化粒少　ローム中～粒多
10 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒少
11 7.5YR4/6 褐　色 炭化粒少　ローム粒少
12 7.5YR4/6 褐　色 焼土粒少　炭化粒少　ローム粒多

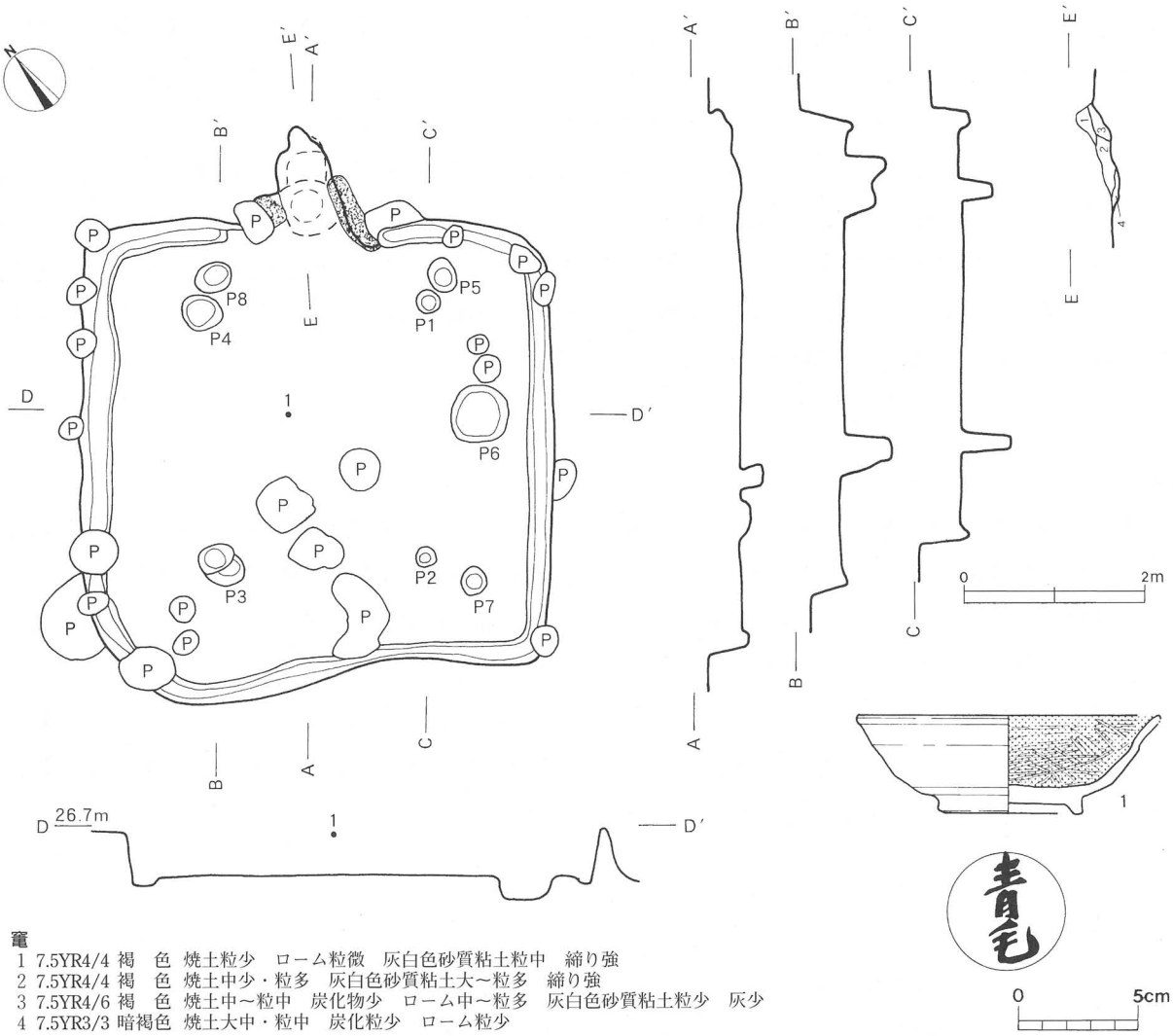
竈
1 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒少　ローム粒中　灰白色砂質粘土中
2 7.5YR4/4 褐　色 焼土中・粒中　ローム粒少　灰白色砂質粘土多
3 7.5YR4/3 褐　色 焼土大～粒多　ローム粒少
4 7.5YR4/4 褐　色 焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中　灰白色砂質粘土少
5 7.5YR4/6 褐　色 焼土粒少　ローム粒多
6 7.5YR4/4 褐　色 焼土粒中　炭化物～粒少　ローム粒中

**第40図　竪穴住居跡（SI-31）**

**SI-31**（第40図、PL11・29）〈古墳時代後期〉

**位置**　I～J-57～58区　**規模**　5.91×5.80×0.53m　**形態**　方形　**床**　壁溝は北東隅を除き全周。全面硬化。　**ピット**　**P₁**　0.58×0.46×0.35m　**P₂**　0.54×0.22m　**P₃**　0.58×0.40×0.34m　**P₄**　0.28×0.19m　$P_1$～$P_3$は主柱穴と思われる。**貯蔵穴**　①北東隅　②0.86×0.68×0.36m　長方形　③覆土4層からなり、ローム粒子を多量に含む褐色土を主体とする。覆土中から底部欠損の小型甕を検出。**竈**　①北壁中央部　③0.75×1.10m　④0.33m　⑤0.08m　⑥71°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　暗褐色土、明褐色土を主体とする。**遺物**　大半の遺物は覆土中位から出土している。**所見**　SI-28・30・126bと重複、本遺構はSI-30・126bより新しくSI-28より古い。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第40図<br>1 | 小　型　甕<br>土　師　器 | A　15.5<br>B　17.3<br>C　[ 3.6] | 平底。胴部中位に最大径を持ち、口縁部は外反する。 | 胴部外面ヘラ削り後、斜位ヘラ磨き。口縁部内・外面横ナデ。 | 長石・石英・雲母にぶい黄橙色<br>普通 | 90% |




竈
1 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒微　灰白色砂質粘土粒中　締り強
2 7.5YR4/4 褐　色　焼土中少・粒多　灰白色砂質粘土大～粒多　締り強
3 7.5YR4/6 褐　色　焼土中～粒中　炭化物少　ローム中～粒多　灰白色砂質粘土粒少　灰少
4 7.5YR3/3 暗褐色　焼土大中・粒中　炭化粒少　ローム粒少

**第41図　竪穴住居跡（SI-32）**

**SI-32**(第41図、PL11・29)〈平安時代〉

**位置** N-60～61区 **規模** 5.34×5.18×0.47m **形態** 方形 **主軸方位** N-25°-E **床** 壁溝は全周。主柱穴間が硬化。 **ピット** $P_1$ 0.26×0.34m $P_2$ 0.22×0.52m $P_3$ 0.52×0.42×0.52m $P_4$ 0.45×0.40×0.43m $P_5$ 0.37×0.30×0.51m $P_6$ 0.61×0.28m $P_7$ 0.32×0.28×0.43m $P_8$ 0.42×0.33×0.46m **竈** ①北壁中央部 ②N-15°-E ③〔1.22〕×(1.18)m ④1.02m ⑤0.02m ⑥34° ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 暗褐色土を主体とする。**遺物** 覆土上層より出土している(第41図1)。 **所見** 中世以降の土坑群と重複。

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第41図<br>1 | 高台付杯<br>土師器 | A 12.4<br>B 4.0<br>D 5.5<br>E 0.4 | 平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。体部下端回転ヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母にぶい褐色・黒色普通 | 75%<br>底部外面に墨書「青毛」 |

**SI-33**(第42図、PL11)〈古墳時代後期〉

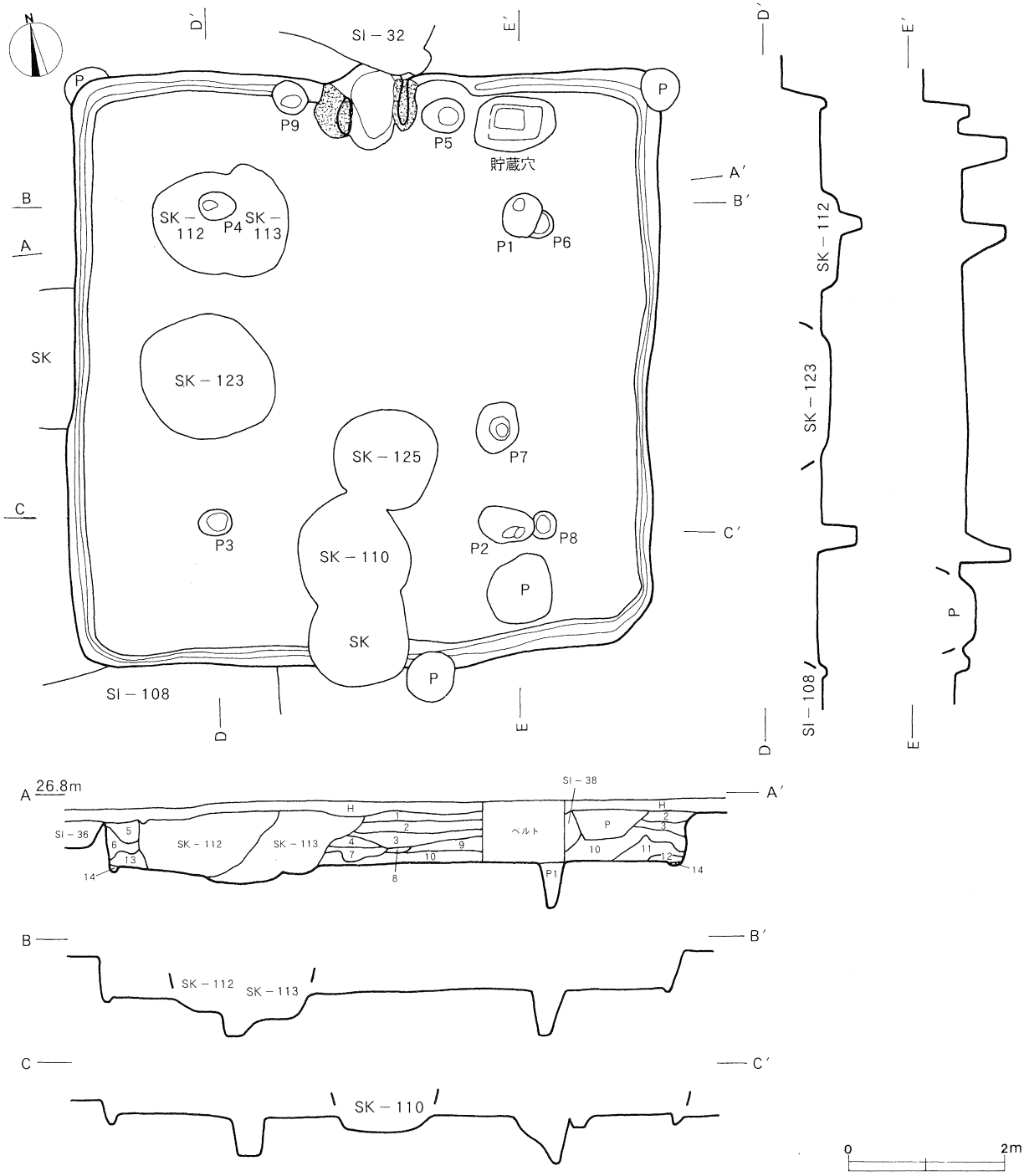
**位置** M～O-61～63区 **規模** 7.52×7.46×0.53m **形態** 方形 **主軸方位** N-5°-E **床** 壁溝は全周、主柱穴間が硬化。 **ピット** $P_1$ 0.58×0.46×0.57m $P_2$ 0.70×0.46×0.57m $P_3$ 0.42×0.34×0.48m $P_4$ 0.46×0.36×0.56m $P_5$ 0.56×0.46×0.07m $P_6$ 0.36×0.12m $P_7$ 0.68×0.54×0.17m $P_8$ 0.34×0.32×0.15m $P_9$ 0.46×0.40×0.17m $P_1$～$P_4$は主柱穴と思われる。**貯蔵穴** ①竈東隣り ②2段構築 上段は楕円形 1.02×0.72×0.22m 下段は長方形 0.65×0.46×0.42m ③覆土はローム粒子を多量に含んだ暗褐色土を主体とする。**竈** ①北壁中央部 ③(1.12)×1.32m ⑤0.07m ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 褐色土を主体とする。**所見** SI-32・37・49a・108などの住居跡や10基以上の土坑と重複。SI-37・49aより新しく、SI-32・108より古い。

**SI-34**(第43・44図、PL12・29)〈古墳時代後期〉

**位置** I～J-55～56区 **規模** 6.44×6.34×0.48m **形態** 方形 **主軸方位** N-20°-W **床** 壁溝は東壁の一部を除き全周。**ピット** $P_1$ 0.76×0.37m $P_2$ 0.82×0.64×0.30m $P_3$ 0.72×0.58×0.43m $P_4$ 0.68×0.58×0.47m $P_5$ 0.34×0.24×0.09m $P_6$ 0.39×0.30×0.03m $P_1$～$P_4$は主柱穴と思われる。**貯蔵穴** ①北東隅 ②0.76×0.58×0.32m 長方形 ③覆土は3層からなり、上から暗褐色土が上下2層と、間層に褐色土が入る。**竈** ①北壁中央部 ③範囲のみ確認 0.60×0.86m ④壁面へは掘り込まず、粘土を貼り付けて住居内に付設している。 ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 上から暗褐色土、褐色土が堆積する。**所見** SI-126bと重複、本遺構が新しい。

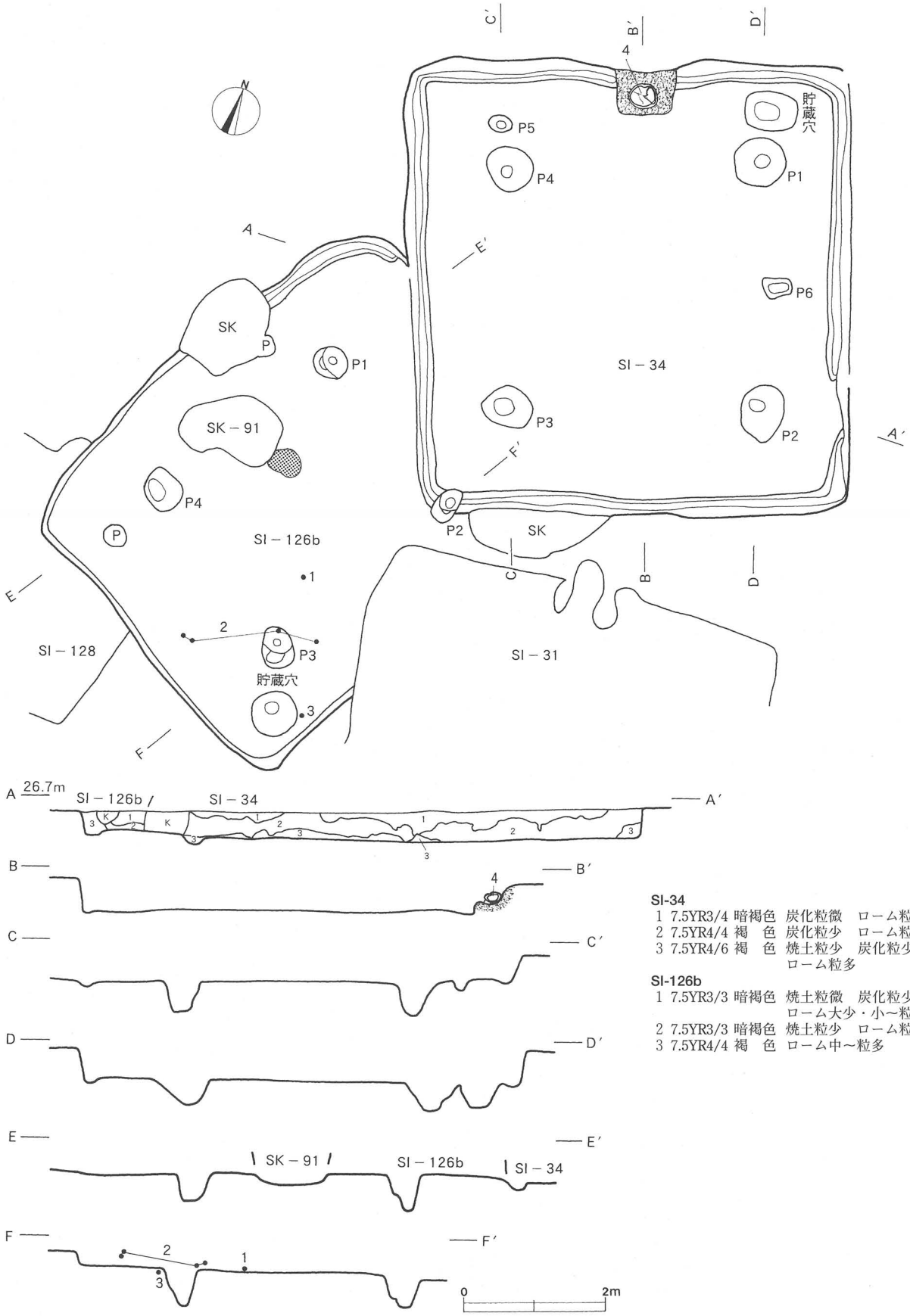
**SI-126b**(第43・44図、PL19・29)〈古墳時代前期〉

**位置** H～I-57区 **規模** 〔6.34〕×5.06×0.26m **形態** 長方形 **主軸方位** N-60°-W **床** 壁溝は北西壁北寄りで検出。**ピット** $P_1$ 0.48×0.44×0.50m $P_2$ 0.52×0.34×0.47m $P_3$ 0.60×0.46×0.60m $P_4$ 0.54×0.50×0.41m $P_1$～$P_4$は主柱穴と思われる。**貯蔵穴** ①南隅 ②0.64×0.77m 円形 **炉** ①北西寄り中央部 ②0.46×0.38m 楕円形 ③0.02m **覆土** 上から暗褐色土、褐色土が堆積する。



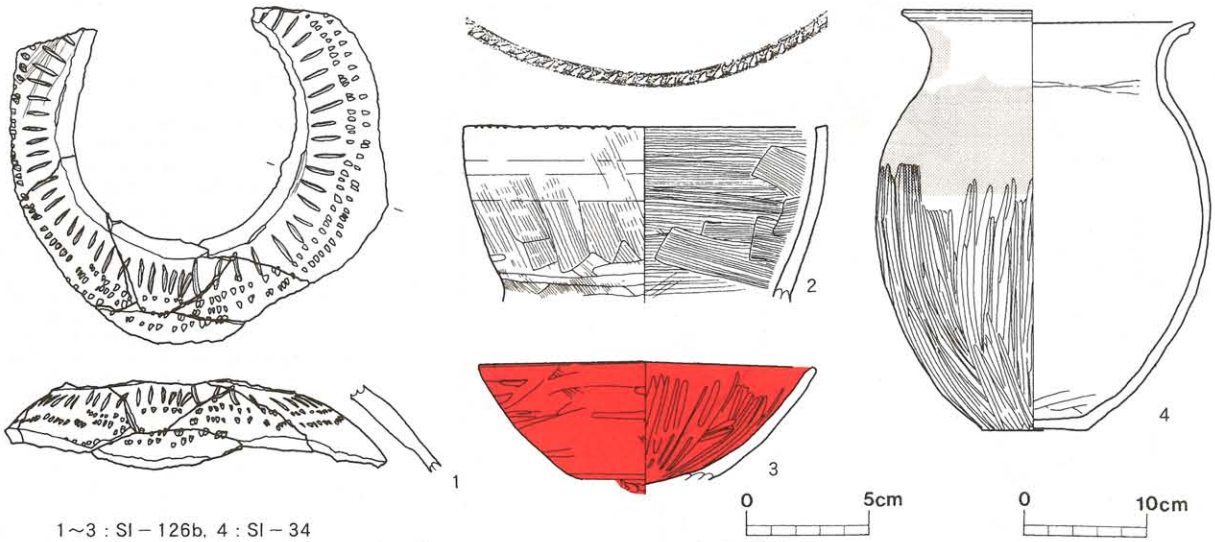

1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中
2 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒微　炭化粒少　ローム粒中
3 7.5YR4/4 褐　色　ローム小中・粒多
4 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　ローム粒少
5 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒中
6 7.5YR4/6 褐　色　炭化粒微　ローム粒多
7 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒微　ローム粒少
8 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　ローム粒少
9 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　ローム小微・粒少　灰白色砂質粘土粒少　粘性強
10 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　炭化粒微　ローム粒中　灰白色砂質粘土中少
11 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム中少・小～粒多
12 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒微　ローム粒中　粘性強
13 7.5YR4/6 褐　色　炭化粒微　ローム粒多
14 7.5YR5/6 明褐色　ローム粒多　粘性強

**第42図　竪穴住居跡(SI-33)**



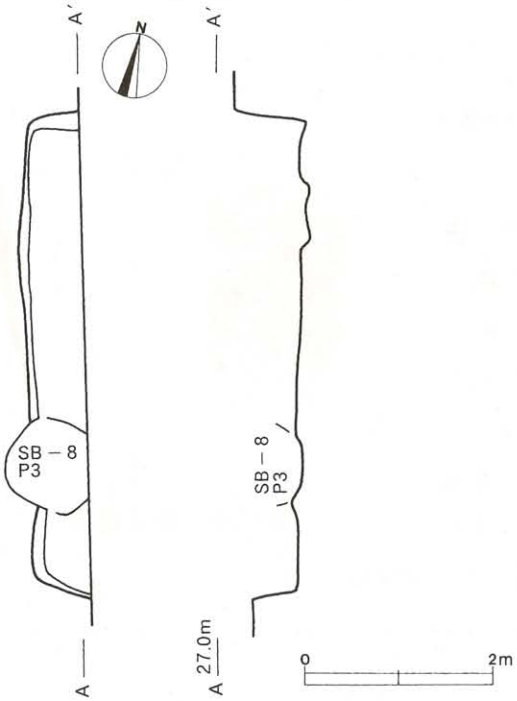

第43図　竪穴住居跡（SI-34・126b）

**遺物**　口唇部を面取り後キザミを付けた壺(第44図2)や肩に沈線と刺突文を施した装飾付の壺(同図1)等、東海地方の影響が残る土師器が出土。**所見**　SI-31・34・128、SK-91と重複、本遺構が古い。




**第44図　SI-34・126b出土遺物**

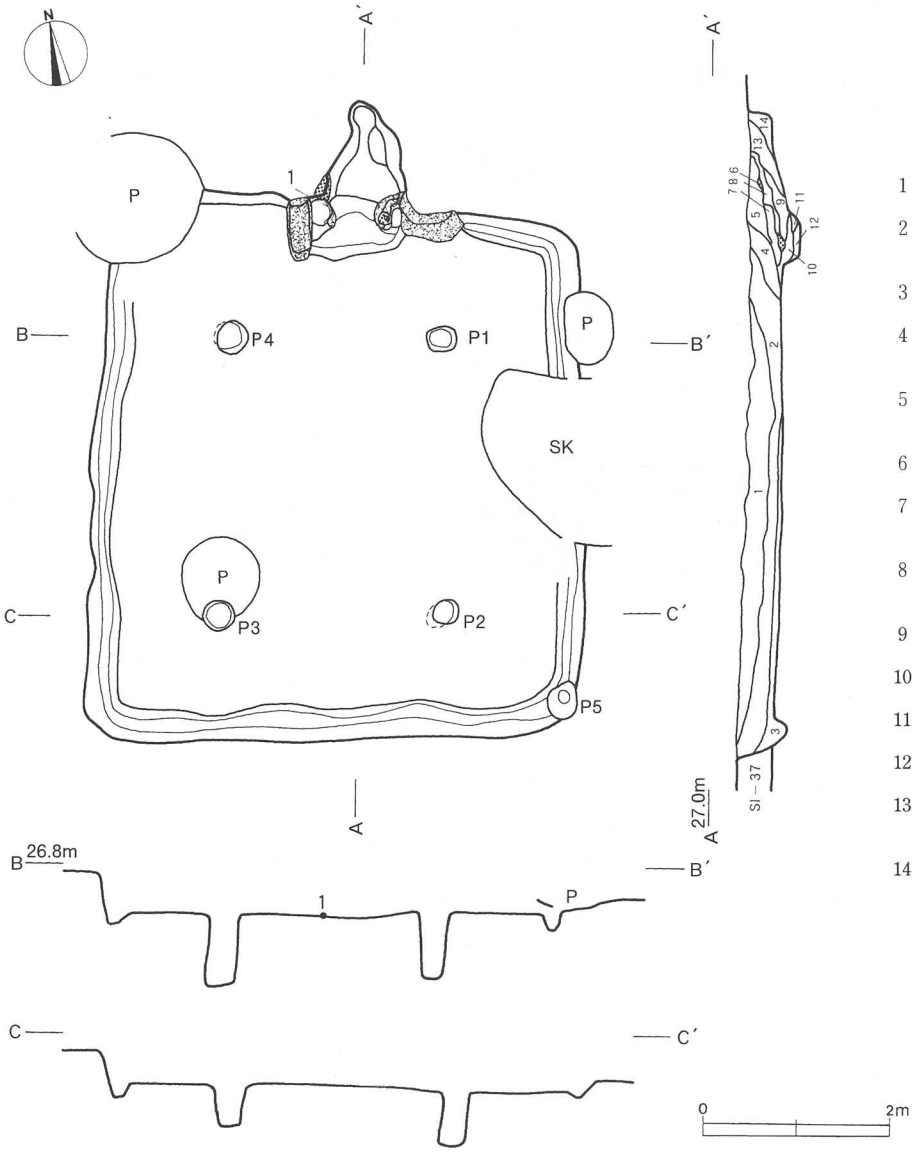
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第44図<br>1<br>SI-126b | 壺<br>土師器 | B　(4.0) | 肩部片。 | 外面刷毛目調整後、頸部周囲に放射状に沈線を刻み、その下には2～3段に楔状点刻を施す。 | 石英・砂粒<br>橙色<br>良好 | 100% |
| 2<br>SI-126b | 壺<br>土師器 | A　14.4<br>B　(7.0) | 口縁部片。内彎気味に立ち上がる。端部に平坦面を持つ。 | 外面刷毛目調整後、横ナデ。内面刷毛目調整。口縁端部平担面に刻み目を施す。 | 長石<br>にぶい橙色・橙色<br>良好 | 90% |
| 3<br>SI-126b | 高杯<br>土師器 | A　13.3<br>B　(5.3) | 脚部欠損。杯部は内彎気味に立ち上がる。 | 外面刷毛目調整後、横位ヘラ磨き。内面縦位ヘラ磨き。内・外面赤彩。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | 95% |
| 4<br>SI-34 | 甕<br>土師器 | A　23.1<br>B　34.3<br>C　8.3 | 平底。胴部中位に最大径を持つ。直立気味の頸部から口縁部が緩やかに外反し、口唇部はやや肥厚する。 | 内・外面丁寧な横位ヘラナデ。胴部外面中位上から下位にかけて密な縦位ヘラ磨き。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい褐色・にぶい赤褐色、良好 | 95%<br>胴部外面上位に煤付着 |




**第45図　竪穴住居跡(SI-35)**

**SI-35**(第45図)

**位置**　O-58～59区　**規模**　(5.20)×(0.61)×(0.68)m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　[N-9°-W]　**覆土**　暗褐色土を主体とする。**遺物**　床直の遺物は少なく、覆土中位～上位に土師器甕が集中的に投棄されている。**所見**SB-8-P9と重複、本遺構が古い。遺構の大半は東側調査区外に残る。

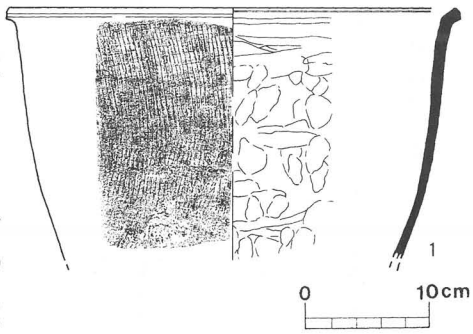



1 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒微　ローム粒中
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒微　ローム粒中　灰白色砂質粘土小中
3 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　ローム粒少　灰白色砂質粘土粒少
4 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土小中
5 7.5YR3/3 暗褐色　焼土小少・粒中　炭化粒少　ローム粒中灰白色砂質粘土粒中
6 7.5YR4/3 褐　色　焼土粒中　灰白色砂質粘土小多　灰中
7 7.5YR4/4 褐　色　焼土小中・粒多　ローム粒少　灰白色砂質粘土中中・小多　締り強
8 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒多　炭化粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土中
9 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒中　灰白色砂質粘土粒中　締り強
10 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒少　ローム粒中　灰白色砂質粘土粒多
11 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒中　灰白色砂質粘土粒少
12 5YR4/6　赤褐色　焼土中～粒多　炭化粒少　ローム小～粒中
13 5YR4/6　赤褐色　焼土小～粒多　ローム小中・粒多　灰白色砂質粘土粒少
14 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒中　ローム中～小中・粒多

**第46図　竪穴住居跡(SI-36)**

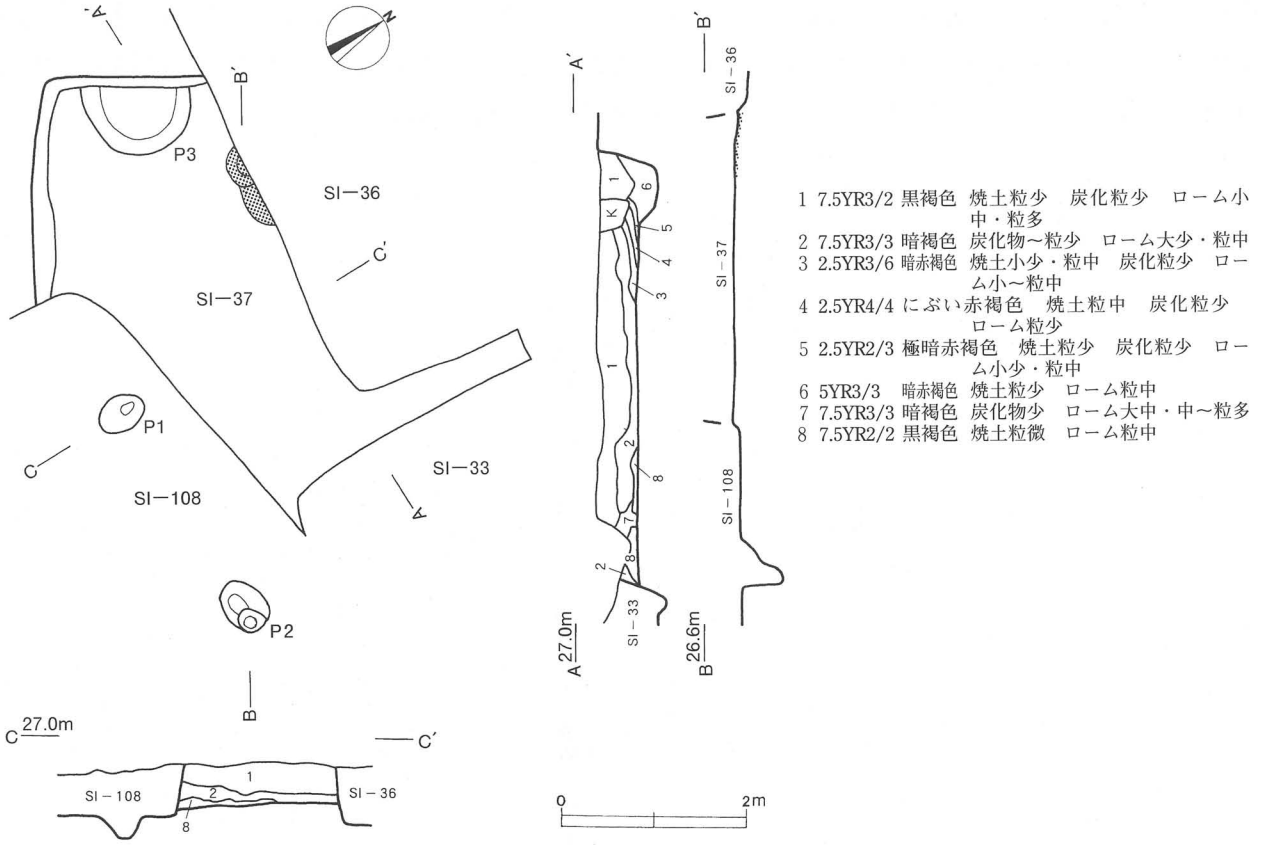
**SI-36**(第46・47図、PL12・29)〈平安時代〉

**位置**　L～M-62区　**規模**　5.78×5.28×0.46m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-9°-E　**床**　壁溝は竈西側を除き全周。**ピット**　**$P_1$**　0.32×0.27×0.65m　**$P_2$**　0.30×0.61m　**$P_3$**　0.34×0.41m　**$P_4$**　0.35×0.71m　**$P_5$**　0.42×0.32×0.33m　$P_1$～$P_4$は主柱穴と思われる。**竈**　①北壁中央部　③1.60×1.90m　④1.01m　⑤0.18m　⑥階段状　42°～79°　⑧灰白色砂質粘土　⑨西側袖部内壁に補強材の鉢あるいは甑の破損品を検出。　**覆土**　暗褐色土を主体とする。　**所見**　平安時代後期(10世紀)の土坑群に切られる形で重複する。




**第47図　出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第47図<br>1 | 鉢<br>須　恵　器 | A　[35.8]<br>B　(20.0) | 口縁～胴部片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。 | 胴部外面縦位平行タタキ。内面横位ナデ、指頭痕。 | 長石・石英・雲母にぶい褐色、不良 | 35%<br>袖補強材 |




**第48図 竪穴住居跡(SI-37)**

**SI-37**(第48図)〈古墳時代中期〉

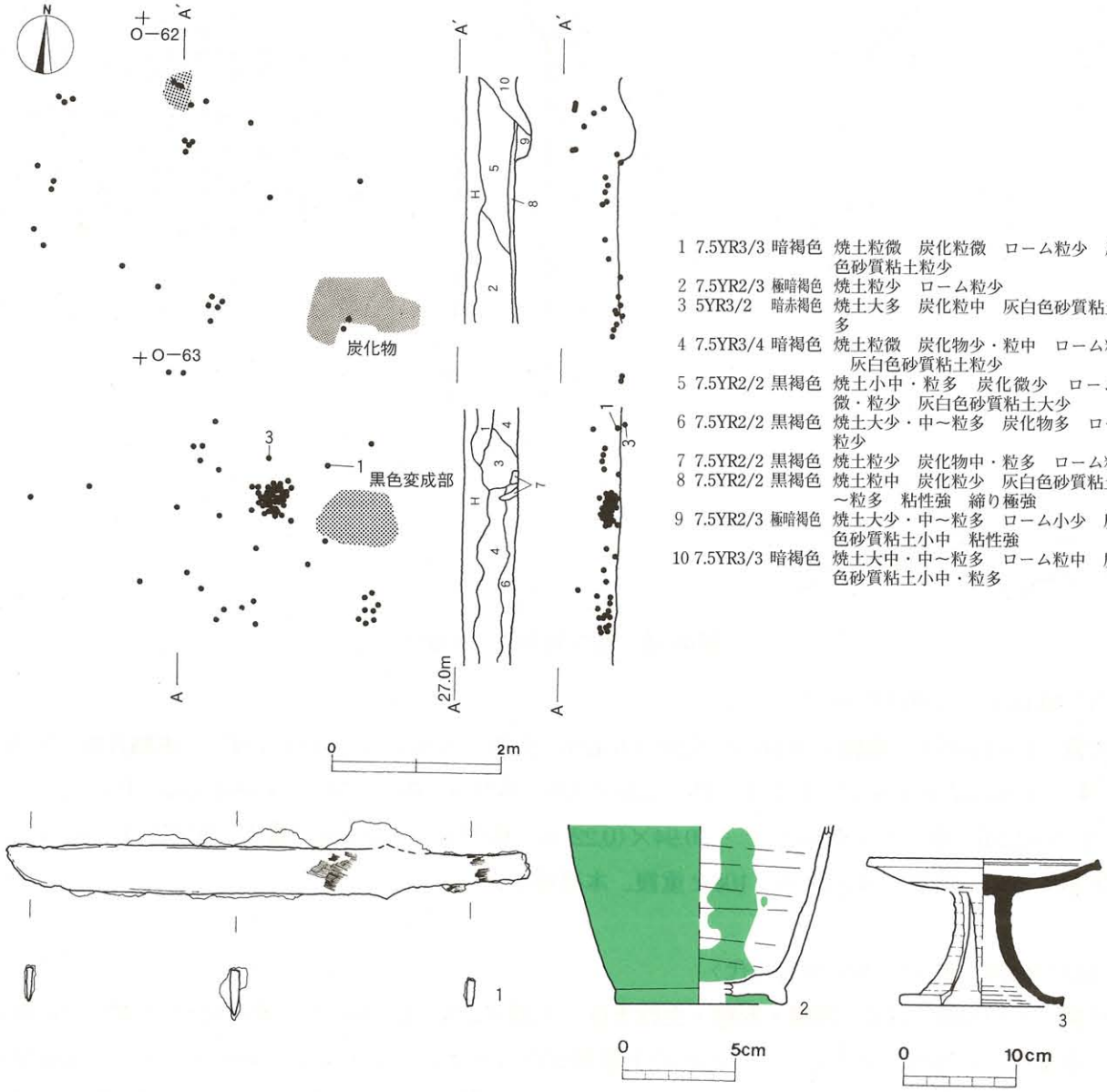
**位置** L〜M-63区 **規模** 〔6.66〕×(5.26)×0.42m **形態** 方形あるいは長方形。 **主軸方位** N-59°-W **床** 全面に貼床を施す。**ピット** $P_1$ 0.50×0.38×0.38m $P_2$ 0.58×0.46×0.53m $P_3$ (1.16)×(0.72)×0.22m **炉** ①北西壁寄り ②0.94×(0.22)m 楕円形 ③0.09m **覆土** 黒褐色土、暗褐色土が堆積する。 **所見** SI-33・36・108と重複、本遺構が古い。

**SI-38**(第49図、PL12・29)〈平安時代〉

**位置** N〜O-62〜63区 **規模・形態・主軸方位** 本遺構はN〜O-62〜63区の暗褐色土を掘削中に褐色土で構築した硬化面を検出した。そのため土層観察用のセクションベルトに貼床部分までの土層堆積は確認できたが、住居跡覆土中に住居を構築しているため範囲が確定できなかった。規模等は数値を提示できない。**床** 粘土と焼土粒を多く混入した貼床8層を構築。**竈** 貼床範囲の北側に焼土粒子や灰白色粘土粒が密集する範囲があった。しかし立体的な範囲は不確実なので提示せず焼土粒子の平面範

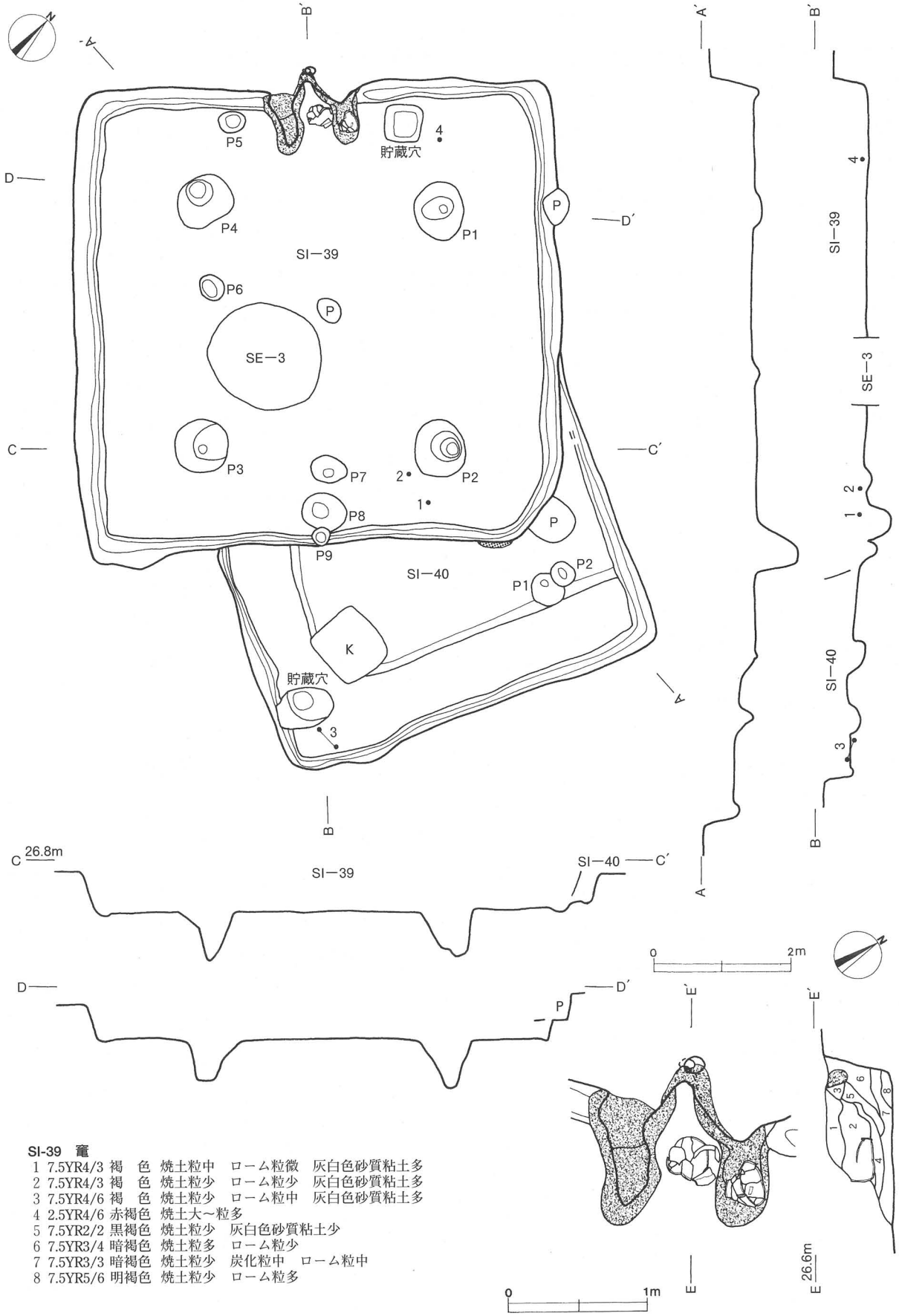
| 図版番号 | 器種 | 法量 | | | | 特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 第49図 1 | 短刀 | 22.8 | 2.3 | 0.5 | 90.2 | 把と鞘と思われる木質が一部残存。刃部に木質とは異なる炭化物が付着。 | 鉄製品 |

囲のみ図示している。**遺物**　須恵器が多く出土。黒色に変成した土を床面に近いレベルで検出。緑釉陶器(第49図2)は覆土中に破片として散布していたものが接合した。刀子(1)や須恵器高杯(3)は床面直上から出土している。**所見**　SI-33・49a・49bと重複。本遺構が新しい。




**第49図　竪穴住居跡(SI-38)**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第49図<br>2 | 瓶類<br>緑釉陶器 | B ( 7.7)<br>D [ 7.4]<br>E 0.4 | 胴〜底部片。やや開く高台が付く。接地面は縁辺。体部はやや内彎気味に上方へ立ち上がる。 | 外面全体に釉を施す。内面胴部途中から底部にかけて部分的に釉が流れている。 | 長石、緻密<br>緑色、にぶい黄橙色、良好 | 20%<br>覆土一括 |
| 3 | 高杯<br>須恵器 | A [20.1]<br>B 12.9<br>D 14.3<br>E 10.0 | 杯部は緩やかに外傾して開く。脚部はラッパ状に開き、端部を下方に折り返す。三方に長方形の透しが入る。 | 杯部外面下位回転ヘラ削り。 | 長石、石英<br>灰色<br>良好 | 60% |




**SI-39　竈**

1 7.5YR4/3 褐　色　焼土粒中　ローム粒微　灰白色砂質粘土多
2 7.5YR4/3 褐　色　焼土粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土多
3 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒少　ローム粒中　灰白色砂質粘土多
4 2.5YR4/6 赤褐色　焼土大〜粒多
5 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　灰白色砂質粘土少
6 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒多　ローム粒少
7 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒中　ローム粒中
8 7.5YR5/6 明褐色　焼土粒少　ローム粒多

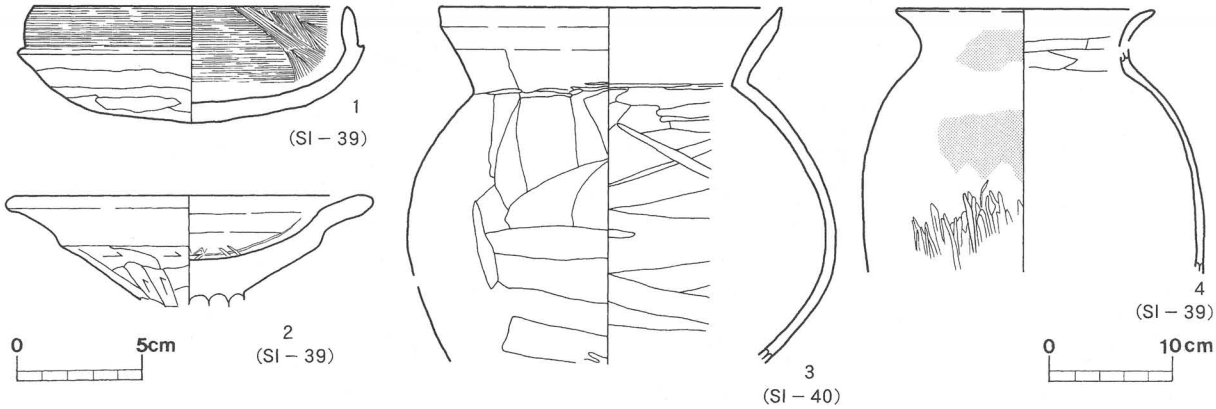
**第50図　竪穴住居跡（SI-39・40）**

**SI-39**(第50・51図、PL12・30)〈古墳時代後期〉

**位置** J～K-63～64区 **規模** 6.94×6.76×0.62m **形態** 方形 **主軸方位** N-51°-W **床** 壁溝は全周。 **ピット** **$P_1$** 0.86×0.70×0.70m **$P_2$** 0.83×0.72×0.64m **$P_3$** 0.78×0.72m **$P_4$** 0.82×0.68×0.61m **$P_5$** 0.38×0.30×0.08m **$P_6$** 0.40×0.34×0.39m **$P_7$** 0.54×0.41×0.20m **$P_8$** 0.64×0.54×0.34m **$P_9$** 0.26×0.17m $P_1$～$P_4$は主柱穴、$P_8$は出入口施設に伴うピットと思われる。**貯蔵穴** ①竈北東脇 ② 0.54×0.54×0.61m 方形 ③上からローム粒子、焼土粒子を含んだ暗褐色土、ローム粒子、炭化粒子を含んだ褐色土が堆積する。**竈** ①北西壁中央部 ③1.21×1.36m ④0.38m ⑥75° ⑦0.16×0.12m ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 極暗褐色土、暗褐色土が堆積する。**遺物** 竈の前面を中心に床面から遺物が出土している。**所見** SI-40と重複、本遺構が新しい。

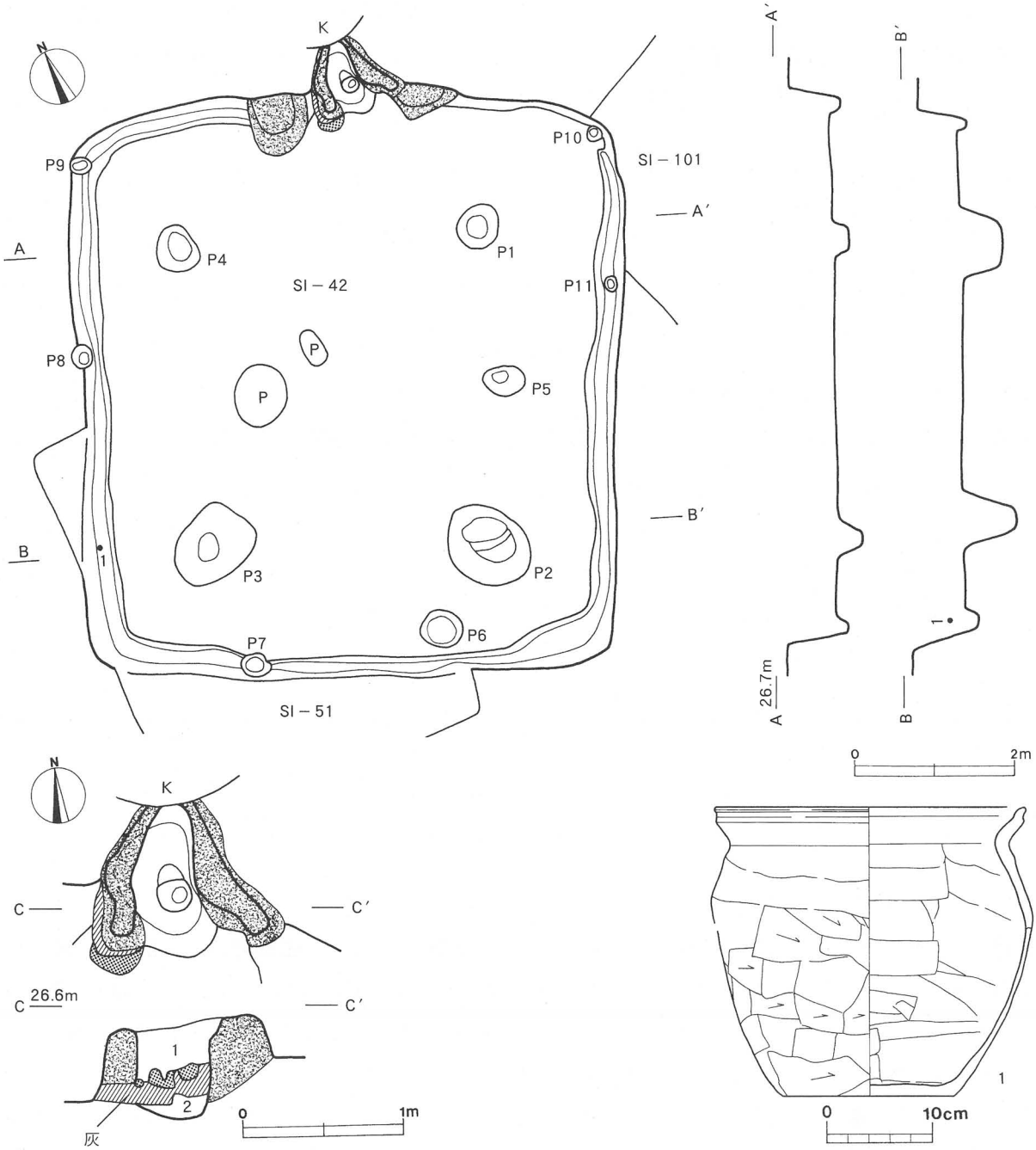
**SI-40**(第50・51図、PL13・30)〈古墳時代前期〉

**位置** K～L-64区 **規模** 5.62×(4.16)×0.55m **形態** 方形あるいは長方形。 **主軸方位** N-20.5°-E **床** 壁溝は全周。東壁・南壁沿いに住居中央部よりも約10cm高い平坦面を約1m幅で検出。**ピット** **$P_1$** 0.48×0.27m **$P_2$** 0.38×0.32×0.20m $P_1$は主柱穴と思われる。**貯蔵穴** ①南東隅 ②0.80×0.43×0.41m 楕円形 **炉** 北壁寄り中央部分に僅かに残存。**覆土** 極暗褐色土、褐色土が堆積する。**所見** SI-39と重複、本遺構が古い。




**第51図 SI-39・40出土遺物**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第51図<br>1<br>SI-39 | 杯<br>土師器 | A 12.4<br>B 4.6 | 丸底。口縁部との間に稜を持ち、口縁部は内彎気味に内傾する。 | 底体部ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。 | 雲母・赤色粒<br>にぶい黄橙色<br>良好 | 100% |
| 2<br>SI-39 | 高杯<br>土師器 | A 14.2<br>B (4.1) | 脚部欠損。中位に稜を持ち、口縁部は外反する。 | 体部外面横位ヘラ削り後、縦位ヘラ削り。底部内面ヘラ磨き。 | 長石・赤色粒<br>灰黄褐色<br>普通 | 98% |
| 3<br>SI-40 | 小型甕<br>土師器 | A 13.6<br>B (14.0) | 底部欠損。胴部は丸く張りを持つ。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外傾する。 | 胴部内・外面ヘラナデ。 | 長石・石英<br>黒褐色・にぶい赤褐色、普通 | 70% |
| 4<br>SI-39 | 甕<br>土師器 | A 20.6<br>B (21.1) | 口縁～胴部片。胴部上半に最大径を持つ。頸部は緩く外反する。 | 胴部外面中位以下に縦位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>黒褐色・灰黄褐色<br>普通 | 40%<br>外面に煤付着 |




1 7.5YR4/3 褐　色　焼土大少・中～粒中　灰白色砂質粘土多
2 7.5YR4/4 暗褐色　焼土中中　ローム粒中　灰白色砂質粘土中

**第52図　竪穴住居跡（SI-42）**

**SI-42**（第52図、PL13・30）〈平安時代〉

**位置**　M-64～65区　**規模**　7.22×6.84×0.60m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-28°-E　**床**　壁溝は竈東側を除き全周。全面にロームブロック、灰白色粘土を主体とした貼床を施す。**ピット**　**$P_1$**　0.58×0.50×0.24m　**$P_2$**　1.14×0.92×0.55m　**$P_3$**　1.06×0.80×0.68m　**$P_4$**　0.58×0.48×0.41m　**$P_5$**　0.56×0.40×0.32m　**$P_6$**　0.52×0.44×0.11m　**$P_7$**　0.37×0.30×0.29m　**$P_8$**　0.28×0.26×0.18m　**$P_9$**　0.24×0.20×0.18m　**$P_{10}$**　0.20×0.18×0.24m　**$P_{11}$**　0.20×0.16×0.25m　$P_1$～$P_4$は主柱穴と思われる。　**竈**　①北壁中央部　②N-9°-E　③0.93×1.17m　④0.58m　⑤0.08m　⑥77°　⑧灰白色砂質粘土　⑨竈両脇に床

との比高差0.14～0.28mの灰白色砂質粘土の高まりを検出。西側袖部は、楕円形状の火床部を最下部とし、中間層に灰層を挟む形で構築している。両脇の粘土塊は改築以前の旧竈袖部と思われる。**所見**　SI-51・101・108と重複、本遺構はSI-108より新しく、SI-51・101より古い。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第52図<br>1 | 小　型　甕<br>土　師　器 | A　[14.2]<br>B　13.3<br>C　7.9 | 平底。胴部上位に最大径を持つ。頸部は「く」の字状に屈曲し、口唇部を外上方につまみ上げる。 | 胴部外面最大径以下に横位ヘラ削り。内面横位ナデ。 | 長石・石英<br>にぶい褐色・橙色<br>普通 | 70%<br>二次焼成 |

**SI-43**(第53図、PL13・30)〈古墳時代後期〉

**位置**　N～O-65～66区　**規模**　6.10×6.08×0.64m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-65°-W　**ピット**　**$P_1$**　0.54×0.52×0.65m　**$P_2$**　0.70×0.60×0.79m　**$P_3$**　0.53×0.49×0.39m　**$P_4$**　0.50×0.46×0.26m　$P_1$～$P_4$は主柱穴と思われる。**貯蔵穴**　①北東隅　②1.00×0.82×0.75m　長方形　③上から暗褐色土、褐色土が堆積する。**竈**　①西壁中央部　③1.21×0.89m　④0.31m　⑤0.11m　⑥階段状　49°～65°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　上から暗褐色土、褐色土が堆積する。**所見**　SI-45・50・101と重複、本遺構はSI-45より新しく、SI-50・101より古い。

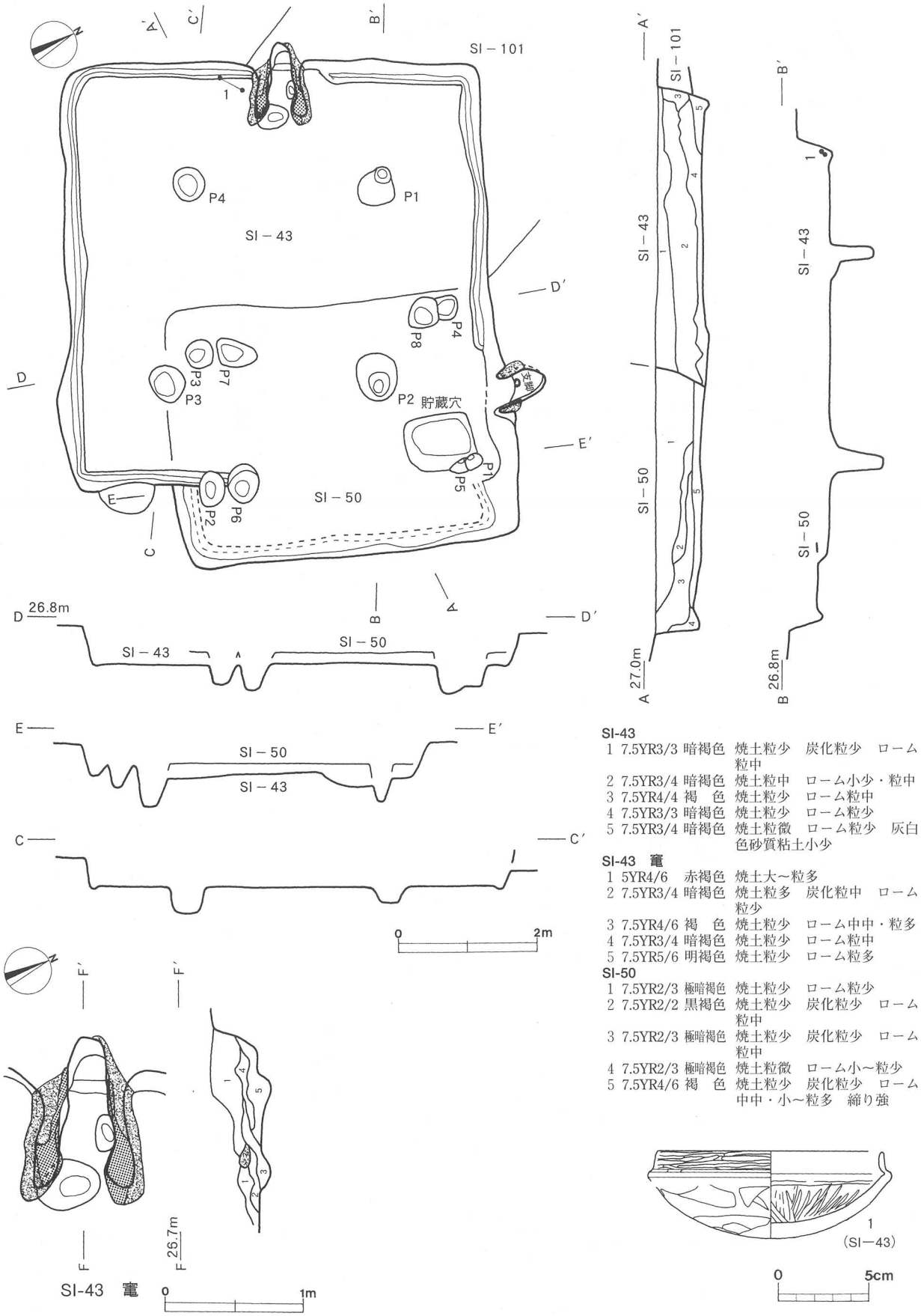
| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第53図<br>1<br>SI-43 | 杯<br>土　師　器 | A　12.8<br>B　4.6 | 丸底。口縁部との境に稜を持ち、口縁部はほぼ直立する。 | 底体部ヘラ削り。内面放射状磨き。口縁部外面横位ヘラ磨き。 | 長石・雲母<br>黒褐色・灰褐色<br>普通 | 70% |

**SI-50**(第53図、PL13)〈平安時代〉

**位置**　O～P-65～66区　**規模**　5.02×〔3.74〕×0.54m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-22°-E　**床**　壁溝は東壁で検出。全面にロームを主体とした貼床を施す。**ピット**　**$P_1$**　0.26×(0.20)×0.53m　**$P_2$**　0.50×0.46×0.38m　**$P_3$**　0.40×0.38×0.46m　**$P_4$**　0.36×0.48m　**$P_5$**　(0.24)×(0.20)×0.61m　**$P_6$**　0.49×0.42×0.60m　**$P_7$**　0.58×0.40×0.55m　**$P_8$**　0.52×0.44×0.59m　$P_1$～$P_4$は改築前、$P_5$～$P_8$は改築後の主柱穴と思われる。**竈**　①北壁中央部　③(0.72)×0.78m　④0.46m　⑥85°　⑧灰白色砂質粘土　⑨支脚が一部残存する。**覆土**　極暗褐色土を主体とする。5層は貼床。　**所見**　SI-43・48と重複、本遺構が新しい。

**SI-45**(第54図)〈古墳時代前期〉

**位置**　M～N-66区　**規模**　6.42×5.74×0.23m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-29.5°-W　**ピット**　**$P_1$**　0.19×0.26m　**$P_2$**　0.24×0.20×0.72m　**$P_3$**　0.22×0.29m　**$P_4$**　0.31×0.28×0.27m　**$P_5$**　0.23×0.20×0.22m　$P_1$～$P_4$は主柱穴と思われる。**貯蔵穴**　①南西隅　②0.72×0.58×0.72m　東側に0.20mの段差がある。　**炉**　①北壁寄り　②0.71m　円形　**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　SI-42・43・46・51と重複、本遺構が古い。




**SI-43**

1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　ローム小少・粒中
3 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒中
4 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少
5 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒微　ローム粒少　灰白色砂質粘土小少

**SI-43　竈**

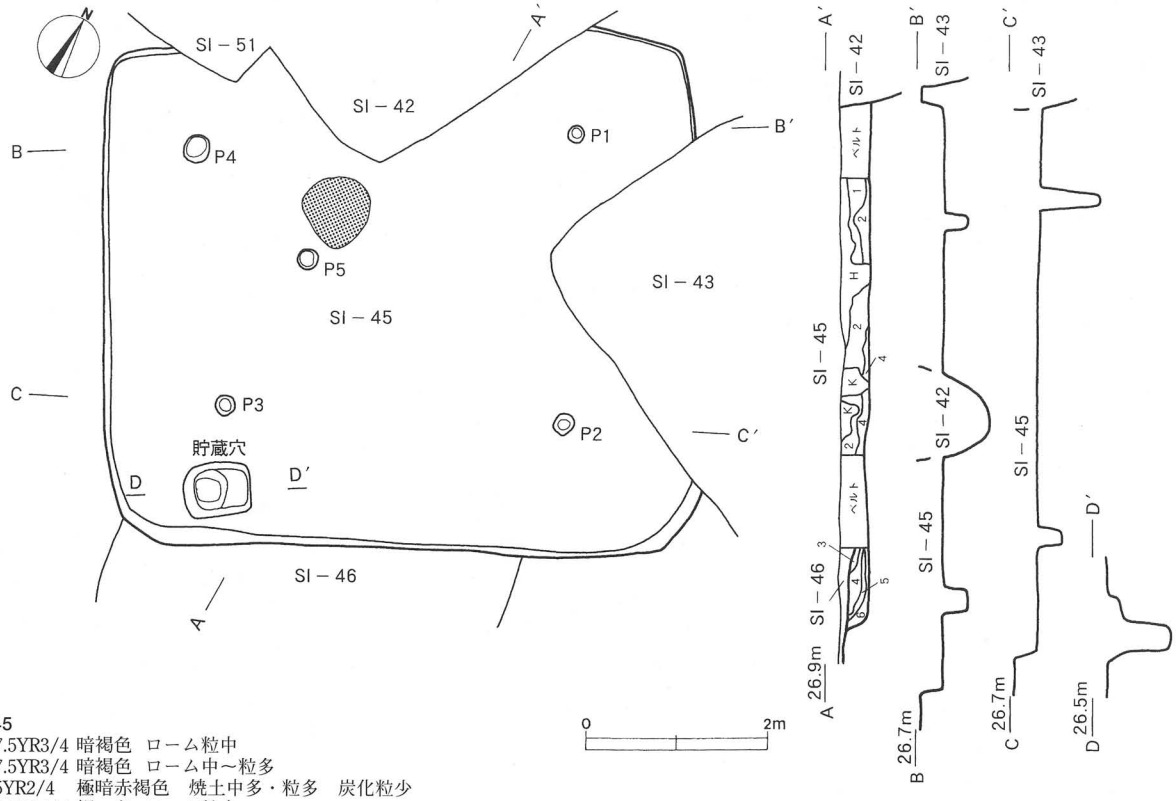
1 5YR4/6　赤褐色　焼土大～粒多
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒多　炭化粒中　ローム粒少
3 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒少　ローム中中・粒多
4 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒中
5 7.5YR5/6 明褐色　焼土粒少　ローム粒多

**SI-50**

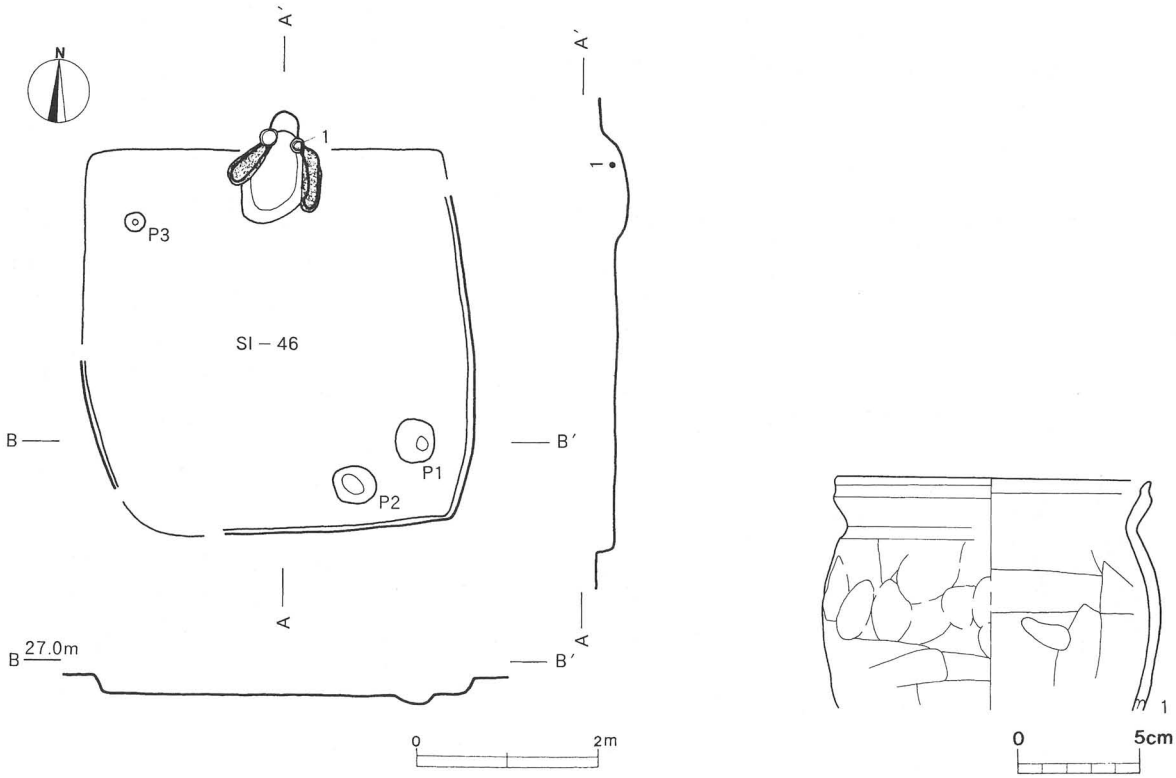
1 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　ローム粒少
2 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中
3 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中
4 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　ローム小～粒少
5 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒少　炭化粒少　ローム中中・小～粒多　締り強




**第53図　竪穴住居跡(SI-43・50)**




**SI-45**
1 7.5YR3/4 暗褐色　ローム粒中
2 7.5YR3/4 暗褐色　ローム中～粒多
3 5YR2/4　極暗赤褐色　焼土中多・粒多　炭化粒少
4 7.5YR4/4 褐　色　ローム粒中
5 7.5YR2/2 黒褐色　ローム粒少
6 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒少　ローム粒中

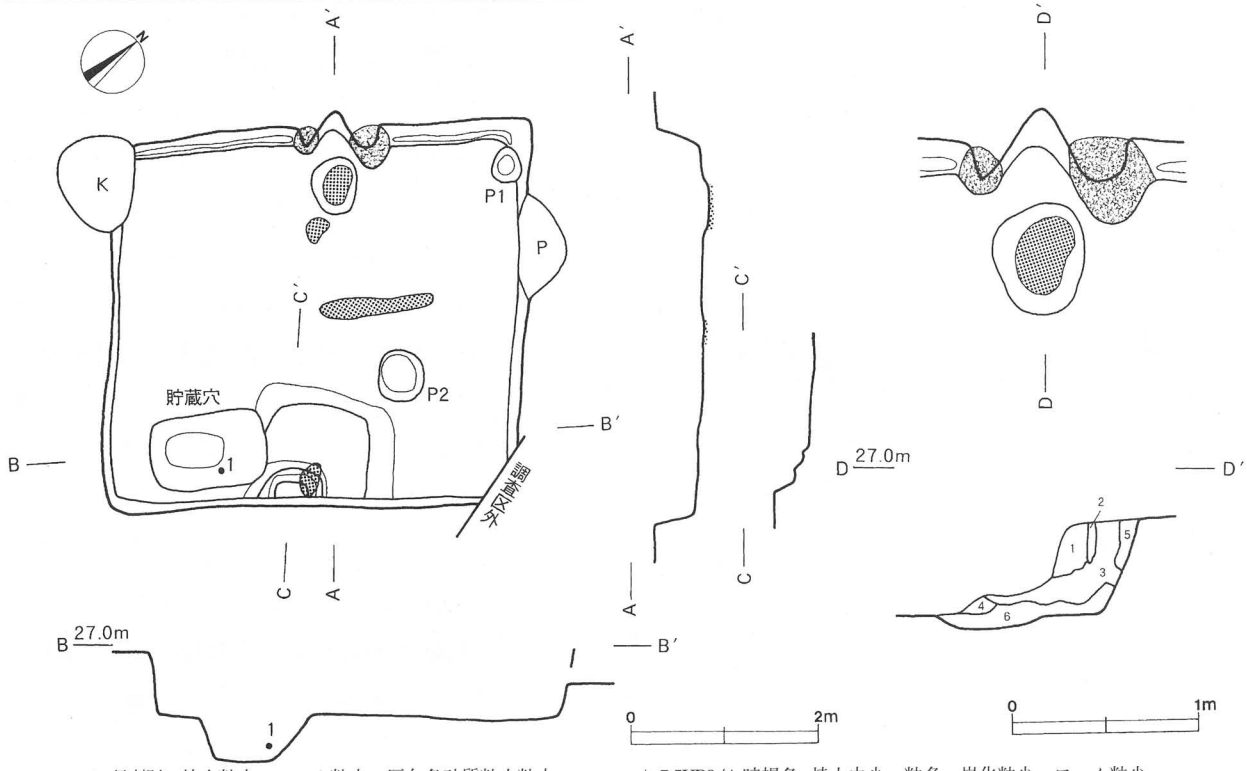



第54図　竪穴住居跡（SI-45・46）

**SI-46**(第54図、PL30)〈平安時代〉

**位置** N-67区 **規模** 4.28×〔4.12〕×0.22m **形態** 方形と推定。**主軸方位** 真北 **床** 全面にロームを主体とした貼床を施している。**ピット** $P_1$ 0.46×0.17m $P_2$ 0.46×0.40×0.13m $P_3$ 0.22×0.19m **竈** ①北壁中央部と推定。②N-15°-E ③1.26×1.06m ④〔0.42〕m ⑤0.14m ⑥45.5° ⑧灰白色砂質粘土 ⑨両側袖部奥に補強材として使用した小型甕2点を検出。甕は正位に付設していた。**覆土** 極暗褐色土の単一層。 **所見** SI-45と重複、本遺構が新しい。

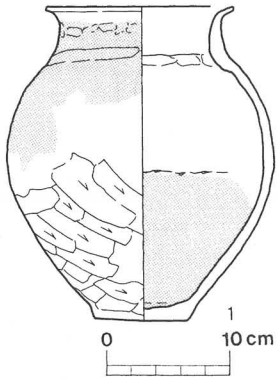
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第54図<br>1<br>SI-46 | 小型甕<br>土師器 | A [12.8]<br>B 9.3 | 口縁～胴部片。頸部は「く」の字状に屈曲し、口唇部を上方につまみ上げる。 | 胴部残存部下端に横位ヘラ削り。胴部内・外面上位に横位ヘラナデ。 | 長石・石英<br>橙色・赤褐色<br>普通 | 40%<br>竈補強材 |
| 第56図<br>1<br>SI-47 | 甕<br>土師器 | A 14.9<br>B 25.4<br>C 7.3 | 平底。胴部中位に最大径を持つ。頸部は内傾して立ち上がり、口縁部は外反する。 | 胴部外面下半斜位ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>砂粒、にぶい橙色<br>褐灰色、良好 | 98%<br>胴部内・外面に煤付着 |



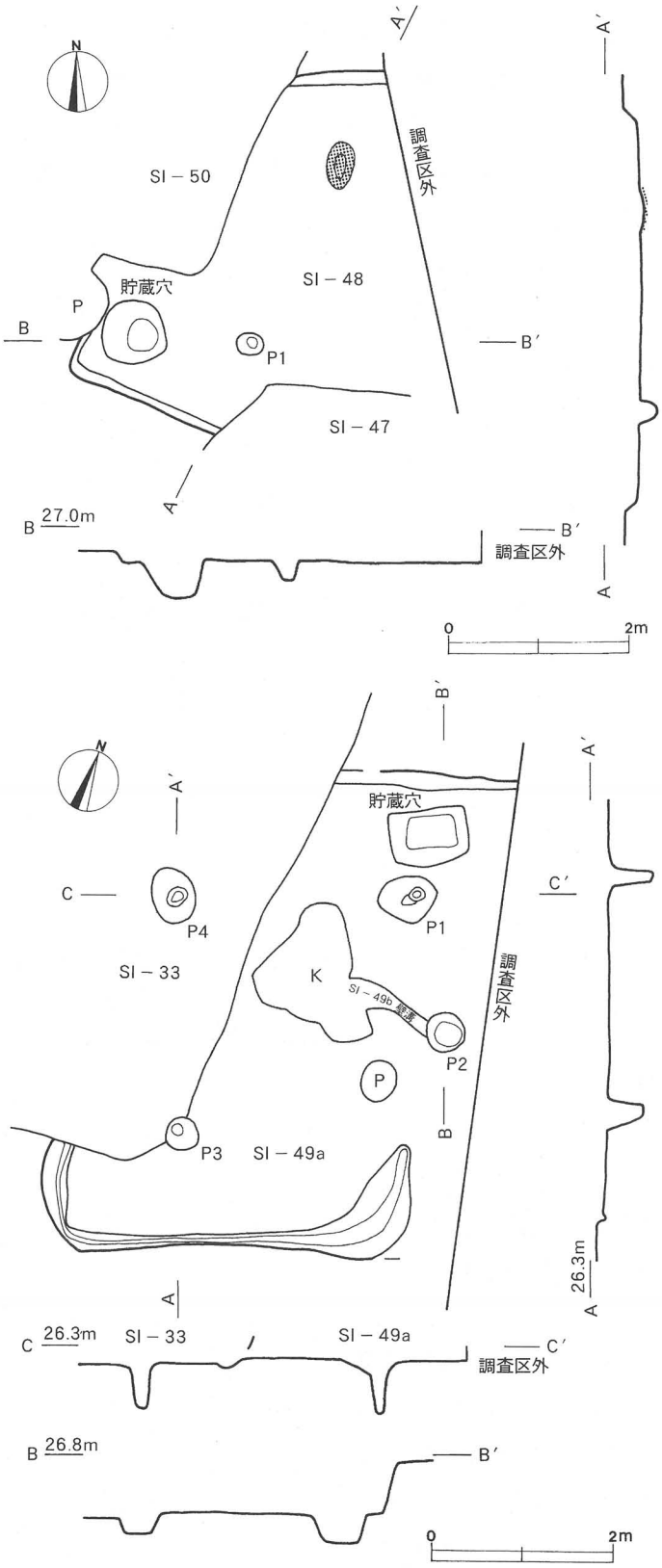

**第55図 竪穴住居跡(SI-47)**

**SI-47**(第55・56図、PL14・30)〈古墳時代後期〉

**位置** P-67区 **規模** 4.44×4.08×0.72m **形態** 方形 **主軸方位** N-52°-W **床** 壁溝は北西壁で検出。南東壁側中央部に3段の雛段状の高まりを検出。出入口施設と思われる。竈前面、中央部が溝状に、雛段状施設の一部が被熱赤化している。**ピット** $P_1$ 0.38×0.30×0.07m $P_2$ 0.58×0.48×0.10m **貯蔵穴** ①南隅 ②1.22×0.80×0.45m ③ロームブロック、炭化粒を含む褐色土。**竈** ①北西壁中央部 ③1.09×1.03m ④0.16m ⑤0.07m ⑥69° ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 極暗褐色土を主体とする。**遺物** 貯蔵穴内より完形の甕を検出。**所見** SI-48と重複、本遺構が新しい。




**第56図 出土遺物**




第57図　竪穴住居跡（SI-48・49a）

**SI-48**（第57図）〈古墳時代中期〉

**位置**　P-66区　**規模**　4.42×（1.94）×0.19m　**主軸方位**　N-24°-E　**ピット**　**P₁**　0.29×0.24×0.19m　**貯蔵穴**　①南西隅　②0.70×0.70×0.40m　隅丸方形　**炉**　①北東壁寄り　②0.52×0.31m　楕円形　③0.05m　**覆土**　上から暗褐色土、極暗褐色土が堆積する。**所見**　SI-47・50と重複、本遺構が古い。

**SI-49a**（第57図、PL14）〈古墳時代〉

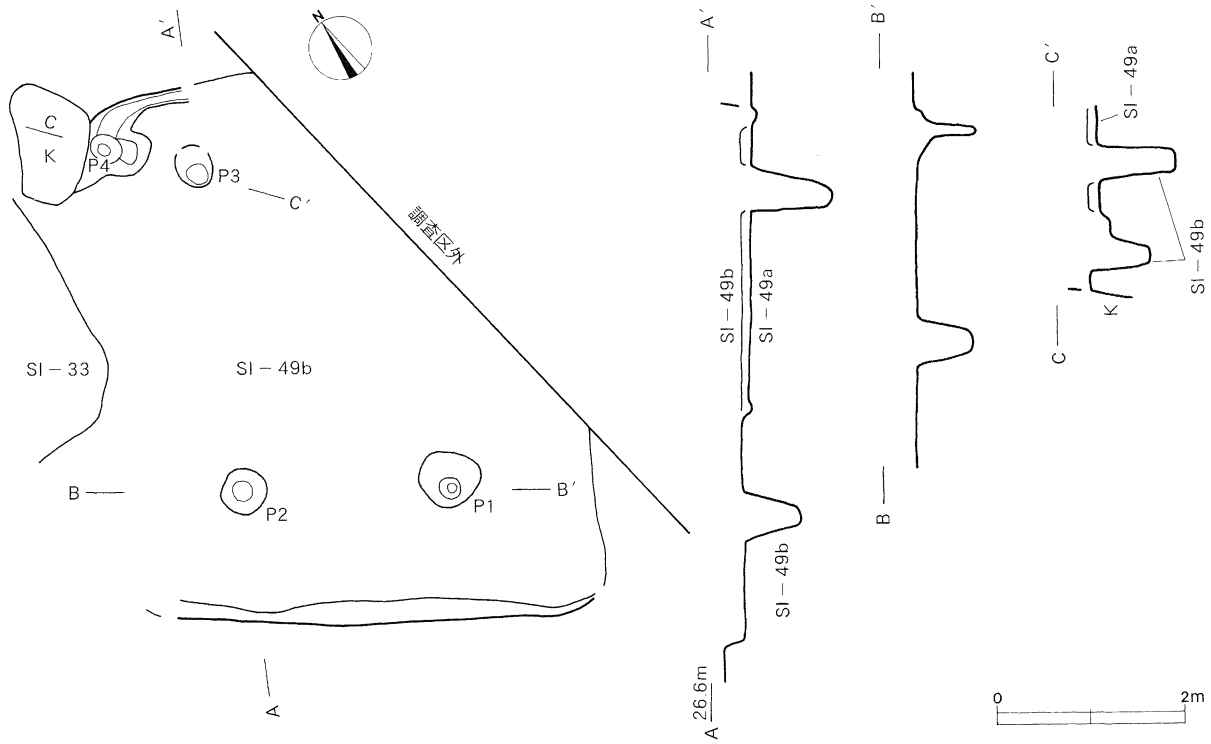
**位置**　O-63区　**規模**　5.38×（4.66）×0.57m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　［N-107°-W］**床**　壁溝は南壁で検出。**ピット**　**P₁**　0.58×0.50×0.60m　**P₂**　0.46×0.42×0.24m　**P₃**　0.36×0.43m　**P₄**　0.64×0.48×0.53m　$P_1$～$P_4$は主柱穴と思われる。**貯蔵穴**　①北壁東寄り　②0.87×0.63×0.38m　長方形　**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　SI-33・49bと重複、本遺構が古い。

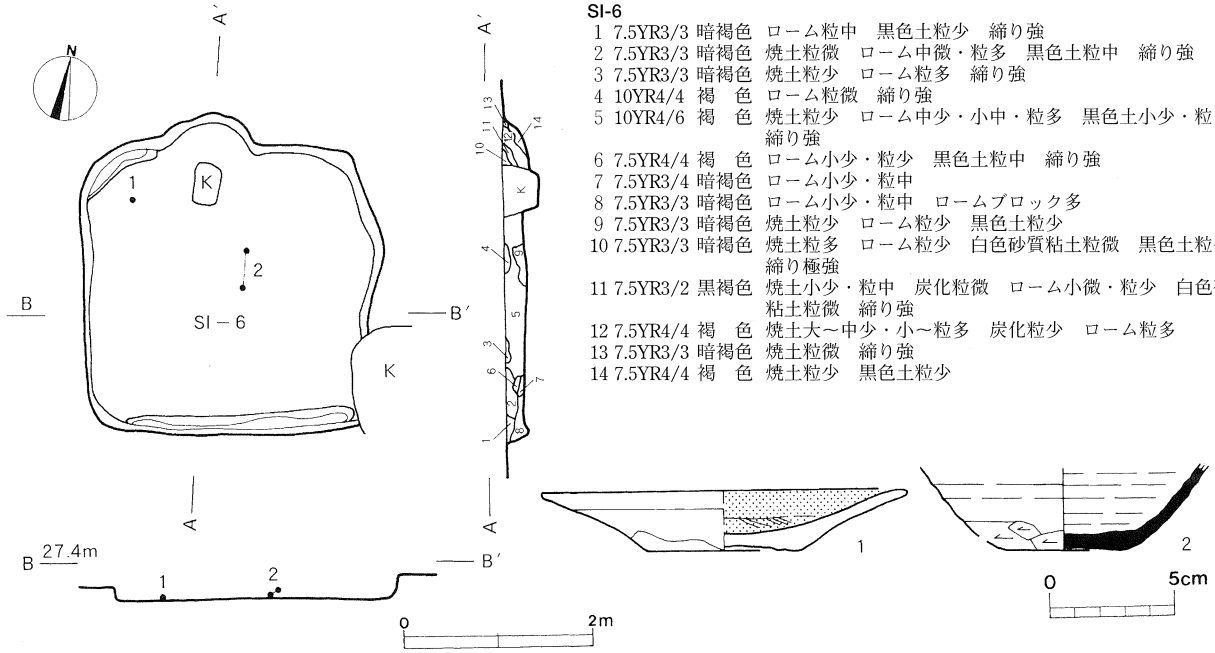
**SI-49b**（第58図、PL14）〈古墳時代〉

**位置**　O-63～64区　**規模**　5.66×〔4.94〕×0.20m　**形態**　長方形　**主軸方位**　［N-30°-E］　**床**　壁溝は北東壁で検出。全面硬化。**ピット**　**P₁**　0.66×0.60×0.60m　**P₂**　0.51×0.61m　**P₃**　〔0.46〕×0.38×0.94m　**P₄**　0.34×0.28×0.65m　$P_1$～$P_3$は主柱穴と思われる。**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　SI-33・49aと重複、本遺構はSI-49aより新しくSI-33より古い。

**SI-6**（第58図、PL5・27）〈平安時代〉

**位置**　B-21、C-20～21区　**規模**　3.16×3.10×0.27m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-10°-W　**床**　壁溝は南壁沿いと北西隅で検



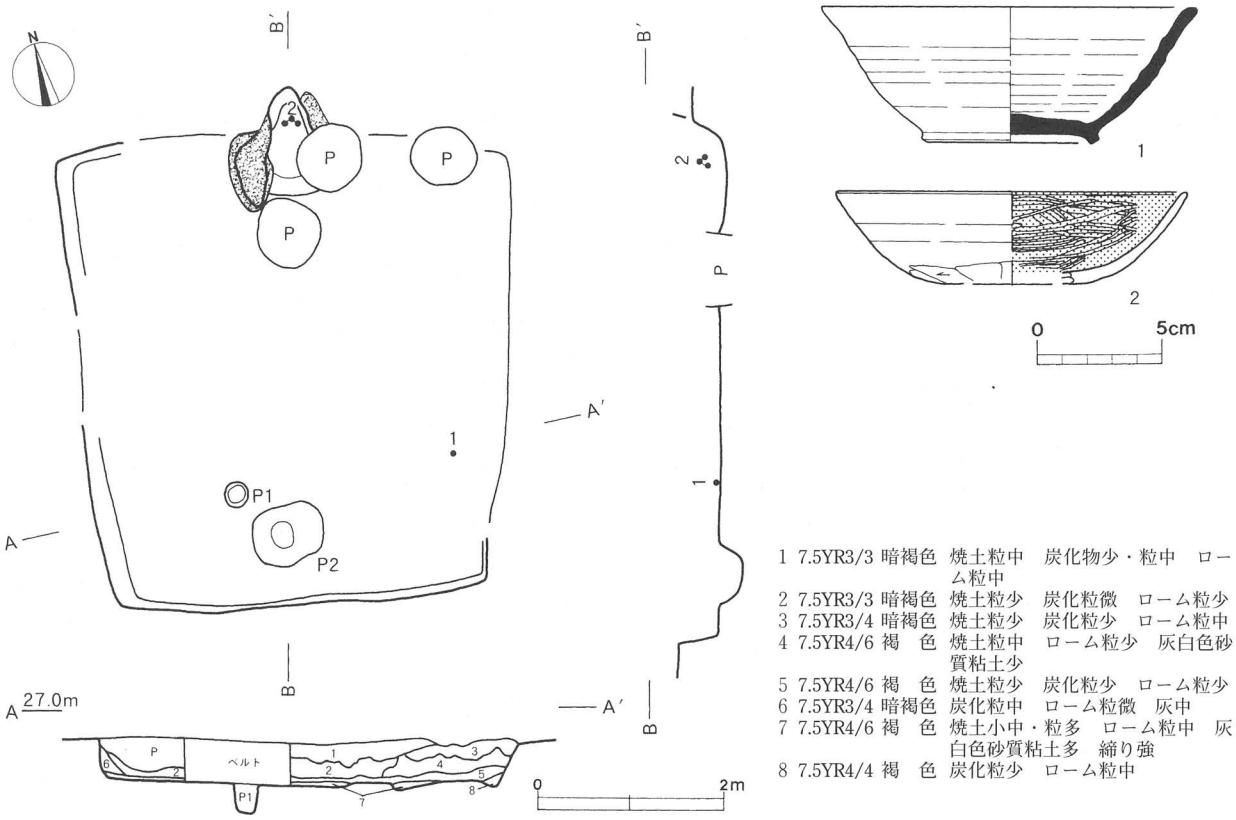

**SI-6**

1 7.5YR3/3 暗褐色　ローム粒中　黒色土粒少　締り強
2 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　ローム中微・粒多　黒色土粒中　締り強
3 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　ローム粒多　締り強
4 10YR4/4 褐　色　ローム粒微　締り強
5 10YR4/6 褐　色　焼土粒少　ローム中少・小中・粒多　黒色土小少・粒中　締り強
6 7.5YR4/4 褐　色　ローム小少・粒少　黒色土粒中　締り強
7 7.5YR3/4 暗褐色　ローム小少・粒中
8 7.5YR3/3 暗褐色　ローム小少・粒中　ロームブロック多
9 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少　黒色土粒少
10 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒多　ローム粒少　白色砂質粘土粒微　黒色土粒少　締り極強
11 7.5YR3/2 黒褐色　焼土小少・粒中　炭化粒微　ローム小微・粒少　白色砂質粘土粒微　締り強
12 7.5YR4/4 褐　色　焼土大～中少・小～粒多　炭化粒少　ローム粒多
13 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　締り強
14 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　黒色土粒少

**第58図　竪穴住居跡(SI-49b・6)**

出、竈前面から南壁にかけて帯状に硬化。**竈**　①北壁やや西寄り　③最大幅1.04m　④0.34m　⑤0.06m　⑥59°　**覆土**　褐色土を主体とする。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第58図<br>1<br>SI-6 | 高台付皿<br>土　師　器 | A　[14.5]<br>B　( 2.3) | 口縁～底部片。高台部欠損。体部は外反しながら浅く開く。 | 底部回転糸切り後、高台貼り付け。内面は口縁部横ナデ、底部ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・雲母<br>にぶい黄橙色・黒色、普通 | 40% |
| 2<br>SI-6 | 杯<br>須　恵　器 | B　4.7<br>C　( 3.3) | 底部片。平底。体部はほぼ直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後、弱い多方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英<br>灰色<br>良好 | 40% |




**第59図　竪穴住居跡(SI-51)**

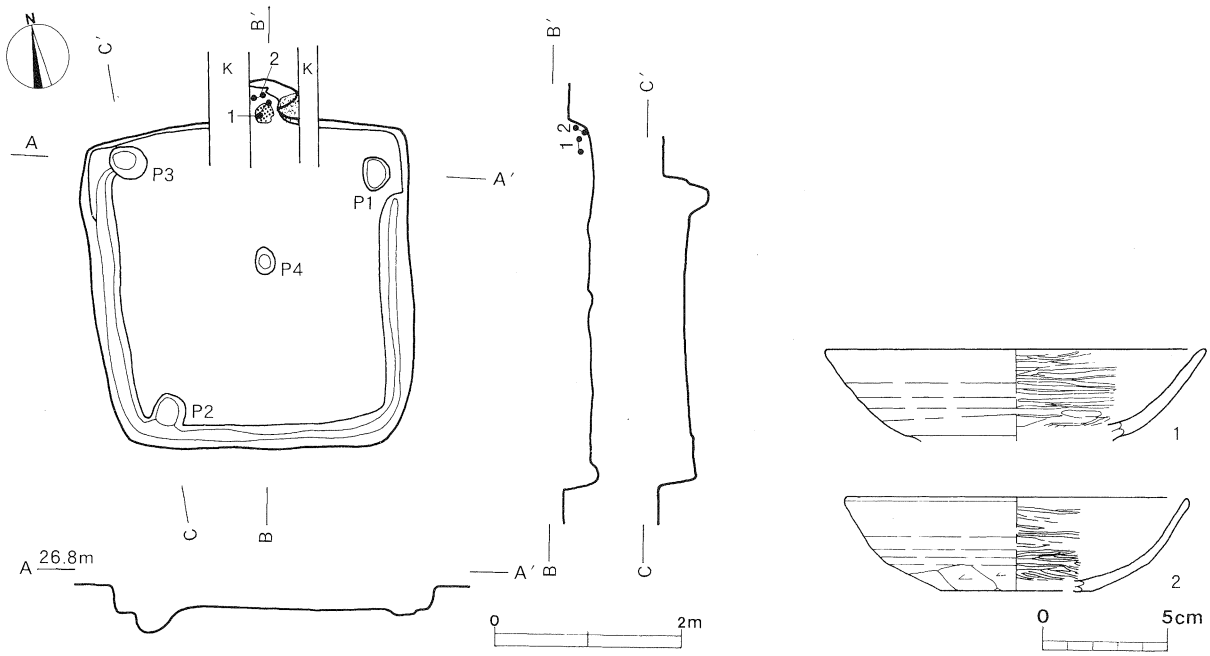
**SI-51**(第59図、PL14・30)〈平安時代〉

**位置**　L～M-65区　**規模**　4.96×〔4.78〕×0.46m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-10°-E　**ピット**　**$P_1$**　0.27×0.24×0.33m　**$P_2$**　0.74×0.64×0.29m　高台付杯等の土器と骨片を検出。**竈**　①北壁中央部と推定。③1.15×(1.10)m　④0.45m　⑤0.09m　⑥58.5°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　暗褐色土を主体とする。7層は貼床。　**所見**　SI-42と重複、本遺構が新しい。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図<br>1 | 高台付杯<br>須　恵　器 | A　[15.0]<br>B　5.4<br>D　6.5<br>E　0.4 | 平底で、「ハ」の字状に開く非常に低い高台が付く。体部は深めに内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削りを施し高台貼り付け。 | 長石・石英・雲母<br>褐灰色・灰褐色<br>普通 | 50%<br>二次焼成 |
| 2 | 杯<br>土　師　器 | A　[13.9]<br>B　3.6<br>C　[ 6.0] | 平底。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 体部下端手持ちヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい褐色・黒色<br>普通 | 40% |

**SI-52**(第60図、PL14・30)〈平安時代〉

**位置**　I-47～48区　**規模**　3.50×3.46×0.26m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-8°-E　**床**　壁溝は北壁を除き全周。中央部が硬化。**ピット**　**$P_1$**　0.37×0.28×0.07m　**$P_2$**　0.35×0.13m　**$P_3$**　0.42×0.36×0.28m　**$P_4$**　0.30×0.22×0.04m　$P_1$～$P_3$は主柱穴。**竈**　①北壁中央部　③〔0.10〕×(0.52)m　④0.46m　⑤0.04m　⑥64°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　褐色土を主体とする。**所見**　撹乱により遺構の損壊が著しい。




第60図　竪穴住居跡(SI-52)

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第60図<br>1 | 杯<br>土　師　器 | A　[15.1]<br>B　( 3.6) | 口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 内面細かな横位ヘラ磨き。 | 雲母<br>にぶい橙色<br>良好 | 40% |
| 2 | 杯<br>土　師　器 | A　[13.6]<br>B　3.7<br>C　[ 6.0] | 平底。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 体部下端手持ちヘラ削り。内面細かな横位ヘラ磨き。 | 石英・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | 35% |

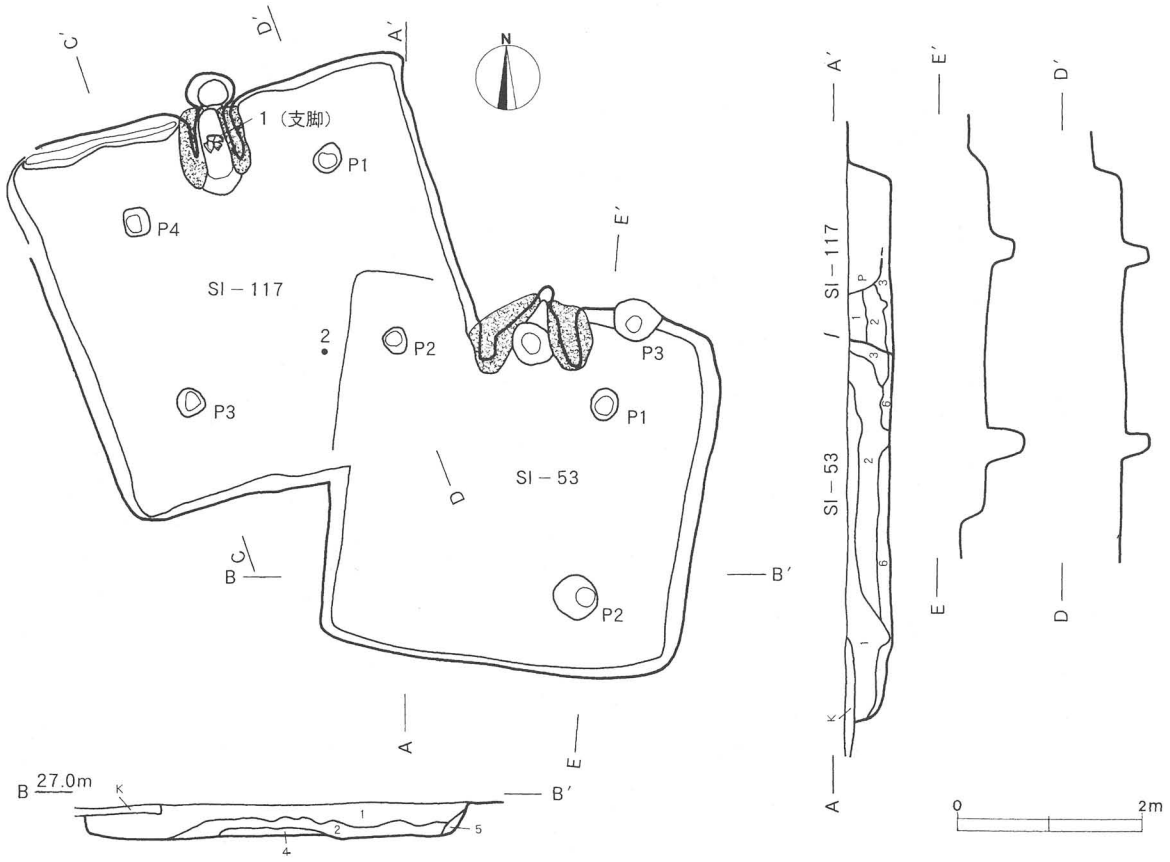
**SI-53**(第61図)〈古墳時代後期〉

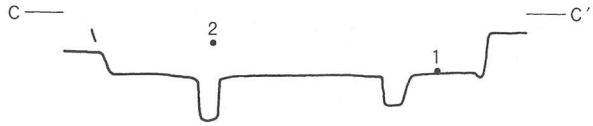
**位置**　N-68～69区　**規模**　3.94×3.90×0.48m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-7°-E　**ピット**　**$P_1$**　0.32×0.28×0.19m　**$P_2$**　0.48×0.30m　**$P_3$**　0.48×0.44×0.07m　$P_1$、$P_2$は主柱穴と思われる。**竈**　①北壁中央部　③0.86×1.23m　④0.13m　⑤0.06m　⑥26°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　暗褐色土を主体とする。6層は貼床。**所見**　SI-66・117と重複、本遺構が新しい。

**SI-117**(第61・62図、PL18・30)〈古墳時代後期〉

**位置**　M-68区　**規模**　4.26×4.18×0.44m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-16°-W　**床**　壁溝は竈西側で検出。**ピット**　**$P_1$**　0.31×0.25×0.27m　**$P_2$**　0.26×0.27m　**$P_3$**　0.30×0.50m　**$P_4$**　0.30×0.25×0.32m　$P_1$～$P_4$は主柱穴と思われる。**竈**　①北壁中央部　③1.27×0.74m　④0.30m　⑤0.07m　⑥階段状　76.5°～56°　⑧灰白色砂質粘土　⑨椀を伏せて支脚に転用。　**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　SI-53・66と重複する。本遺構はSI-66より新しく、SI-53より古い。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第62図<br>1 | 椀<br>土　師　器 | A　11.1<br>B　7.6 | 丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は緩く外反する。 | 底体部外面ヘラ削り後ナデ。内面放射状磨き。口縁部内・外面横位ヘラ磨き。 | 長石・石英<br>橙色<br>良好 | 98%<br>支脚に転用 |
| 2 | 杯<br>土　師　器 | A　13.6<br>B　4.7 | 丸底。口縁部との境に稜を持ち、口縁部は直立する。 | 底体部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。内・外面黒色処理。 | 長石<br>黒色<br>良好 | 70% |



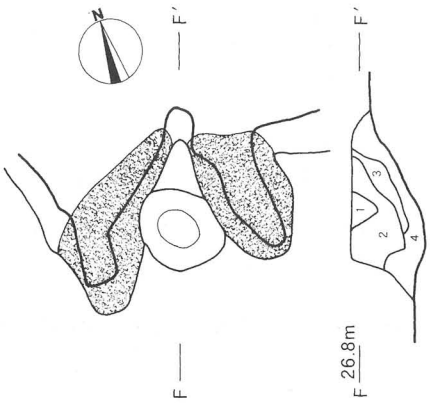




**SI-53**
1 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒中　ローム粒少
2 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒微　ローム粒少
3 7.5YR3/3 暗褐色　炭化粒少　ローム粒少
4 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　ローム粒中
5 7.5YR4/4 褐　色　ローム中～粒多
6 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒多

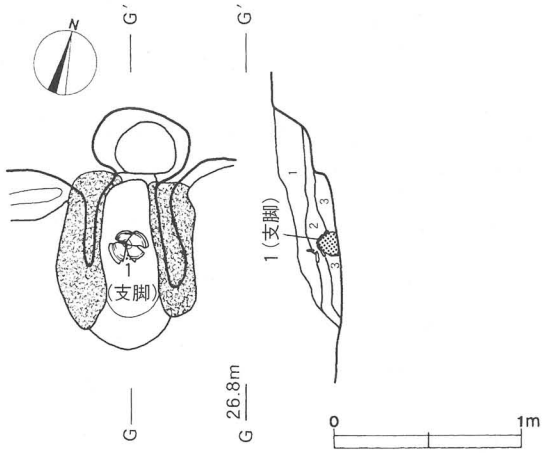
**SI-53　竈**
1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少
2 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒中　炭化粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土少
3 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　ローム粒少
4 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　炭化粒少　ローム粒中

**SI-117**
1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒微　ローム粒少
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少
3 7.5YR4/4 褐　色　ローム粒中

**SI-117　竈**
1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒微　ローム粒少
2 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土小～粒少　炭化粒少　ローム小～粒少
3 5YR4/6　赤褐色　焼土大～粒多　炭化粒少　ローム粒少

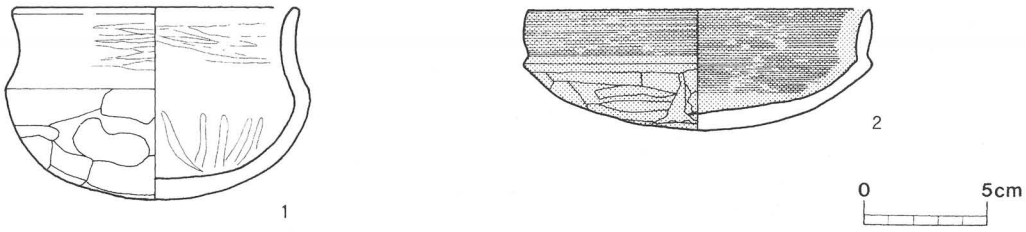



SI-53　竈

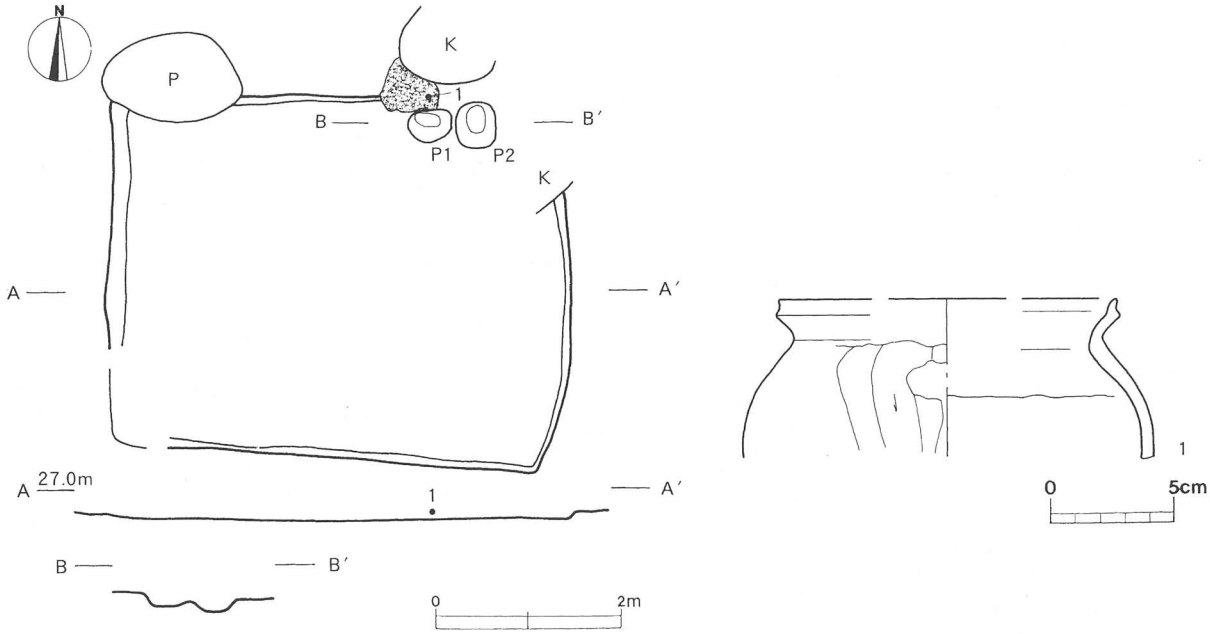



SI-117　竈

**第61図　竪穴住居跡（SI-53・117）**




第62図　SI-117出土遺物




第63図　竪穴住居跡(SI-54)

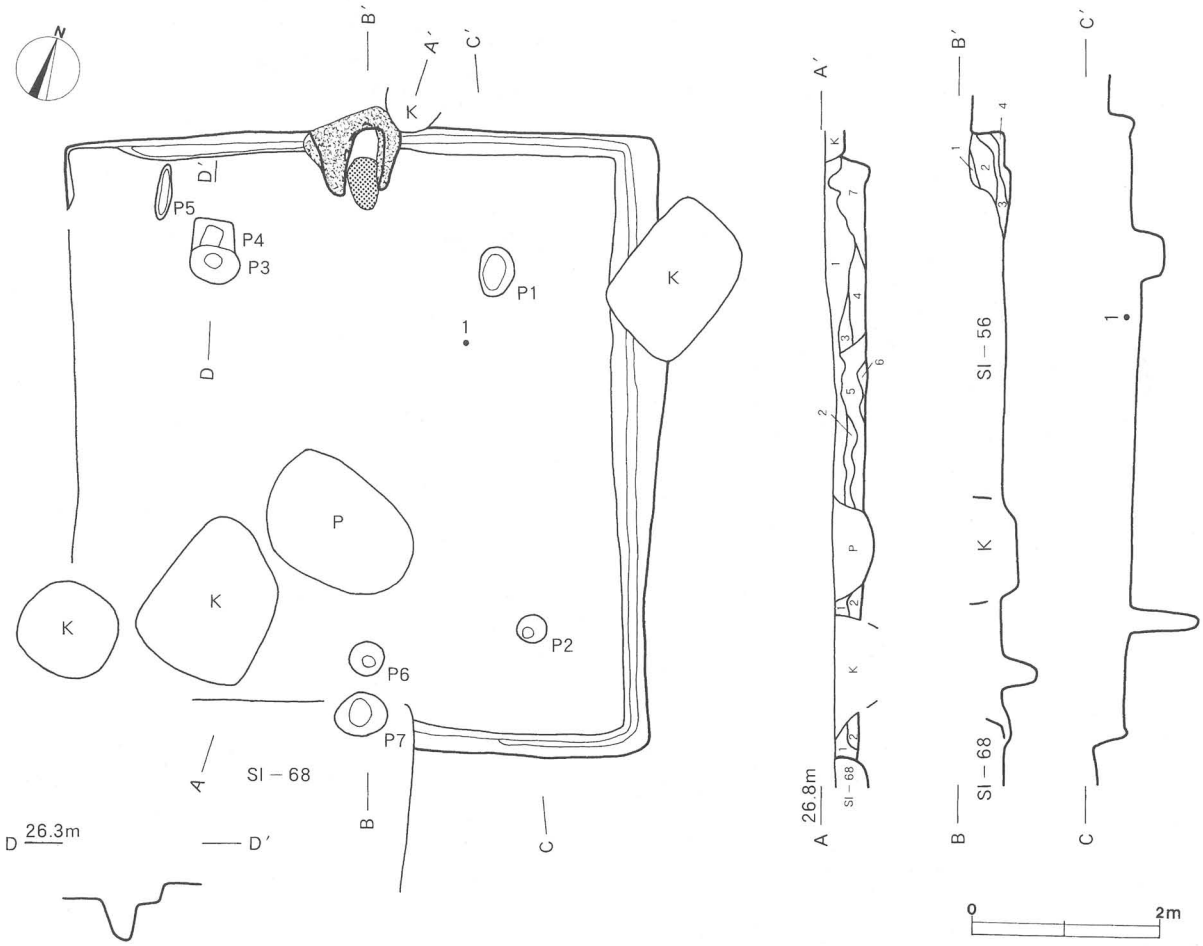
**SI-54**(第63図、PL30)〈平安時代〉

**位置**　O-68区　**規模**　4.88×3.88×0.21m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-2°-E　**ピット**　**P₁**　0.50×0.42×0.16m　**P₂**　0.46×0.34×0.11m　**竈**　①北壁東寄り　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　上から暗褐色土、褐色土が堆積する。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第63図<br>1 | 小　型　甕<br>土　師　器 | A　[13.4]<br>B　( 6.3) | 口縁部片。頸部は「く」の字に屈曲し、口唇部を上方につまみ上げる。 | 胴部外面口縁部直下から縦位ヘラ削り。内面丁寧な横位ヘラナデ。 | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>良好 | 30%<br>二次焼成 |

**SI-56**(第64・65図、PL30)〈古墳時代後期〉

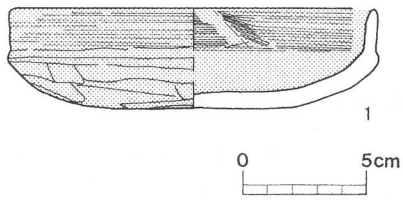
**位置**　L～M-70区　**規模**　6.70×6.26×0.40m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-18°-W　**床**　壁溝は北壁から東壁に沿い南壁東側にかけて検出。**ピット**　**P₁**　0.54×0.38×0.33m　**P₂**　0.32×0.30×0.71m　**P₃**　0.54×0.39×0.57m　**P₄**　0.44×(0.38)×0.18m　**P₅**　0.62×0.16×0.05m　**P₆**　0.36×0.34m　**P₇**　0.56×0.46×0.11m　$P_1$～$P_3$は主柱穴、$P_6$は出入口施設に伴うピットと思われる。**竈**　①北壁中央部　③　1.12×1.02m　④0.02m　⑤0.08m　⑥98°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　上から暗褐色土、褐色土が堆積する。**所見**　SI-68と重複、本遺構が古い。




第64図　竪穴住居跡(SI-56)

1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム中微・粒中
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム中少・粒中
3 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒少
4 7.5YR3/4 暗褐色　焼土中少・粒微　ローム粒少　灰白色砂質粘土粒中
5 7.5YR4/4 褐　色　焼土中中・小～粒多　ローム粒少　灰白色砂質粘土粒中
6 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土粒少
7 7.5YR4/3 褐　色　焼土粒微　ローム粒微　砂多

竈
1 7.5YR3/4 暗褐色　ローム粒少　砂多
2 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒少　砂多　締り強
3 7.5YR4/3 褐　色　焼土粒中　炭化粒少　ローム粒少　砂多
4 7.5YR3/4 暗褐色　焼土中少・粒多　炭化粒少　ローム粒少　砂多

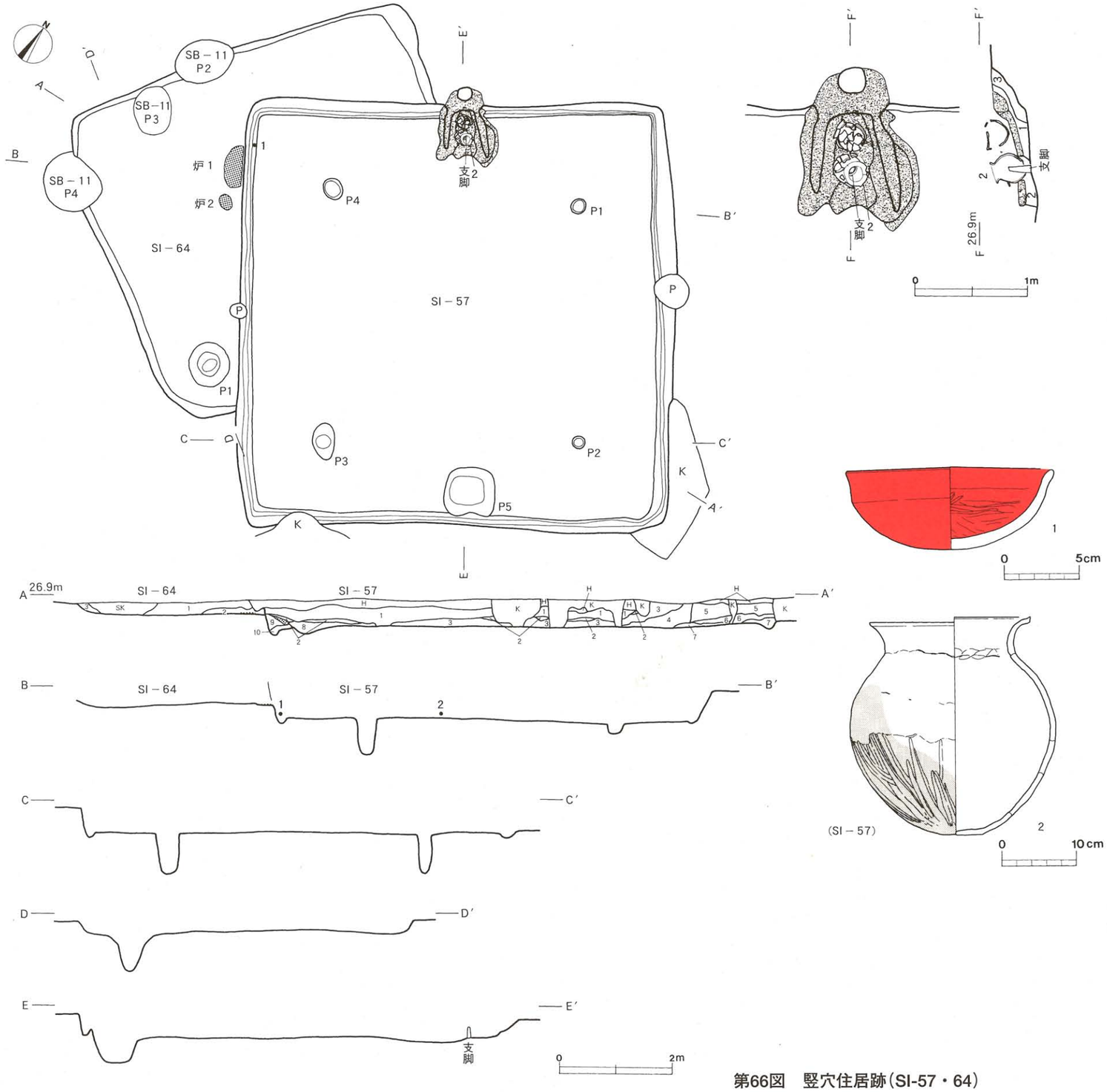



第65図　出土遺物

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第65図<br>1 | 杯<br>土　師　器 | A　[14.4]<br>B　　3.9 | 丸底。底体部は扁平に立ち上がる。口縁部との境に弱い稜を持ち、口縁部は直立する。 | 底体部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。内・外面黒色処理。 | 長石・石英・雲母<br>灰褐色<br>普通 | 75% |

**SI-57**(第66図、PL14・15・31)〈古墳時代後期〉

**位置**　O～P-70～71区　**規模**　7.69×7.66×0.45m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-32°-W　**床**　壁溝は全周。主柱穴間が硬化。**ピット**　**$P_1$**　0.28×0.26m　**$P_2$**　0.22×0.72m　**$P_3$**　0.66×0.40×0.73m　**$P_4$**　0.38×0.32×0.63m　**$P_5$**　0.90×0.92×0.40m　$P_1$～$P_4$は主柱穴、$P_5$は出入口施設に伴うピットと思われる。**竈**　①北壁中央部　③1.33×1.06m　④0.32m　⑥41°　⑦0.24×0.22m　⑧灰白色砂質粘土　⑨支脚が完形で残存。底部穿孔した甕が長軸に並行して乗せてあり、手前の甕は支脚を内側にはめ込んだ状態




**SI-57**
1 7.5YR4/3 褐　色　焼土粒少　ローム粒少
2 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒中　ローム粒微
3 7.5YR3/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中
4 7.5YR4/3 褐　色　焼土粒少　炭化粒微　ローム小少・粒中
5 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　ローム小少・粒中
6 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　ローム粒中
7 7.5YR6/4 にぶい橙色　ローム小中・粒多
8 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　炭化粒微　ローム中中・小～粒多
9 7.5YR2/2 黒褐色　炭化粒微　ローム粒少
10 7.5YR5/6 明褐色　ローム粒多

**SI-57　竈**
1 7.5YR4/4 褐　色　焼土中多・粒多　炭化粒中
2 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土大少・粒中
3 5YR4/6 赤褐色　焼土大～粒多　ローム粒中

**SI-64**
1 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少
2 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒中　炭化粒少　ローム粒少
3 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒中

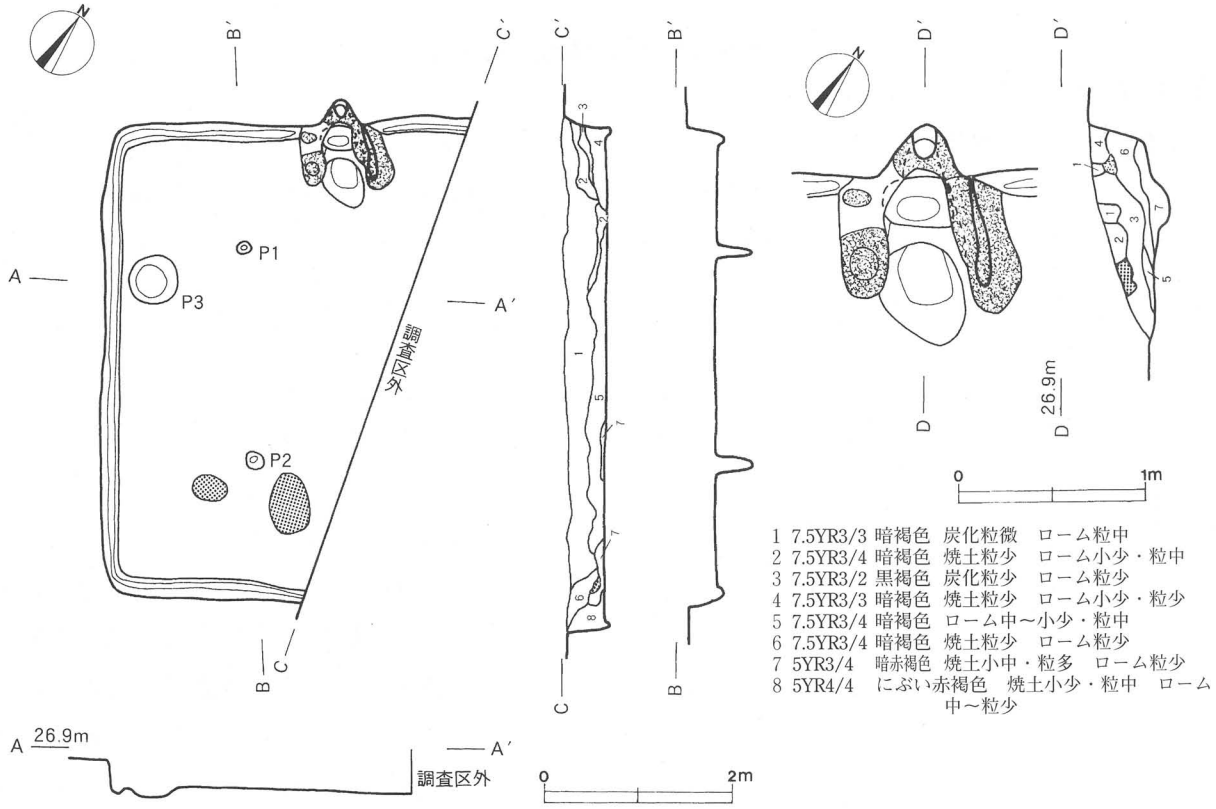
**第66図　竪穴住居跡(SI-57・64)**

で検出した。**覆土**　上から褐色土、黒褐色土を主体とし、間層として炭化粒を比較的多量に含む暗褐色土が遺構全体に薄く堆積する。**遺物**　東壁際に堆積した焼土ブロック下から径5mm前後の粗製土玉が10点出土した。焼成過度のため非常に跪い。**所見**　SI-64、SK-62と重複、SI-64より新しくSK-62より古い。

**SI-64**(第66図、PL15)〈古墳時代中期〉

**位置**　O-70～71区　**規模**　6.46×5.94×0.16m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-52.5°-W　**ピット**　**P1**　0.78×0.70×0.71m　**炉1**　①北西壁寄り中央部　②0.74×(0.32)m　楕円形　③0.04m　**炉2**　①炉1の南隣り　② 0.26×0.20m　楕円形　**覆土**　暗褐色土を主体とする。**遺物**　床面上にて炭化材を検出した。**所見**　SI-57、SB-11-P2～4と重複、本遺構が古い。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第66図<br>1<br>SI-57 | 杯<br>土　師　器 | A　13.6<br>B　5.4 | 丸底。口縁部との境に弱い稜を持ち、口縁部はやや外反する。 | 底体部丁寧なナデと磨き。内面横位ヘラ磨き。内・外面赤彩。 | 長石・石英<br>赤色<br>良好 | 98% |
| 2<br>SI-57 | 甕<br>土　師　器 | A　21.2<br>B　29.2<br>C　5.0 | 平底。胴部中位に最大径を持つ。頸部は緩やかに外反し、口唇部を僅かに上方につまみ上げる。 | 胴部外面下半に縦位ヘラ磨き。内面丁寧なヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>褐灰色<br>普通 | 95%<br>胴部外面に煤付着 |

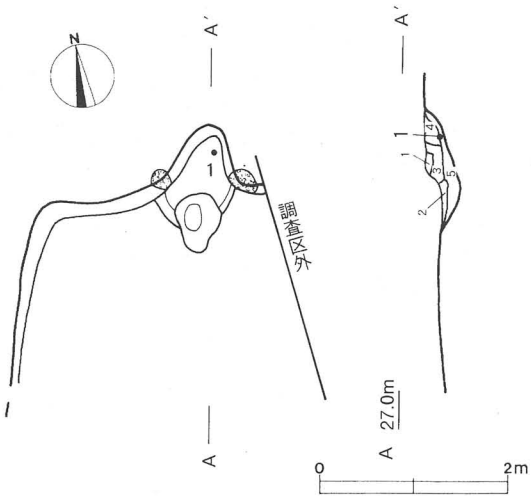



竈
1 7.5YR3/4 暗褐色　焼土中少・粒中　炭化粒微
2 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土大少・粒少
3 7.5YR3/4 暗褐色　焼土大中・中～粒多　炭化粒少　ローム粒微　灰白色砂質粘土粒中
4 5YR4/4　にぶい赤褐色　焼土粒中　ローム粒少
5 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒中　炭化粒少　灰白色砂質粘土小少
6 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒中　炭化物少　ローム粒中　灰白色砂質粘土粒少
7 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒微　ローム粒中　灰白色砂質粘土粒少

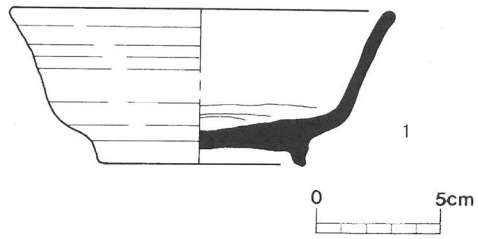
**第67図　竪穴住居跡(SI-58)**

**SI-58**(第67図、PL15)〈古墳時代後期〉

**位置**　Q-72～73区　**規模**　5.02×(3.76)×0.30m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-26°-W　**床**　壁溝は調査区域内では全周。竈前面から南壁にかけて硬化。**ピット**　**P1**　0.14×0.40m　**P2**　0.18×0.42m　**P3**　0.52×0.09m　P1，P2は主柱穴と思われる。**竈**　①北壁中央部　③1.16×0.96m　④0.28m　⑤0.08m　⑥73°　⑦0.19×0.14m　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　東側約1/3が調査区域外に残る。




1 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒中　炭化粒少　灰白色砂質粘土中　締り強
2 10YR6/4 にぶい黄褐色　焼土粒中　灰白色砂質粘土大～粒多　締り強
3 7.5YR4/6 褐　色　焼土中中・小～粒多　炭化粒少　灰白色砂質粘土少
4 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒多　炭化粒多　締り強
5 7.5YR4/4 褐　色　ローム大～粒中

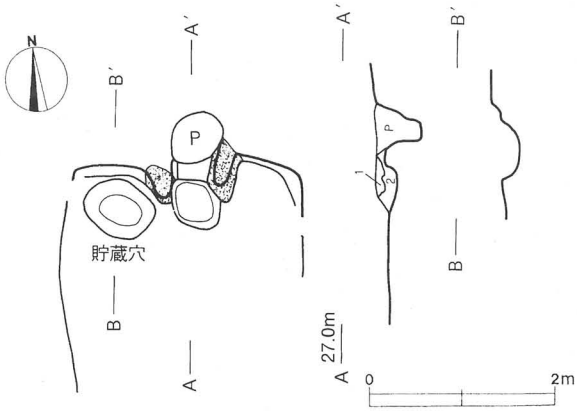



**第68図　竪穴住居跡(SI-59)**

**SI-59**(第68図、PL31)〈平安時代〉

**位置**　Q-74区　**規模**　(3.28)×(2.00)×0.14m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　N-9°-E　**竈**　①北壁中央部と推定。　③1.38×1.12m　④0.62m　⑤0.22m　⑥51°　⑧灰白色砂質粘土

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第68図<br>1 | 高台付杯<br>須　恵　器 | A　[15.0]<br>B　6.1<br>D　8.0<br>E　0.5 | 平底でややすぼまりながら下方へのびる高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後、回転ヘラ削りを施し高台貼り付け。 | 長石・石英・雲母<br>灰黄色<br>不良 | 75%<br>二次焼成 |




1 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒少　灰白色砂質粘土少
2 7.5YR4/6 褐　色　ローム大中・粒少

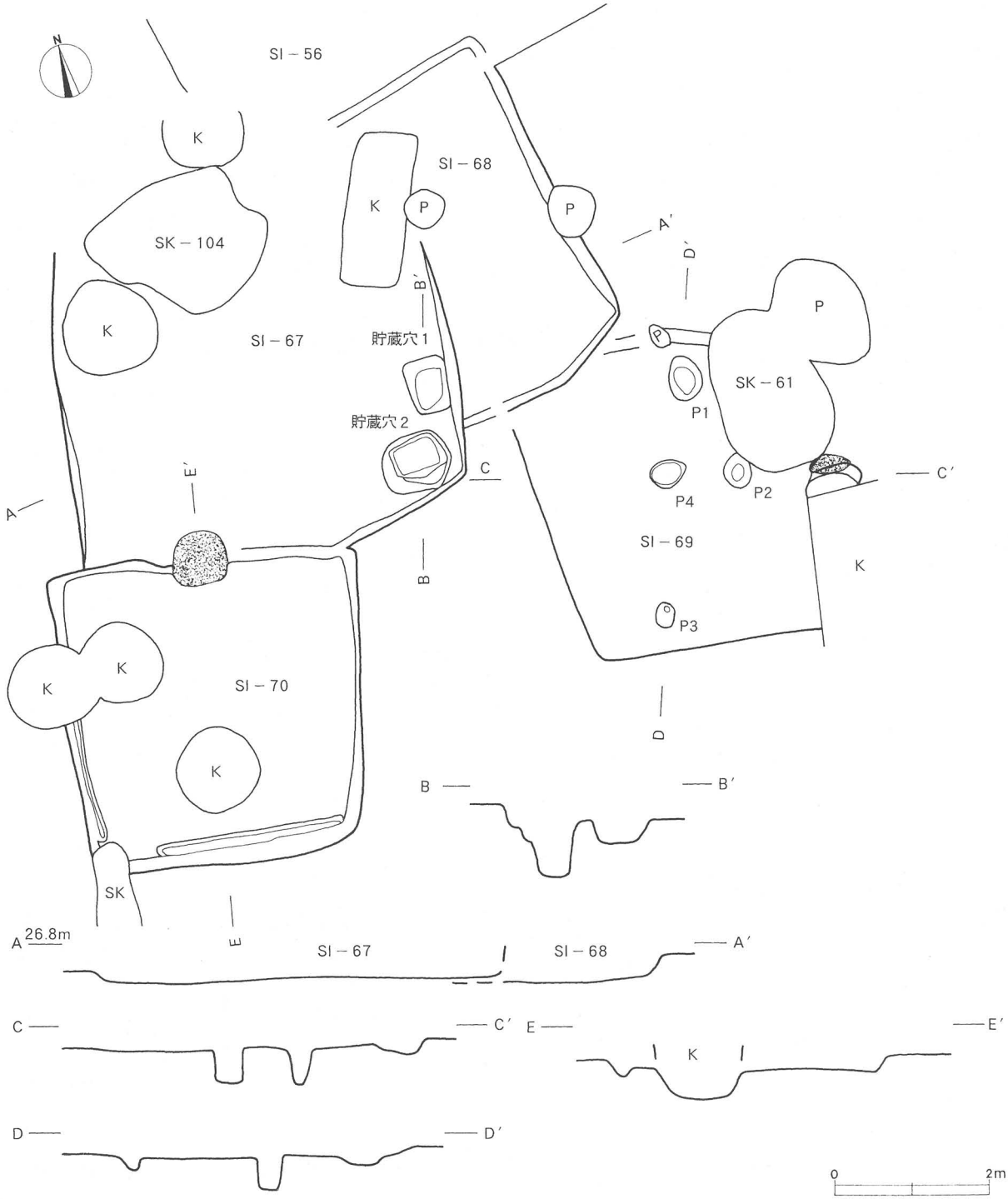
**第69図　竪穴住居跡(SI-62)**

**SI-62**(第69図)〈平安時代〉

**位置**　P-74区　**規模**　(2.43)×(0.60)×0.12m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　N-2°-E　**貯蔵穴**　①北西隅　②0.75×0.62×0.14m　楕円形　**竈**　①北壁中央部　③(0.68)×(0.96)m　⑤0.10m　⑧灰白色砂質粘土。

**SI-67**(第70図)〈平安時代〉

**位置**　L-71～72区　**規模**　5.08×(3.74)×0.20m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　〔N-5°-E〕　**貯蔵穴1**　①南東隅北寄り　②0.70×0.54×0.27m　長方形　**貯蔵穴2**　①南東隅　②0.90×0.73×




**第70図　竪穴住居跡(SI-67・68・69・70)**

0.71m　長方形　**覆土**　暗褐色土の単一層。**所見**　SI-68・70、SK-93・104と重複。SI-68より新しく、SI-70、SK104より古い。

**SI-68**(第70図)〈古墳時代後期〉

**位置**　M-71～72区　**規模**　〔4.40〕×(1.90)×0.36m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　〔N-13°-W〕　**覆土**　上から極暗褐色土、暗褐色土が堆積する。**所見**　SI-56・67・69、SK-93と重複。SI-56より

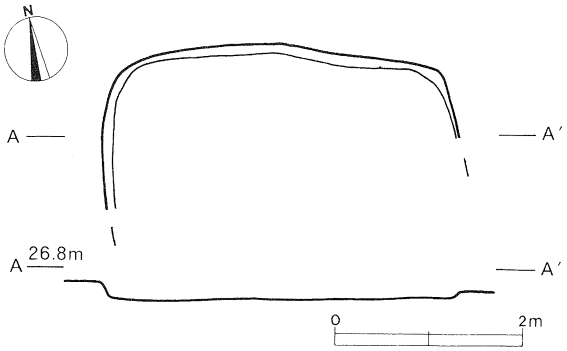
新しくSI-67より古い。

**SI-69**(第70図)〈古墳時代後期〉

**位置** M-72区 **規模** 4.02×(3.68)×0.14m **形態** 方形 **主軸方位** N-93°-E **ピット** $P_1$ 0.58×0.44×0.09m $P_2$ 〔0.44〕×0.34×0.42m $P_3$ 0.32×0.24×0.16m $P_4$ 0.47×0.34×0.39m **竈** ①東壁中央部 ③0.76×(0.48)m ④0.44m ⑤0.08m ⑥58° ⑧灰白色砂質粘土 ⑨雲母片岩の板石が出土。支脚と思われる。 **所見** SI-68と重複。

**SI-70**(第70図)〈平安時代〉

**位置** L-72～73区 **規模** 3.98×3.92×0.15m **形態** 方形 **主軸方位** N-8°-E **床** 壁溝は南壁と西壁南寄りで検出。**竈** ①北壁中央部 **覆土** 褐色土を主体とする。**所見** SI-67と重複、本遺構が新しい。




**第71図 竪穴住居跡(SI-72)**

**SI-72**(第71図)

**位置** J～K-67区 **規模** 3.80×(1.60)×0.18m **形態** 方形あるいは長方形。**主軸方位** 〔N-12°-E〕 **覆土** 褐色土単一層からなる。

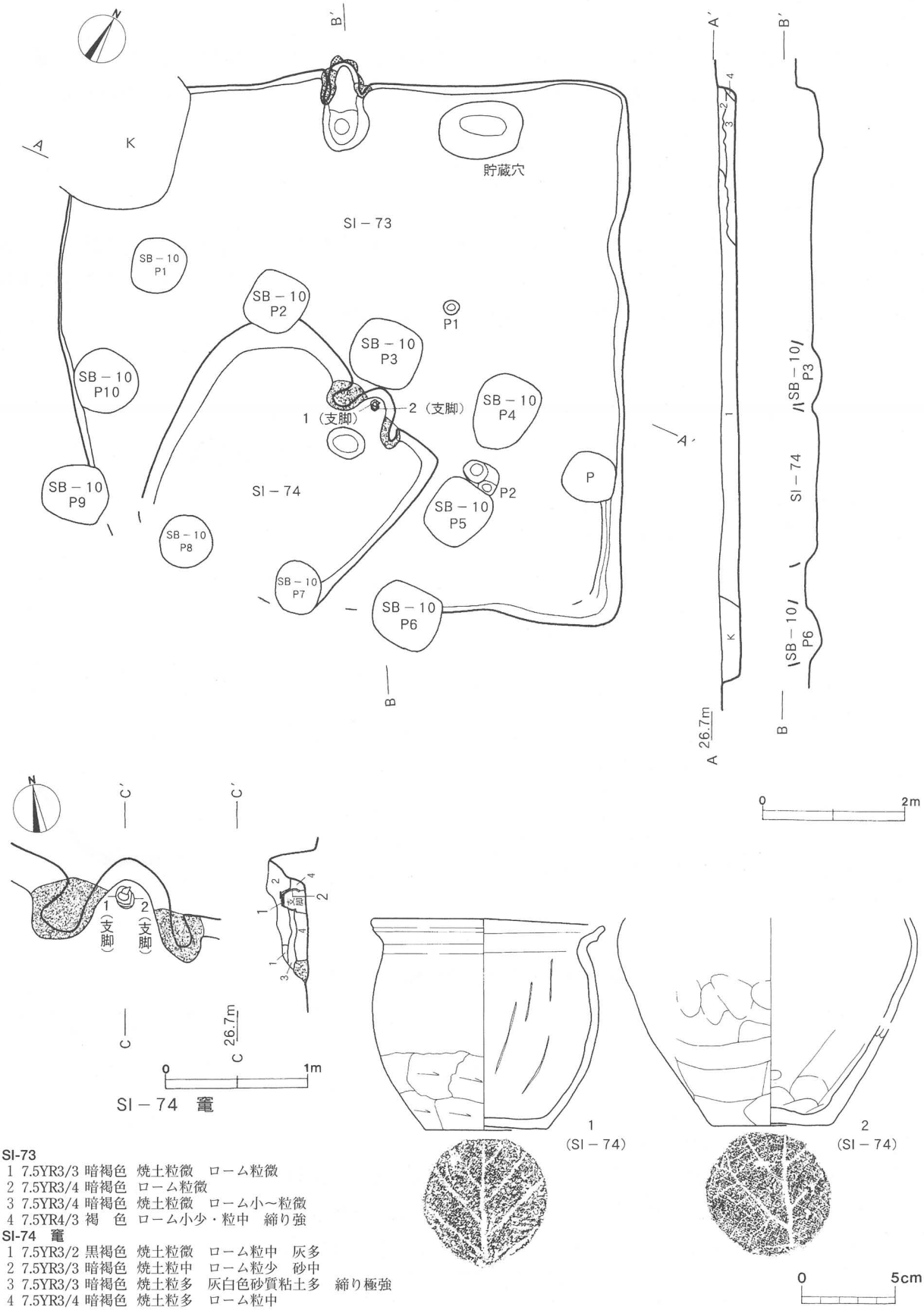
**SI-73**(第72図)〈古墳時代後期〉

**位置** I～J-68～69区 **規模** 7.92×7.66×0.32m **形態** 方形 **主軸方位** N-28°-W **ピット** $P_1$ 0.22×0.11m $P_2$ 0.54×0.36×0.16m **貯蔵穴** ①竈東脇 ②1.17×0.79×0.30m 楕円形 **竈** ①北壁中央部 ③1.24×(0.70)m ④0.22m ⑤0.18m ⑥76° ⑧灰白色砂質粘土。**覆土** 暗褐色土を主体とする。**所見** SI-74、SB-10-P1～9と重複、本遺構が古い。

**SI-74**(第72図、PL15・31)〈平安時代〉

**位置** J-69区 **規模** 〔3.60〕×3.49×0.30m **形態** 方形 **主軸方位** N-17°-E **ピット** $P_1$ 0.53×0.42×0.20m **竈** ①北壁やや東寄り ③(0.64)×1.23m ④0.26m ⑥56° ⑧灰白色砂質粘土 ⑨小型の甕を2個体伏せて重ね合わせ、支脚に転用している。**覆土** 上から極暗褐色土、暗褐色土、褐色土が堆積する。**所見** SI-73・SB-10-P2・7・8と重複、本遺構はSI-73より新しくSB-10より古い。

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第72図<br>1<br>SI-74 | 小型甕<br>土師器 | A 12.0<br>B 11.0<br>C 6.4 | 平底。胴部中位やや上に最大径を持つ。口縁部は外反し、口唇部を外上方につまみ上げる。 | 胴部外面下位に横位ヘラ削り。底部木葉痕。 | 長石・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | 98%<br>支脚に転用 |
| 2<br>SI-74 | 小型甕<br>土師器 | B (10.8)<br>C 6.1 | 胴～底部片。平底。 | 胴部外面下位に横位ヘラ削り。底部木葉痕。 | 石英・雲母<br>橙色<br>普通 | 60%<br>支脚に転用 |




**SI-73**
1 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 ローム粒微
2 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒微
3 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒微 ローム小～粒微
4 7.5YR4/3 褐 色 ローム小少・粒中 締り強

**SI-74 竈**
1 7.5YR3/2 黒褐色 焼土粒微 ローム粒中 灰多
2 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒中 ローム粒少 砂中
3 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒多 灰白色砂質粘土多 締り極強
4 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒多 ローム粒中

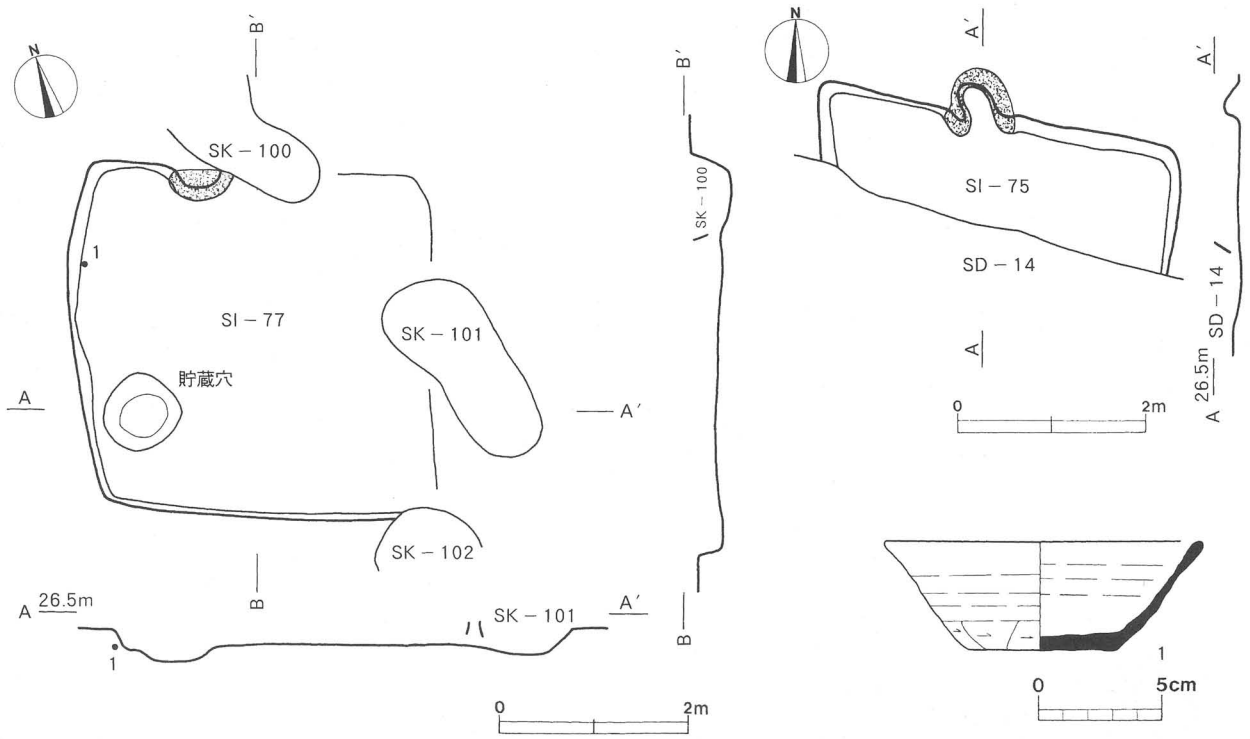
**第72図 竪穴住居跡(SI-73・74)**

**SI-75**(第73図)〈平安時代〉

**位置** J-70区 **規模** 3.86×(1.34)×0.03m **形態** 方形あるいは長方形。**主軸方位** N-3°-E **竈** ① 北壁やや西寄り ② N-16.5°-W ③ (0.70)×0.74m ④ 0.28m ⑥64° ⑧ 灰白色砂質粘土 **覆土** 暗褐色土の単一層。**所見** SD-14と重複、本遺構が古い。

**SI-77**(第73図、PL31)〈平安時代〉

**位置** J-71～72区 **規模** 〔3.83〕×3.68×0.18m **形態** 方形 **主軸方位** N-23°-E **貯蔵穴** ① 南西隅 ② 0.78×0.75×0.16m 隅丸方形 **竈** ① 北壁中央部 ⑧ 灰白色砂質粘土、西側袖部を除き破壊されているため詳細は不明。**覆土** 暗褐色土を主体とする。



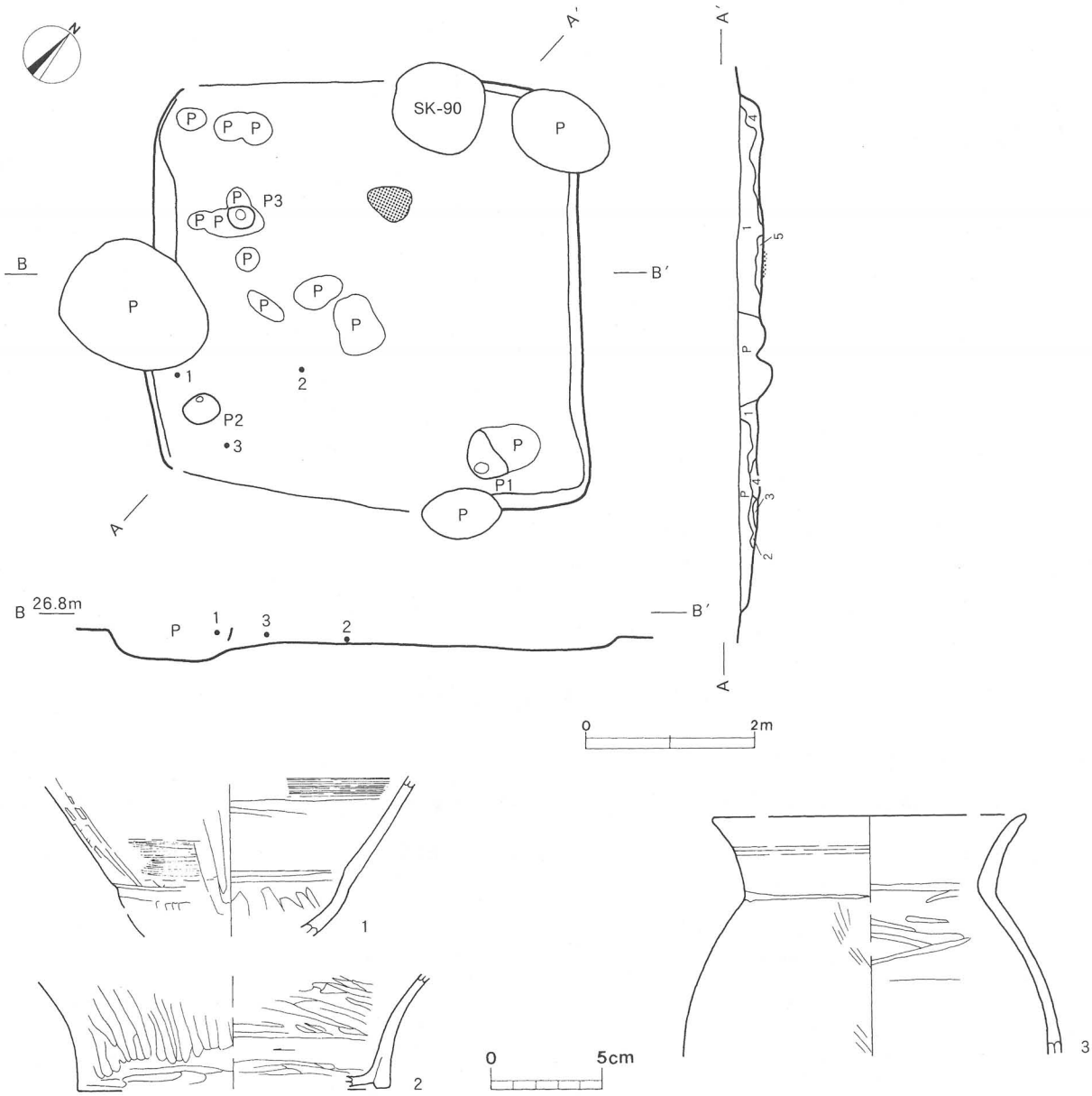

**第73図 竪穴住居跡(SI-75・77)**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第73図<br>1<br>SI-77 | 杯<br>須恵器 | A 12.5<br>B 4.3<br>C 5.9 | 平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英<br>暗灰黄色・黄灰色<br>普通 | 75% |

**SI-78**(第74図、PL31)〈古墳時代前期〉

**位置** H～I-64～65区 **規模** 5.14×5.08×0.18m **形態** 方形 **主軸方位** N-42°-W **ピット** **$P_1$** 0.62×0.36×0.57m **$P_2$** 0.44×0.34×0.40m **$P_3$** 0.34×0.26×0.49m $P_1$～$P_3$は主柱穴と思われる。**炉** ①北西壁寄り中央部 ②0.50×0.42m 楕円形 **覆土** 暗褐色土を主体とする。

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第74図<br>1 | 坩<br>土師器 | B (7.0) | 口縁部片。口縁部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 外面刷毛目調整後、縦位ヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き。 | 長石・石英<br>灰褐色・橙色<br>普通 | 40% |



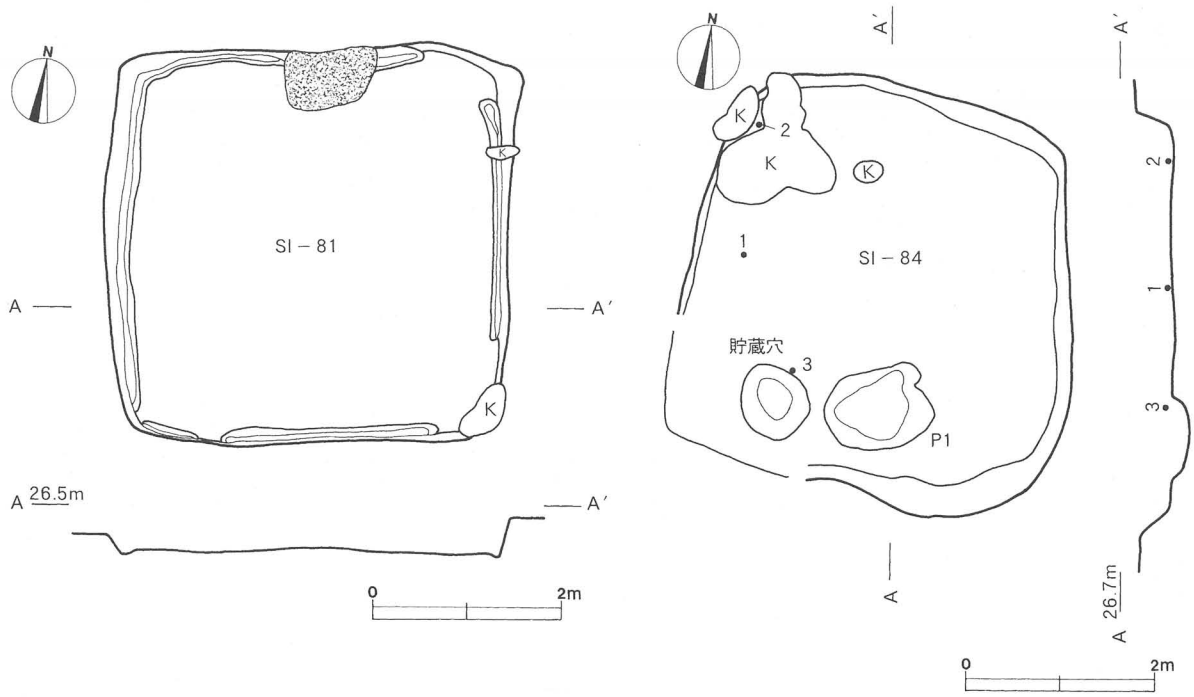

1 7.5YR3/3 暗褐色 炭化粒少 ローム粒中
2 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒少
3 7.5YR5/6 明褐色 ローム粒多
4 7.5YR4/4 褐 色 ローム粒多
5 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒多 炭化粒少 ローム粒中

**第74図 竪穴住居跡(SI-78)**

| 図版番号 | 器 種 | 法量(cm) | 器 形 の 特 徴 | 技 法 の 特 徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第74図 2 | 壺 土 師 器 | B ( 5.0) | 複合口縁の口縁部片。 | 外面縦位ヘラ磨き。内面横位ヘラ磨き。内面一部赤彩痕。 | 長石・石英・赤色粒、にぶい橙色 普通 | 20% |
| 3 | 甕 土 師 器 | A [13.7] B (10.5) | 口縁部片。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は外反する。 | 胴部外面刷毛目調整後、丁寧なナデ。内面横位ヘラ磨き。 | 長石・雲母 にぶい橙色 普通 | 25% |

**SI-81**(第75図)〈平安時代〉

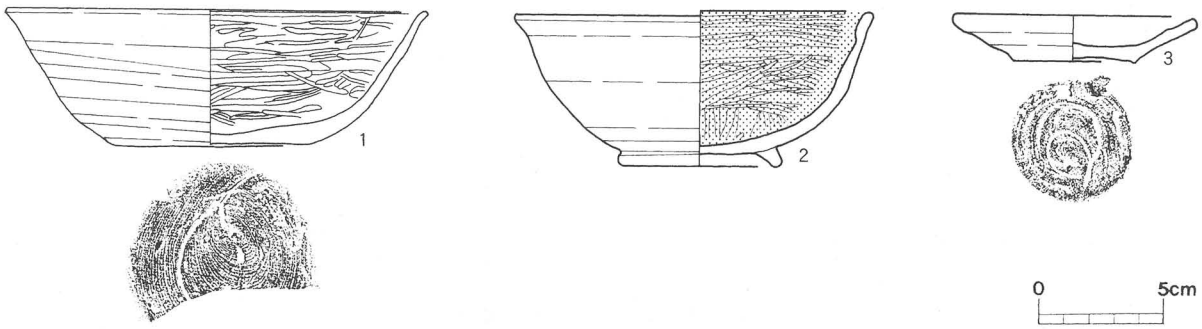
**位置** F-64区 **規模** 4.28×4.26×0.34m **形態** 方形 **主軸方位** N-7°-W **床** 壁溝は北東隅、南東隅を除き全周。**竈** ①北壁中央部 ⑧黄色砂質粘土 **覆土** 暗褐色土、極暗褐色土を主体とする。




**第75図　竪穴住居跡(SI-81・84)**

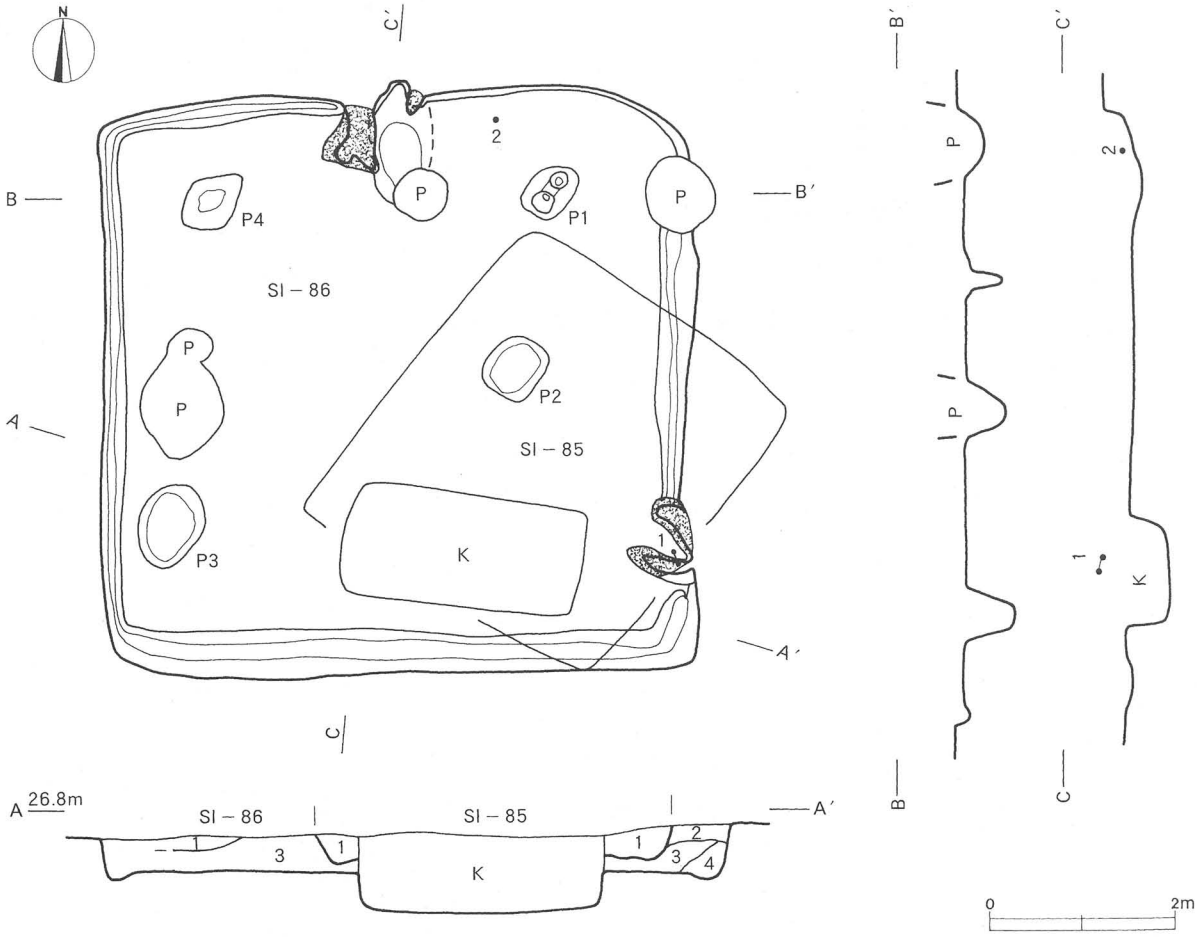
**SI-84**(第75・76図、PL31)〈平安時代〉

**位置**　G-65区　**規模**　4.34×4.24×0.36m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-4°-E　**ピット**　**P1**　1.16×0.80×0.27m　**貯蔵穴**　①南壁側西寄り　②0.83×0.72×0.30m　**覆土**　暗褐色土、褐色土を主体とする。**所見**　SI-86と重複、本遺構が新しい。




**第76図　SI-84出土遺物**

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第76図<br>1 | 椀<br>土師器 | A 17.0<br>B 5.5<br>C 7.8 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁端部に平坦面を持つ。 | 底部回転糸切り。内面横位ヘラ磨き。 | 長石・雲母<br>にぶい黄橙色<br>普通 | 60% |
| 2 | 高台付椀<br>土師器 | A 14.2<br>B 6.1<br>D 6.2<br>E 0.5 | 平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は深く内彎して立ち上がり、口縁部で若干外反する。 | 底部回転糸切り後、高台貼り付け。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい黄橙色・黒色、普通 | 95% |
| 3 | 小皿<br>土師器 | A 9.4<br>B 1.8<br>C 4.9 | 平底。体部は浅く外傾して立ち上がる。 | 底部回転糸切り。 | 石英<br>にぶい橙色<br>普通 | 100% |




SI-85
1 7.5YR2/3 極暗褐色 焼土粒少 炭化粒少 ローム粒少 締り強
SI-86
1 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒少 ローム粒少 締り強
2 7.5YR4/6 褐 色 炭化粒少 ローム粒中
3 7.5YR3/4 暗褐色 ローム中少・粒中
4 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中

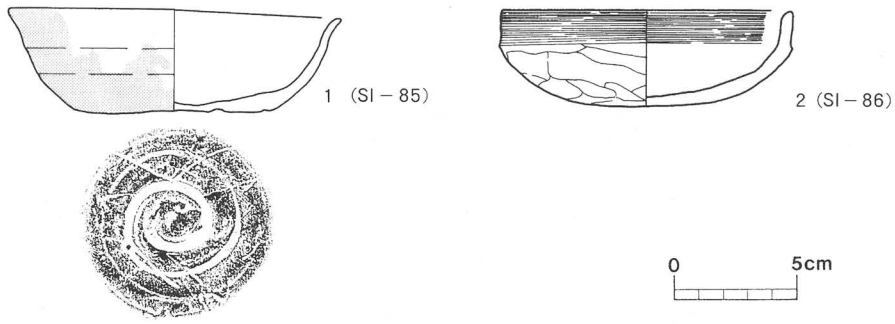
**第77図 竪穴住居跡(SI-85・86)**

**SI-85**(第77・78図、PL15・31)〈平安時代〉

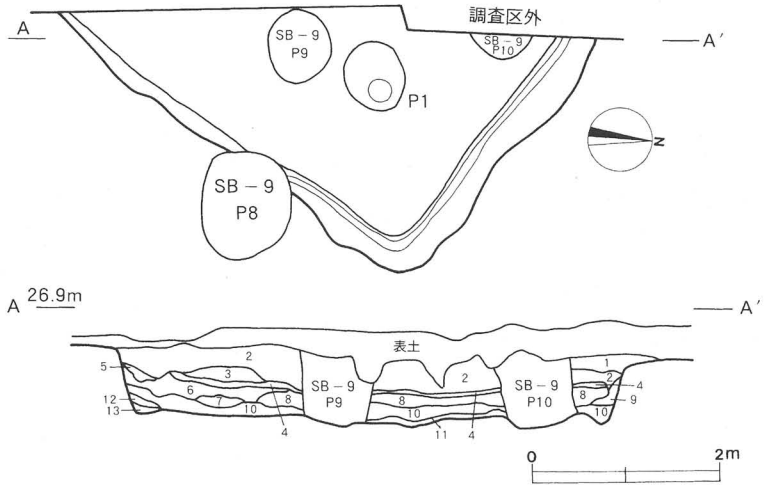
**位置** F～G-66区 **規模** 〔3.92〕×〔3.57〕×0.25m **形態** 方形 **主軸方位** N-110°-E **竈** ①東壁中央部 ③0.66×0.82m ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 極暗褐色土を主体とする。**所見** SI-86と重複、本遺構が新しい。

**SI-86**(第77・78図、PL31)〈古墳時代後期〉

**位置** F-66～67区 **規模** 6.26×6.24×0.52m **形態** 方形 **主軸方位** N-19°-W **床** 壁溝は竈東側を除き全周。**ピット** **$P_1$** 0.60×0.44×0.42m **$P_2$** 0.65×0.60×0.28m **$P_3$** 0.93×0.66×0.30m **$P_4$** 0.60×0.52×0.60m $P_1$、$P_4$は主柱穴と思われる。**竈** ①北壁中央部 ③1.36×0.88m ④0.19m ⑤0.15m ⑥79.5° ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 暗褐色土を主体とする。**所見** SI-84・85と重複、本遺構が古い。




**第78図　SI-85・86出土遺物**



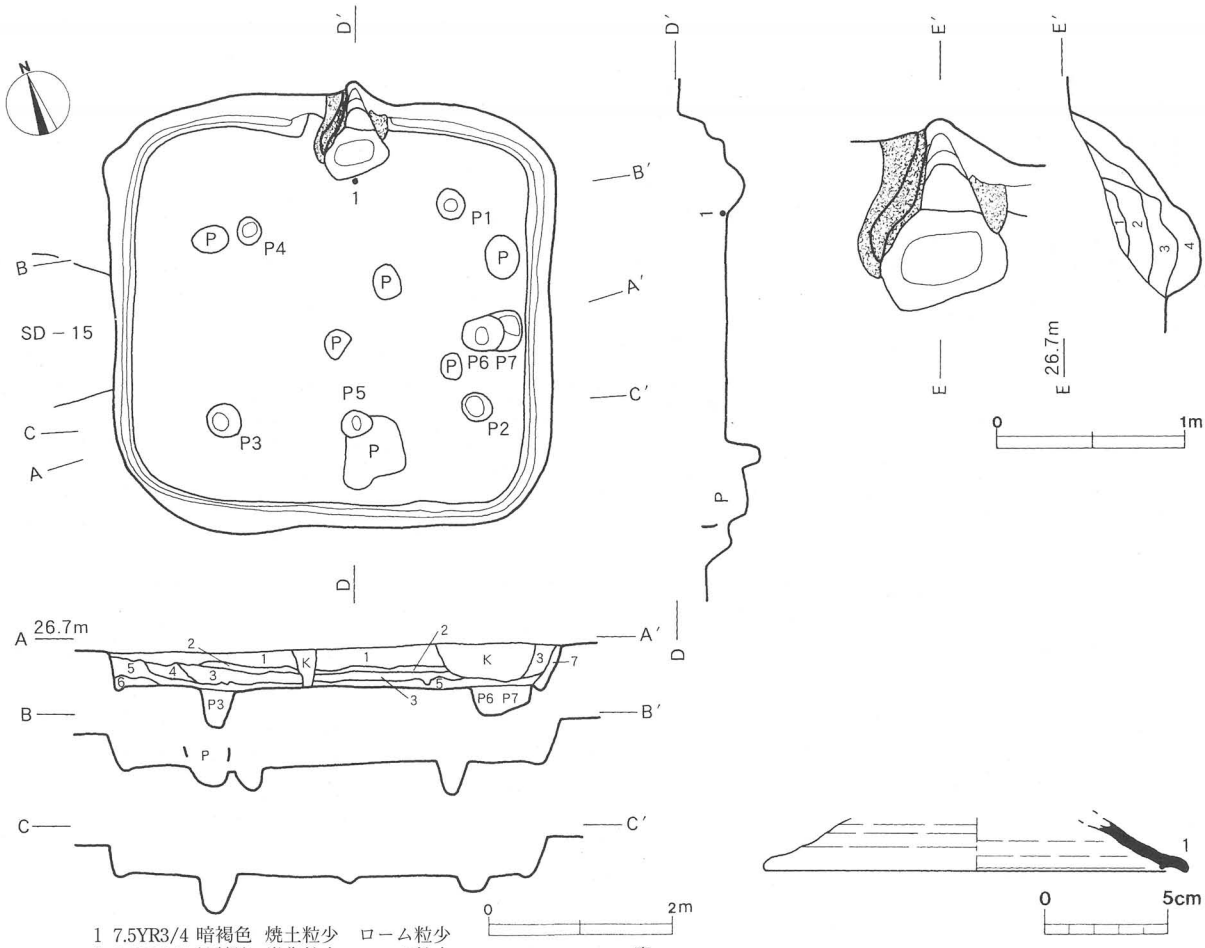

1 7.5YR2/3 極暗褐色　ローム粒微
2 7.5YR3/3 暗褐色　炭化粒微　ローム粒少　灰白色砂質粘土粒少
3 7.5YR2/3 極暗褐色　ローム粒少
4 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少　締り強
5 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少
6 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少
7 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少
8 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　ローム粒少
9 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　ローム小少・粒少
10 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒中　炭化粒少　ローム小少・粒中
11 7.5YR4/6 褐　色　ローム中少・粒中
12 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒中　炭化粒少　ローム粒中
13 7.5YR5/8 明褐色　ローム粒中

**第79図　竪穴住居跡(SI-87)**

**SI-87**(第79図、PL15)〈平安時代〉

**位置**　C-65～66区　**規模**　(4.60)×(3.26)×0.71m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　〔N-37°-E〕　**床**　壁溝は北東壁から南東壁の途中まで検出。全面硬化。**ピット**　$P_1$　0.76×0.64×0.72m　主柱穴と思われる。**覆土**　上から暗褐色土、褐色土を主体とし、間に締りの良い黒褐色土がほぼ全体に薄く堆積する。**遺物**　壁溝覆土中より土製小玉がまとまって出土した。**所見**　SB-9-P8～10と重複、本遺構が古い。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第78図<br>1<br>SI-85 | 杯<br>土　師　器 | A　13.2<br>B　4.1<br>C　7.7 | 平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部回転ヘラ切り。 | 長石・石英<br>にぶい橙色<br>普通 | 90%<br>体部外面に煤付着 |
| 2<br>SI-86 | 杯<br>土　師　器 | A　11.4<br>B　3.8 | 丸底。口縁部との境に稜を持ち、口縁部は直立する。 | 底体部ヘラ削り。口縁部内・外面横ナデ。 | 長石<br>にぶい橙色・にぶい褐色、普通 | 95% |




1 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒少 ローム粒少
2 7.5YR2/3 極暗褐色 炭化粒少 ローム粒少
3 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒微 炭化粒少 ローム小～粒少
4 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 炭化粒少 ローム粒中
5 7.5YR4/6 褐 色 焼土粒中 ローム粒中
6 7.5YR4/6 褐 色 ローム粒多
7 7.5YR5/6 明褐色 焼土粒少 ローム中～粒多

竈
1 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒中
2 7.5YR4/6 褐 色 焼土粒中 灰白色砂質粘土少
3 7.5YR3/4 暗褐色 焼土中多 炭化粒少
4 7.5YR4/6 褐 色 焼土粒中 ローム粒中 灰白色砂質粘土少

**第80図 竪穴住居跡(SI-88)**

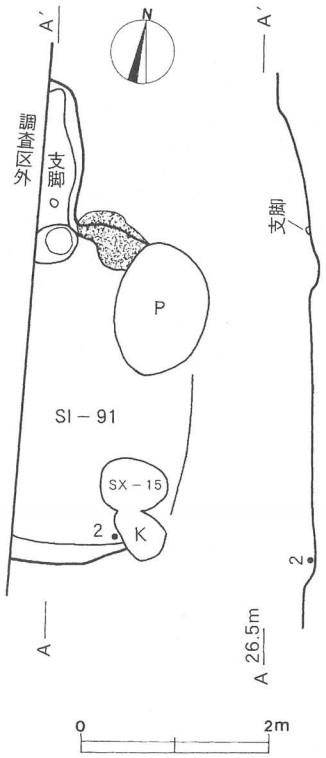
**SI-88**(第80図、PL31)〈奈良時代〉

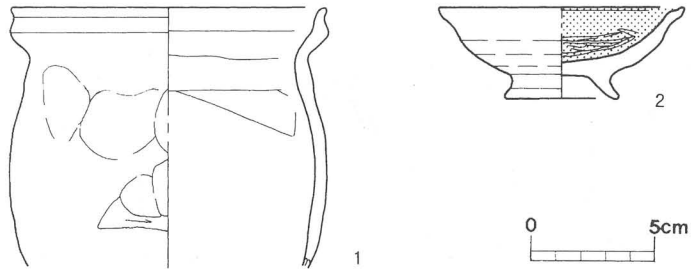
**位置** H～I-67～68区 **規模** 4.82×4.66×0.46m **形態** 方形 **主軸方位** N-18.5°-E **床** 壁溝は全周。中央部が硬化。**ピット** **P₁** 0.32×0.34m **P₂** 0.34×0.30×0.20m **P₃** 0.38×0.36×0.43m **P₄** 0.30×0.28×0.24m **P₅** 0.34×0.28×0.37m **P₆** 0.46×0.38×0.31m **P₇** 0.42×0.22m $P_1$～$P_4$は主柱穴、$P_5$は出入口施設に伴うピットと思われる。**竈** ①北壁中央部 ③0.99×(0.73)m ④0.14m ⑤0.22m ⑥48° ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 暗褐色土を主体とする。**所見** SD-15と重複、本遺構が古い。

| 図版番号 | 器 種 | 法量(cm) | 器 形 の 特 徴 | 技 法 の 特 徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第80図 1 | 蓋 須 恵 器 | A [16.8] B ( 2.1) | 口縁部片。内面に低いかえりが付く。 | ロクロ整形。 | 石英・雲母・黒色粒、灰色 普通 | 35% |

**SI-91**(第81図、PL31)〈平安時代〉

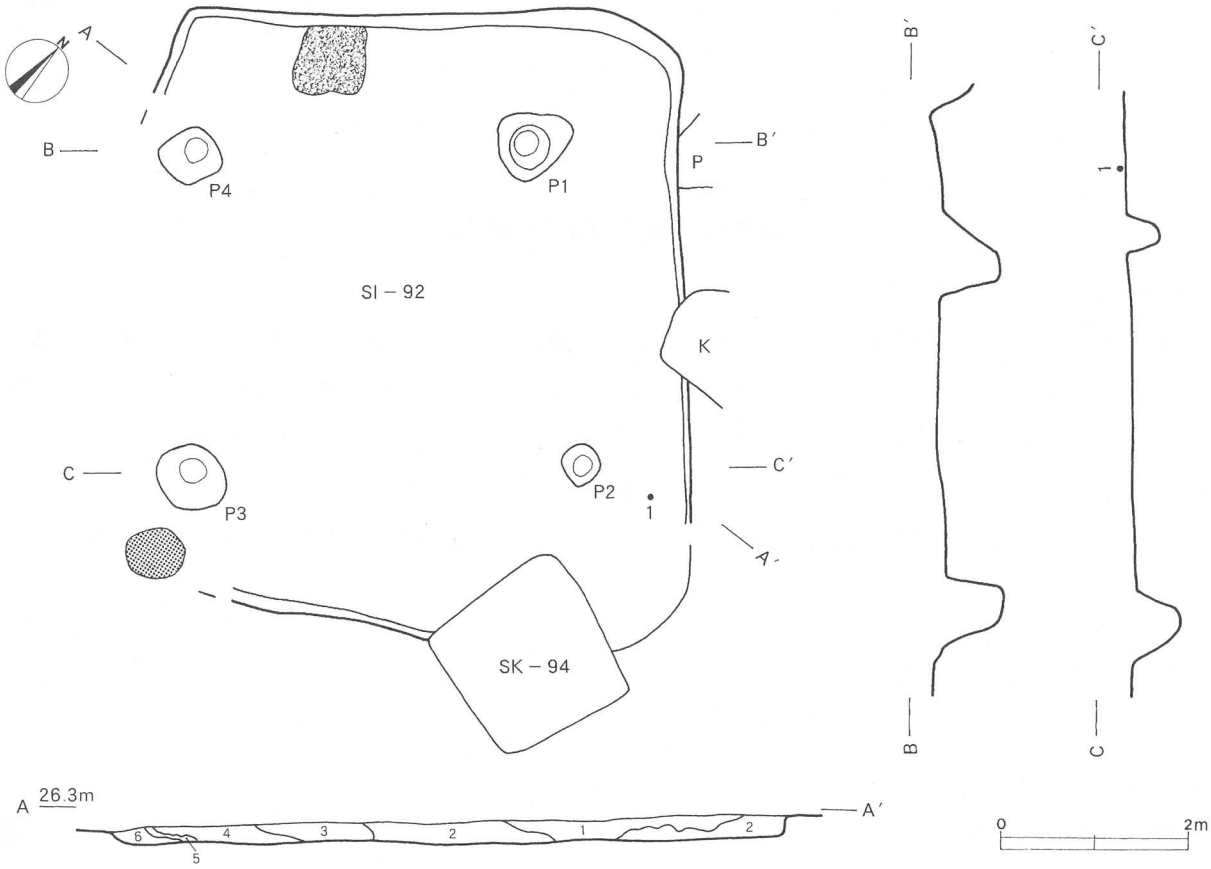
**位置** C-68区 **規模** 3.62×(1.80)×0.09m **形態** 方形あるいは長方形。**主軸方位** N-2°-W **竈** ①北壁中央部 ③1.94×(1.20)m ④1.47m ⑤0.07m ⑥14° ⑧灰白色砂質粘土 ⑨支脚が一部残存。長い煙道を持つ。**所見** 南壁際でSX-15と重複、本遺構が古い。



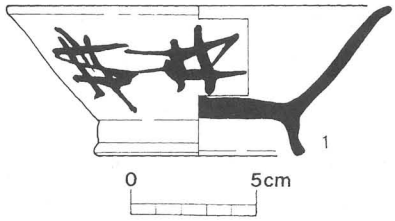

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第81図<br>1<br>SI-91 | 小型甕<br>土師器 | A[12.6]<br>B(10.2) | 口縁～胴部片。口縁部は外反し、口唇部を上方につまみ上げる。 | 胴部残存部下端に横位ヘラ削り。 | 長石・石英<br>雲母、橙色<br>普通 | 40%<br>二次焼成<br>竈内一括 |
| 2<br>SI-91 | 高台付皿<br>土師器 | A 9.7<br>B 3.6<br>D 4.4<br>E 1.3 | 平底で「ハ」の字状に強く開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。 | 内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英<br>にぶい黄橙色<br>黒色<br>普通 | 85% |

SI-92
1 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒少　ローム粒少
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒中
3 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少
4 7.5YR4/6 褐　色　炭化粒少　ローム粒少
5 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒中
6 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒中




第81図　竪穴住居跡(SI-91・92)

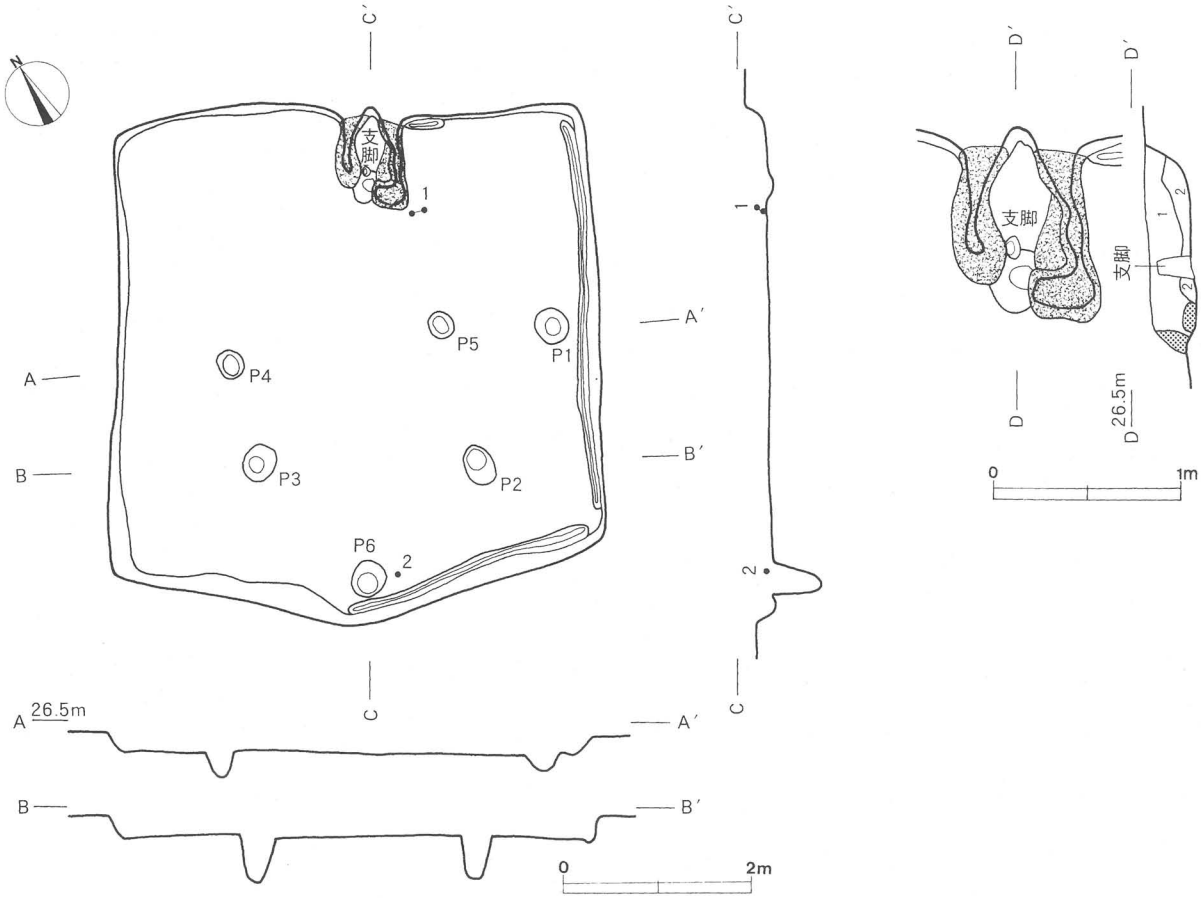
| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第82図<br>1 | 高台付杯<br>須恵器 | A　15.2<br>B　5.9<br>D　8.0<br>E　1.5 | 平底で「ハ」の字状に開く高い高台が付く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部回転糸切り後、高台貼り付け。 | 長石・石英<br>雲母<br>灰色・黄褐色<br>不良 | 75%<br>体部外面に墨書「井井」か内面に糊圧痕 |



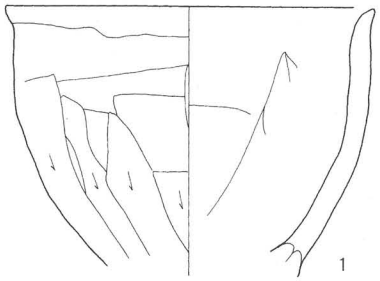

第82図　SI-92出土遺物

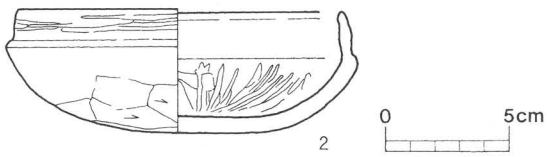
**SI-92**(第81・82図、PL31)〈平安時代〉

**位置**　E～F-70～71区　**規模**　6.66×〔5.94〕×0.30m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-38.5°-W　**ピット**　**P1**　0.78×0.72×0.63m　**P2**　0.42×0.46×0.30m　**P3**　0.70×0.67×0.52m　**P4**　0.58×0.56×0.64m　P1～P4は主柱穴と思われる。**竈**　北西壁西寄りに灰白色砂質粘土塊が残存しており、竈の一部が残存していたと思われる。**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　SK-94と重複、本遺構が古い。




1 5YR3/4　暗赤褐色　焼土大少・粒多　炭化粒少　ローム粒少
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　炭化粒少　ローム粒少



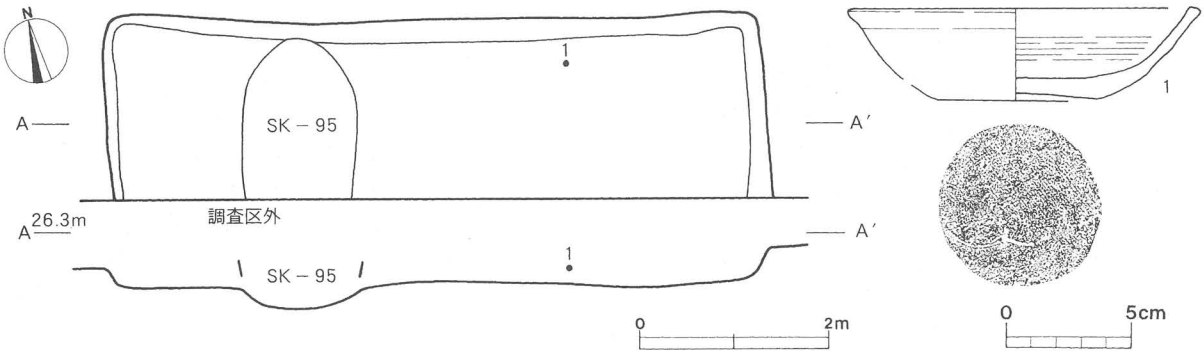




第83図　竪穴住居跡(SI-93)

**SI-93**（第83図、PL16・32）〈古墳時代後期〉

**位置**　G-69～70区　**規模**　5.38×5.26×0.18m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-33°-E　**床**　壁溝は東壁と南壁東側で検出。**ピット**　$P_1$　0.38×0.19m　$P_2$　0.44×0.30×0.45m　$P_3$　0.38×0.34×0.50m　$P_4$　0.30×0.27m　$P_5$　0.30×0.26×0.45m　$P_6$　0.38×0.55m　$P_2$、$P_3$は主柱穴、$P_6$は出入口施設に伴うピットと思われる。**竈**　①北壁中央部　③1.01×0.72m　⑤0.06m　⑥52°　⑧灰白色砂質粘土　⑨支脚が残存。**覆土**　上から極暗褐色土、黒褐色土、褐色土が堆積する。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第83図<br>1 | 鉢<br>土　師　器 | A　14.6<br>B　(10.6) | 底部欠損。胴部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。 | 胴部外面縦位ヘラ削り。内面上位横位ヘラナデ。下位縦位ヘラナデ。 | 長石・石英<br>にぶい赤褐色・褐灰色、普通 | 70%<br>二次焼成 |
| 2 | 杯<br>土　師　器 | A　12.7<br>B　4.9 | 丸底。口縁部との境に稜を持ち、口縁部は内彎気味に内傾する。 | 底体部ヘラ削り。内面放射状磨き。口縁部外面横位ヘラ磨き。 | 長石・石英<br>橙色・明赤褐色<br>普通 | 70% |




**第84図　竪穴住居跡（SI-95）**

**SI-95**（第84図、PL32）〈平安時代〉

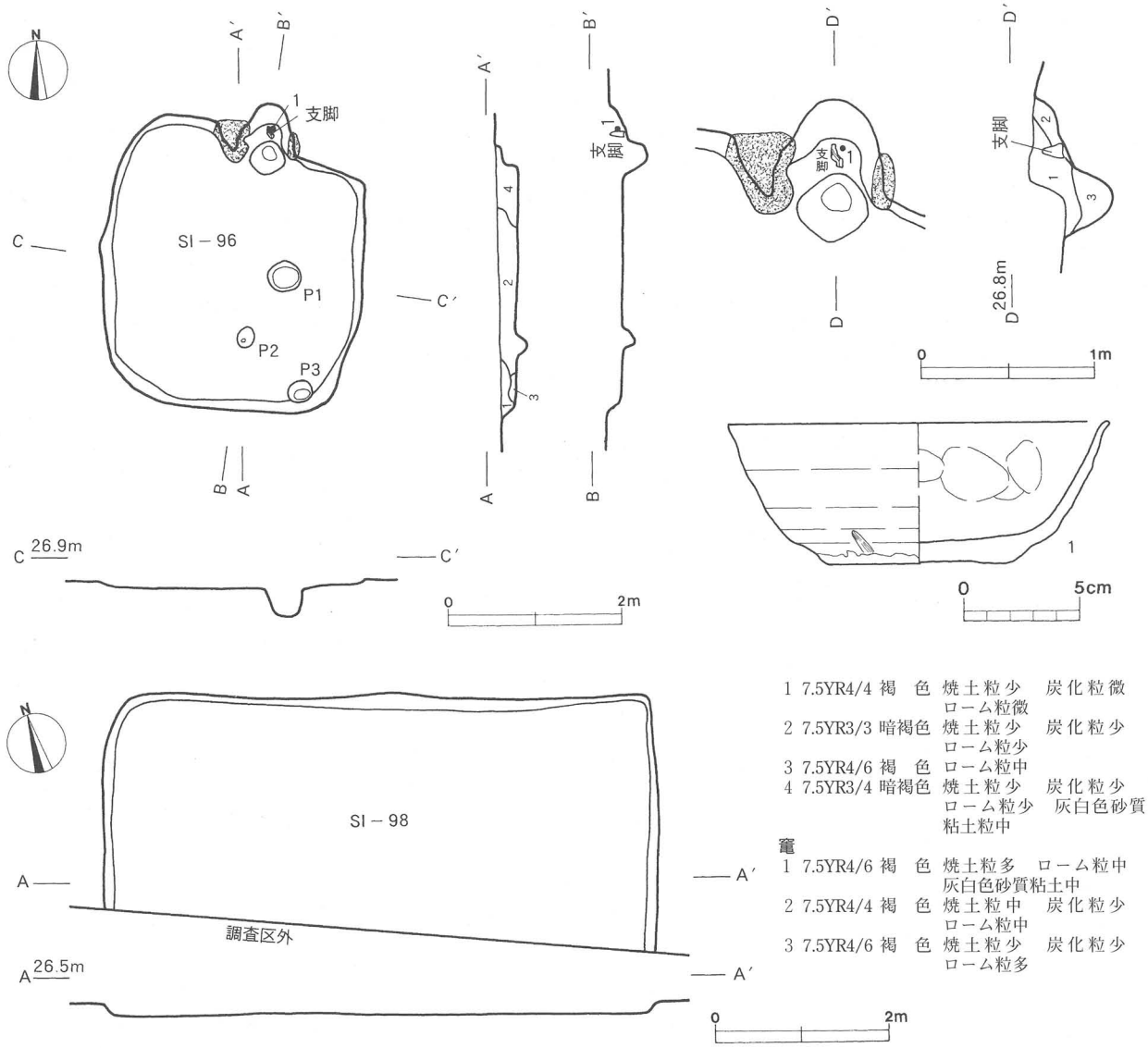
**位置**　F～G-73区　**規模**　7.02×(1.98)×0.38m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**〔N-5.5°-E〕

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第84図<br>1 | 杯<br>土　師　器 | A　[13.5]<br>B　3.6<br>C　6.5 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部は肥厚して端部に平坦面を持つ。 | 底部回転糸切り。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい橙色・にぶい黄橙色、普通 | 50% |

**SI-96**（第85図、PL16・32）〈平安時代〉

**位置**　H～I-66区　**規模**　3.33×3.04×0.25m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-10°-E　**ピット**　$P_1$　0.38×0.29m　$P_2$　0.24×0.19×0.13m　$P_3$　0.28×0.24×0.18m　**竈**　①北壁中央部　③0.82×1.00m　④0.24m　⑤0.08m　⑥31°　⑧灰白色砂質粘土　⑨黒雲母片岩の板状礫を支脚として使用。**覆土**　暗褐色土を主体とする。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第85図<br>1<br>SI-96 | 杯<br>土　師　器 | A　[16.3]<br>B　6.0<br>C　[ 8.0] | 平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部回転糸切り。 | 長石・石英<br>にぶい赤褐色<br>普通 | 40%<br>二次焼成 |



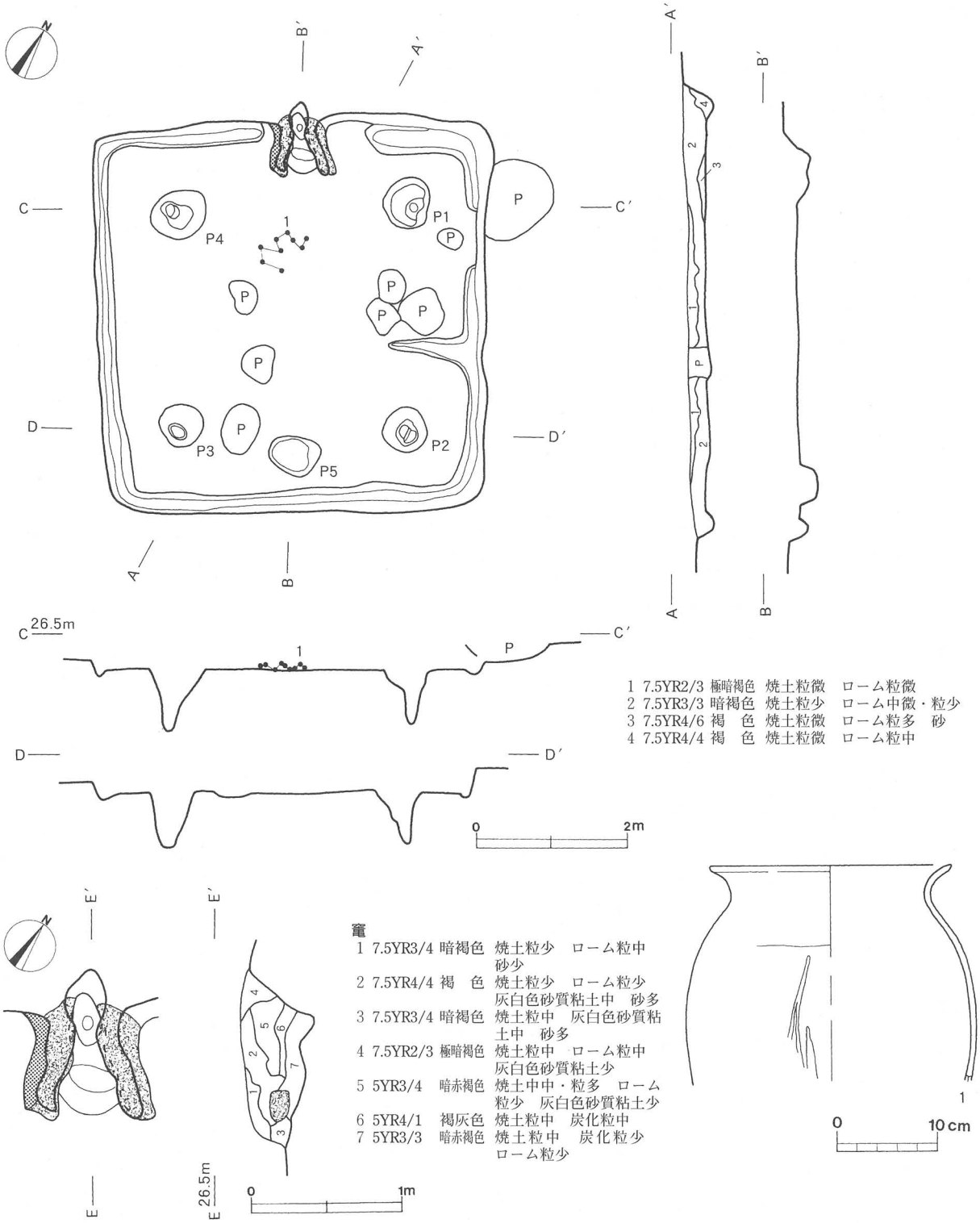

**第85図　竪穴住居跡(SI-96・98)**

**SI-98**(第85図)〈平安時代〉

**位置**　I～J-73区　**規模**　6.38×(2.92)×0.12m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　〔N-5°-E〕　**所見**　南側の大半が調査区域外に残る。

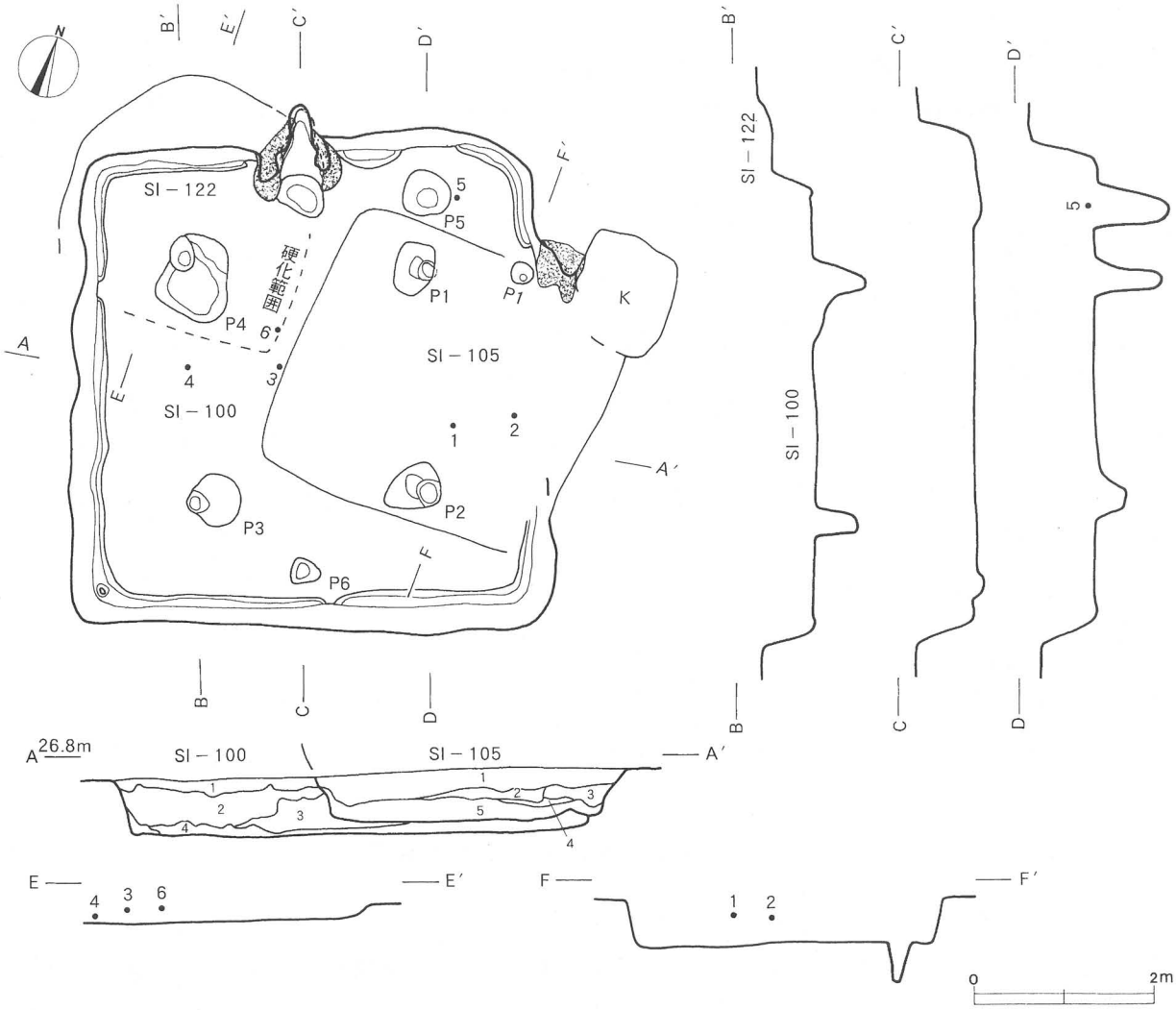
**SI-97**(第86図、PL16・32)〈古墳時代後期〉

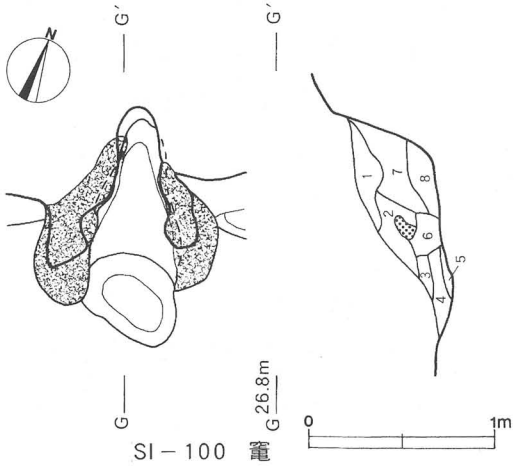
**位置**　H～I-72区　**規模**　5.32×5.26×0.31m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-29.5°-W　**床**　壁溝はほぼ全周。北東壁から中央に向かって延びる間仕切り溝を1条検出。**ピット**　**$P_1$**　0.68×0.60×0.72m　**$P_2$**　0.61×0.58×0.68m　**$P_3$**　0.38×0.74m　**$P_4$**　0.72×0.64×0.80m　**$P_5$**　0.64×0.52×0.24m　$P_1$～$P_4$は主柱穴、$P_5$は出入口施設に伴うピットと思われる。**竈**　①北西壁中央部　③0.95×0.85m　④0.22m　⑤0.13m　⑥56°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　上から極暗褐色土、暗褐色土、褐色土が堆積する。




## 第86図 竪穴住居跡(SI-97)

| 図版番号 | 器 種 | 法量(cm) | 器 形 の 特 徴 | 技 法 の 特 徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第86図<br>1 | 甕<br>土 師 器 | A [23.9]<br>B (21.5) | 口縁～胴部片。口縁部は強く外反する。 | 胴部外面下位に縦位ヘラ磨き。内・外面とも丁寧なナデ。 | 長石・石英<br>橙色・にぶい橙色<br>普通 | 30% |




SI－100　竈

**SI-105**

1 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒少
2 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　炭化粒微　灰白色砂質粘土粒中
3 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒少
4 7.5YR2/2 黒褐色　炭化粒微　ローム粒少
5 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒少

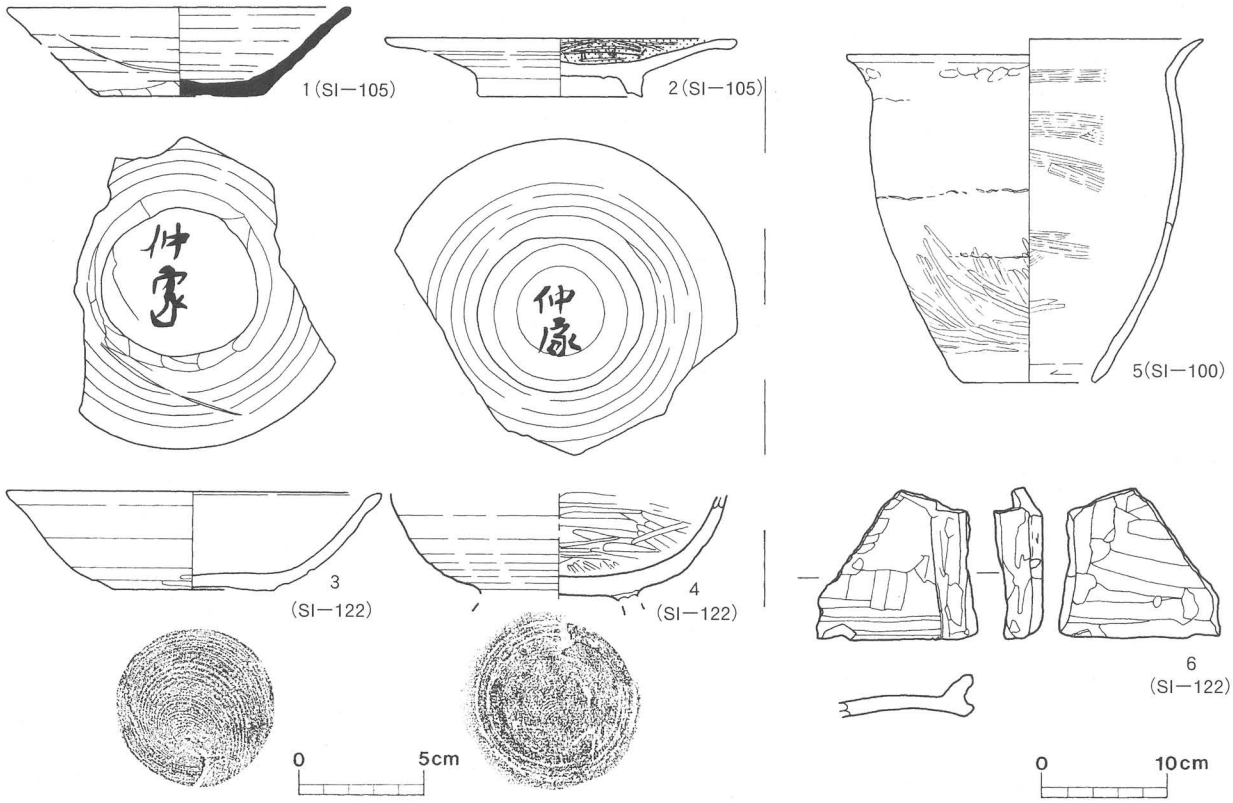
**SI-100**

1 7.5YR3/3 暗褐色　ローム粒中
2 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒微　ローム小少・粒中
3 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　炭化粒少　ローム大～中微・粒中
4 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　ローム小少・粒多　灰白色砂質粘土粒中
5 7.5YR4/6 褐　色　ローム粒中

**竈**

1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土中
2 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土少
3 7.5YR4/3 褐　色　焼土粒中　灰白色砂質粘土中　灰少
4 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒多　ローム粒中　灰白色砂質粘土中
5 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒少　ローム粒多
6 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　ローム粒少
7 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　ローム粒微　灰白色砂質粘土中
8 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒中　灰白色砂質粘土少

**第87図　竪穴住居跡(SI-100・105・122)**




**第88図　SI-100・105・122出土遺物**

**SI-100**(第87・88図、PL17・32)〈古墳時代後期〉

**位置**　H～I-62～63区　**規模**　5.58×5.42×0.70m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-11°-W　**床**　壁溝はほぼ全周。全面硬化。**ピット**　**P1**　0.58×0.44×0.78m　**P2**　0.66×0.50×0.31m　**P3**　0.60×0.47m　**P4**　0.90×0.81×0.59m　**P5**　0.52×0.50×0.78m　**P6**　0.34×0.30×0.07m　$P_1$～$P_4$は主柱穴、$P_6$は出入口施設に伴うピットと思われる。**竈**　①北壁やや西寄り　③1.26×0.96m　④0.34m　⑤0.09m　⑥67°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　極暗褐色土を主体とする。　**所見**　SI-105・122と重複、本遺構が古い。

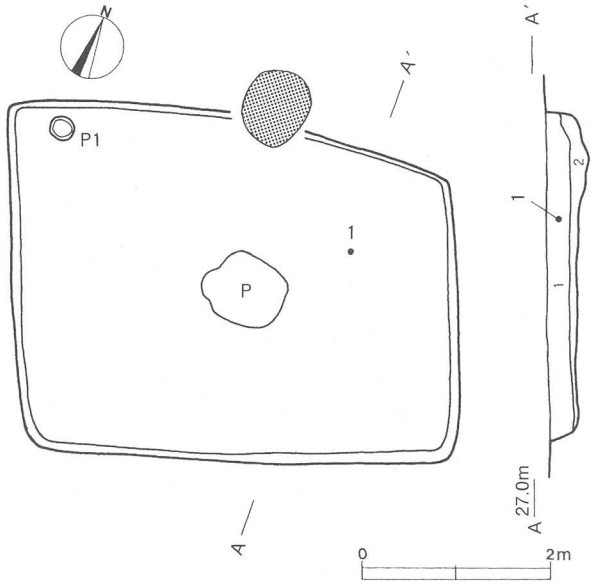
**SI-105**(第87・88図、PL17・32)〈平安時代〉

**位置**　I-62～63区　**規模**　〔3.44〕×〔3.10〕×0.56m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-12°-E　**ピット**　**P1**　0.26×0.22×0.40m　**竈**　①北壁東寄りに西側袖部の一部と思われる灰白色砂質粘土塊が残存。火床部等は後世の撹乱により損壊している。**覆土**　極暗褐色土を主体とする。**遺物**　『仲家』等墨書土器が3点出土している。**所見**　SI-100と重複、本遺構が新しい。

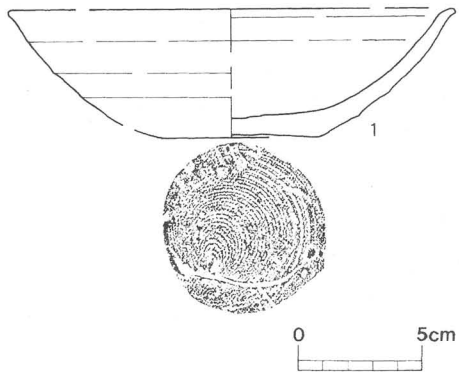
**SI-122**(第87・88図、PL17・32)〈平安時代〉

**位置**　H-62区　**規模**　不明、壁高0.20m　**遺物**　置き竈焚口部破片が出土。**所見**　SI-100、105の調査中に住居跡の床と同程度の硬化面を検出し、広さから住居跡として記録を採る。僅かにSI-100の竈を削平している。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第88図<br>1<br>SI-105 | 杯<br>須　恵　器 | A　[13.4]<br>B　3.6<br>C　6.3 | 平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部切り離し後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>黄褐色・黒褐色<br>不良 | 50%<br>底部外面に墨書「仲家」 |
| 2<br>SI-105 | 高台付皿<br>土　師　器 | A　[13.8]<br>B　2.3<br>D　6.4<br>E　0.8 | 平底で下方へほぼ垂直にのびる高台が付く。体部は浅く開き、口縁部は肥厚して外反気味になる。 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。内面ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母<br>明褐色・黒色<br>普通 | 75%<br>底部外面に墨書「仲家」 |
| 3<br>SI-122 | 杯<br>土　師　器 | A　14.8<br>B　3.9<br>C　6.3 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部はやや外反し、上部に平坦面を持つ。 | 底部回転糸切り。 | 長石<br>にぶい黄橙色<br>普通 | 60% |
| 4<br>SI-122 | 高台付杯<br>土　師　器 | B　( 4.1) | 高台部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 底部回転糸切り後、高台貼り付け。内面横位ヘラ磨き。 | 長石・雲母<br>橙色・にぶい橙色<br>普通 | 60% |
| 5<br>SI-100 | 甑<br>土　師　器 | A　28.7<br>B　27.6<br>C　10.7 | 無底式。胴部上位に最大径を持つ。胴部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は「ハ」の字状に外反する。 | 胴部外面下半に縦位ヘラ磨き。内面丁寧なナデ後横位ヘラナデ。底孔周辺ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい黄橙色<br>良好 | 98% |
| 6<br>SI-122 | 置　　竈 | 最大長12.0<br>最大幅13.1 | 焚口部片。焚口部に縦位の突帯を持つ。 | 内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい黄橙色・橙色、普通 | 100% |




1 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒微　ローム粒少　灰白色砂質粘土粒少
2 7.5YR3/3 暗褐色　焼土中中　炭化粒少　ローム粒中　締り極強

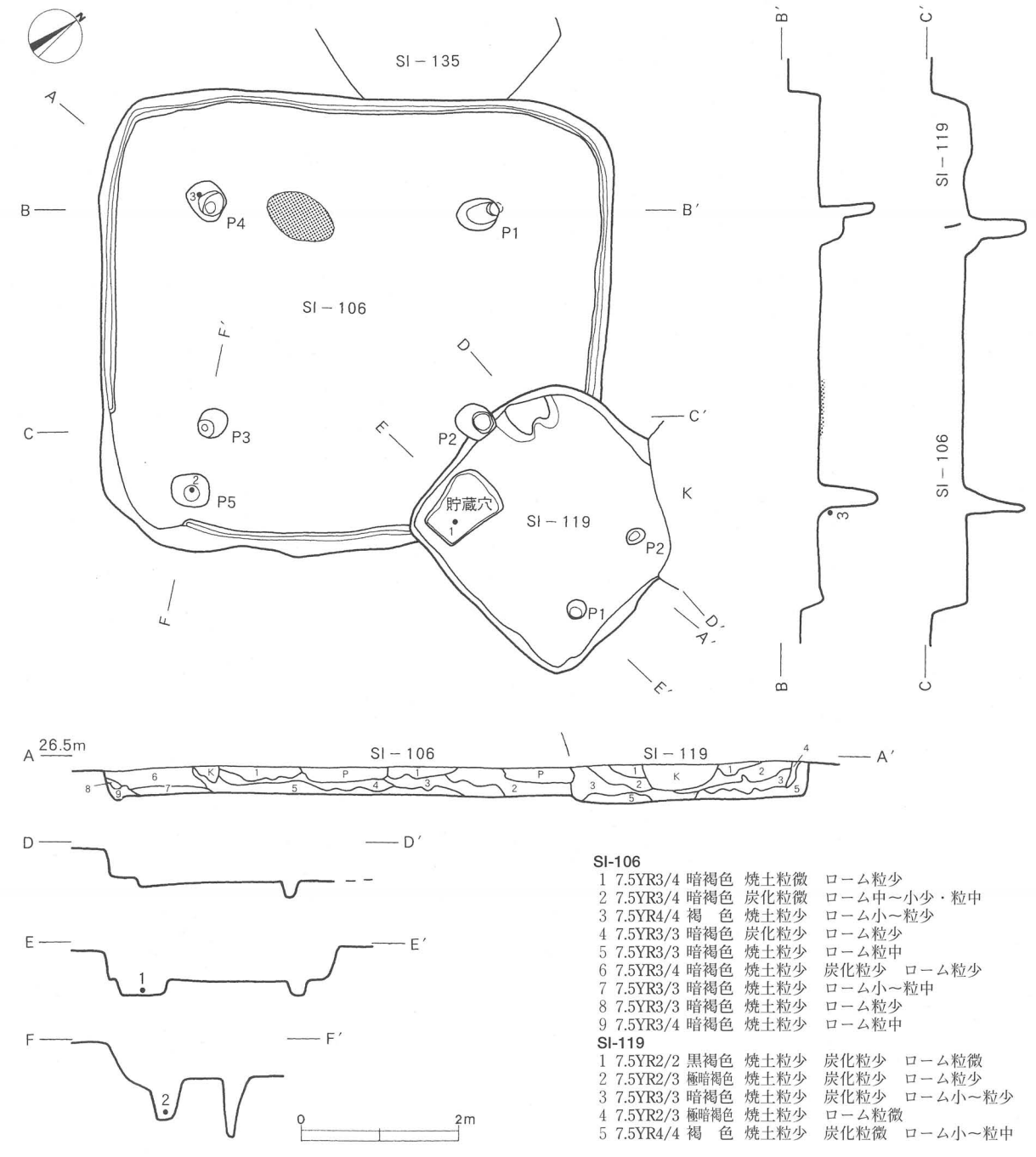



**第89図　竪穴住居跡(SI-101)**

**SI-101**(第89図、PL17・32)〈平安時代〉

**位置**　N～O-64～65区　**規模**　〔4.75〕×〔3.70〕×0.26m　**形態**　長方形と推定。**主軸方位**　〔N-21°-W〕**床**　全面にロームを使用した貼床を施す。**ピット**　$P_1$　0.26×0.20m　**竈**　北壁中央部に被熱赤化した箇所を検出。竈火床部と推定されるが竈本体は残存していない。**覆土**　黒褐色土を主体とする。2層は貼床。**所見**　SI-42・43・113と重複、本遺構が新しい。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第89図<br>1 | 椀<br>土　師　器 | A　[17.7]<br>B　5.0<br>C　6.2 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁端部が外反する。 | 底部回転糸切り。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい褐色<br>普通 | 45% |




第90図　竪穴住居跡（SI-106・119）

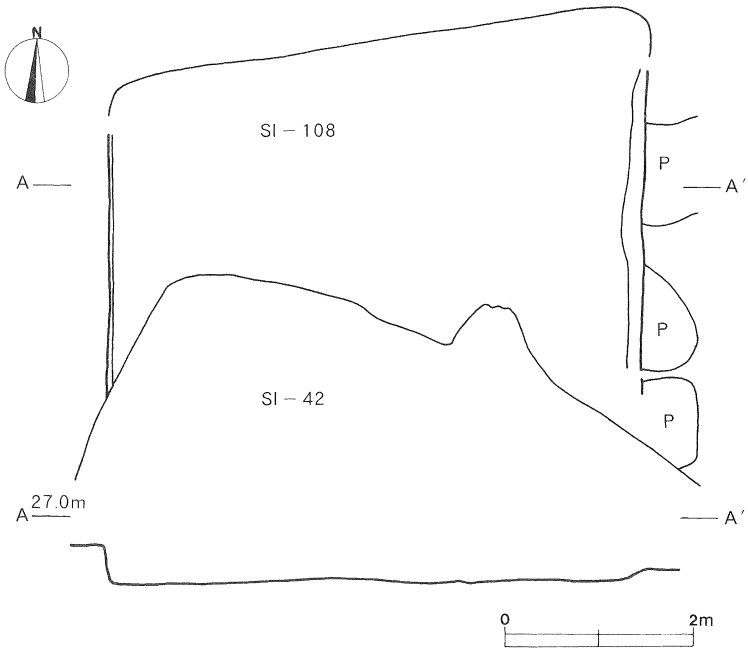
**SI-106**(第90図、PL17・32)〈古墳時代前期〉

**位置**　E～F-62区　**規模**　6.46×5.77×0.42m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-53°-W　**床**　壁溝は南隅を除き全周。全面硬化。**ピット**　$P_1$　0.46×0.40×0.68m　$P_2$　0.46×0.43×0.74m　$P_3$　0.36×0.74m　$P_4$　0.52×0.42×0.71m　$P_5$　0.50×0.42×0.52m　$P_1$～$P_4$は主柱穴と思われる。**炉**　①北西壁寄り　②0.88×0.58m　楕円形　**覆土**　暗褐色土を主体とする。**遺物**　複合口縁に棒状浮文を貼り付けた利根川以西の影響を受けた装飾付壺や刷毛目を施す甕などが覆土中から床面直上にかけて検出。**所見**　SI-119・135と重複、本遺構が古い。

**SI-119**(第90図、PL17・18・32)〈古墳時代中期〉

**位置**　F-62区　**規模**　3.00×2.98×0.46m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-82°-E　**床**　西壁北寄りに床との比高差約10cmの棚状遺構を検出。**ピット**　$P_1$　0.24×0.13m　$P_2$　0.26×0.20×0.18m、共に主柱穴と思われる。**貯蔵穴**　①南西隅　②0.92×0.68×0.15m　長方形　③覆土は2層からなり、上層はローム粒子を少量含む暗褐色土。下層はロームブロックを多量に含む明褐色土である。上層から完形の坩が出土した。**覆土**　上から黒褐色土、極暗褐色土、暗褐色土、褐色土が堆積する。**遺物**　棚状遺構の上面に壺、高杯の完形、一部欠損品がまとまって出土した。**所見**　SI-106と重複、本遺構が新しい。

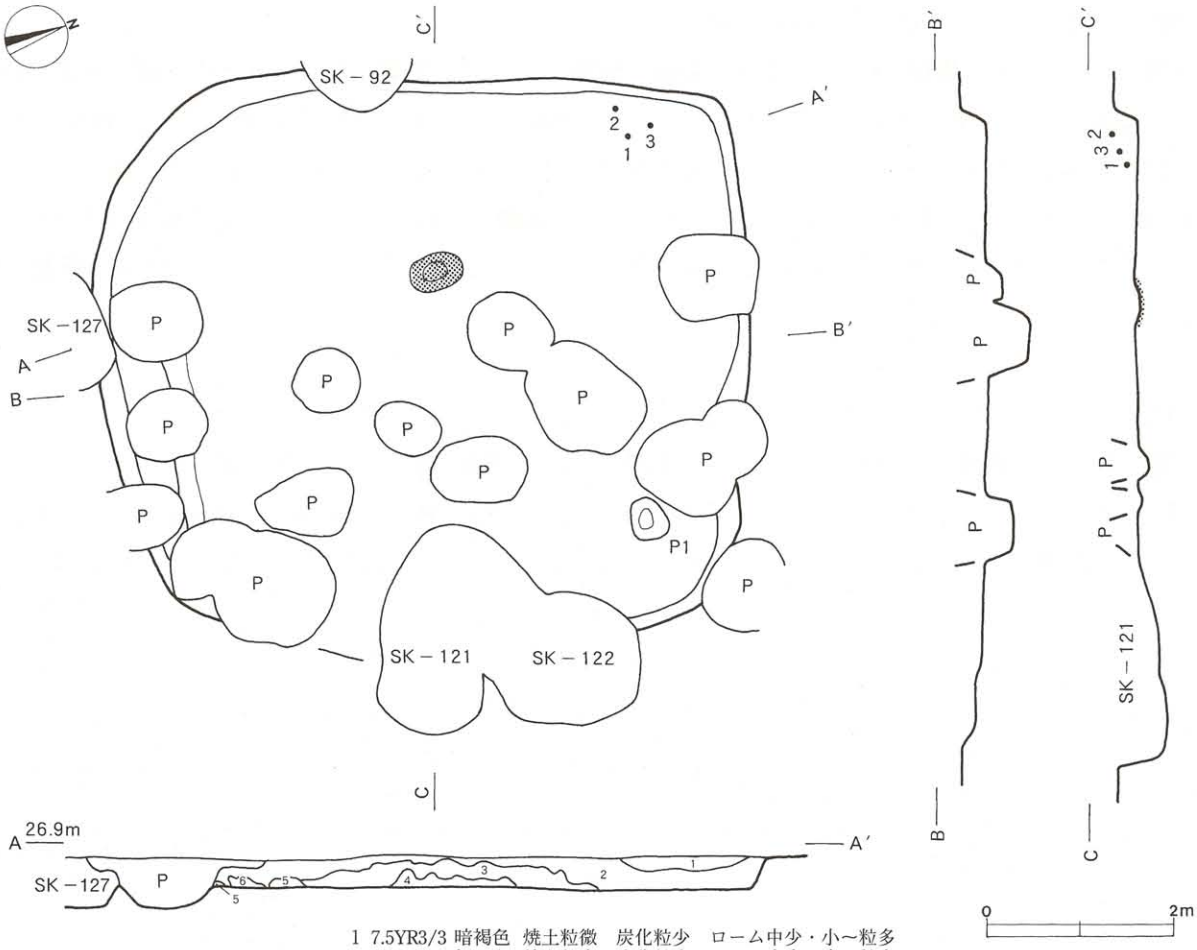
| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第90図<br>1<br>SI-119 | 坩<br>土師器 | A 11.9<br>B 12.8<br>C 2.6 | 平底。体部は球形を呈する。口縁部は直線的に外傾する。 | 体部外面横位ヘラ磨き。下端ヘラナデ。内面ヘラナデ。口縁部内・外面斜位ヘラ磨き。 | 長石・雲母<br>にぶい褐色・にぶい黄橙色 | 100%<br>外面・底部内面に煤付着 |
| 2<br>SI-106 | 器台<br>土師器 | A 8.1<br>B 7.8<br>D 11.5<br>E 5.5 | 脚部は「ハ」の字状に強く開く。受部は内彎気味に立ち上がる。脚部3穴穿孔。 | 受部内・外面刷毛目調整。内面のみその後ナデ。脚部内・外面刷毛目調整。外面その後縦位ヘラ磨き。内面その後上半部に横位ヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>橙色・にぶい橙色<br>普通 | 98% |
| 3<br>SI-106 | 甕<br>土師器 | A 16.8<br>B 21.1<br>C 4.2 | 平底。胴部は球形を呈する。頸部は「く」の字状に屈曲し，口縁部は外反する。 | 底部・胴部下端ヘラ削り。頸部以下外面刷毛目調整。内面ヘラナデ。口縁部内・外面ヨコナデ。 | 長石・石英・赤色粒、明赤褐色・橙色、普通 | 85%<br>外面に煤付着 |




第91図　竪穴住居跡(SI-108)

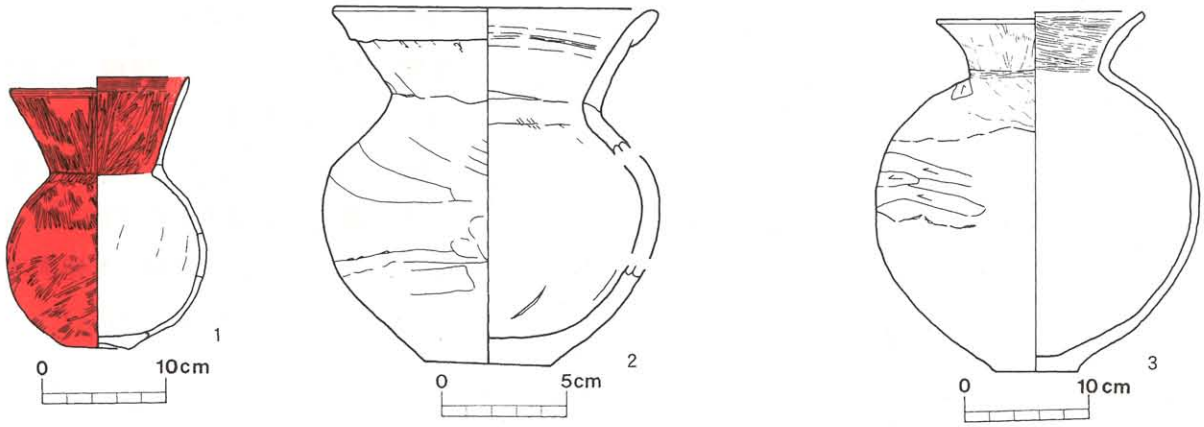
**SI-108**(第91図)〈平安時代〉

**位置**　M-63～64区　**規模**　5.64×(3.20)×0.40m　**形態**　方形あるいは長方形。**床**　全面にロームを主体とした貼床を施す。**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　SI-33・37・42と重複、本遺構はSI-33・37より新しく、SI-42より古い。




1 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 炭化粒少 ローム中少・小～粒多
2 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒中 炭化粒少 ローム大中・中～粒多
3 7.5YR2/1 黒 色 焼土粒中 炭化粒少 ローム粒少 締り強
4 7.5YR2/3 極暗褐色 焼土粒中 ローム粒少
5 7.5YR4/3 褐 色 ローム粒多 締り強

**第92図 竪穴住居跡(SI-107)**



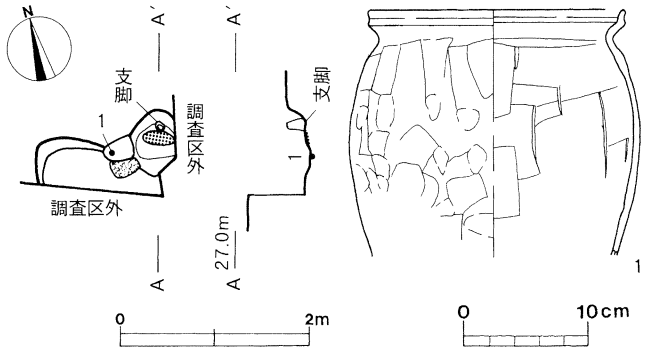

**第93図 出土遺物**

**SI-107**(第92・93図、PL32)〈古墳時代中期〉

**位置** K-60～61区 **規模** 6.82×5.84×0.34m **形態** 長方形 **主軸方位** N-71°-W **ピット** **P1** 0.46×0.40×0.31m **炉** ①西壁寄り中央部 ②0.57×0.39m 楕円形 **覆土** 褐色土、黒色土を主体と

する。**遺物**　北西隅に複合口縁壺や坩などがまとまって出土した。**所見**　平安時代の土坑群と重複するため、遺構の遺存状態は悪い。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第93図<br>1 | 壺<br>土　師　器 | A　14.2<br>B　21.7<br>C　5.3 | 平底。胴部は球形を呈する。頸部内面に稜を持つ。口縁部は長く直線的に外傾する。 | 頸部内・外面縦位ヘラ磨き。胴部外面上位に縦位、下位に横位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。外面・頸部内面赤彩。 | 長石・石英<br>赤色<br>普通 | 95% |
| 2 | 小　型　壺<br>土　師　器 | A　12.6<br>B　14.1<br>C　5.0 | 平底。胴部中位に最大径を持つ。頸部は外反し、折り返し口縁となっている。 | 胴部外面ヘラナデ。上位に太い磨き。内面ヘラナデ。頸部以上横ナデ。 | 長石・石英・赤色粒、にぶい黄橙色・橙色、普通 | 60% |
| 3 | 壺<br>土　師　器 | A　16.4<br>B　28.7<br>C　6.7 | 平底。胴部は球形を呈する。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁部は大きく外反する。端部に平坦面を持つ。 | 頸部外面刷毛目調整後縦位ヘラ磨き。内面横位ヘラ磨き。胴部外面ヘラ削り後ナデあるいは磨き。内面丁寧なナデ。 | 長石・赤色粒<br>にぶい橙色・灰褐色<br>普通 | 85%<br>赤彩か？ |




第94図　竪穴住居跡(SI-112)

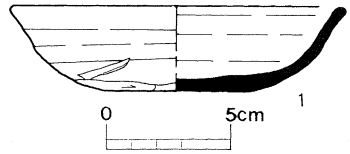
**SI-112**(第94図、PL33)〈平安時代〉

**位置**　R-75区　**規模**　(1.48)×(0.54)×0.20m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　N-7°-E　**竈**①北壁中央部と推定。③0.60×(0.71)m　④0.34m　⑤0.07m⑥58°　⑧灰白色砂質粘土　⑨支脚が残存。**覆土**　黒褐色土を主体とする。**所見**　遺構の大半は調査区域外に残る。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第94図<br>1 | 甕<br>土　師　器 | A　20.4<br>B　(19.7) | 口縁～胴部片。口縁部は短く外反し、口唇部を上方につまみ上げる。 | 胴部外面縦位ヘラナデ、指頭痕。内面横位ヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい橙色・にぶい褐色、普通 | 30%<br>二次焼成 |

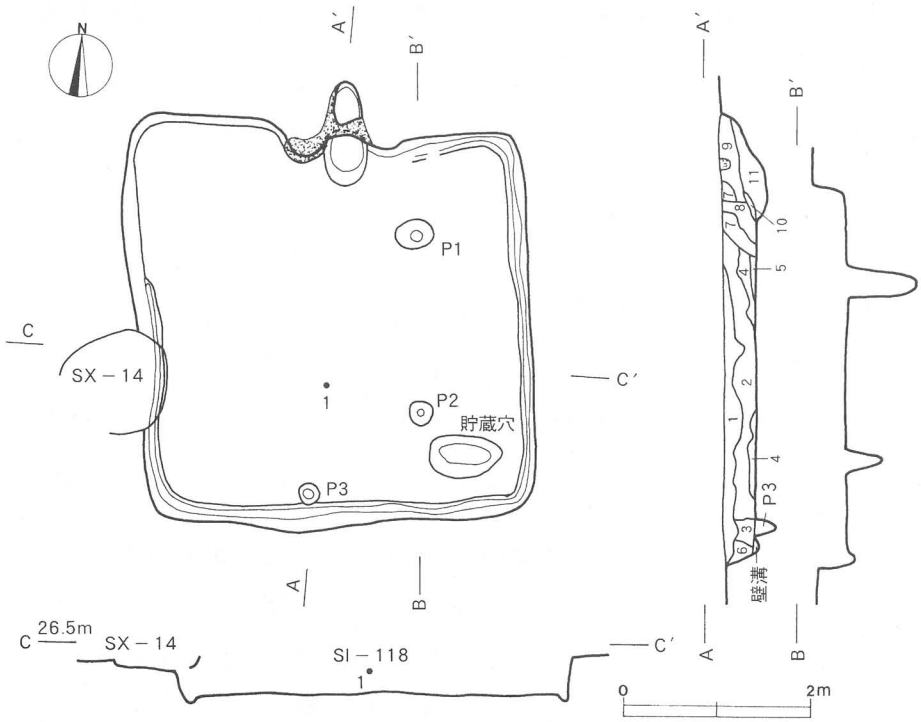
**SI-118**(第95・96図、PL18・33)〈平安時代〉

**位置**　E-64区　**規模**　4.34×4.26×0.40m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-4°-W　**床**　壁溝は竈東側から東壁、南壁をめぐって西壁の途中まで検出。**ピット**　**$P_1$**　0.40×0.32×0.74m　**$P_2$**　0.26×0.37m　**$P_3$**　0.20×0.23m　$P_1$、$P_2$は主柱穴、$P_3$は出入口施設に伴うピットと思われる。**貯蔵穴**　①南東隅　②0.78×0.46m　楕円形　**竈**　①北壁中央部　③1.10×1.30m　④0.44m　⑤0.14m　⑥37°　⑦0.46×0.28m　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　上から暗褐色土、褐色土が堆積する。**所見**　SX-14と重複、本遺構が古い。



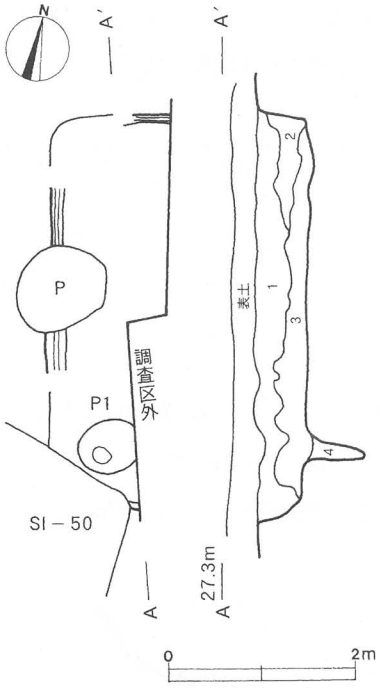

第95図　SI-118出土遺物

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第95図<br>1 | 杯<br>須　恵　器 | A　[13.1]<br>B　3.4<br>C　5.9 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 底部切り離し後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・雲母<br>浅黄色・暗灰黄色<br>普通 | 50% |




1 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒微　ローム粒中
2 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　炭化粒少　ローム小少・粒中
3 7.5YR4/4 褐　色　炭化粒少　ローム粒多
4 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒中　炭化粒中　ローム粒少　砂少
5 7.5YR4/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中　砂多
6 7.5YR4/4 褐　色　ローム中中・粒中
7 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　ローム粒少灰白色砂質粘土中
8 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少灰白色砂質粘土中
9 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒中　炭化粒少　灰白色砂質粘土中
10 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒多　炭化粒中　ローム粒少　灰白色砂質粘土中
11 5YR4/6　褐　色　焼土小～粒多　ローム粒中

**第96図　竪穴住居跡（SI-118）**

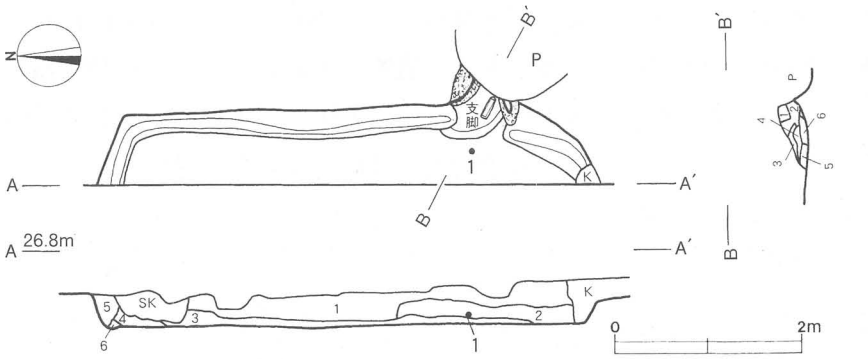



1 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒少
2 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒少　ローム中少・小～粒中
3 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少
4 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒少　ローム粒少

**第97図　竪穴住居跡（SI-104）**

**SI-104**（第97図）〈平安時代〉

**位置**　P-64～65区　**規模**　4.17×（1.24）×0.52m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　［N-9.5°-W］　**床**　壁溝は北壁、西壁で検出。**ピット**　$P_1$　〔0.66〕×0.55×0.62m　**覆土**　上から黒褐色土、暗褐色土が堆積する。**所見**　SI-49b・50と重複。本遺構はSI-49bより新しくSI-50より古い。



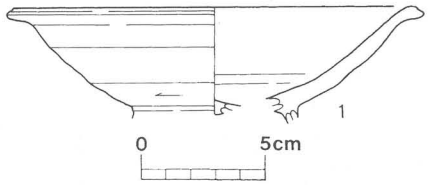

1 10YR3/3 暗褐色 炭化粒少 ローム粒少
2 10YR3/3 暗褐色 焼土粒少 ローム粒微
3 10YR4/6 褐 色 焼土粒中 炭化粒中 ローム粒微 締り強
4 10YR3/4 暗褐色 ローム粒中
5 10YR2/2 黒褐色 ローム粒少
6 10YR4/6 褐 色 ローム粒少

竈
1 7.5YR4/6 褐 色 焼土粒中 灰白色砂質粘土少
2 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒少 炭化粒中 灰白色砂質粘土微
3 7.5YR5/6 明褐色 焼土粒多 灰白色砂質粘土多灰少
4 7.5YR4/6 褐 色 焼土粒中 ローム粒少 灰中
5 5YR3/6 暗赤褐色 焼土粒中 ローム粒中
6 7.5YR5/8 明褐色 ローム粒多

**第98図 竪穴住居跡(SI-120)**

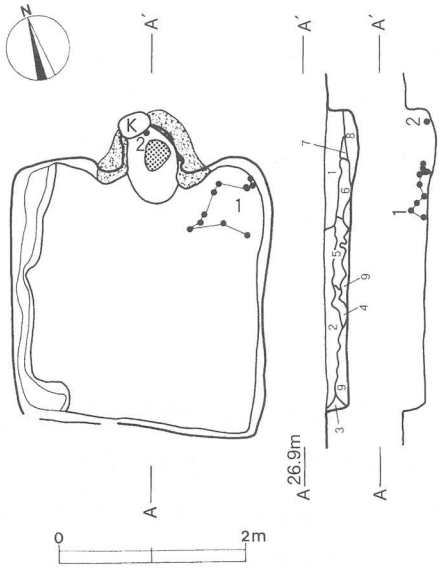
**SI-120**(第98・99図、PL33)〈平安時代〉

**位置** C-64区 **規模** 〔5.34〕×(0.84)×0.34m **形態** 方形あるいは長方形。**主軸方位** N-90°-E **床** 壁溝は調査区域内では全周。**竈** ①東壁南東隅寄り ②N-112.5°-E③(0.63)×0.76m ④(0.20)m ⑤0.07m ⑥〔59°〕 ⑧灰白色砂質粘土 ⑨黒雲母片岩礫を支脚として使用。**覆土** 暗褐色土を主体とする。**所見** 遺構の西側大半が調査区域外に残る。

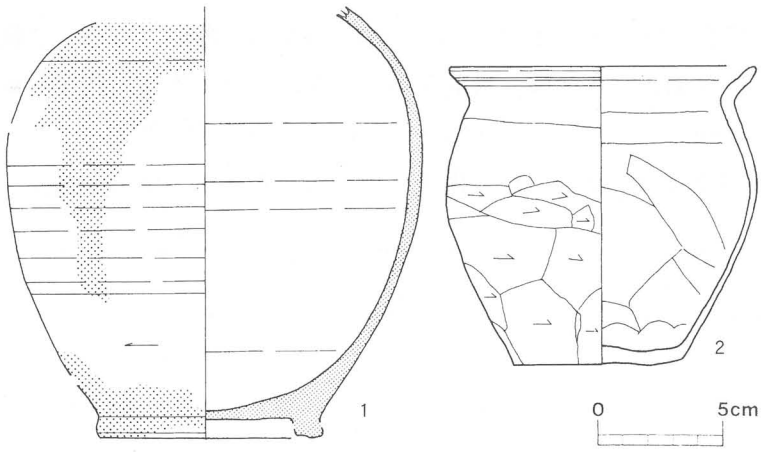



**第99図 出土遺物**

| 図版番号 | 器 種 | 法量(cm) | 器 形 の 特 徴 | 技 法 の 特 徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第99図 1 | 高台付杯 土師器 | A [16.0] B ( 4.6) | 高台部欠損。体部は浅く内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。 | 体部下端回転ヘラ削り。 | 長石・石英 橙色 普通 | 50% |




1 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒多 炭化粒中 ローム粒少 灰白色砂質粘土中
2 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒少 炭化粒中 ローム粒少
3 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒少 ローム粒中
4 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒中 炭化粒中 ローム粒微
5 7.5YR2/3 極暗褐色 焼土粒少 炭化粒中 ローム粒少 灰白色砂質粘土少
6 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒少
7 5YR4/6 赤褐色 焼土粒多
8 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒中 炭化粒少 ローム粒中 灰白色砂質粘土微
9 7.5YR2/2 黒褐色 焼土粒少 炭化粒多 ローム粒中



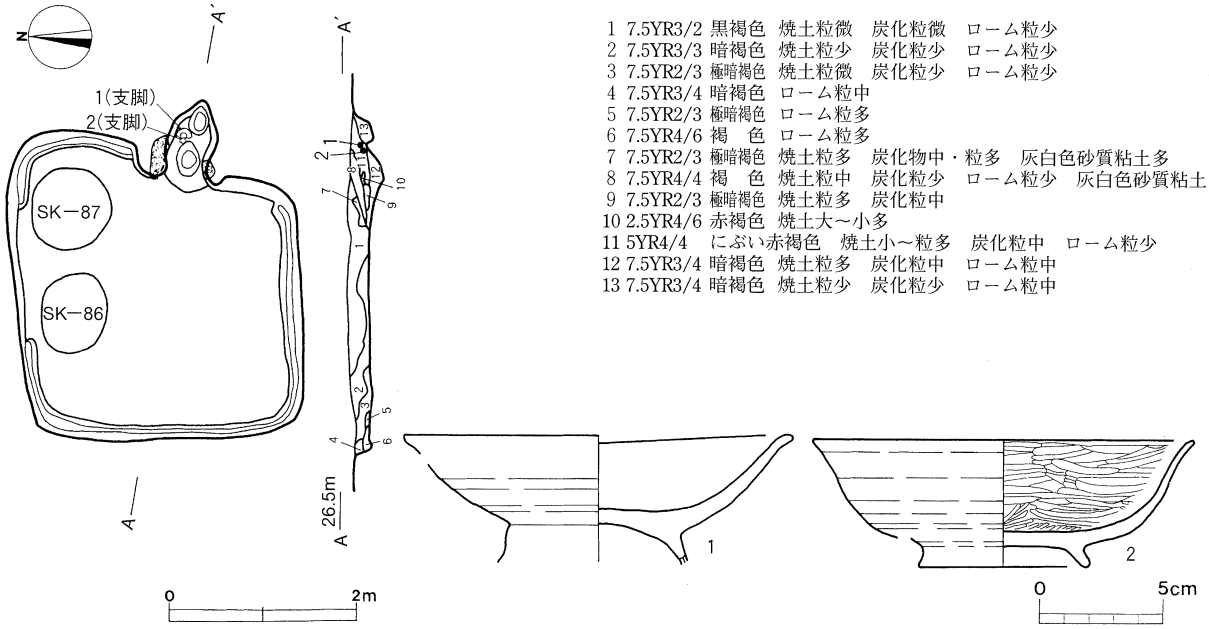

**第100図 竪穴住居跡(SI-123)**

**SI-123**(第100図、PL18・19・33)〈平安時代〉

**位置** J～K-52～53区 **規模** 2.98×2.80×0.34m **形態** 方形 **主軸方位** N-14.5°-E **床** 壁溝は西壁で

検出。中央部が硬化。**竈**　①北壁中央部　③0.98×1.24m　④0.36m　⑤0.12m　⑥90°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　上から暗褐色土、極暗褐色土、黒褐色土が堆積する。**遺物**　竈前面東寄りに灰釉陶器の長頸瓶(第100図1)が破砕投棄されていた。竈内からは竈本体の破壊後に火床部の上に置いた状態で白色針状物質入りの小型甕(同図2)が1個体出土した。**所見**　灰釉陶器の破砕投棄や白色針状物質入りの小型甕の埋納行為などが注目すべき点である。

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第100図<br>1 | 長頸瓶<br>灰釉陶器 | B (16.9)<br>D [ 8.8]<br>E 0.7 | 頸部以上欠損。平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。接地面は縁辺。胴部は内彎して立ち上がる。 | 底部回転糸切り後、高台貼り付け。胴部下位回転ヘラ削り。 | 長石・黒色粒子<br>灰白色・灰オリーブ色(釉)、良好 | 60% |
| 2 | 小型甕<br>土師器 | A 12.1<br>B 11.7<br>C 6.8 | 平底。胴部上位に最大径を持つ。口縁部は短く外反し、口唇部を外上方につまみ上げる。 | 胴部外面中位以下横位ヘラ削り。内面ヘラナデ。 | 長石・石英<br>にぶい褐色・にぶい橙色、普通 | 85% |

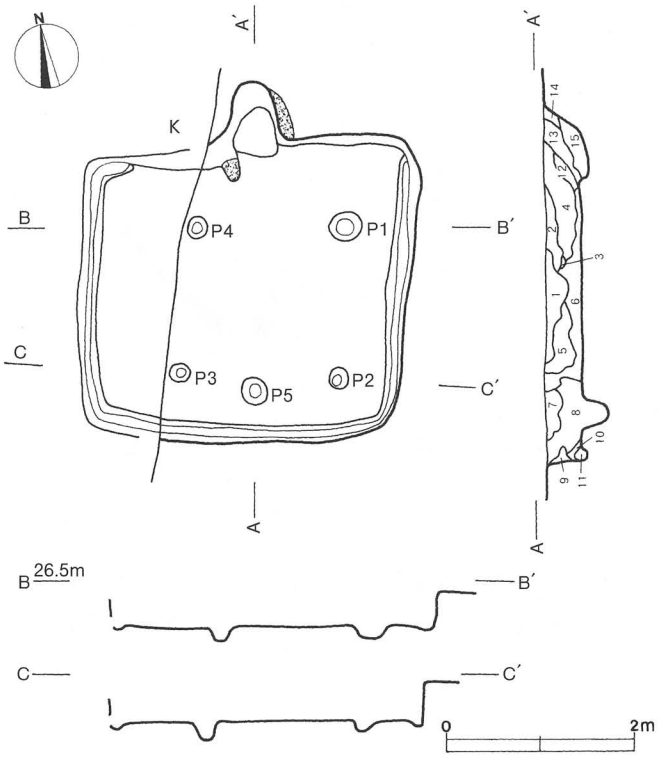



**第101図　竪穴住居跡(SI-124)**

**SI-124**(第101図、PL19・33)〈平安時代〉

**位置**　D-60区　**規模**　3.24×3.08×0.15m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-89°-E　**床**　壁溝は竈南側と北壁中央部を除き全周。竈前面から西壁にかけて帯状に硬化。**竈**　①東壁中央部　②N-100.5°-E　③0.98×0.96m　④0.62m　⑤0.15m　⑥62°　⑧灰白色砂質粘土　⑨支脚として使用したと思われる高台付杯2点と礫1点が出土した。**覆土**　黒褐色土を主体とする。**所見**　SK-86・87と重複、本遺構が古い。

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第101図<br>1 | 高台付杯<br>土師器 | A 15.4<br>B ( 5.1) | 高台端部欠損。「ハ」の字状に開く足高高台が付く。 | 内・外面横ナデ。 | 長石・雲母<br>にぶい黄橙色・にぶい橙色、普通 | 60%<br>支脚に転用 |
| 2 | 高台付杯<br>土師器 | A [15.0]<br>B 5.0<br>D 6.7<br>E 0.8 | 平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部回転糸切り後、高台貼り付け。内面横位ヘラ磨き。 | 長石・雲母<br>橙色<br>普通 | 50%<br>支脚に転用 |

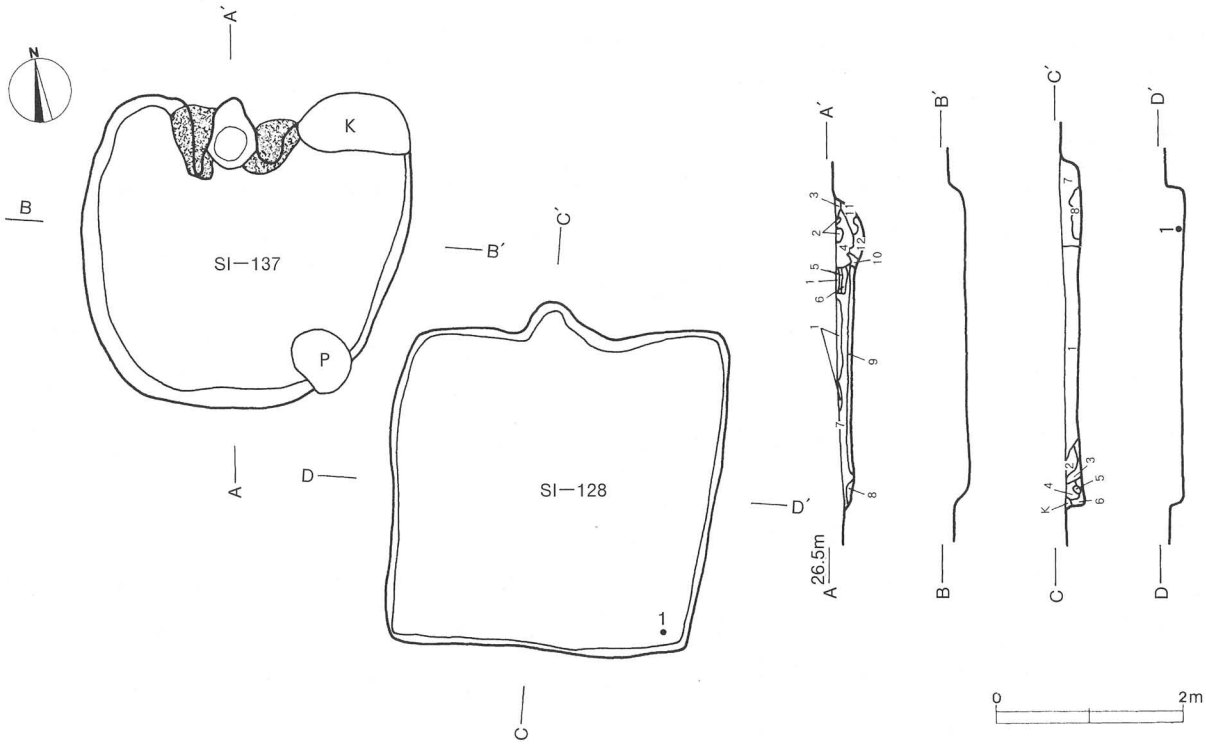



1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム中～小少・粒中
2 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒少 炭化粒少 ローム粒少
3 7.5YR4/4 褐 色 焼土中中・粒多 炭化粒中 ローム粒少
4 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 ローム粒中
5 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 ローム大少・中～少中・粒多
6 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒微 ローム粒少
7 7.5YR4/4 褐 色 ローム中少・粒中
8 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒少 ローム粒少
9 7.5YR4/6 褐 色 ローム大～粒中 締り強
10 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中
11 7.5YR4/4 褐 色 炭化粒少 ローム粒中
12 7.5YR4/3 褐 色 炭化粒少 ローム粒中 灰白色砂質粘土中
13 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒中 ローム粒少 灰白色砂質粘土少
14 7.5YR4/4 褐 色 焼土小中・粒多 炭化粒中 ローム粒少 灰白色砂質粘土少
15 7.5YR4/6 褐 色 焼土粒中 炭化粒中 ローム粒少 灰白色砂質粘土多 締り強

第102図 竪穴住居跡(SI-126a)

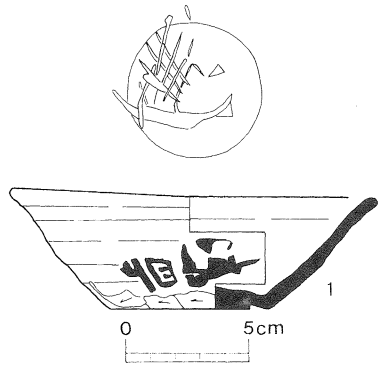
**SI-126a**(第102図、PL19)〈平安時代〉

**位置** D-58～59区 **規模** 〔3.54〕×3.22×0.42m **形態** 方形 **主軸方位** N-16°-E **床** 壁溝は北壁を除き全周。**ピット** **$P_1$** 0.36×0.30×0.12m **$P_2$** 0.22×0.10m **$P_3$** 0.23×0.20×0.20m **$P_4$** 0.22×0.30m **$P_5$** 0.39×0.28×0.27m $P_1$～$P_4$は主柱穴、$P_5$は出入口施設に伴うピットと思われる。**竈** ①北壁中央部 ③0.80×(0.78)m ④0.61m ⑤0.08m ⑥54.5° ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 褐色土、暗褐色土を主体とする。**所見** 西壁の一部を後世の撹乱により損壊する。




第103図 竪穴住居跡(SI-128・137)

SI-128
1 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒中　炭化粒少　ローム中～小少・粒中
2 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒微　ローム粒少
3 7.5YR3/3 暗褐色　炭化粒少　ローム粒微　締り強
4 7.5YR4/4 褐　色　炭化粒微　ローム粒中
5 7.5YR4/6 褐　色　炭化粒少　ローム粒中
6 7.5YR4/6 褐　色　ローム粒中
7 5YR4/6　赤褐色　焼土粒多　炭化粒少　ローム粒中
8 5YR4/4　にぶい赤褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中
SI-137
1 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土少
2 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒中　ローム粒少　灰白色砂質粘土中
3 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒中　ローム粒少　砂中
4 7.5YR3/4 暗褐色　焼土中・粒多　炭化粒中
5 7.5YR3/4 暗褐色　ローム粒中　灰白色砂質粘土中
6 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　灰白色砂質粘土多　締り強
7 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒中　炭化粒中　ローム粒少　灰白色砂質粘土中
8 7.5YR2/3 極暗褐色　炭化粒中　ローム粒少　砂多　締り極強
9 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒中　ローム粒多　灰白色砂質粘土多　締り極強
10 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　炭化粒少　灰白色砂質粘土中
11 2.5YR4/8 赤褐色　焼土大～小多　炭化粒少　灰白色砂質粘土中
12 7.5YR5/4 にぶい褐色　焼土大～小多　灰白色砂質粘土多




第104図　SI-128出土遺物

**SI-128**(第103・104図、PL19・33)〈平安時代〉

**位置**　H-57～58区　**規模**　3.50×3.48×0.16m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-9°-E　**床**　竈前面から南壁にかけて細長く硬化。**竈**　①北壁中央部　③(0.45)×(0.64)m　④0.34m　⑤0.04m　⑥65°　**覆土**　褐色土を主体とする。**所見**　SI-126bと重複、本遺構が新しい。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第104図<br>1 | 杯<br>須　恵　器 | A　14.4<br>B　4.7<br>C　6.3 | 平底。体部はほぼ直線的に外傾し、口縁部で外反する。 | 底部切り離し後、粘土を貼り付け、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・赤色粒、にぶい黄褐色・灰黄褐色、普通 | 85%<br>体部外面に墨書<br>底部内面に線刻 |

**SI-137**(第103図、PL21)〈平安時代〉

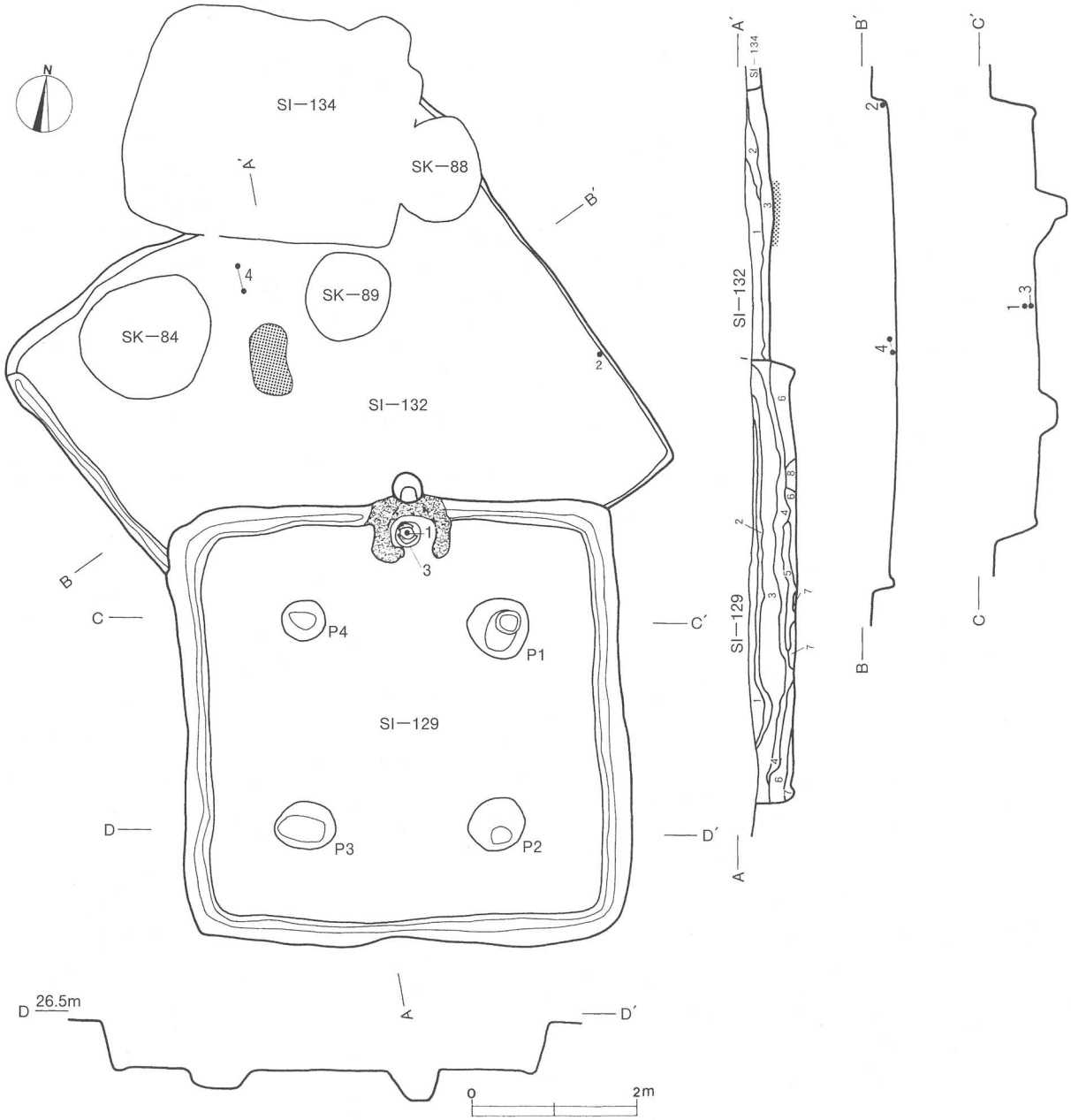
**位置**　G-56～57区　**規模**　3.42×3.16×0.19m　**形態**　隅丸方形　**主軸方位**　N-9°-E　**床**　中央部が硬化。　**竈**　①北壁中央部　③0.77×1.34m　④0.07m　⑤0.14m　⑥44.5°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　竈東側の壁を後世の攪乱により損壊する。

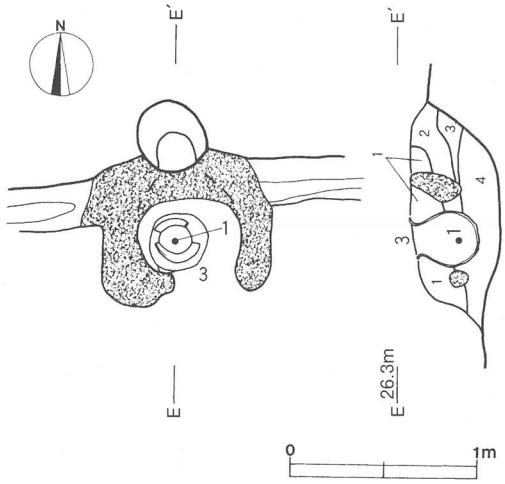
**SI-129**(第105・106図、PL20・33)〈古墳時代後期〉

**位置**　F～G-58～59区　**規模**　5.38×5.36×0.59m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-6.5°-W　**床**　壁溝は全周。竈前面から南壁にかけて硬化。**ピット**　$P_1$　0.74×0.32m　$P_2$　0.68×0.64×0.32m　$P_3$　0.75×0.56×0.21m　$P_4$　0.54×0.50×0.24m　$P_1$～$P_4$は主柱穴と思われる。**竈**　①北壁中央部　③1.07×1.03m　④0.36m　⑤0.04m　⑥55°　⑦0.39×0.36m　⑧灰白色砂質粘土　⑨竈に完形の甕を掛けた状態で検出。**遺物**　土玉が北西隅と南西隅から集中して出土。また床面から僅かに浮いた状態で緑色凝灰岩角礫が1点出土。**所見**　SI-132と重複、本遺構が新しい。

**SI-132**(第105・106図、PL33)〈古墳時代前期〉

**位置**　F-57～58区　**規模**　6.10×〔5.80〕×0.28m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-39.5°-W　**床**　壁溝は南西壁で検出。**炉**　①北西壁寄り　②0.88×0.46m　③0.05m　**覆土**　上から黒褐色土、極暗褐色土、暗褐色土が堆積する。**所見**　SI-129・134、SK-84・89・88と重複、本遺構が古い。




**SI-129**

1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒微
2 7.5YR2/2 黒褐色　ローム粒微
3 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒微
4 7.5YR2/2 黒褐色　ローム粒少
5 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少
6 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中
7 7.5YR4/6 褐　色　炭化粒少　ローム粒多
8 7.5YR3/2 黒褐色　ローム粒中　灰白色砂質粘土少　締り強

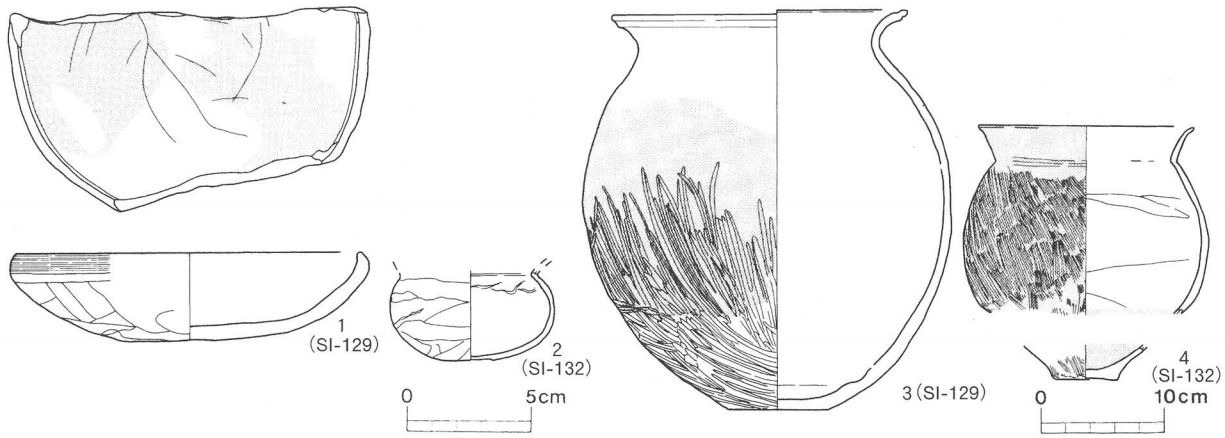
**SI-129　竈**

1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土小～粒多　炭化粒中　ローム粒中
2 5YR3/3　暗赤褐色　焼土中～粒多　炭化物～粒中　ローム小～粒中
3 5YR3/3　暗赤褐色　焼土中～粒多　炭化物～粒中　ローム粒中　灰白色砂質粘土中
4 5YR4/6　赤褐色　焼土大～粒多　炭化粒中　ローム小～粒中　灰白色砂質粘土中　締り強

**SI-132**

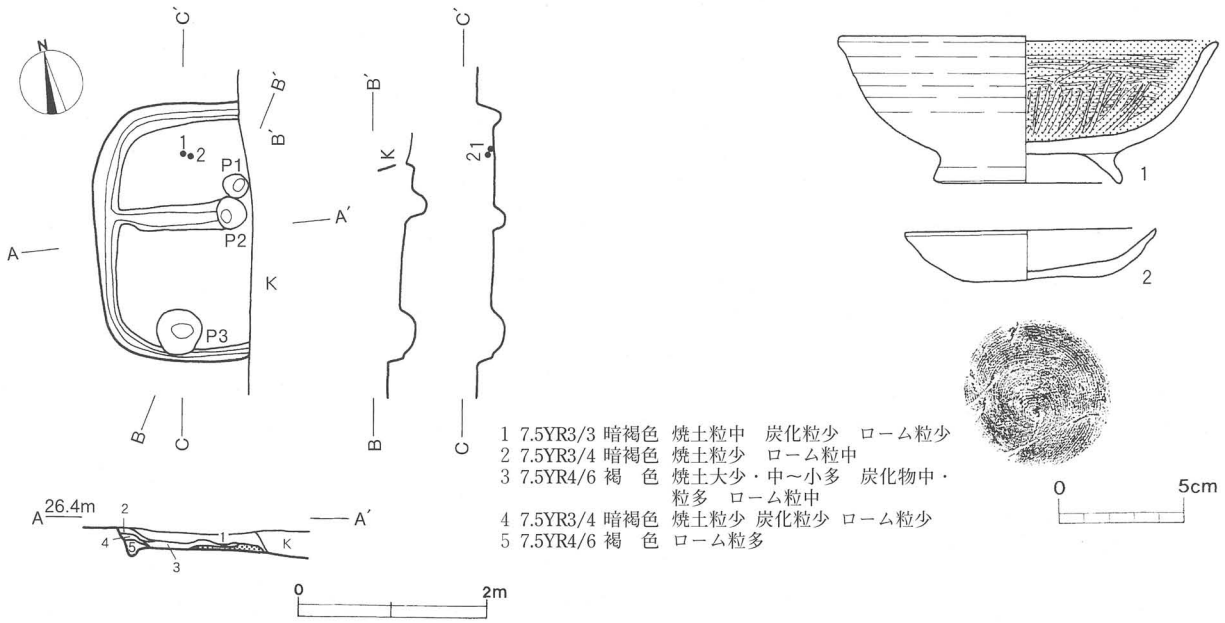
1 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒微　ローム粒微
2 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　ローム粒少
3 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　ローム粒中

**第105図　竪穴住居跡(SI-129・132)**




**第106図　SI-129・132出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第106図<br>1<br>SI-129 | 杯<br>土　師　器 | A　13.6<br>B　3.5 | 丸底。底体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部で内傾する。 | 底体部ヘラ削り、ヘラナデ。口縁部内・外面横ナデ。 | 長石<br>橙色・にぶい橙色<br>良好 | 45%<br>内面にタール付着、線刻 |
| 2<br>SI-132 | 坩<br>土　師　器 | B　( 3.6) | 口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 内・外面ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | 100% |
| 3<br>SI-129 | 甕<br>土　師　器 | A　30.0<br>B　32.2<br>C　8.0 | 平底。胴部中位に最大径を持つ。口縁部は強く外反し、端部を僅かに外上方につまみ上げる。 | 胴部外面丁寧なナデ後、中位以下に密な縦位ヘラ磨き。内面ヘラナデ。 | 長石・石英・雲母<br>褐灰色・にぶい橙色、良好 | 98%<br>胴部外面に煤付着 |
| 4<br>SI-132 | 甕<br>土　師　器 | A　17.0<br>B　[20.5]<br>C　[ 5.2] | 平底で突出する。胴部は球形を呈する。頸部は「く」の字状に屈曲し、口縁端部は外反する。 | 胴部外面刷毛目調整。内面ヘラナデ。 | 長石・雲母<br>橙色・灰黄褐色<br>普通 | 40%<br>内・外面に煤付着 |




**第107図　竪穴住居跡(SI-133)**

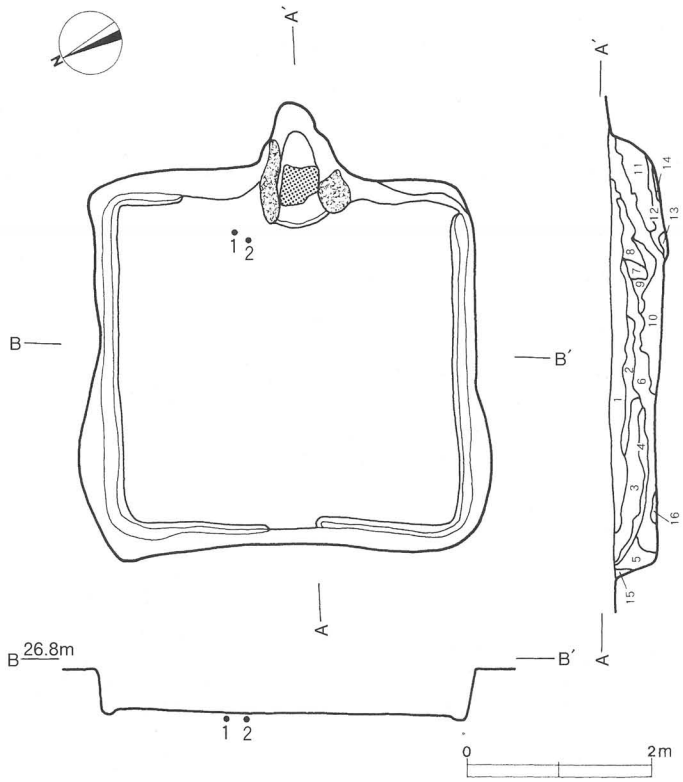
**SI-133**(第107図、PL20・33)〈平安時代〉

**位置**　B-50～51区　**規模**　2.74×(1.70)×0.21m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　〔N-9°-E〕

**床**　壁溝は全周。西壁中央部から東に延びる溝を検出。中央部が硬化。**ピット**　$P_1$　0.26×0.12m

**$P_2$**　0.34×0.30×0.25m　**$P_3$**　0.50×0.48×0.14m　$P_3$内より炭化材が縦横に重なり合った状態で検出。覆材の可能性も考えられる。**覆土**　暗褐色土を主体とする。中央部床面直上に集中する炭化材を覆うように焼土層が堆積している。**遺物**　中央部焼土層の北側に土師器高台付椀4点、土師器小皿1点を並べた状態で検出した。**所見**　住居廃絶時の祭祀行為と思われる。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第107図<br>1 | 高台付椀<br>土　師　器 | A　14.9<br>B　5.7<br>D　7.2<br>E　1.2 | 平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部回転糸切り後、高台貼り付け。内面横位ヘラ磨き後、放射状ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい橙色・黒色<br>普通 | 95% |
| 2 | 小　　皿<br>土　師　器 | A　9.9<br>B　2.1<br>C　5.6 | 平底。体部は浅く内彎気味に開く。 | 底部回転糸切り。 | 長石・雲母<br>橙色<br>普通 | 95% |

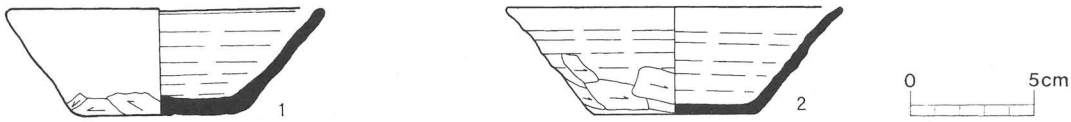



1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　ローム粒少　締り強
2 7.5YR3/3 暗褐色　ローム中～小少・粒中　締り強
3 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　炭化粒微　ローム小～粒多　締り強
4 7.5YR4/3 褐　色　焼土粒少　炭化粒少　ローム中～小中・粒多　灰白色砂質粘土粒微　締り強
5 7.5YR4/4 褐　色　ローム粒中
6 7.5YR4/3 褐　色　焼土小～粒少　ローム小～粒多　灰白色砂質粘土粒少
7 7.5YR4/3 褐　色　焼土粒中　灰白色砂質粘土粒中　締り強
8 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒微　ローム粒中　締り強
9 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒中　灰白色砂質粘土小～粒中　締り強
10 7.5YR4/3 褐　色　焼土中～粒多　炭化粒少　灰白色砂質粘土大～粒多　締り強
11 7.5YR5/2 灰褐色　焼土粒少　ローム粒中　褐色土大少　締り強
12 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒中　炭化粒少　ローム粒少
13 7.5YR2/3 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土中
14 2.5YR4/8 赤褐色　焼土粒多　灰白色砂質粘土少
15 7.5YR4/6 褐　色　ローム粒中
16 7.5YR4/6 褐　色　ローム粒中　灰白色砂質粘土粒中

**第108図　竪穴住居跡(SI-130)**

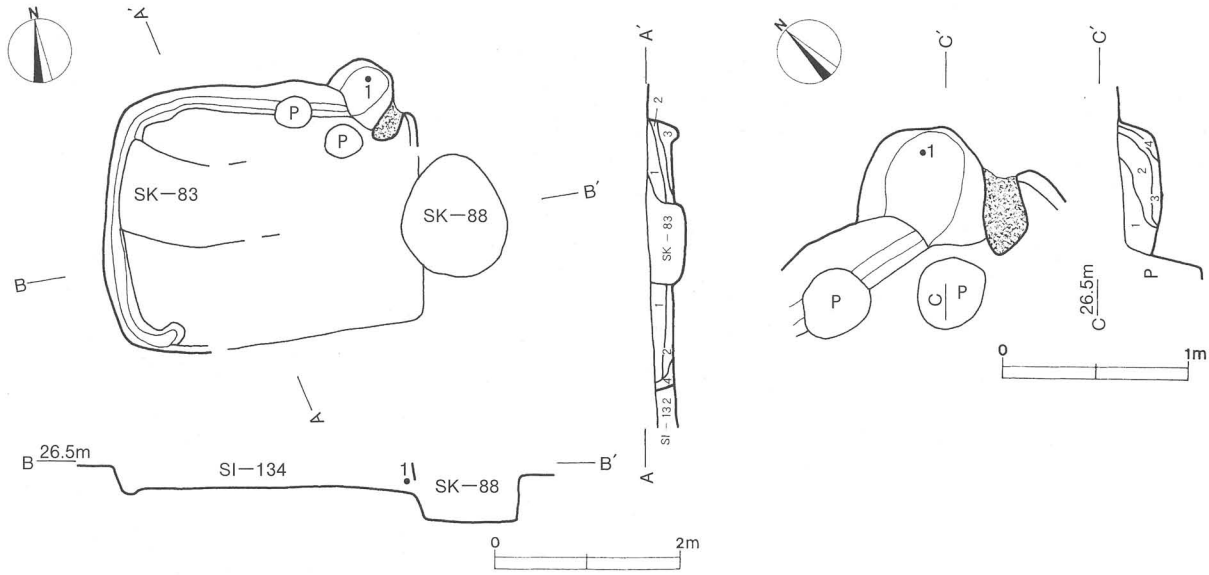
**SI-130**(第108・109図、PL20・33)〈平安時代〉

**位置**　J～K-51区　**規模**　4.33×4.10×0.47m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-114°-E　**床**　壁溝は南東壁、北西壁の一部を除き全周。竈前面から北西壁にかけて帯状に硬化。**竈**　①南東壁中央部　③1.32×0.94m　④0.64m　⑤0.13m　⑥58°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　上から暗褐色土、褐色土が堆積する。




**第109図　出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第109図<br>1 | 杯<br>須　恵　器 | A　12.3<br>B　4.3<br>C　6.9 | 平底。体部はほぼ直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>灰色・黄灰色<br>普通 | 100% |
| 2 | 杯<br>須　恵　器 | A　13.3<br>B　4.2<br>C　6.4 | 平底。体部は外反気味に立ち上がり、口縁部に至る。 | 底部回転ヘラ切り後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい褐色・灰黄褐色、普通 | 100% |



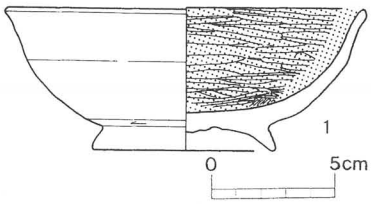

1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少
2 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少
3 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒中
4 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒中　ローム粒少

竈
1 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒中　ローム粒少　灰白色砂質粘土少
2 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土中
3 2.5YR4/8 赤褐色　焼土中・粒多　灰白色砂質粘土少
4 7.5YR5/6 明褐色　ローム粒多

**第110図　竪穴住居跡(SI-134)**

**SI-134**(第110・111図、PL20)〈平安時代〉

**位置**　F-57区　**規模**　〔3.40〕×2.78×0.27m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-10°-E　**床**　壁溝は北壁、西壁で検出。**竈**　①北東隅　②N-43°-E　③0.62×(0.91)m　④0.38m　⑤0.06m　⑥73°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　上から暗褐色土、黒褐色土、褐色土が堆積する。**所見**　SI-132・SK-83・88と重複、SI-132より新しく、SK-83・88より古い。



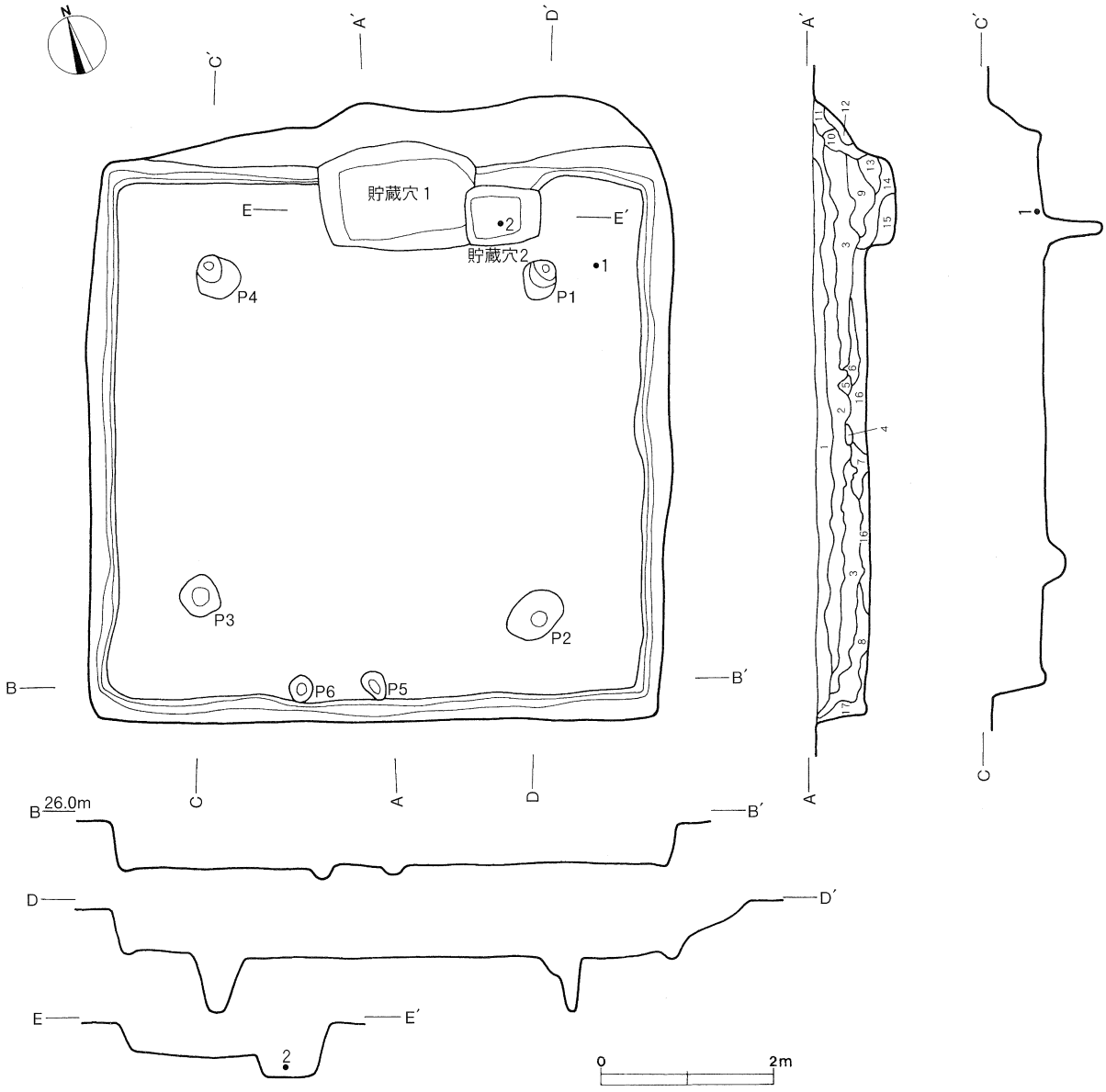

**第111図　出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第111図<br>1 | 高台付椀<br>土　師　器 | A　14.1<br>B　5.6<br>D　7.1<br>E　0.8 | 平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。体部下端回転ヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。 | 長石・赤色粒<br>橙色(内面一部黒色)<br>普通 | 80% |

**SI-131**(第112・113図、PL20・33)〈古墳時代後期〉

**位置**　F〜G-55〜56区　**規模**　7.36×6.68×0.62m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-17°-E　**床**　壁溝は全周。**ピット**　**$P_1$**　0.48×0.38×0.59m　**$P_2$**　0.72×0.50×0.61m　**$P_3$**　0.46×0.44×0.28m　**$P_4$**　0.54×0.50×0.69m　**$P_5$**　0.36×0.27×0.10m　**$P_6$**　0.32×0.26×0.10m　$P_1$〜$P_4$は主柱穴、$P_5$は出入口施設に伴

うピットと思われる。**貯蔵穴1**　①北壁中央部　②1.78×1.30×0.37m　長方形　③覆土はロームブロックを多量に含む褐色土を主体とし、人為的に埋め戻され固められていた。**貯蔵穴2**　①貯蔵穴1の東隣り　②0.88×0.72×0.62m　長方形　③覆土はローム粒子を含む褐色土を主体とする。**覆土**　暗褐色土、褐色土を主体とする。**遺物**　大半は貯蔵穴1の埋め戻し面上に集中していた。**所見**　本遺構では竈構築の痕跡が認められない。

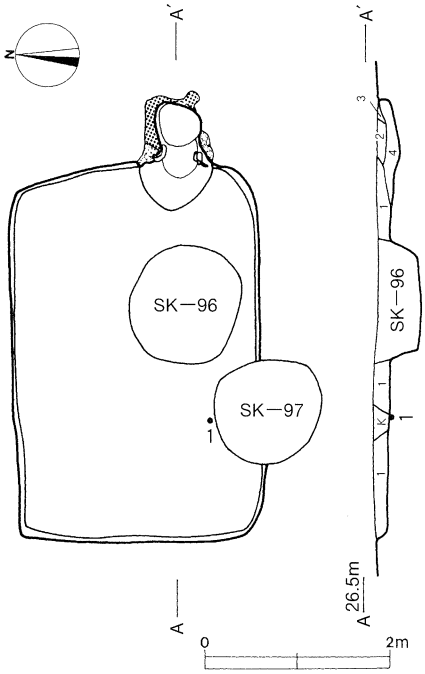



1 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒微　ローム粒微　締り強
2 7.5YR3/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少
3 7.5YR3/3 暗褐色　ローム粒中
4 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒多　締り強
5 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　ローム粒少
6 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム小～粒少　灰白色砂質粘土少
7 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　炭化粒中　ローム小少・粒多
8 7.5YR4/3 褐　色　ローム小～粒中　締り強
9 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒多
10 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム小～粒中
11 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム小～粒多
12 7.5YR4/4 褐　色　ローム大多・粒中　締り強
13 5 YR3/4 暗赤褐色　焼土粒中　炭化粒少　ローム粒少
14 7.5YR5/6 明褐色　ローム大～粒多
15 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒微　ローム中～粒多
16 7.5YR4/6 褐　色　ローム小～粒多　締り強
17 7.5YR4/4 褐　色　ローム粒多

**第112図　竪穴住居跡(SI-131)**

第113図　SI-131出土遺物

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第113図<br>1 | 杯<br>土　師　器 | A　13.4<br>B　5.0 | 丸底。口縁部との境に稜を持つ。口縁部は大きく外反して外上方に立ち上がる。 | 底体部ヘラ削り。内面放射状磨き。口縁部内・外面横位ヘラ磨き。 | 長石・石英<br>にぶい黄橙色・にぶい赤褐色、普通 | 98% |
| 2 | 杯<br>土　師　器 | A　12.4<br>B　4.5 | 丸底。口縁部との境に稜を持ち、口縁部は外反気味に内傾する。 | 底体部ヘラ削り。内面ヘラ磨き。口縁部外面横位ヘラ磨き。内面横ナデ。内面黒色処理。 | 石英・雲母<br>橙色・黒色<br>普通 | 95% |

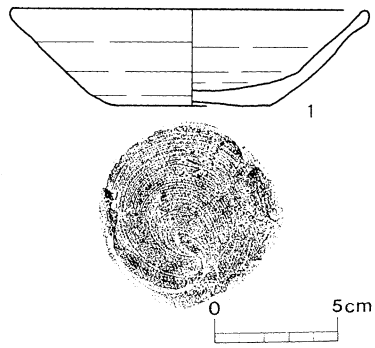



第114図　竪穴住居跡(SI-135)

**SI-135**(第114・115図、PL21・33)〈平安時代〉

**位置**　E-61区　**規模**　4.04×2.62×0.16m　**形態**　長方形　**主軸方位**　N-90.5°-E　**竈**　①東壁南寄り　③1.22×0.80m　④0.63m　⑤0.11m　⑥106°　⑧灰白色砂質粘土　⑨両側袖部内壁に補強材として使用した甕の破片を検出。**覆土**　暗褐色土の単一層。**遺物**　床面直上から土師器杯が出土。**所見**　SI-106と重複、本遺構が新しい。

1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒中　炭化粒少　ローム少〜粒中
2 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒多　炭化粒少　灰白色砂質粘土中
3 5YR4/4　にぶい赤褐色　焼土大〜小多
4 7.5YR3/4 暗褐色　焼土大〜小多　炭化粒少　灰白色砂質粘土中

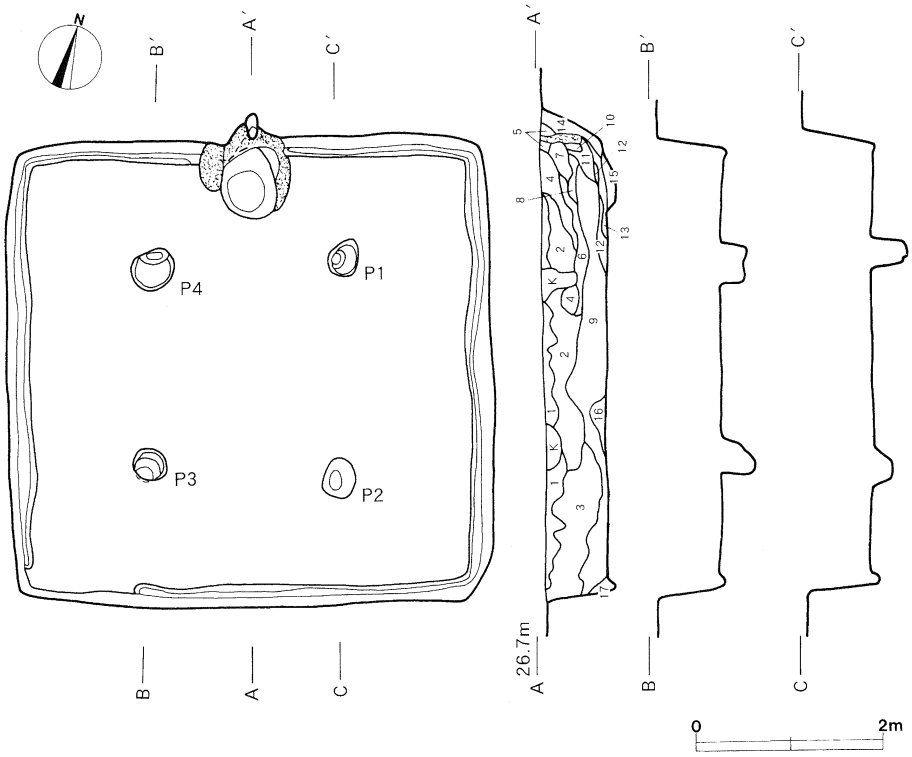



第115図　出土遺物

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第115図<br>1 | 杯<br>土　師　器 | A　14.0<br>B　3.8<br>C　6.4 | 平底。体部はほぼ直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部回転糸切り。 | 長石・石英<br>橙色<br>普通 | 80% |

**SI-136**(第116図、PL21)〈古墳時代後期〉

**位置**　G〜H-51区　**規模**　5.16×4.94×0.72m　**形態**　方形　**主軸方位**　N-15.5°-W　**床**　壁溝は南壁西寄りを除き全周。**ピット**　**$P_1$**　0.41×0.34×0.48m　**$P_2$**　0.40×0.33×0.21m　**$P_3$**　0.38×0.34×0.36m　**$P_4$**　0.46×0.37m　$P_1$〜$P_4$は主柱穴と思われる。**竈**　①北壁中央部　③1.10×0.98m　④0.26m　⑤0.11m　⑥62°　⑦0.28×0.12m　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　上から黒褐色土、褐色土が堆積する。




1 7.5YR3/2 黒褐色 炭化粒微 ローム粒微
2 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 ローム粒中
3 7.5YR4/4 褐 色 ローム大～粒多 締り強
4 7.5YR4/6 褐 色 ローム粒中 締り強
5 7.5YR5/3 にぶい褐色 砂多 締り強
6 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 炭化粒微 ローム粒少
7 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 炭化粒微 ローム粒少
8 7.5YR4/4 褐 色 焼土大少・粒中 ローム粒少 砂多
9 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒少 ローム中・粒中
10 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少 砂少
11 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒多 ローム粒少 砂中
12 7.5YR5/4 にぶい褐色 ローム粒少 砂多 締り強
13 2.5YR4/6 赤褐色 焼土大～粒多 ローム粒少 砂多
14 7.5YR4/6 褐 色 焼土粒中
15 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒中 炭化粒少 砂多
16 7.5YR4/6 褐 色 ローム大～粒多
17 7.5YR4/4 褐 色 ローム粒多

**第116図 竪穴住居跡(SI-136)**

**SI-140～144・146・147**(第117・118図、PL21・22・34)〈平安時代〉

**SI-140**

**位置** H-52～53区 **規模** 3.57×(2.82)×0.33m **形態** 方形あるいは長方形。**主軸方位** N-6°-E **床** 壁溝は竈西側から西壁に沿い南壁まで検出。中央部が硬化。**竈** ①北壁中央部 ③1.35×0.81m ④ 0.39m ⑤0.14m ⑥42° ⑧灰白色砂質粘土 ⑨焚口部天井として使用していた3連入れ子状態の甕が崩落、破砕した状態で検出。**覆土** 暗褐色土を主体とする。

**SI-141**

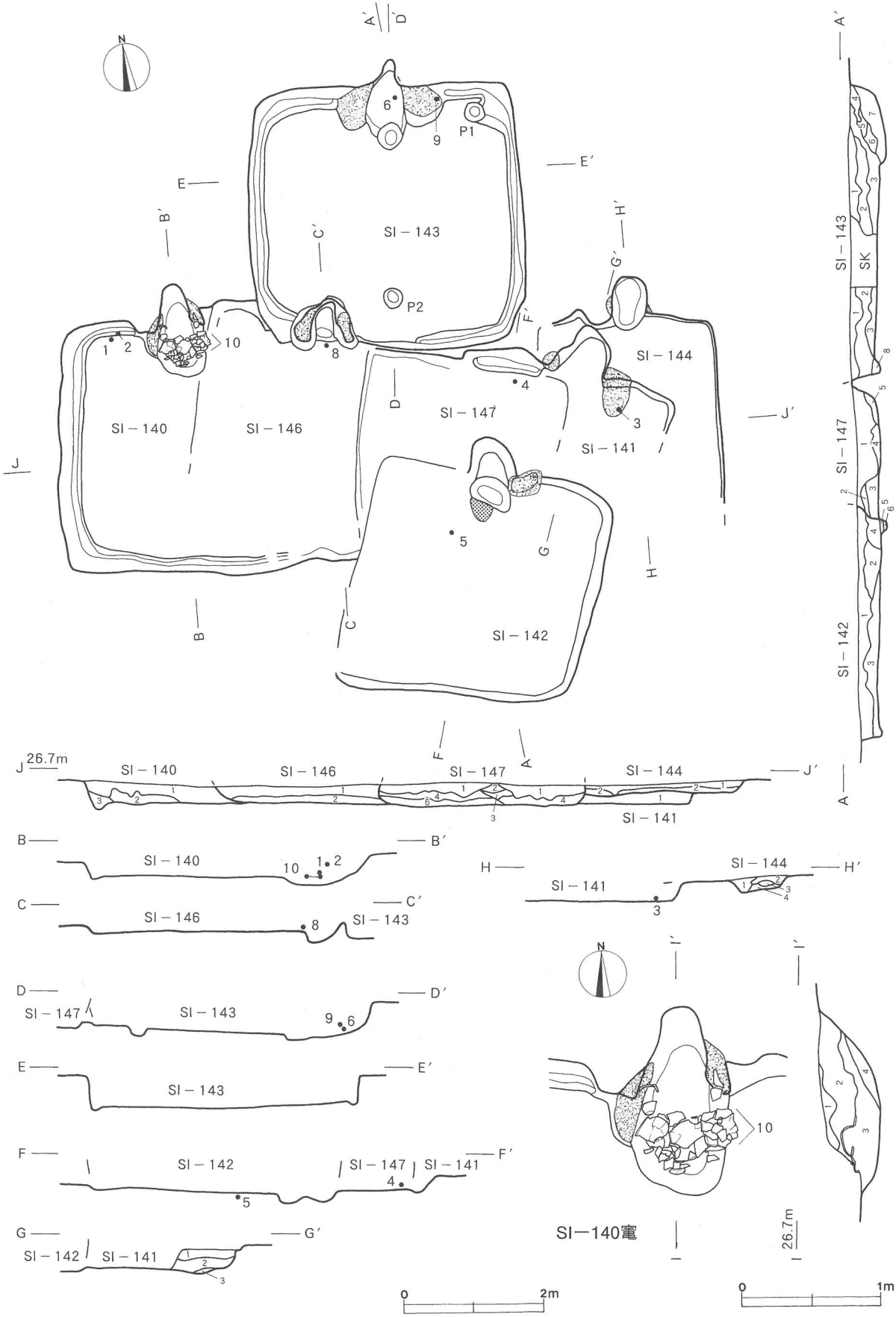
**位置** J-52～53区 **規模** 3.18×(1.74)×0.26m **形態** 方形あるいは長方形。**主軸方位** N-22°-E **床** 壁溝は竈西側で検出。竈前面が硬化。**竈** ①北壁中央部 ③0.78×1.34m ④0.64m ⑤0.06m ⑥63.5° ⑧黄色砂質粘土 **覆土** 極暗褐色土を主体とする。**所見** SI-144の構築によって貼床下に埋没していた。

**SI-142**

**位置** I-53区 **規模** 〔3.54〕×3.28×0.29m **形態** 方形 **主軸方位** N-19.5°-E **床** 中央部が硬化。**竈** ①北壁中央部 ③0.90×(1.08)m ④0.46m ⑤0.19m ⑥階段状 30°～48° ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 暗褐色土を主体とする。

**SI-143**

**位置** I-52区 **規模** 3.98×3.79×0.45m **形態** 方形 **主軸方位** N-6°-E **床** 壁溝はほぼ全周。中央部が硬化。**ピット** **$P_1$** 0.30×0.28×0.13m **$P_2$** 0.29×0.27×0.07m $P_2$は出入口施設に伴うピットと思われる。**竈** ①北壁中央部 ③1.29×1.55m ④0.39m ⑤0.13m ⑥ 66° ⑧灰白色砂質粘土 **覆土** 上から暗褐色土、褐色土、暗褐色土が堆積している。




第117図　竪穴住居跡(SI-140～144・146・147)

**SI-144**

**位置**　J-52～53区　**規模**　〔2.60〕×(2.60)×0.10m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　N-6°-E　**床** 全面に粘土質の貼床を施す。**竈**　①北壁中央部　③0.78×0.66m　④0.54m　⑤0.13m　⑥67°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　極暗褐色土を主体とする。2層は貼床。

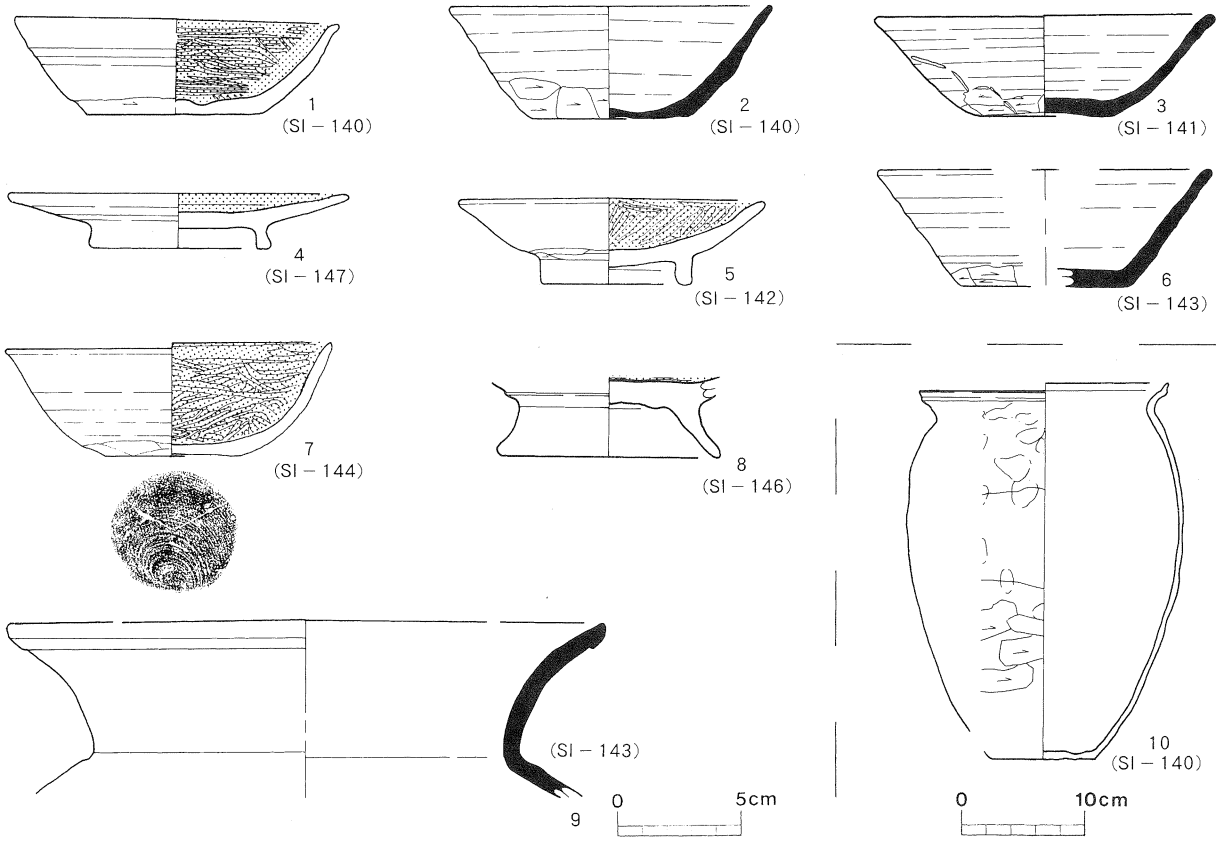
**SI-146**

**位置**　H～I-52区　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　N-16.5°-E　**床**　全面にロームを主体とした貼床を施す。**竈**　①北壁中央部　③0.58×0.98m　⑤0.17m　⑥40°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　暗褐色土の単一層。2層は貼床。

**SI-147**

**位置**　I-52～53区　**規模**　〔2.98〕×(2.54)×0.28m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　N-17°-E　**覆土**　暗褐色土を主体とする。

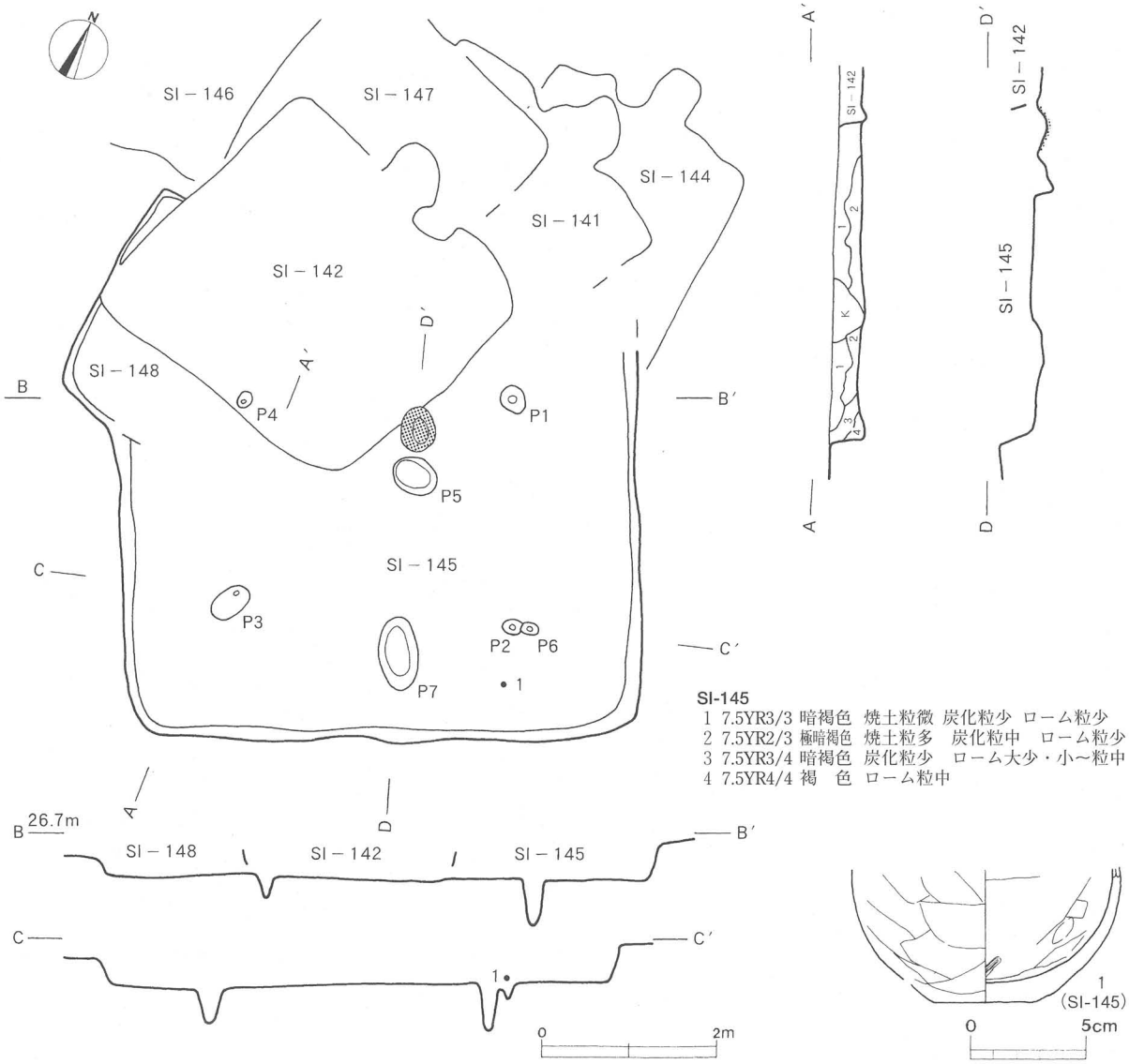
**SI-140**
1 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少 ローム粒少　灰白色砂質粘土微
2 7.5YR3/3 暗褐色　炭化粒少　ローム粒中　灰白色砂質粘土中
3 7.5YR4/6 褐　色　炭化粒少　ローム粒多
**SI-140　竈**
1 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒微 炭化粒少 ローム粒少　灰白色砂質粘土少
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒多　炭化粒中　ローム粒少　灰白色砂質粘土多
3 5YR3/3　暗赤褐色　焼土中～小多　炭化粒少　ローム粒中
4 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒少　炭化粒少　灰中
**SI-141**
1 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒多　炭化粒中　ローム粒少
**SI-141　竈**
1 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　黄褐色砂質粘土中　締り極強
2 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒多　炭化粒少　黄褐色砂質粘土少
3 2.5YR4/8 赤褐色　焼土粒多
**SI-142**
1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒中　炭化粒中 ローム粒少　灰白色砂質粘土中
2 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒中　炭化粒少 ローム粒少　灰白色砂質粘土多
3 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少 ローム粒少　灰白色砂質粘土中
4 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒中　炭化粒少
5 5YR3/3　暗赤褐色　ローム粒多　灰白色砂質粘土少　締り強
6 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒微　ローム粒少
**SI-143**
1 7.5YR3/4 暗褐色　ローム粒少　灰白色砂質粘土少
2 7.5YR4/4 褐　色　ローム粒中
3 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少
4 7.5YR5/3 にぶい褐色　焼土粒中　灰白色砂質粘土多
5 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土中
6 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土多
7 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒多　ローム粒少　灰白色砂質粘土多
8 7.5YR4/6 褐　色　ローム粒多
**SI-144**
1 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　ローム粒少
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少　灰白色砂質粘土中　締り極強
**SI-144　竈**
1 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒中　灰白色砂質粘土中
2 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒多　ローム粒少　灰白色砂質粘土少
3 2.5YR4/8 赤褐色　焼土粒多
4 7.5YR5/6 明褐色　焼土粒中　炭化粒少　ローム粒多
**SI-146**
1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少
2 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中　灰白色砂質粘土少　締り極強
**SI-147**
1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　ローム粒少　灰白色砂質粘土少
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少
3 5YR3/3　暗赤褐色　焼土粒多　炭化粒中
4 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒多
5 7.5YR4/4 褐　色　ローム粒多
6 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少




## 第118図　SI-140～144・146・147出土遺物

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第118図<br>1<br>SI-140 | 杯<br>土師器 | A 12.8<br>B 3.8<br>C 7.0 | 平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁端部で外反する。 | 底部回転ヘラ切り後、多方向ヘラ削り。体部下端弱い回転ヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英<br>にぶい橙色・黒色 | 95% |
| 2<br>SI-140 | 杯<br>須恵器 | A 12.7<br>B 4.5<br>C 6.3 | 平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 石英・雲母・砂粒<br>にぶい黄色・にぶい黄橙色、普通 | 90% |
| 3<br>SI-141 | 杯<br>須恵器 | A 13.3<br>B 4.0<br>C 5.5 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。 | 底部切り離し後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・雲母<br>黒褐色(一部橙色)<br>普通 | 70% |
| 4<br>SI-147 | 高台付皿<br>土師器 | A 13.3<br>B 2.2<br>D 7.0<br>E 0.9 | 平底で「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は浅く直線的に開く。 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。体部下端回転ヘラ削り。内面細かなヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・雲母<br>にぶい黄橙色・黒色<br>普通 | 80% |
| 5<br>SI-142 | 高台付皿<br>土師器 | A 12.1<br>B 3.4<br>D 5.8<br>E 0.9 | 平底で垂直に下方へのびる高台が付く。体部はやや内彎気味に開く。 | 底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。体部下端手持ちヘラ削り。内面太いヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい黄橙色・黒色<br>普通 | 98% |
| 6<br>SI-143 | 杯<br>須恵器 | A [13.1]<br>B 4.6<br>C [ 6.8] | 平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後、弱いナデ。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英<br>灰色<br>良好 | 25% |
| 7<br>SI-144 | 杯<br>土師器 | A 12.9<br>B 4.5<br>C 5.2 | 平底。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 底部回転糸切り。体部下端手持ちヘラ削り。内面横位ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石・雲母<br>にぶい黄橙色・黒色、普通 | 95%<br>覆土一括 |
| 8<br>SI-146 | 高台付杯<br>土師器 | B ( 3.2)<br>D 8.5<br>E 2.0 | 底～高台部片。平底で「ハ」の字状に開く足高高台が付く。 | 内面細かなヘラ磨き。内面黒色処理。 | 長石<br>橙色・黒色<br>普通 | 90% |
| 9<br>SI-143 | 甕<br>須恵器 | A [23.6]<br>B ( 7.0) | 口縁部片。口縁部は大きく外反し、端部外面下方に稜を持つ。 | 肩部に横位平行タタキ。 | 長石・石英・雲母<br>灰色・にぶい黄褐色、普通 | 25% |
| 10<br>SI-140 | 甕<br>土師器 | A 19.9<br>B 30.7<br>C 8.4 | 平底。肩は張らずに長胴を呈する。口縁部は外反し、口唇部を外上方につまみ上げる。 | 胴部外面下位に横位ヘラ削り。内面ヘラナデ。 | 長石・石英<br>明赤褐色・明褐色<br>普通 | 85%<br>焚口部天井として使用 |

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第119図<br>1<br>SI-145 | 小　型　壺<br>土　師　器 | B　( 5.6)<br>C　　4.2 | 平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 外面部分的刷毛目調整後、ヘラナデ。内面ヘラナデ。 | 長石・石英<br>明褐色・橙色<br>普通 | 50% |




**第119図　竪穴住居跡(SI-145・148)**

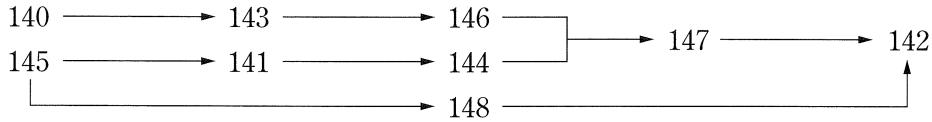
**SI-145**(第119図、PL34)〈古墳時代中期〉

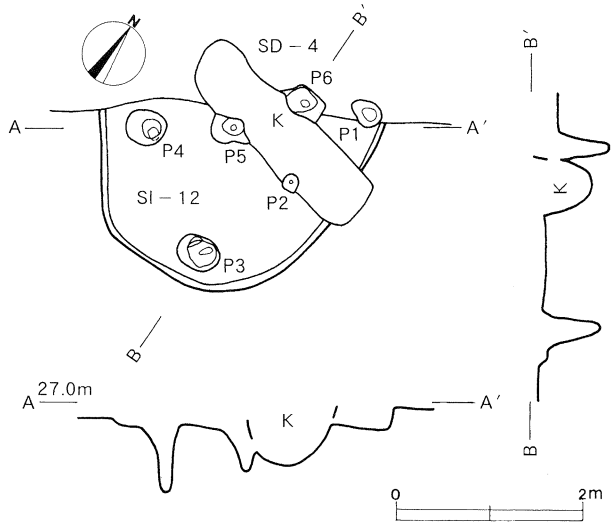
**位置**　I～J-54区　**規模**　5.96×(4.22)×0.36m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　N-24.5°-W　**床**　主柱穴間が硬化。　**ピット**　**$P_1$**　0.32×0.26×0.53m　**$P_2$**　0.22×0.18×0.52m　**$P_3$**　0.48×0.30×0.45m　**$P_4$**　0.19×0.15×0.24m　**$P_5$**　0.52×0.43×0.19m　**$P_6$**　0.20×0.15×0.18m　**$P_7$**　0.84×0.47×0.12m　$P_1$～$P_4$は主柱穴、$P_7$は出入口施設に伴うピットと思われる。**炉**　①北壁寄り　②0.51×0.40m　楕円形　③0.15m　**覆土**　上から暗褐色土、極暗褐色土が堆積する。**所見**　覆土中より古墳時代前期の遺物が出土する。

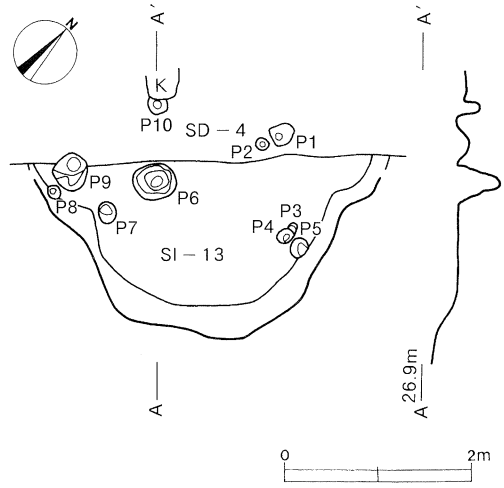
**SI-148**(第119図)〈平安時代〉

**位置**　I-54区　**規模**　2.56×(0.78)×0.20m　**形態**　方形あるいは長方形。**主軸方位**　〔N-3°-E〕　**床**　全面硬化。

(新旧関係)



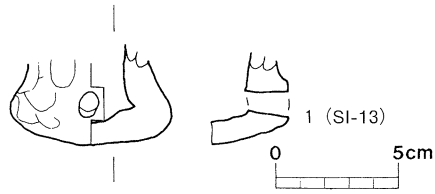

**第120図　竪穴住居跡(SI-12・13)**

**SI-12**(第120図、PL6)

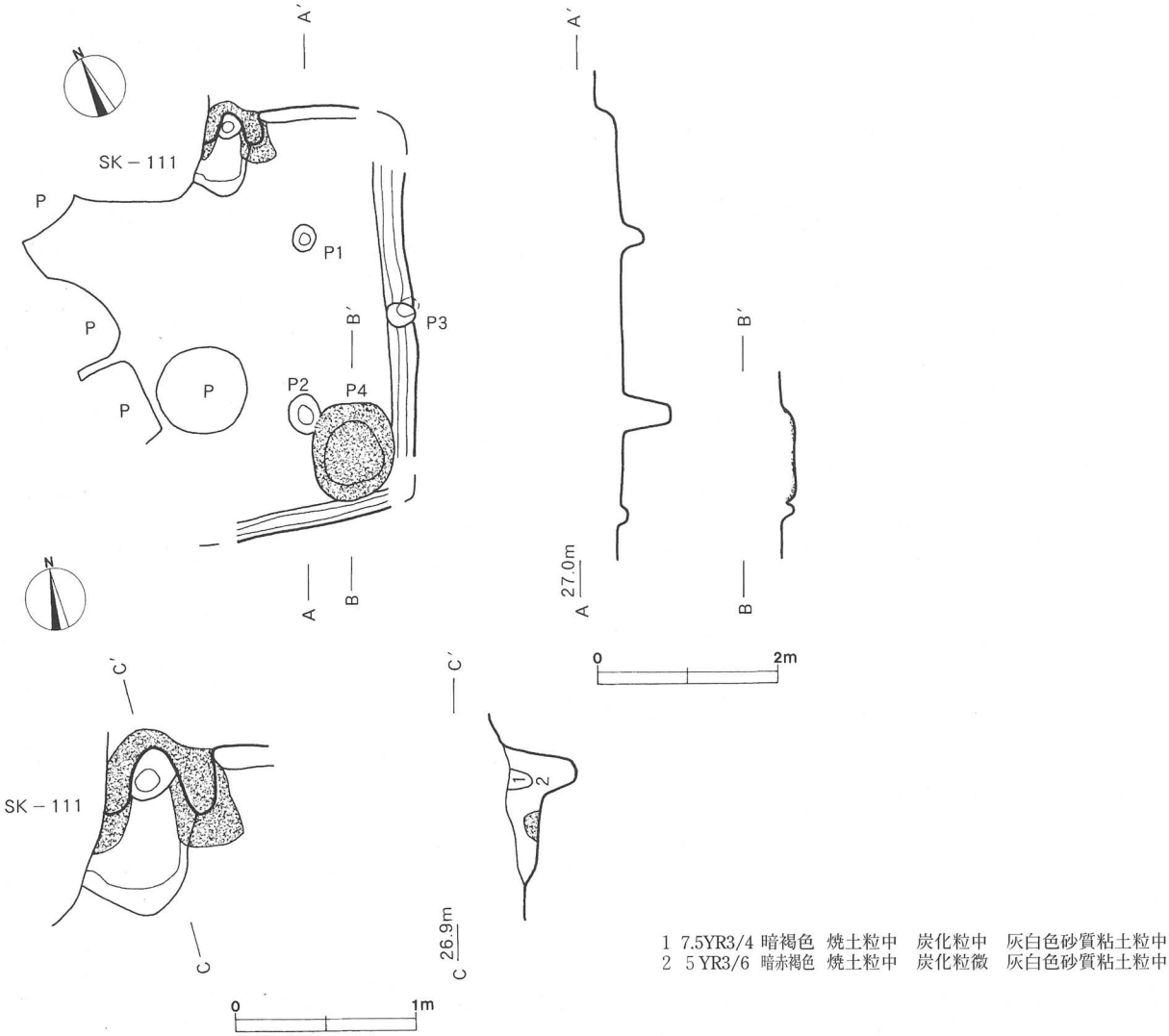
**位置**　C～D-31区　**規模**　〔2.98〕×(1.80)×0.10m　**形態**　楕円形　**ピット**　$P_1$　0.34×0.26×0.37m　$P_2$　0.18×0.18×0.39m　$P_3$　0.48×0.37×0.59m　$P_4$　0.42×0.38×0.81m　$P_5$　〔0.46〕×0.58m　$P_6$　0.51×(0.32)×0.66m　**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　SD-4と重複し遺構北側は損壊している。

**SI-13**(第120図、PL34)

**位置**　C-31～32区　**規模**　〔3.85〕×(1.86)×0.19m　**形態**　不整円形　**ピット**　$P_1$　0.26×0.22×0.30m　$P_2$　0.14×0.14×0.24m　$P_3$　0.10×0.10×0.09m　$P_4$　0.19×0.19×0.26m　$P_5$　0.19×0.19×0.37m　$P_6$　0.47×0.38×0.42m　$P_7$　0.23×0.18×0.37m　$P_8$　0.14×0.14×0.13m　$P_9$　0.40×0.40×0.30m　$P_{10}$　0.21×0.21×0.21m　**覆土**　暗褐色土を主体とする。**遺物**　覆土下部より胴部に円孔を穿つ手捏土器が1点出土。**所見**　SD-4と重複し遺構北側は損壊している。



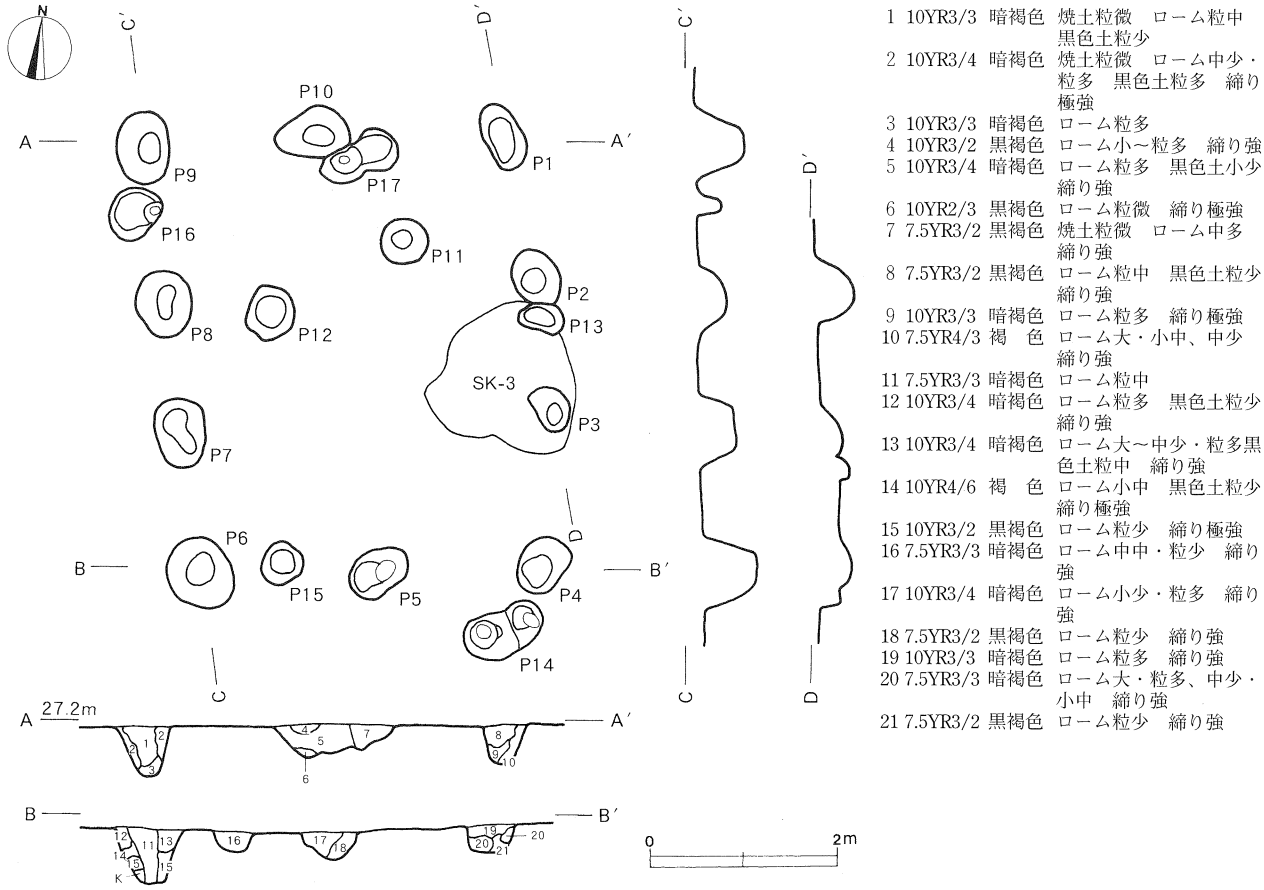

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第120図<br>1<br>SI-13 | 手捏土器<br>土師器 | B　(4.0) | 丸底で胴部に円孔を穿つ。上半部を欠損。 | 内・外面指ナデ。 | 長石・雲母<br>にぶい褐色<br>普通 | 100% |




**第121図　竪穴住居跡（SI-113）**

**SI-113**（第121図、PL 17・18）〈平安時代〉

**位置**　N-63～64区　**規模**　4.61×(4.10)×0.28m　**形態**　方形と推定。**主軸方位**　N-22°-E　**床**　壁溝を東壁と南壁で部分的に検出。　**ピット**　**$P_1$**　0.30×0.26×0.26m　**$P_2$**　0.46×0.38×0.52m　**$P_3$**　0.33×0.28×0.40m　**$P_4$**　1.06×0.90×0.14m　$P_1$、$P_2$は主柱穴と思われる。$P_4$は内側に黄褐色粘土を厚さ4cm程貼っている。覆土は、本遺構と重複し、本遺構よりも新しいSI-101の貼床と考えられることから、あるいは本遺構の上にSI-101が構築されるまでの期間に単独で構築された粘土貼土坑である可能性も考えられる。**竈**　①北壁　③1.35×(1.71)m　⑤0.6m　⑥80°　⑧灰白色砂質粘土　**覆土**　暗褐色土を主体とする。**所見**　SI-101、SK-111と重複、本遺構が古い。



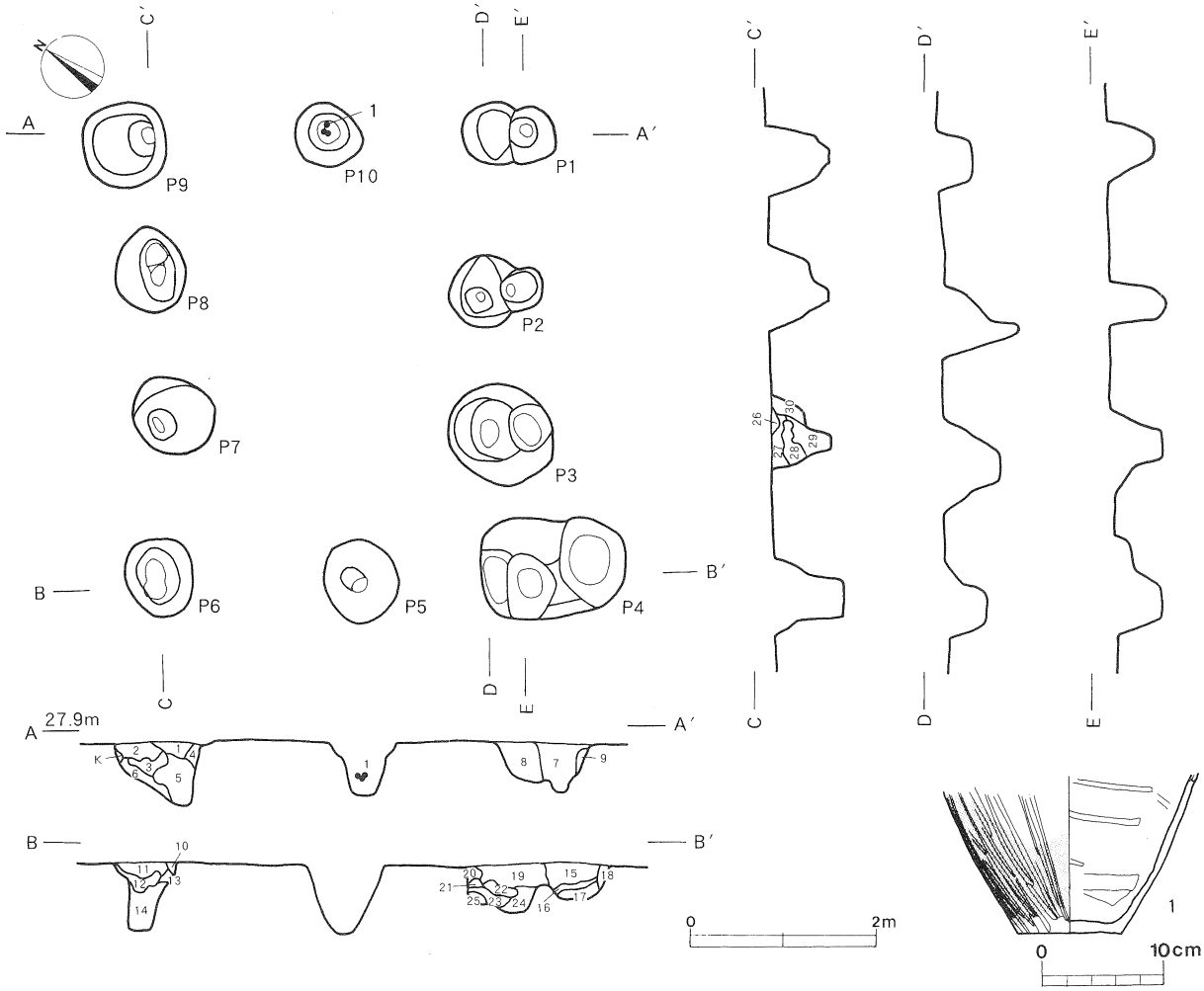

**第122図　掘立柱建物跡(SB-1)**

**SB-1**(第122図、PL 22)〈平安時代〉

**位置**　A～B-20～21区　**形態**　梁行2間×桁行3間　**規模**　3.94×4.48m　**主軸方位**　N-11°-E　**柱穴**　**$P_1$**　0.74×0.46×0.45m　**$P_2$**　(0.56)×0.51×0.29m　**$P_3$**　(0.50)×(0.36)×(0.14)m　**$P_4$**　0.62×0.48×0.30m　**$P_5$**　0.68×0.50×0.31m　**$P_6$**　0.78×0.68×0.57m　**$P_7$**　0.76×0.54×0.42m　**$P_8$**　0.72×0.62×0.31m　**$P_9$**　0.78×0.58×0.54m　**$P_{10}$**　0.82×0.56×0.31m　**$P_{11}$**　0.51×0.46×0.41m　**$P_{12}$**　0.58×0.50×0.11m　**$P_{13}$**　0.48×(0.27)×(0.11)m　**$P_{14}$**　0.88×0.52×0.68m　**$P_{15}$**　(0.45)×(0.42)×(0.22)m　**$P_{16}$**　0.56×0.54×0.25m　**$P_{17}$**　0.85×0.44×0.43m　**柱穴間隔**　梁行間　1.6～2.0m　桁行間　1.4～1.5m　**所見**　$P_3$・$P_{15}$は上半分を撹乱により削平されている。

**SB-2**(第123図、PL22・34)〈平安時代〉

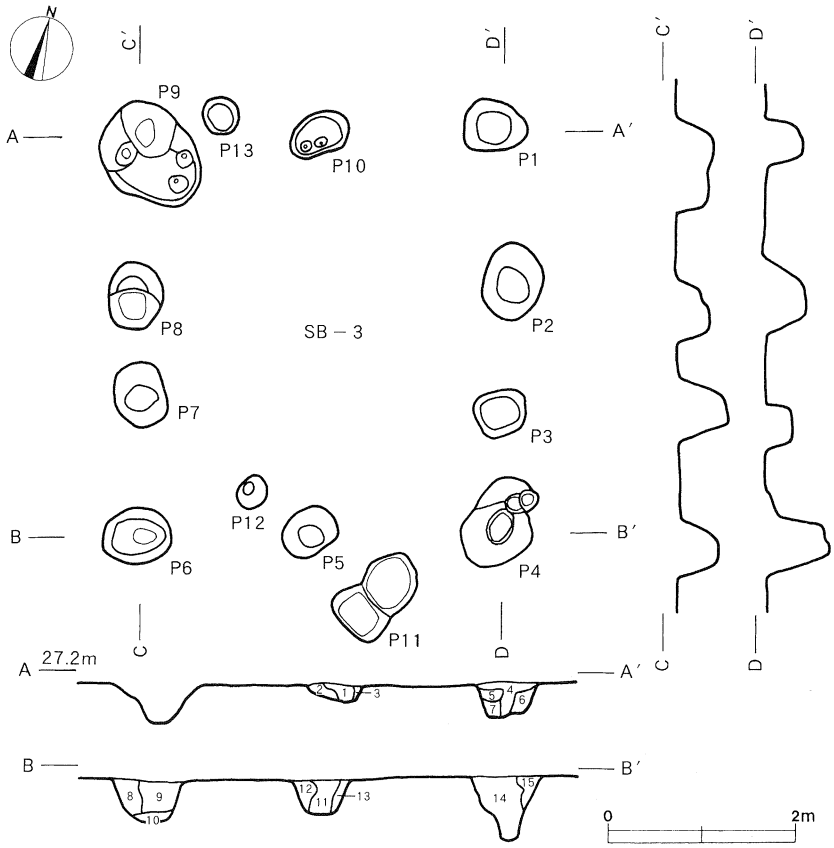
**位置**　G～H-17～18区　**形態**　梁行2間×桁行3間　**規模**　4.20×4.89m　**主軸方位**　N-53°-E　**柱穴**　**$P_1$**　1.02×0.68×0.42→0.52m　**$P_2$**　1.02×0.86×0.86→0.68m　**$P_3$**　1.17×1.06×0.65→0.54m　**$P_4$**　1.56×1.13×0.40→0.48m　**$P_5$**　1.04×0.91×0.65m　**$P_6$**　0.83×0.74×0.75m　**$P_7$**　0.92×0.83×0.64m　**$P_8$**　0.94×0.77×0.65m　**$P_9$上**　0.94×0.96×0.44m　**$P_9$下**　0.40×0.30×0.25m　**$P_{10}$**　0.74×0.67×0.55m　**柱穴間隔**　梁行間　1.8～2.2m　桁行間　1.5～1.7m　**遺物**　$P_2$内上位から土製支脚片1点出土。$P_{10}$内下部より土師器甕が出土。　**所見**　$P_1$～$P_4$は柱穴列が内外2列あり、覆土の観察から内列から外列に向かって梁間隔を拡張している。拡張間隔は柱穴間で約0.4mを測る。




1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中 締り強
2 7.5YR3/3 暗褐色 ローム中・粒少 締り強
3 7.5YR4/4 褐 色 ローム大～中少・小～粒多 黒色土小少 締り強
4 10YR3/4 暗褐色 ローム粒中
5 7.5YR3/2 黒褐色 ローム小～粒少
6 10YR3/4 暗褐色 ローム中・粒少 締り強
7 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小～粒少
8 7.5YR4/6 褐 色 ローム中中・小～粒多 締り強
9 7.5YR4/6 褐 色 ローム大～粒多 締り強
10 7.5YR5/6 明褐色 ローム中中・小多 粘性強 締り強
11 7.5YR2/1 黒 色 ローム粒少 粘性強 締り強
12 7.5YR3/1 黒褐色 ローム中少・小～粒中 粘性強 締り強
13 7.5YR4/3 褐 色 ローム粒極多 粘性強 締り強
14 7.5YR4/6 褐 色 ローム大～中多・小～粒極多 粘性強 締り強
15 7.5YR3/2 黒褐色 ローム大～中少・小～粒中 黒色土小中 締り強
16 10YR3/3 暗褐色 ローム小少・粒中
17 10YR2/3 黒褐色 ローム粒少
18 10YR3/3 暗褐色 ローム中微・小～粒少
19 7.5YR3/3 暗褐色 ローム大～中少・小～粒中 黒色土小中 締り強
20 10YR3/4 暗褐色 ローム粒中
21 7.5YR4/4 褐 色 ローム粒中
22 7.5YR3/2 黒褐色 ローム中少・粒多 黒色土粒多
23 10YR3/4 暗褐色 ローム粒多 黒色土粒中・小中 締り強
24 7.5YR4/4 褐 色 締り強
25 10YR4/6 褐 色 ローム大少
26 7.5YR2/1 黒 色 ローム粒少 粘性強 締り強
27 7.5YR3/2 黒褐色 ローム大～中中 粘性強 締り強
28 7.5YR2/2 黒褐色 ローム大少・中中 粘性強 締り強
29 7.5YR4/3 褐 色 ローム中少・小～粒中 粘性強 締り強
30 7.5YR5/4 にぶい褐色 ローム小～粒多 粘性強 締り強

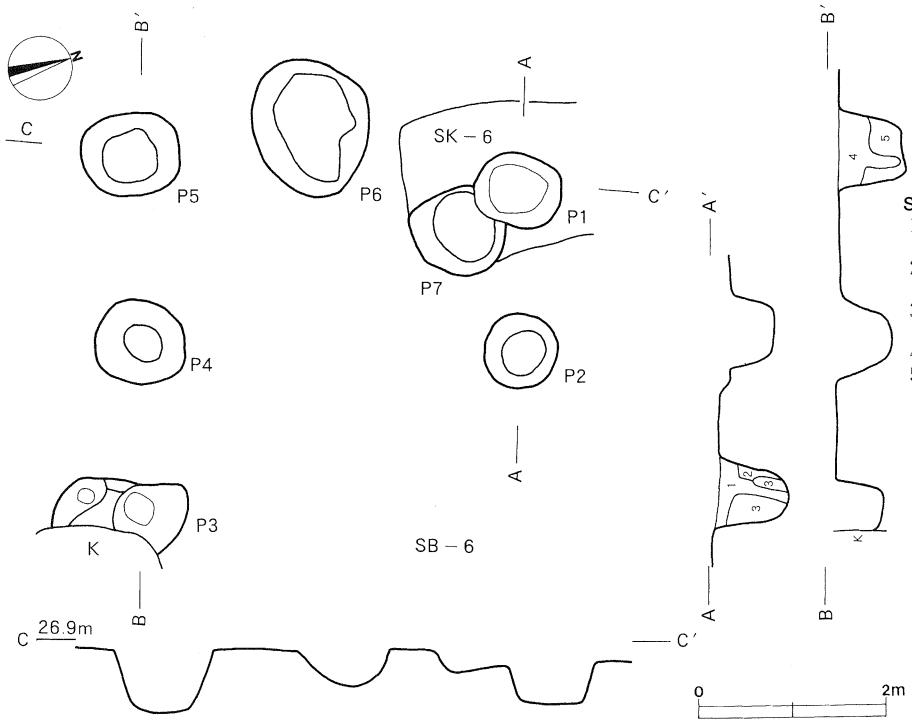
## 第123図 掘立柱建物跡(SB-2)

| 図版番号 | 器 種 | 法量(cm) | 器 形 の 特 徴 | 技 法 の 特 徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第123図<br>1 | 甕<br>土 師 器 | B (12.8)<br>C 8.5 | 胴～底部片。平底。胴部はほぼ直線的に外傾して立ち上がる。 | 胴部外面下位に縦位ヘラ磨き。内面及び底部はヘラナデ。底部に弱い木葉痕。 | 長石・石英・赤色粒、黒褐色・にぶい橙色、普通 | 55%<br>外面に煤・炭化物付着 |




**SB-3**

1 10YR3/3 暗褐色 ローム粒少 黒色土粒少 締り強
2 10YR4/4 褐 色 ローム粒多 黒色土粒多 締り強
3 7.5YR4/4 褐 色 ローム粒微 黒色土小微 締り強
4 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小微・粒少 締り強
5 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少 締り強
6 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒多 締り強
7 10YR3/3 暗褐色 ローム中少・小中 締り強
8 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中
9 10YR2/3 黒褐色 ローム小～粒微 締り強
10 10YR3/4 暗褐色 ローム粒少 締り強
11 10YR3/3 暗褐色 ローム小～粒微
12 10YR4/4 褐 色 ローム粒少 黒色土小少 締り強
13 10YR3/3 暗褐色 ローム粒中 締り強
14 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少 締り強
15 10YR3/4 暗褐色 ローム小中・粒多 締り強




**SB-6**

1 7.5YR3/4 暗褐色 ローム小～粒多 黒色土粒中
2 7.5YR4/6 褐 色 ローム小～粒多 黒色土粒少
3 7.5YR5/6 明褐色 ローム大～粒多 黒色土粒中締り強
4 7.5YR2/3 極暗褐色 ローム粒多
5 7.5YR4/4 褐 色 ローム中中・小～粒多 締り強

**第124図　掘立柱建物跡（SB-3・6）**

**SB-3**（第124図、PL22）〈平安時代〉

**位置**　A～B-23～24区　**形態**　梁行2間×桁行3間　**規模**　3.82×4.26m　**主軸方位**　N-9°-W　**柱穴**　**$P_1$**　0.68×0.56×0.35m　**$P_2$**　0.81×0.64×0.48m　**$P_3$**　0.56×0.48×0.29m　**$P_4$**　1.02×0.72×0.70m

**$P_5$** 0.60×0.50×0.38m **$P_6$** 0.74×0.60×0.37m **$P_7$** 0.68×0.57×0.55m **$P_8$** 0.71×0.58×0.45m **$P_9$** 1.17×0.95×0.42m **$P_{10}$** 0.65×0.46×0.55m **$P_{11}$** 1.00×0.64×0.14m **$P_{12}$** 0.38×0.30×0.48m **$P_{13}$** 0.30×0.30×0.08m **柱穴間隔** 梁行間 1.8～2.0m 桁行間 1.0～1.7m

**SB-6**(第124図)〈平安時代〉

**位置** M～N-54～55区 **形態** 梁行2間×桁行2間まで検出。**規模** 3.82×(4.12)m **主軸方位** N-69°-W **柱穴** **$P_1$** 0.90×0.76×0.39m **$P_2$** 0.78×0.74×0.81m **$P_3$** 1.48×0.54×0.56m **$P_4$** 0.96×0.90×0.60m **$P_5$** 1.06×0.88×0.82m **$P_6$** 1.50×1.24×0.41m **$P_7$** 1.04×0.96×0.23m **柱穴間隔** 調査区内において梁行間 2.0～2.2m 桁行間 1.8～2.0m **所見** $P_4$・$P_5$はSI-23を切り、$P_2$はSK-6に上端を削平されている。

**SB-7**(第125図)〈平安時代〉

**位置** K～L-55～57区 **形態** 梁行2間×桁行3間 **規模** 3.50×(4.96)m **主軸方位** N-18°-W **柱穴** **$P_1$** 0.80×0.70×(0.14)m **$P_2$** 0.62×0.59×(0.14)m **$P_3$** 1.03×0.72×0.60m **$P_4$** 全体の3割が残る。深さ0.38m **$P_5$** 0.58×0.52×0.20m **$P_6$** 0.66×0.62×0.30m **$P_7$** 0.95×0.86×0.38m **$P_8$** 0.90×0.64×0.72m **柱穴間隔** 梁行間 1.7～1.8m 桁行間 1.5～1.9m **所見** SI-24の調査中に検出したため、$P_1$・$P_2$・$P_4$の深さは不明。

**SB-8**(第125図)〈平安時代〉

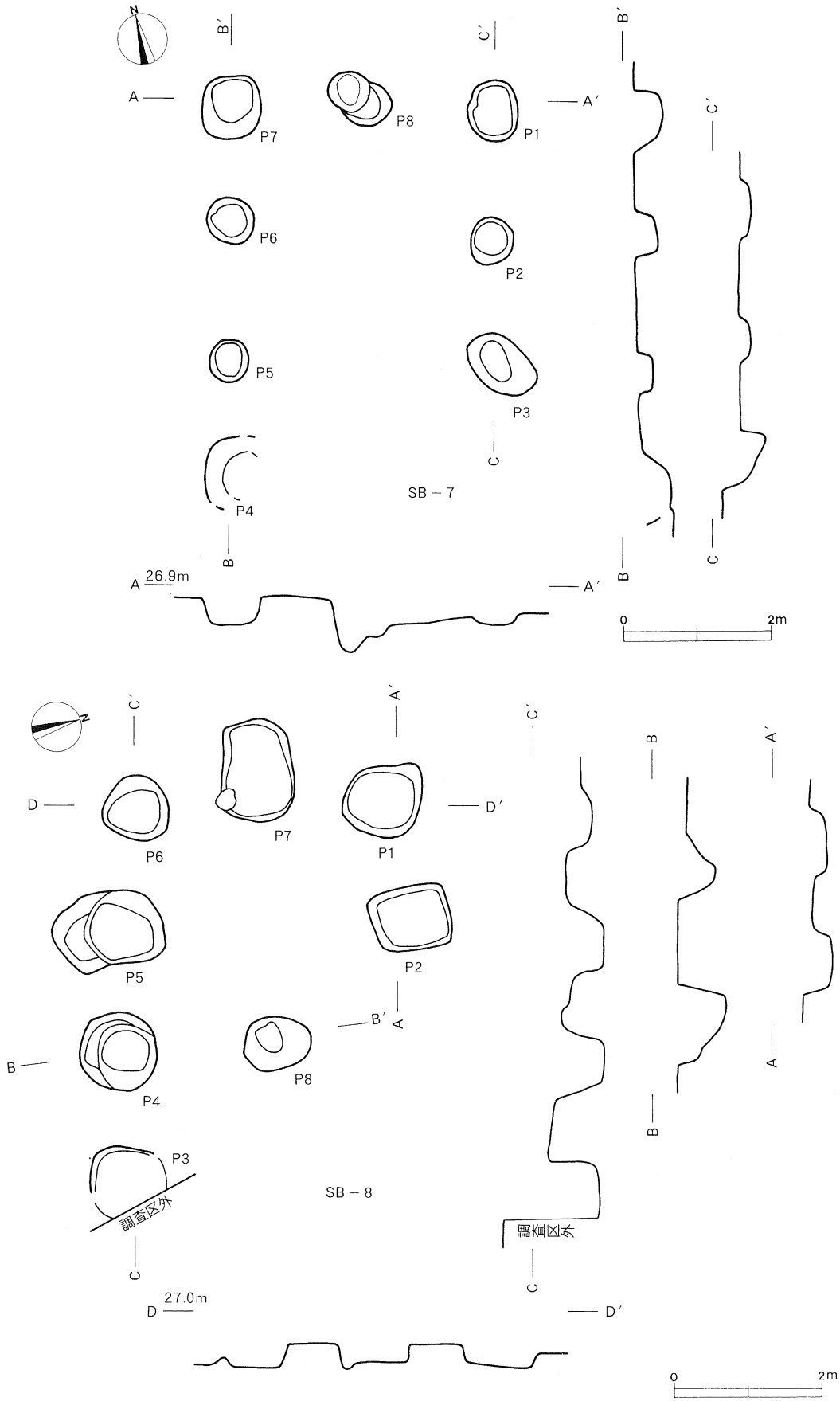
**位置** M～O-57～59区 **形態** 梁行2間×桁行3間まで確認。 **規模** 3.40×(5.00)m **主軸方位** N-67°-W **柱穴** **$P_1$** 1.19×1.00×(0.30)m **$P_2$** 1.80×0.89×0.50m **$P_3$** 深さ0.60m **$P_4$** 1.12×1.06×0.70m **$P_5$** 1.55×1.18×0.52m **$P_6$** 0.90×0.90×0.32m **$P_7$** 1.38×1.00×0.26m **$P_8$** 0.93×0.73×0.50m **柱穴間隔** 梁行間 1.7m 桁行間 1.6～1.8m **所見** $P_3$はSI-35の西壁一部を切る。東側梁行等は調査区外に残る。

**SB-9**(第126図、PL22)〈平安時代〉

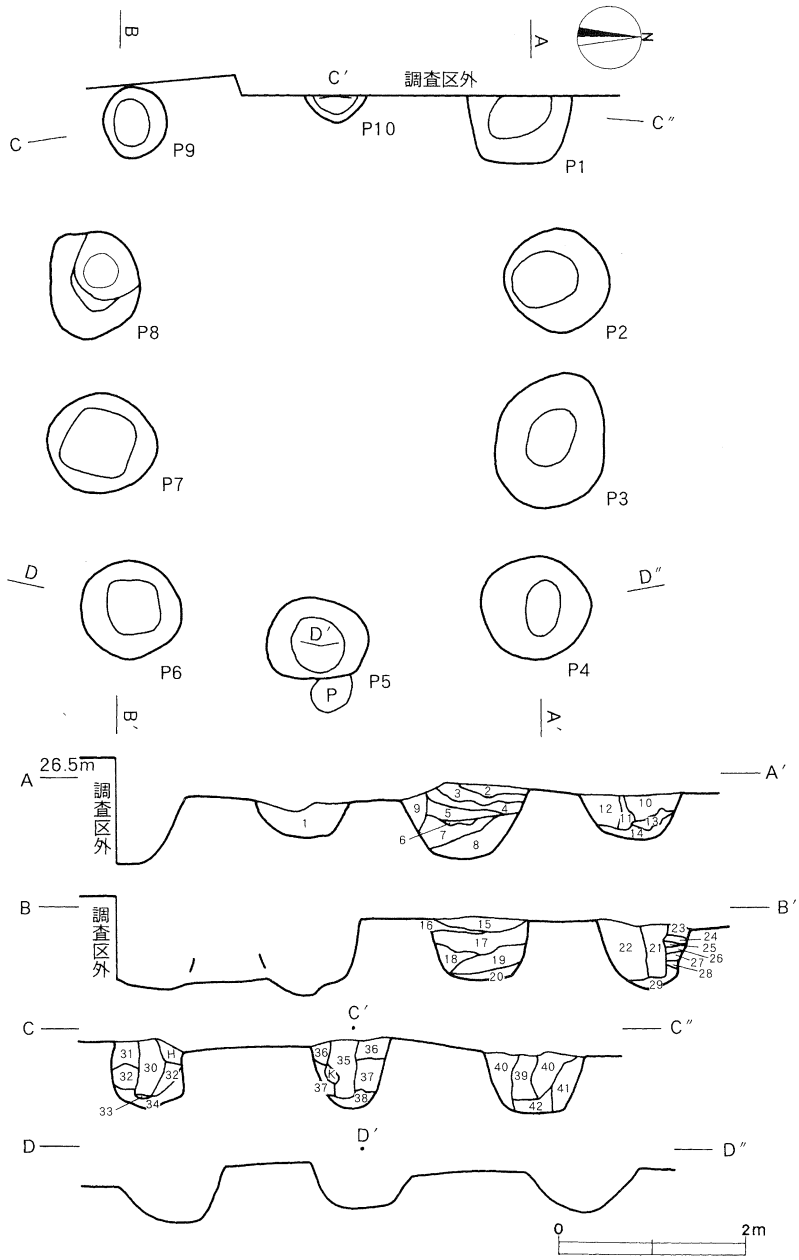
**位置** C～D-65～66区 **形態** 梁行2間×桁行3間 **規模** 4.08×5.40m **主軸方位** N-90°-W **柱穴** **$P_1$** 1.12×(0.70)×0.70m **$P_2$** 1.12×1.10×0.40m **$P_3$** 1.50×1.24×0.65m **$P_4$** 1.20×1.10×0.50m **$P_5$** 1.12×0.88×0.50m **$P_6$** 1.10×1.04×0.60m **$P_7$** 1.16×1.10×0.65m **$P_8$** 1.16×1.08×(0.60)m **$P_9$** (0.78)×(0.68)×(0.50)m **$P_{10}$** (0.64)×0.74m **柱穴間隔** 梁行間 2.0～2.3m 桁行間 1.7～1.8m **所見** 西側梁行の一部は調査区外に残る。SI-87と重複し、本遺構が新しい。柱穴の配置について、梁行と桁行ともに外側に張り出す位置に設置しており、全体が楕円形状の形態に近似している。底面はすべて非常に硬化しており、掘り方の内側に柱痕と版築状態が明瞭に残る。

**SB-10**(第127図)〈平安時代〉

**位置** I～J-69～70区 **形態** 梁行2間×桁行3間 **規模** 3.42×5.00m **主軸方位** N-87°-E **柱穴** **$P_1$** (0.86)×(0.76)×(0.22)m **$P_2$** (0.82)×(0.80)×(0.24)m **$P_3$** (1.00)×(0.96)×(0.14)m




第125図　掘立柱建物跡(SB-7・8)



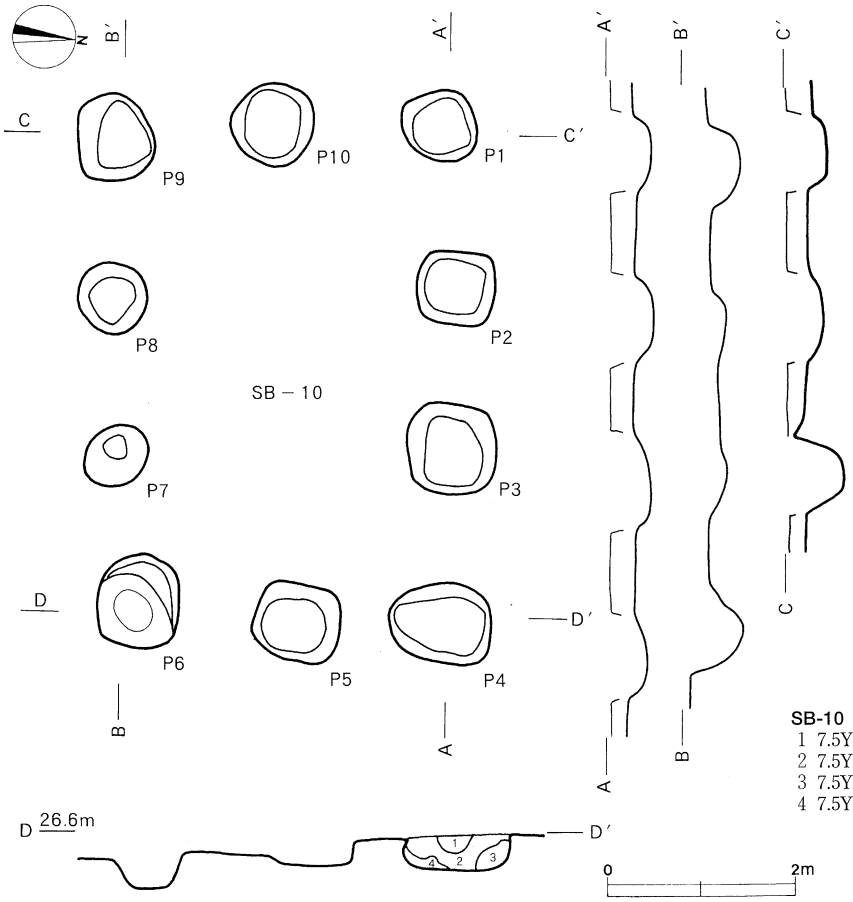

1 7.5YR4/6 褐　色　ローム大少・中中・小～粒多　締り極強
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒少
3 7.5YR4/4 褐　色　焼化粒少　ローム粒中
4 7.5YR4/6 褐　色　炭化粒少　ローム中・粒多
5 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒少　ローム大少・小～粒多
6 7.5YR5/8 明褐色　ローム大～粒多
7 7.5YR3/3 暗褐色　ローム大～粒少
8 7.5YR4/4 褐　色　ローム大～小多
9 7.5YR4/4 褐　色　ローム粒多
10 7.5YR4/6 褐　色　ローム中～粒多　締り極強
11 7.5YR4/4 褐　色　炭化粒少　ローム粒中
12 7.5YR5/6 明褐色　炭化粒微　ローム粒中
13 7.5YR4/6 褐　色　ローム粒中
14 7.5YR4/4 褐　色　炭化粒少　ローム粒少
15 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒多
16 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　ローム粒少
17 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム大～小中
18 7.5YR4/4 褐　色　ローム大～粒中
19 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム大～小多
20 7.5YR3/4 暗褐色　ローム中・粒中
21 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒少
22 7.5YR5/6 明褐色　ローム粒中
23 7.5YR3/4 暗褐色　ローム粒少　締り強
24 7.5YR4/6 褐　色　ローム粒多　締り強
25 7.5YR2/3 極暗褐色　ローム粒少
26 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒少　ローム中～粒多
27 7.5YR3/4 暗褐色　ローム粒少
28 7.5YR5/6 明褐色　ローム粒多　締り強
29 7.5YR4/6 褐　色　ローム粒中
30 7.5YR3/3 暗褐色　ローム小・粒少
31 7.5YR2/3 極暗褐色　ローム粒少
32 7.5YR3/3 暗褐色　ローム小・粒多　締り強
33 7.5YR3/4 暗褐色　ローム粒多　締り極強
34 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　ローム粒少　締り強
35 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　ローム粒少
36 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム小少・粒中
37 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　炭化粒少　ローム粒少
38 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　ローム粒少
39 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒少　ローム粒中
40 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒少　ローム粒中　締り強
41 7.5YR4/6 褐　色　ローム粒多
42 7.5YR4/6 褐　色　ローム大～粒多　締り極強

**第126図　掘立柱建物跡(SB-9)**

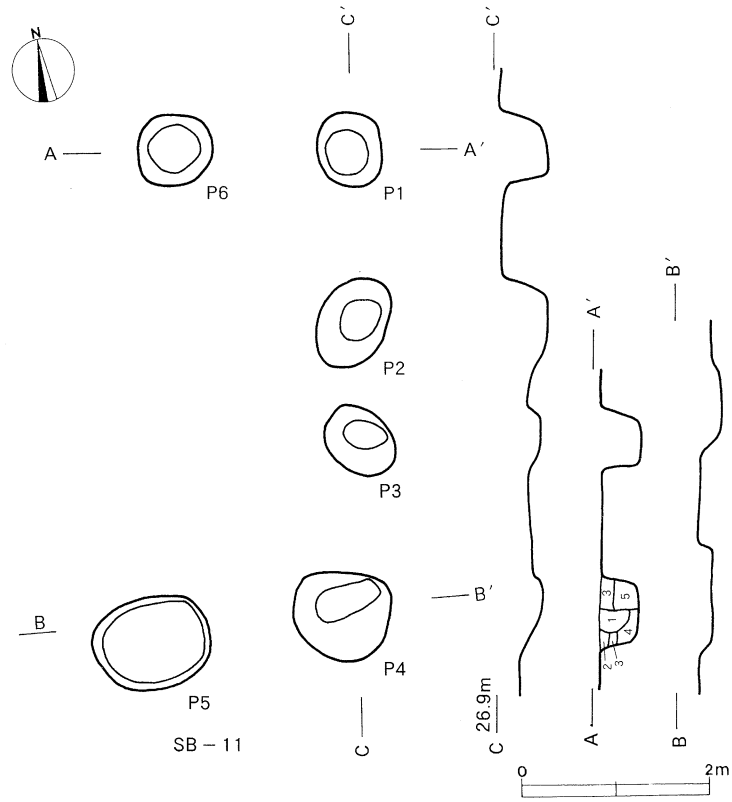
**$P_4$**　1.12×0.86×0.20m　**$P_5$**　(0.90)×(0.82)×(0.30)m　**$P_6$**　(1.02)×(0.98)×(0.40)m　**$P_7$**　(0.76)×(0.62)×(0.16)m　**$P_8$**　(0.75)×(0.74)×(0.20)m　**$P_9$**　(0.92)×(0.84)×(0.40)m　**$P_{10}$**　(0.90)×(0.86)×(0.14)m　**柱穴間隔**　梁行間　1.7m　桁行間　1.6～1.7m　**所見**　SI-73・74と重複し、本遺構が最も新しい。

**SB-11**(第127図)〈平安時代〉

**位置**　N-70～71区　**形態**　梁行1間のみ確認、桁行3間。**規模**　(2.20)×4.80m　**主軸方位**　N-11°-E　**柱穴**　**$P_1$**　0.82×0.70×0.52m　**$P_2$**　1.00×0.72×0.50m　**$P_3$**　(0.84)×(0.64)×(0.16)m　**$P_4$**　(1.08)×(1.02)×0.24m　**$P_5$**　(1.26)×(1.00)×(0.12)m　**$P_6$**　0.80×0.80×0.40m　**柱穴間隔**　梁行間　1.8m　桁行間　1.2～1.8m　**所見**　SI-64と重複し、本遺構が新しい。

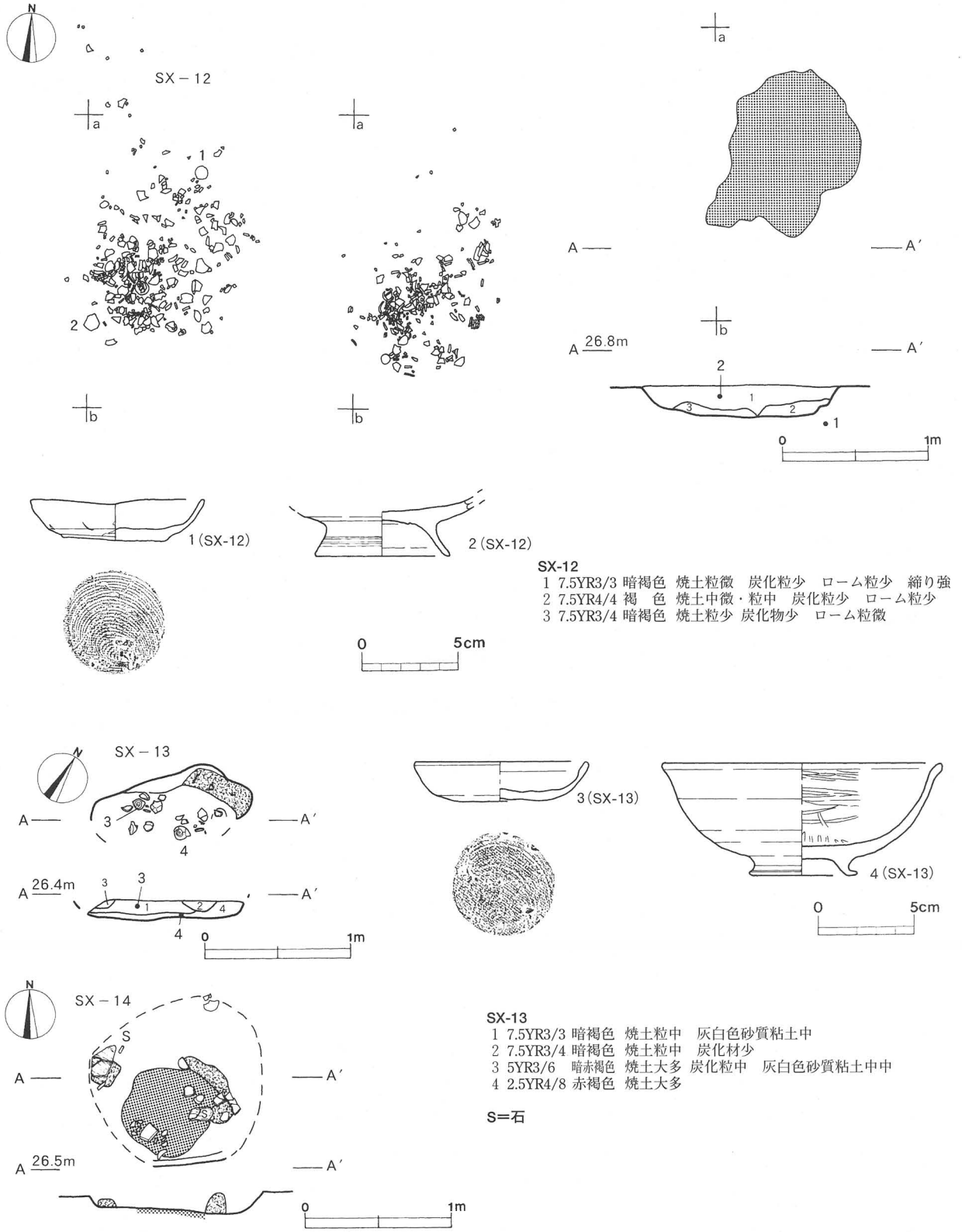



SB-10
1 7.5YR2/3 極暗褐色 焼土中～粒中 ローム小～粒中
2 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒少 ローム小～粒中
3 7.5YR2/3 極暗褐色 炭化粒少 ローム粒少
4 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒少 ローム粒中




SB-11
1 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒少 ローム小少・粒中
2 7.5YR4/6 褐 色 ローム粒少
3 7.5YR3/4 暗褐色 炭化粒少 ローム中少・粒中
4 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中
5 7.5YR4/6 褐 色 ローム小～粒多 締り強

**第127図 掘立柱建物跡(SB-10・11)**




**第128図　特殊遺構(SX-12・13・14)**

**SX-12**(第128図、PL23・34)〈平安時代〉

**位置**　G-63区　**規模**　遺物分布範囲は南北2.39m、東西1.46m。**火床面**　1.25×0.9mの不整形、火床部までの深さ0.27m。**検出状況**　土師器小皿の密集範囲と火床部から構成される。遺構の形状全体は

確認できなかったが、南側の一部では浅い皿状の掘り込みを認めていることから、遺物分布範囲に相当する規模の皿状の掘り込みが想定可能である。遺物の密集範囲は火床部の南西隅寄りで完形に近い遺物の密集範囲でもある。火床部全体には小皿の細片が散在する。遺物の密集範囲に重複する状態で炭化粒が僅かに分布していた。**遺物**　約600点の遺物を検出。主体は土師器小皿(第128図1)である。他には土師器高台付椀(同図2)や棒状土製品、土玉、焼礫を含む。

**SX-13**(第128図、PL34)〈平安時代〉

**位置**　F-64区　**規模**　1.10×(0.50)×0.14m　**検出状況**　皿状の浅い掘り込みに伴って土師器片が出土した。北壁には住居の竈に使用している灰白色砂質粘土が貼り付いていた。覆土には焼土ブロックや粒子が多く含まれているが、火床部のように底面が被熱硬化した箇所は認められなかった。**遺物**　土師器小皿（第128図3)や土師器高台付椀(同図4)等が出土している。

**SX-14**(第128図)〈平安時代〉

**位置**　E-64区　**検出状況**　SI-118の西壁の一部を削っている。浅い掘り方のため規模・形態は不明瞭。土手状の焼けた粘土塊に囲まれた内側のローム面が被熱赤化している。この赤化範囲の上に遺物が散発的に分布している。**遺物**　大半は土師器片で、その他に黒雲母片岩礫片3点や土玉1点が含まれる。**所見**　SX-12と類似するが、用途は不明。

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第128図<br>1<br>SX-12 | 小　皿<br>土師器 | A　8.8<br>B　2.1<br>C　5.3 | 平底。底部からやや直立し、外傾気味に立ち上がる。全体的に薄手で、歪んでいる。 | 底部回転糸切り。内・外面横ナデ。 | 長石・雲母・赤色粒、にぶい黄褐色・灰黄褐色、普通 | 100% |
| 2<br>SX-12 | 高台付椀<br>土師器 | B　(3.0)<br>D　6.9<br>E　1.6 | 体部以上欠損。平底を呈し、底径よりわずかに内寄りの位置に、「ハ」の字状の足高高台が付く。 | 体部外面下位回転ヘラ削り。内面は回転性のナデ成形で、黒色処理を一部施される。 | 長石・石英・赤色粒、橙色<br>良好 | 85% |
| 3<br>SX-13 | 小　皿<br>土師器 | A　8.7<br>B　2.0<br>C　4.9 | 平底。底部寄りに微かに稜を生じ、体部は薄手で外傾気味に立ち上がる。全体的にやや歪んでいる。 | 底部回転糸切り。内・外面横ナデ。 | 長石・赤色粒<br>橙色<br>普通 | 80% |
| 4<br>SX-13 | 高台付椀<br>土師器 | A　[14.2]<br>B　5.7<br>D　5.3<br>E　0.8 | 平底で底径より内寄りの位置に、「ハ」の字状の強く開く短い高台が付く。体部は内彎して立ち上がり、口唇部で外反する。 | 内面横位ヘラ磨き。外面横ナデ。 | 雲母・赤色粒<br>にぶい橙色<br>普通 | 45% |

**土壙・土坑**

ここでは坑内より様々な遺物が出土した土坑を取り上げる。中には平安時代末期のものと思われる埋葬人骨が副葬品を伴って出土したSK-5や、器体の2/3が収縮・変形した青銅製八稜鏡を伴ったSK-61などがある。

**SK-5**(第129・130図、PL 23・34)＜平安時代＞

**位置**　M-52区　**規模**　1.88×1.14×0.37m　**形態**　長方形　**長軸方向**　N-76°-W　**壁**　墓坑構築時の工具痕を確認。**検出状況**　坑底より5～7cm浮いた位置で骨片、歯を検出。歯は西隅近くに分布することから頭部は西向きに位置する。歯の下からは底面に密着する状態で呑口式腰刀1振(第130図2)、さらに足元には土師器杯(第130図3)の完形品が置かれていた。**所見**　出土遺物から本遺構は平安時代末期のものと思われる。

**SK-17**(第129図)＜平安時代＞

**位置**　H-24区　**規模**　0.82×0.66×0.50m　**形態**　楕円形　**遺物**　底面より浮いた位置から土師器甕底部が出土。土器の下の覆土は締りがよい。割れ口を丁寧に打ち欠き円盤状になっている。

**SK-25**(第129図)＜平安時代＞

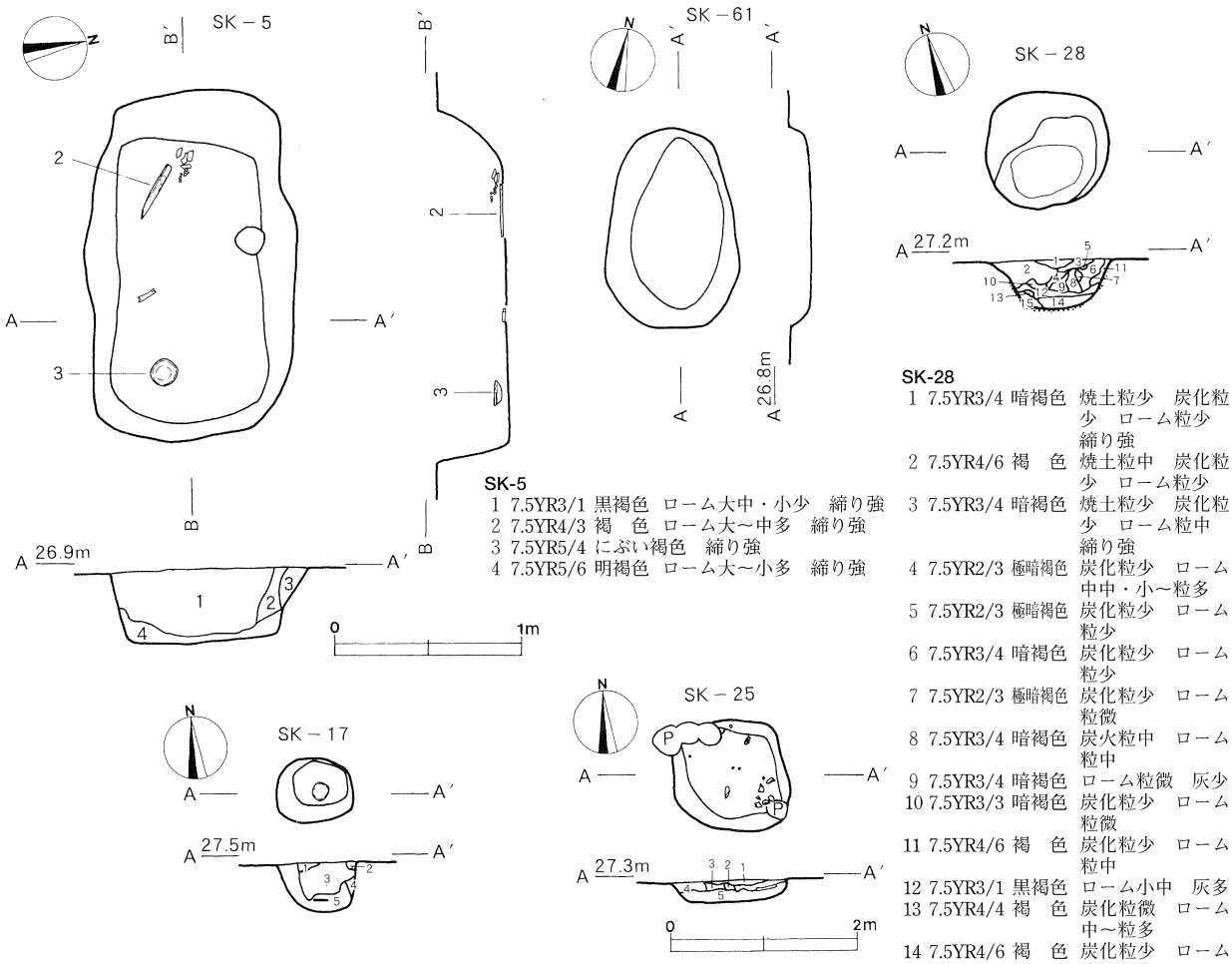
**位置**　E-26区　**規模**　1.20×1.16×0.22m　**形態**　方形　**遺物**　土師器甕の破片と土玉が出土。

**SK-28**(第129図)＜平安時代＞

**位置**　F-30区　**規模**　1.40×1.28×0.51m　**形態**　円形　**壁・底面**　ほぼ全体が被熱硬化しているが、赤変はほとんど認められない。**覆土**　全体にロームブロックと焼土粒子が含まれ、特に12層は灰の中にローム粒子小が含まれる状態。

**SK-61**(第129・130図、PL23・35)＜平安時代＞

**位置**　N-72区　**規模**　2.02×1.30×0.21m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　N-5°-W　**遺物**　土師器小皿が1点、北東側に青銅製八稜鏡(第130図1)1点出土。



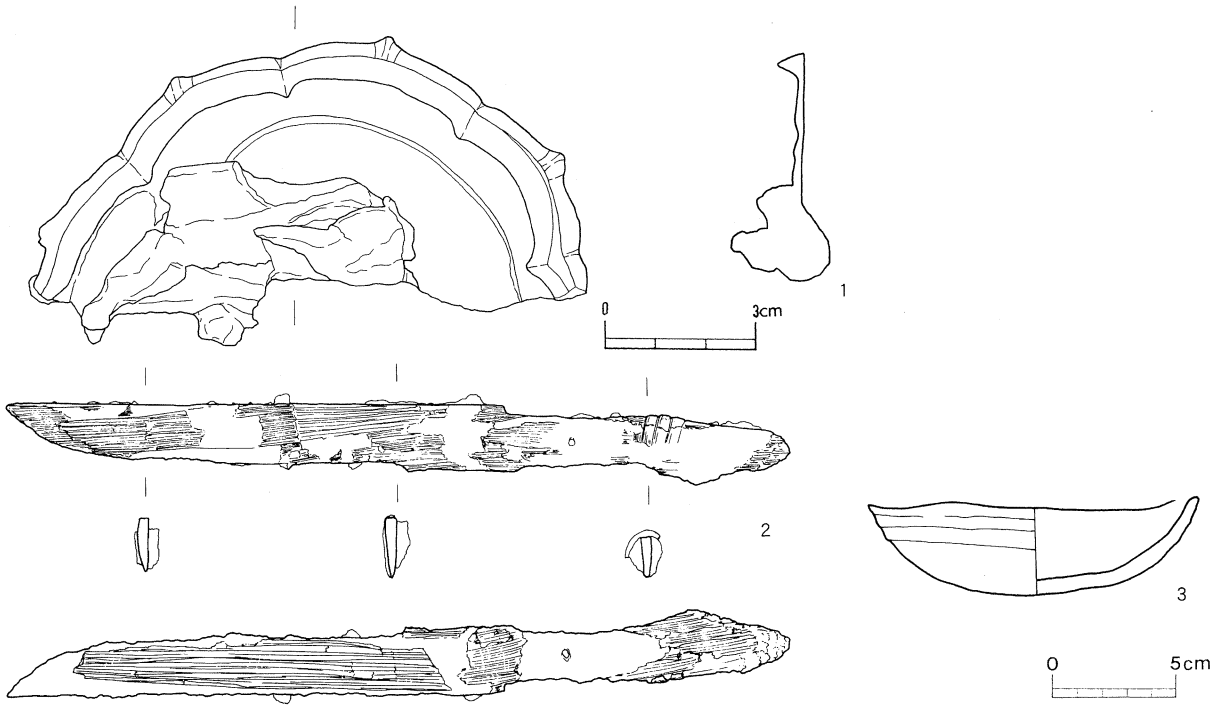

**SK-5**
1 7.5YR3/1 黒褐色　ローム大中・小少　締り強
2 7.5YR4/3 褐　色　ローム大～中多　締り強
3 7.5YR5/4 にぶい褐色　締り強
4 7.5YR5/6 明褐色　ローム大～小多　締り強

**SK-28**
1 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少　締り強
2 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒中　炭化粒少　ローム粒少
3 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中　締り強
4 7.5YR2/3 極暗褐色　炭化粒少　ローム中中・小～粒多
5 7.5YR2/3 極暗褐色　炭化粒少　ローム粒少
6 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒少　ローム粒少
7 7.5YR2/3 極暗褐色　炭化粒少　ローム粒微
8 7.5YR3/4 暗褐色　炭火粒中　ローム粒中
9 7.5YR3/4 暗褐色　ローム粒微　灰少
10 7.5YR3/3 暗褐色　炭化粒少　ローム粒微
11 7.5YR4/6 褐　色　炭化粒少　ローム粒中
12 7.5YR3/1 黒褐色　ローム小中　灰多
13 7.5YR4/4 褐　色　炭化粒微　ローム中～粒多
14 7.5YR4/6 褐　色　炭化粒少　ローム中～粒多
15 7.5YR4/4 褐　色　炭化粒微　ローム粒多

**SK-17**
1 7.5YR3/2 黒褐色　炭化粒少　ローム粒中　締り強
2 10YR3/4 暗褐色　ローム粒多　締り強
3 7.5YR3/3 暗褐色　炭化物少　ローム小～粒中
4 10YR4/6 褐　色　ローム中中
5 10YR3/4 暗褐色　ローム大微・中少・小中・粒多

**SK-25**
1 7.5YR2/3 極暗褐色　ローム粒微
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒微　ローム粒微
3 7.5YR2/2 黒褐色　黒土粒微
4 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒微　ローム粒微
5 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒微　ローム粒少

**第129図　土壙・土坑(SK-5・17・25・28・61)**




**第130図　SK-5・61出土遺物**

| 図版番号 | 器種 | 法量 | | | | | 特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 直径(cm) | 内区径(cm) | 縁高(cm) | 内区高(cm) | 重量(g) | | |
| 第130図<br>1<br>SK-61 | 銅鏡 | [10.8] | [7.0] | 0.5 | 0.1～0.2 | 114.7 | 全体の1／2は被熱により著しく変形し、残存部に折り重なる。内区には数個の突起状のものが見られるが、文様は不明。 | 八稜鏡<br>覆土一括 |

| 図版番号 | 器種 | 法量 | | | | 特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 2<br>SK-5 | 短刀 | 31.1 | 2.3 | 0.4 | 135.7 | 両面に鞘と把と思われる木質が残存する。把部には、芯となる茎と把を固定させる為に巻いたと考えられる、幅0.5cmの紐状のものが残存する。 | 呑口式腰刀 |

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 3<br>SK-5 | 杯<br>土師器 | A 13.0<br>B 3.8 | 丸底。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部が歪んでいる。 | 手づくね成形。外部底面は指頭等によるナデ成形。外部口唇～内面横ナデ。内底面にナデ。 | 長石・石英<br>にぶい橙色・にぶい黄橙色、良好 | 100% |

**土坑(密集地区)**(第132・133図、PL25)

**位置**　K～O-58～63区　**検出状況**　古墳時代前期から平安時代前半頃の住居が隣接している範囲に埋没した住居跡を切る状態で多数の土坑を検出。図示した土坑だけでも114基あるが、住居跡覆土中で床面に達しない土坑が多く、この範囲だけでも150基以上あったと思われる。形態も様々で柱穴状の小規模なものや、深さ1mに達する円形のもの、長方形のものなどがある。さらに比較的大型な土坑の覆土内部に小規模な杭状の土坑があるなど、非常に複雑である。**遺物**　SK-121覆土中より、鉄鉗が出土している。

**SK-65**(第133図)＜平安時代＞

**位置**　L-59区　**規模**　1.16×1.12×0.66m　**形態**　円形　**長軸方向**　N-60°-E　**壁**　68°　**遺物**　覆土中より「青毛」と墨書された須恵器杯(第131図1)が出土。

**SK-109**(第133図)〈平安時代〉

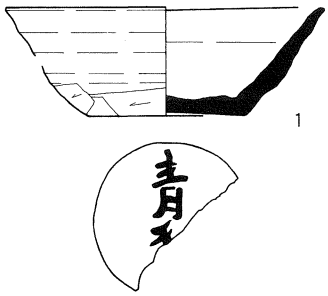
**位置**　M～N-63区　**規模**　2.12×1.64×0.71m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　N-89°-E　**壁**　75°～85°急斜面　**覆土**　4層から成り、2層は混灰土層、3層は混炭化物土層である。**遺物**　底面より5cm程浮いた位置から土師器小皿が伏せた状態で出土した。小皿は口縁部を少し欠いているが、8割は残る。**所見**　2層を境にして上位では土師器、須恵器の破片が多数出土するが、下位では破片が少ない。SI-33と重複し、本遺構が新しい。

**SK-116**(第133図、PL23)〈平安時代〉

**位置**　M-60区　**規模**　1.80×1.68×1.10m　**形態**　円形　**長軸方向**　N-41°-E　**壁**　80°～85°で垂直に近い。**覆土**　6層から成り、5層と6層の間に灰白色砂質粘土層を挟む。**遺物**　6層中からは、底面より3～5cm浮いた状態で土師器高台付杯2点、土師器小皿1点が出土。中央に出土した高台付杯は正位のままに破損していた。他の2点は正位のまま出土。この土師器高台付杯と小皿は、内面を黒色処理したものである。**所見**　灰白色砂質粘土層を境に1～5層までは土器の破片が多数出土するが、6層からは少量出土するのみ。小ピットと重複するが新旧関係は不明。

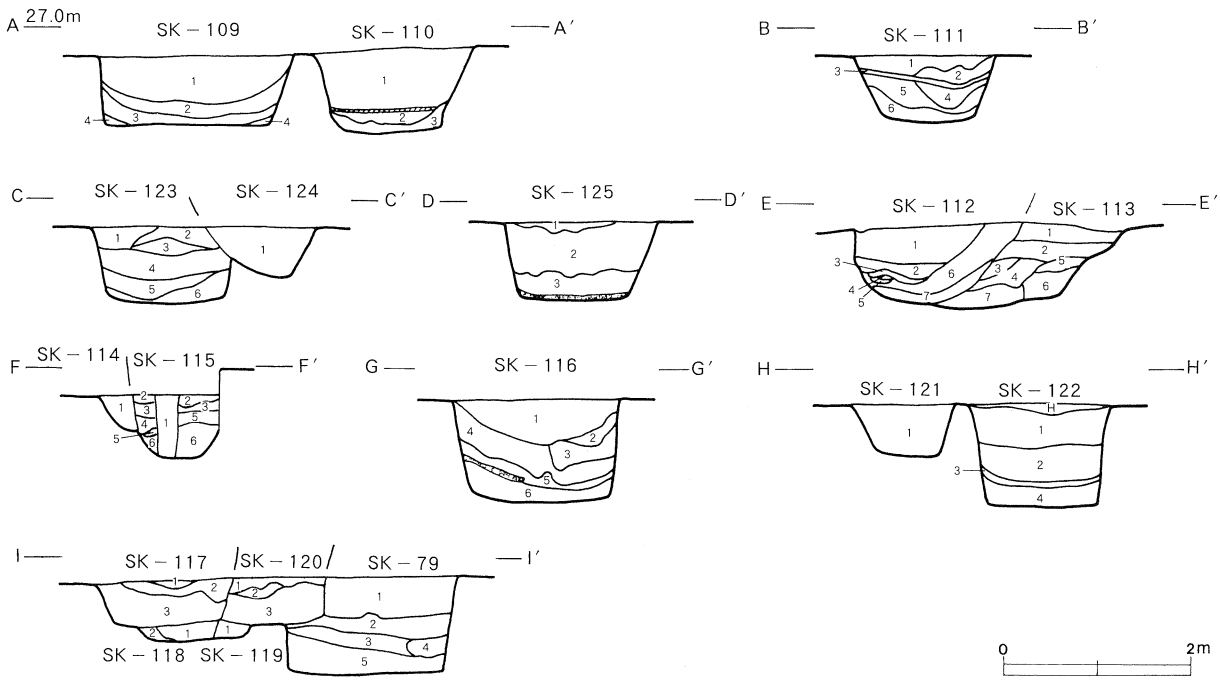
**SK-122**(第133図、PL23)〈平安時代〉

**位置**　L-60区　**規模**　1.60×1.48×1.10m　**形態**　円形　**長軸方向**　N-8°-E　**壁**　80°　急斜面　**覆土**　4層からなり、黒褐色土を主体とする。**遺物**　3層上面にて土師器高台付杯1点(内面黒色処理)、土師器小皿1点が正位の状態で出土。2点とも完形品。




**第131図　SK-65出土遺物**

| 図版番号 | 器形<br>器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第131図<br>1 | 杯<br>須恵器 | A [12.7]<br>B 4.3<br>C 6.3 | 平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。 | 底部回転ヘラ切り後、一方向ヘラ削り。体部下端手持ちヘラ削り。 | 長石・石英・雲母にぶい黄色・灰色普通 | 40%、覆土一括<br>底部外面に墨書「青毛」 |




## 第132図　土坑セクション

**SK-109**
1 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム小少・粒中
2 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒中　ローム粒少　灰白色砂質粘土粒中
3 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒少
4 7.5YR4/6 褐　色　ローム粒中　締り強

**SK-110**
1 7.5YR3/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中
2 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　炭化物中・粒多　ローム粒中
3 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒中

**SK-111**
1 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒微　灰白色砂質粘土少
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム小～粒少
3 7.5YR4/3 褐　色　炭化粒少　灰白色砂質粘土少　灰少
4 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム小～粒少
5 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒少　ローム粒少
6 7.5YR3/3 暗褐色　炭化粒少　ローム小～粒少

**SK-123**
1 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　炭化粒少　ローム粒中
2 7.5YR3/4 暗褐色　ローム粒少
3 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　ローム粒中
4 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム小少・粒中
5 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム小～粒中　締り強
6 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒少

**SK-124**
1 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少

**SK-125**
1 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少
2 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒微　灰白色砂質粘土粒少
3 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土小少・粒中　炭化粒中　ローム小少・粒中　灰白色砂質粘土粒少

**SK-112**
1 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒少
2 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　炭化粒少　ローム粒中
3 7.5YR2/3 極暗褐色　炭化粒中　ローム粒微
4 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒少　ローム粒多
5 7.5YR4/4 褐　色　ローム粒多
6 7.5YR3/3 暗褐色　炭化粒微　ローム粒少
7 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒少　ローム粒少

**SK-113**
1 7.5YR3/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒中
2 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒微　ローム粒中
3 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒微　炭化粒少　ローム粒中　締り強
4 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒微　ローム粒中
5 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒少　炭化粒中　ローム粒少
6 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒微　炭化粒少　ローム大～粒多
7 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　炭化粒少　ローム粒微

**SK-114**
1 7.5YR4/4 褐　色　炭化粒少　ローム粒少

**SK-115**
1 7.5YR2/2 黒褐色
2 7.5YR3/4 暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム中中・粒多
3 7.5YR4/4 褐　色　炭化粒少　ローム中少・小～粒中
4 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　ローム小～粒中
5 7.5YR4/6 褐　色　ローム大～粒多　締り極強
6 7.5YR3/4 暗褐色　ローム大少・粒多

**SK-116**
1 7.5YR2/3 極暗褐色　炭化物少～粒中　ローム小～粒中　締り強
2 7.5YR3/4 暗褐色　ローム小少・粒中
3 7.5YR3/4 暗褐色　炭化物少・粒中　ローム中～粒少
4 7.5YR4/6 褐　色　焼土粒微　炭化粒少　ローム中中・小～粒多
5 7.5YR3/3 暗褐色　炭化粒中　ローム中少・粒中　締り強
6 7.5YR4/4 褐　色　焼土粒微　炭化粒少　ローム小中・粒多

**SK-121**
1 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム大～粒多

**SK-122**
1 7.5YR2/2 黒褐色　炭化粒少　ローム粒少
2 7.5YR2/3 極暗褐色　ローム小少・粒中
3 7.5YR2/2 黒褐色　ローム粒少
4 7.5YR2/3 極暗褐色　ローム小少・粒中

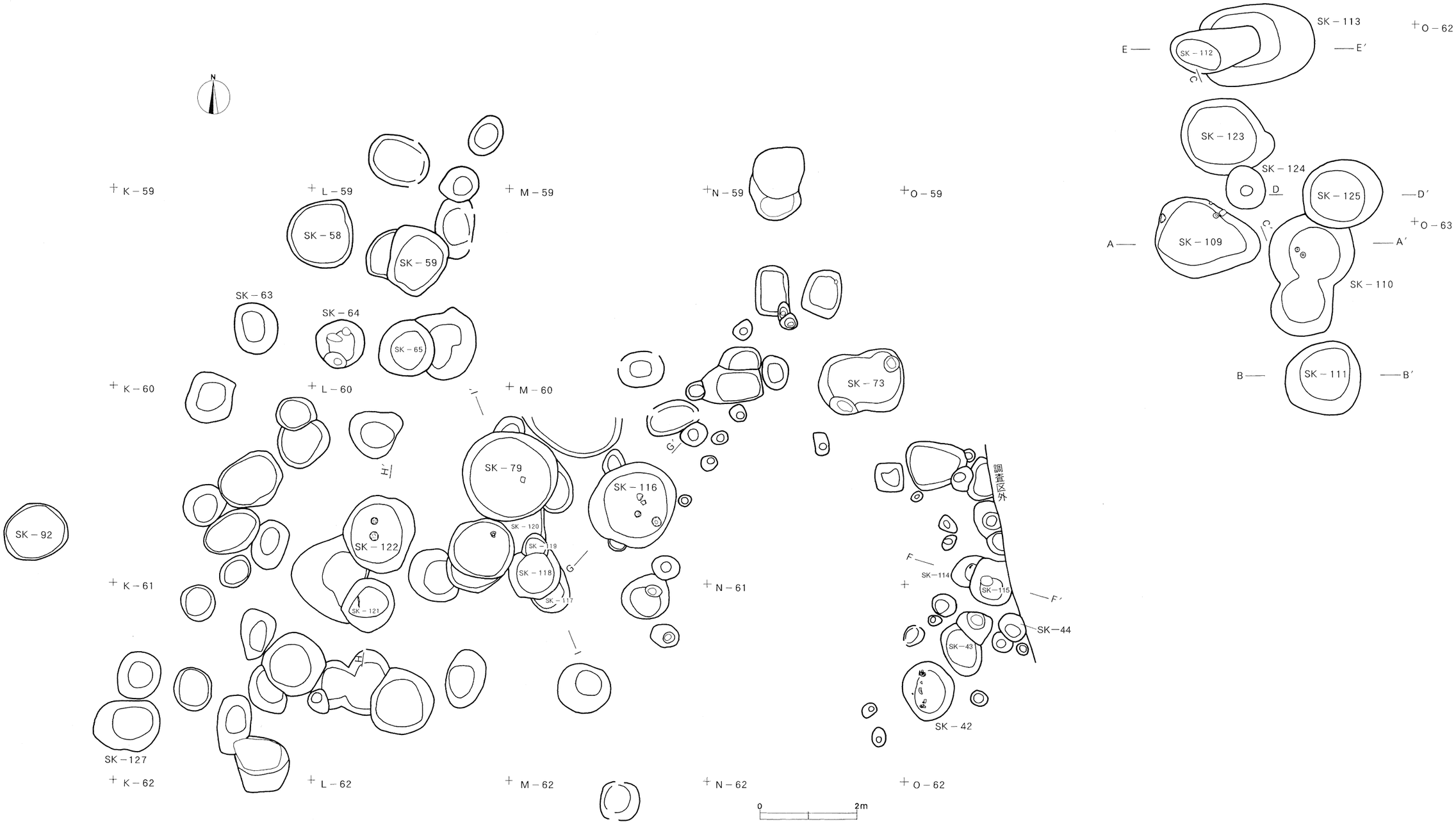
**SK-117**
1 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少
2 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム粒少
3 7.5YR3/3 暗褐色　焼土粒微　炭化粒微　ローム小少・粒中

**SK-118**
1 7.5YR3/4 暗褐色　炭化粒微　ローム中少・小中・粒多
2 7.5YR4/6 褐　色　ローム小～粒多　粘性強

**SK-119**
1 7.5YR3/3 暗褐色　炭化粒少　ローム中微・小少・粒中

**SK-120**
1 7.5YR4/6 褐　色　ローム中～粒多
2 7.5YR2/2 黒褐色　焼土粒少　炭化粒少　ローム粒少
3 7.5YR3/2 黒褐色　炭化粒微　ローム小～粒少

**SK-79**
1 7.5YR4/4 褐　色　ローム中少・小～粒多
2 7.5YR4/3 褐　色　焼土粒微　炭化粒微　ローム小中・粒多
3 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒中　炭化粒中　ローム小微・粒中
4 7.5YR2/3 極暗褐色　焼土粒少　炭化物少　ローム粒多
5 7.5YR3/3 暗褐色　炭化粒微　ローム小少・微中　粘性強

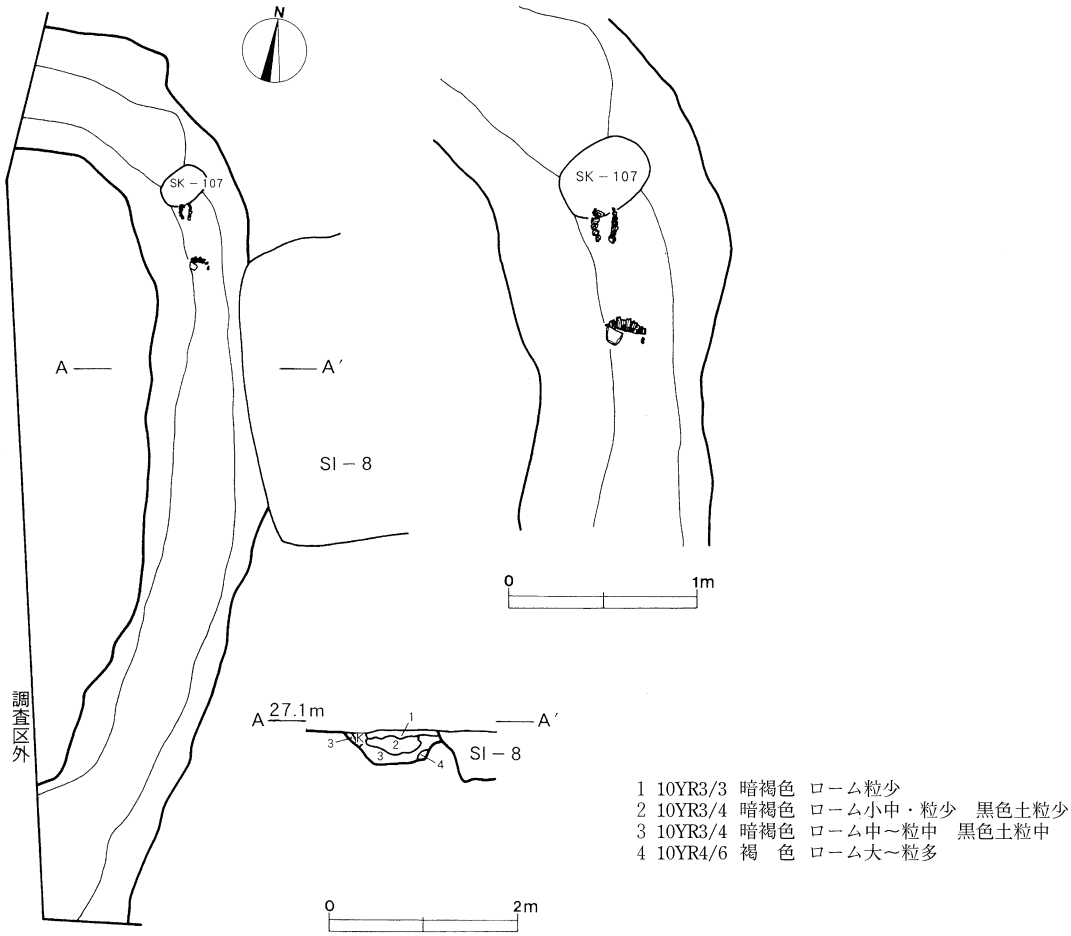

N
K－59
L－59
M－59
N－59
O－59
SK－58
SK－59
SK－63
SK－64
SK－65
K－60
L－60
M－60
SK－73
SK－79
SK－116
SK－120
SK－119
SK－118
SK－117
SK－122
SK－121
SK－92
K－61
N－61
調査区外
SK－114
SK－115
SK－44
SK－43
SK－42
SK－127
K－62
L－62
M－62
N－62
O－62
0
2m
SK－113
O－62
E
E′
SK－112
SK－123
SK－124
D
SK－125
D′
O－63
A
A′
SK－109
SK－110
B
B′
SK－111

第133図　土坑集中部

## 溝跡

**SD-10**(第134図、PL23・26)＜平安時代＞

**位置**　A～B-25～27区　**規模**　南北9.40×東西2.30m、深さ0.35m　**断面形態**　逆台形　**検出状況**　調査区西壁にSI-8に続いて黒色土が広がっていたため、調査可能範囲限度まで確認範囲を拡張した。南北両端で屈曲率を上げて溝の方向を変えて、調査区西隣の耕作地に延びている。耕作地側の表面上からは埋没した溝跡の所在を示す様なランドマークは認められなかった。そのため全体の形状は不明である。なお南側の屈曲部は溝上面の幅が最大である。**遺物**　溝内覆土中より土師器片、須恵器片が出土。その他に馬の歯と下顎骨の一部が2層上位付近から出土。元来は1頭分の頭骨だったと思われるが、埋める段階で上顎部と下顎部を切り離している。上顎は咬合面を上に向けており、下顎は横倒しの状態で出土した。上顎と下顎の間隔は0.8mある。この他には骨粉・骨片等は認め られなかった。**所見**　SI-8とSK-107と重複し、本遺構が最も古い。住居跡との新旧関係から平安時代の溝跡と思われる。




**第134図　溝跡(SD-10)**

## 第5節　中世以降

中世以降は掘立柱建物跡2軒、方形竪穴状遺構4基、地下式坑1基、土壙13基、土坑14基、井戸跡3基、溝跡11条、道路跡4条となっている。大半の遺構は13世紀初頭から14世紀後半までのもので、道路跡は19世紀後半以降のものである。

掘立柱建物跡は平安時代の同種の遺構と比較して、柱穴の掘方の規模が細く深いのが特徴である。そして柱穴の中に常滑甕や常滑三筋壺片、渥美甕の破片、白磁片などの遺物が投棄されていることが特記できる点である。これらの遺物は、少なくとも柱穴内より柱木を抜き取った後に投棄している。また、SB-5とSK-107·108出土の遺物が接合している点を考えると、掘立柱建物跡と周囲の柱穴の同時的関連性は非常に高いと思われる。そして、骨壺としての使用が主たる用途の三筋壺を破砕して他の容器破片と一緒に投棄するなど、建物の撤去により遺物の投棄を伴う儀礼的行為が行われたものと思われる。

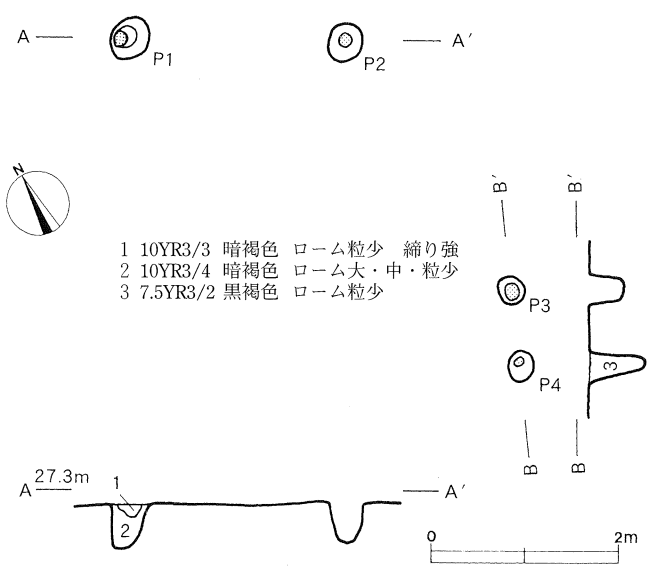
方形竪穴状遺構は調査区北側に2基1対の状態で検出した。この遺構の特徴は、覆土がロームブロックを多量に混入した褐色土による埋め戻しが行われている点と、埋め戻し途中に灰白色砂質粘土を挟んだり小規模な焚火跡を伴うことにある。この粘土や焚火跡は遺構の南端に偏在している。覆土中からは常滑甕片や青磁皿片等容器の破片や鉄器が出土している。

土壙の内訳は人間の埋葬土壙が6基、馬の埋葬土壙が7基となる。人間の埋葬土壙では、副葬品として銭貨(六道銭)(SK-76·91)、土師質土器小皿(SK-62)、鉄製品(SK-51)が出土した。馬の埋葬土壙では、主な伴出遺物として、刀子(SK-82)、土師質土器小皿(SK-104)が挙げられる。

### 掘立柱建物跡

**SB-4**(第135図)〈鎌倉時代〉

**位置**　C-22～24区　**柱穴**　**P₁**　0.48×0.38×0.46m　**P₂**　0.42×0.38×0.42m　**P₃**　0.32×0.26×0.38m　**P₄**　0.34×0.28×0.58m　**柱穴間隔**　P₁－P₂間　2.4m　P₃－P₄間 0.7m　**所見**　底面が硬化している。

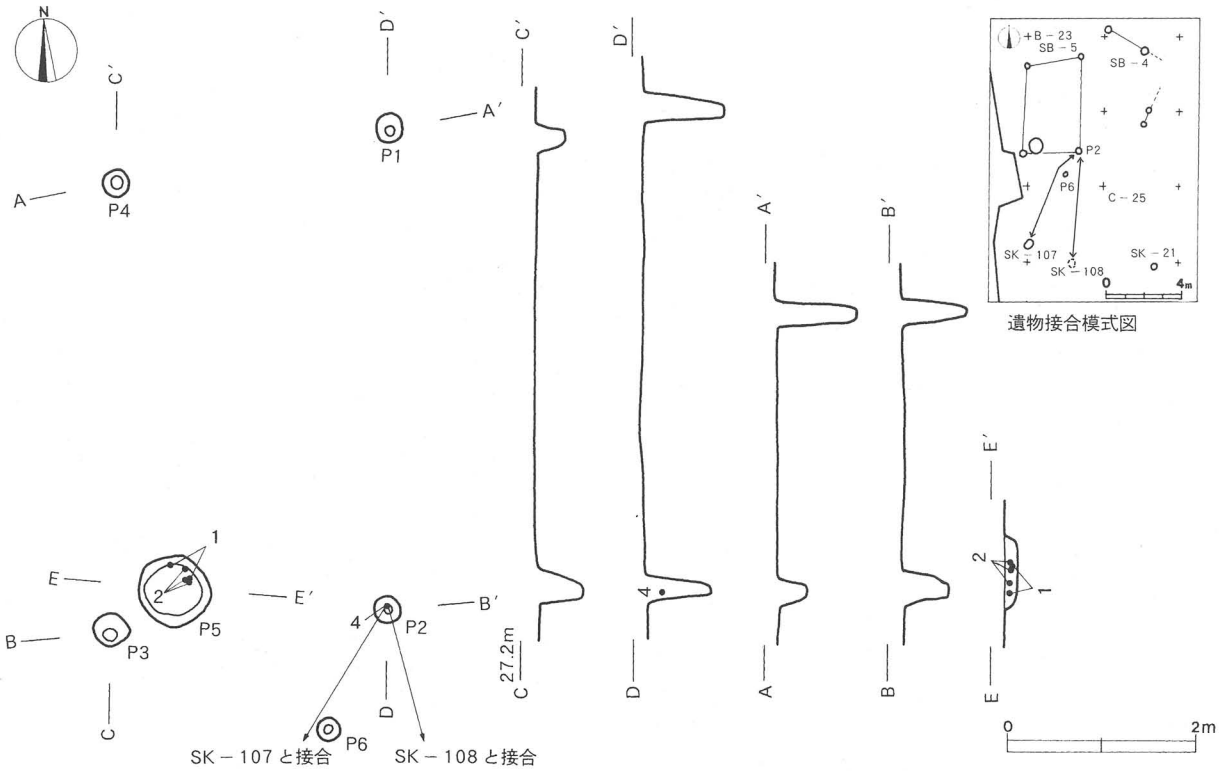



**第135図　掘立柱建物跡(SB-4)**

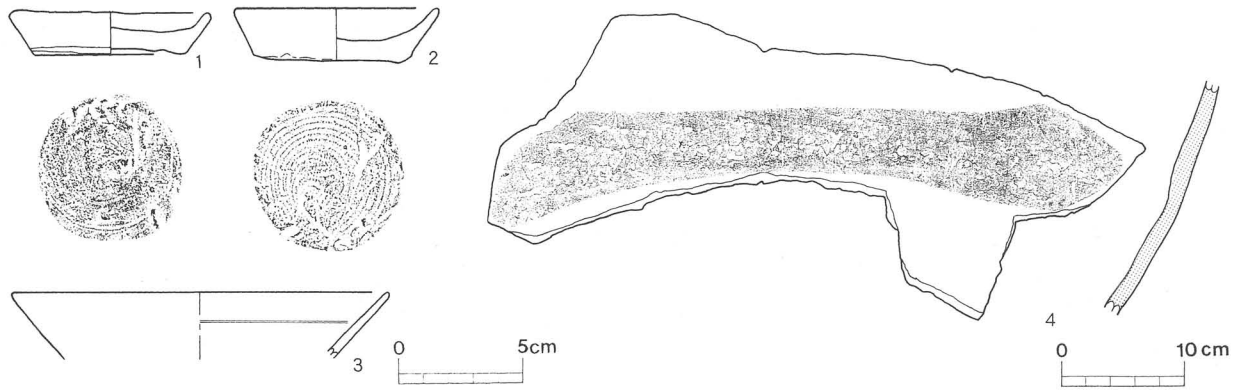
**SB-5**(第136図、PL 35)〈鎌倉時代〉

**位置**　A～B-23～24区　**形態**　梁行1間×桁行1間　**規模**　2.94×5.08m　**主軸方位**　N-3°-W　**柱穴**　**P₁**　0.32×0.30×0.87m　**P₂**　0.32×0.30×1.01m　**P₃**　0.40×0.36×0.45m　**P₄**　0.30×0.30m　**P₅**　0.80×0.80×0.16m　**柱穴間隔**　梁行間　2.9m　桁行間　4.8～5.1m　**遺物**　P₂より渥美甕の破片が穴内に差し込まれた状態で出土。この渥美甕はSK-107・108出土の渥美甕と同一個体である。P₅北寄りに土師質土器小皿3点出土。P₆覆土中より白磁片、炭化材、鉄片が

出土。**所見**　建物の柱撤去後に渥美甕を破砕し柱痕内に投棄している。周辺の柱痕内にも同一個体の破片を投棄するなど、同時間内での一括投棄行為が行われた範囲に含まれる遺構である。

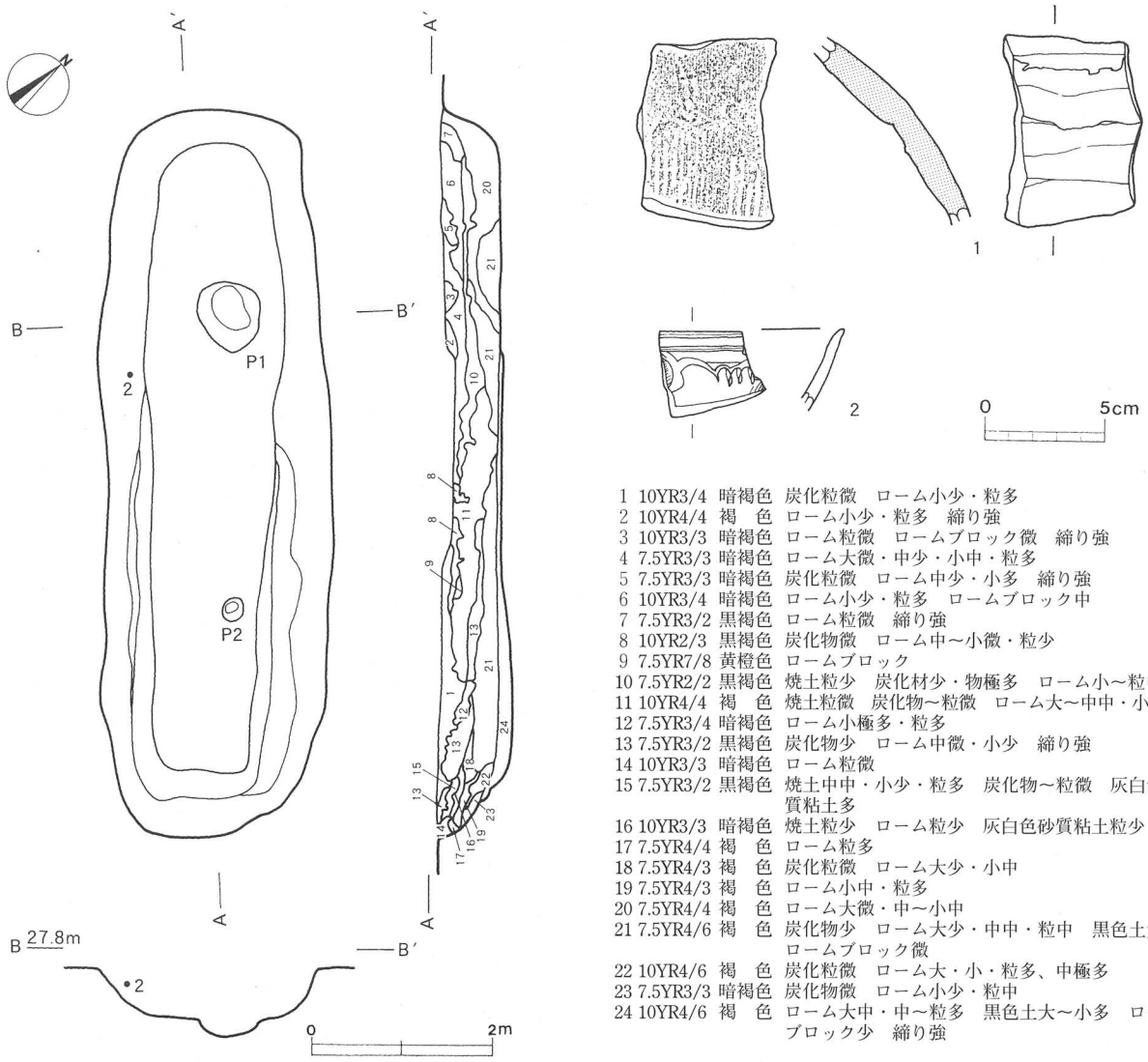



**第136図　掘立柱建物跡(SB-5)**




**第137図　出土遺物**

| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第137図<br>1 | 小　　皿<br>土師質土器 | A　7.9<br>B　1.8<br>C　6.0 | 平底。体部は直線的に外傾して短く開く。口縁部に3ヶ所歪みあり。 | 底部回転糸切り。内・外面横ナデ。底部は2次焼成により、黒色変成。 | 長石・石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | 95% |
| 2 | 小　　皿<br>土師質土器 | A　8.0<br>B　2.1<br>C　5.8 | 平底。体部は直線的に外傾して開く。 | 底部回転糸切り。内・外面横ナデ。 | 石英<br>にぶい黄橙色<br>普通 | 95% |
| 3 | 碗　皿　類<br>白　　磁 | A　[14.8]<br>B　( 2.6) | 口縁部片。直線的に外傾して開き、口縁に続く。 | 断面に、漆によって焼き接いだ痕跡が残る。内面に一条の沈線が彫られる。 | 緻密<br>灰白色<br>良好 | 10%<br>$P_6$覆土一括 |
| 4 | 大　　甕<br>陶　　器 | B　(19.9) | 胴部片。中位より下半部。 | 胴部外面に、押印文を一条遺す。上方に黒灰色の自然釉を施す。内面に粘土紐接合痕、指頭痕がみられる。 | 長石・黒色粒<br>灰色<br>良好 | 100%<br>渥美<br>SK-107･108と接合 |




1 10YR3/4 暗褐色 炭化粒微 ローム小少・粒多
2 10YR4/4 褐 色 ローム小少・粒多 締り強
3 10YR3/3 暗褐色 ローム粒微 ロームブロック微 締り強
4 7.5YR3/3 暗褐色 ローム大微・中少・小中・粒多
5 7.5YR3/3 暗褐色 炭化粒微 ローム中少・小多 締り強
6 10YR3/4 暗褐色 ローム小少・粒多 ロームブロック中
7 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒微 締り強
8 10YR2/3 黒褐色 炭化物微 ローム中～小微・粒少
9 7.5YR7/8 黄橙色 ロームブロック
10 7.5YR2/2 黒褐色 焼土粒少 炭化材少・物極多 ローム小～粒中
11 10YR4/4 褐 色 焼土粒微 炭化物～粒微 ローム大～中中・小多
12 7.5YR3/4 暗褐色 ローム小極多・粒多
13 7.5YR3/2 黒褐色 炭化物少 ローム中微・小少 締り強
14 10YR3/3 暗褐色 ローム粒微
15 7.5YR3/2 黒褐色 焼土中中・小少・粒多 炭化物～粒微 灰白色砂質粘土多
16 10YR3/3 暗褐色 焼土粒少 ローム粒少 灰白色砂質粘土粒少
17 7.5YR4/4 褐 色 ローム粒多
18 7.5YR4/3 褐 色 炭化粒微 ローム大少・小中
19 7.5YR4/3 褐 色 ローム小中・粒多
20 7.5YR4/4 褐 色 ローム大微・中～小中
21 7.5YR4/6 褐 色 炭化物少 ローム大少・中中・粒中 黒色土大微 ロームブロック微
22 10YR4/6 褐 色 炭化粒微 ローム大・小・粒多、中極多
23 7.5YR3/3 暗褐色 炭化物微 ローム小少・粒中
24 10YR4/6 褐 色 ローム大中・中～粒多 黒色土大～小多 ロームブロック少 締り強

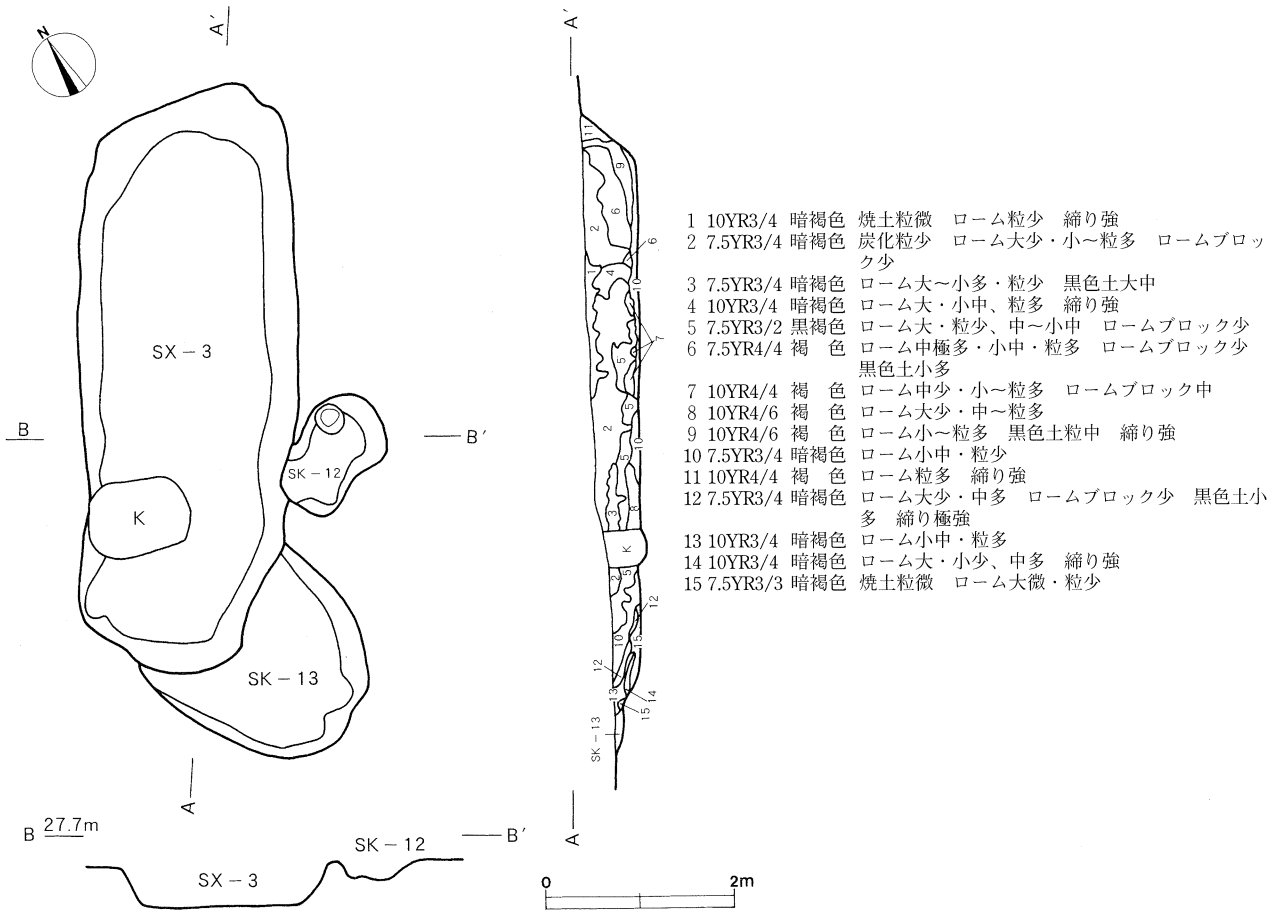
**第138図 方形竪穴状遺構(SX-1)**

## 方形竪穴状遺構

**SX-1**(第138図、PL24・35)〈鎌倉時代〉

**位置** D～F-16～17区 **規模** 7.34×2.58×0.80m **形態** 長方形 **長軸方向** N-48.5°-W **壁** 南北で傾斜が異なり北壁が相対的に急傾斜 **床** 南側2/3はロームブロックを主体とした貼床。**ピット** $P_1$ 0.82×0.68×0.16m $P_2$ 0.28×0.22×0.09m **覆土** 暗褐色土中に2枚の炭化物層(10・13層)を挟み、南端では灰白色砂質粘土(15層)と焼土を炭化物層の下から検出。24層は貼床。**遺物** 全点からみると土師器細片が主体を占めるが、常滑甕片(第138図1)や青磁碗片(同図2)が出土している。

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第138図 1 | 壺甕類 陶器 | B (7.7) | 肩部片。 | 外面に格子状押印文を施し、上位に自然釉(オリーブ灰色)が付着する。内面に粘土紐輪積み痕と横ナデ。 | 長石・石英・黒色粒、にぶい赤褐色・灰褐色、良好 | 100% 常滑 覆土一括 |
| 2 | 劃花文碗 青磁 | B (3.3) | 口縁部片。やや直立気味に立ち上がり、口唇部はわずかに外反する。 | 外面は無文、内面は篦状工具で花弁状の文様を彫る。内・外面貫入あり。 | 緻密 灰オリーブ色 良好 | 100% 龍泉窯系 |




**第139図　方形竪穴状遺構(SX-3)・土坑(SK-12・13)**

**SX-3**(第139図)〈鎌倉時代〉

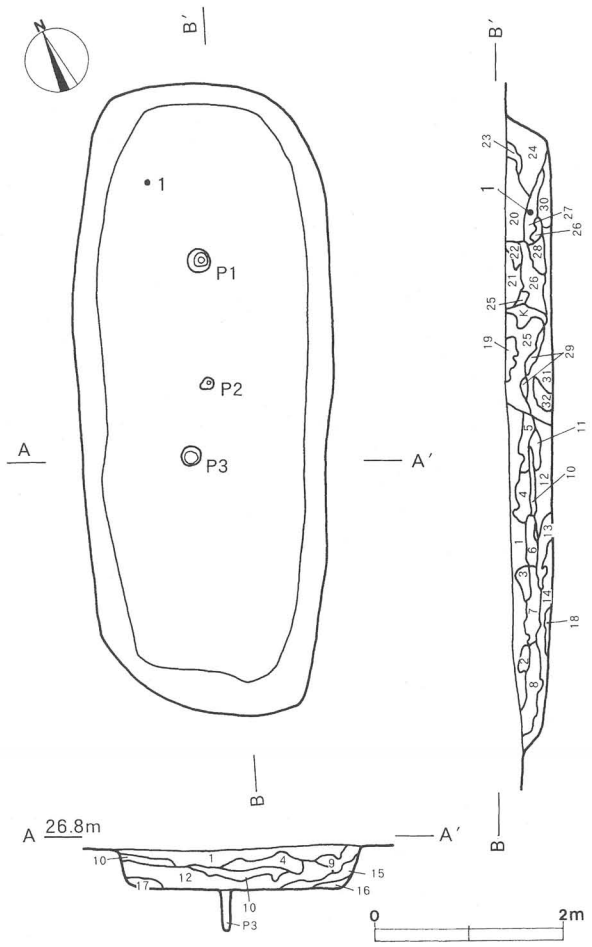
**位置**　E～F-19～20区　**規模**　7.12×2.36×0.56m　**形態**　長方形　**長軸方向**　N-27.5°-E　**覆土**　暗褐色土が主体を占め、南壁近くに焼土粒子を含む15層が堆積している。**遺物**　大半が細片で実測不可能。**所見**　SX-1の南側に位置して長軸方向で74°の角度で交差する。西側に開く「く」の字状の配置になる。SK-12・13と重複し、本遺構が新しい。

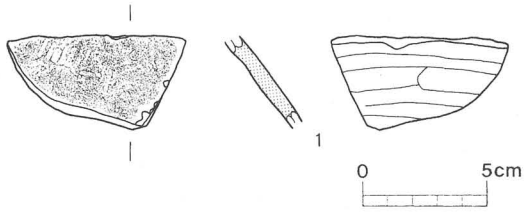
**SK-12**(第139図)〈鎌倉時代〉

**位置**　F-20区　**規模**　1.34×0.82×0.16m　**形態**　不整長方形　**長軸方向**　N-64.5°-E　**ピット**　$P_1$ 0.32×0.30×0.24m　**遺物**　覆土中より土師質土器小皿が出土している。**所見**　SX-3と一部重複し、本遺構が古い。

**SK-13**(第139図)〈鎌倉時代〉

**位置**　E～F-20～21区　**規模**　(2.20)×2.14×0.20m　**形態**　楕円形と推定。**長軸方向**　N-24°-W　**遺物**　覆土中より土師質土器小皿が出土している。**所見**　SX-3と北壁付近で重複、本遺構が古い。



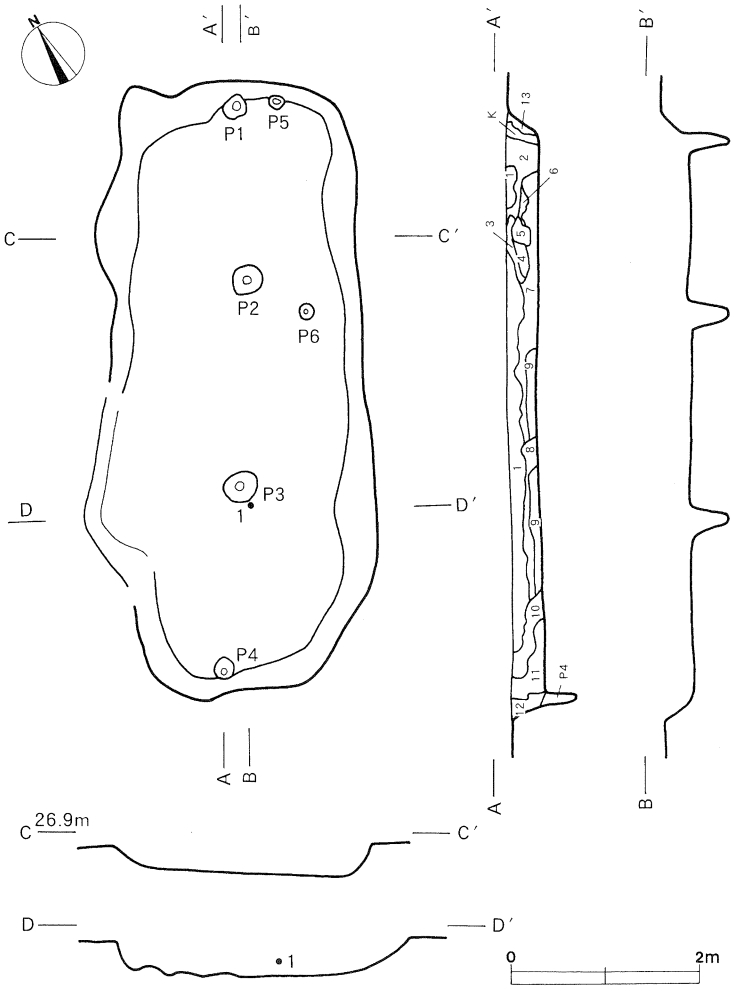

1 7.5YR3/3 暗褐色 炭化粒少 ローム小少・粒中 締り強
2 7.5YR3/3 暗褐色 炭化物微 ローム大・粒少、中～小多 締り強
3 7.5YR3/3 暗褐色 ローム中・粒少
4 7.5YR3/3 暗褐色 炭化粒中 ローム大・粒中、中～小少 ロームブロック微
5 10YR3/3 暗褐色 ローム小多・粒中
6 7.5YR3/2 黒褐色 炭化物中 ローム小～粒少
7 10YR3/4 暗褐色 炭化粒少 ローム大少・中中・粒多
8 7.5YR4/6 褐 色 ローム中・粒中、小多 黒色土中～小少
9 7.5YR3/4 暗褐色 炭化粒微 ローム小～粒少 締り強
10 7.5YR3/3 暗褐色 炭化材極多 ローム小～粒中
11 7.5YR4/4 褐 色 ローム大中・中～粒多 黒色土小～粒多
12 7.5YR4/3 褐 色 ローム中少・小～粒中 黒色土小少・粒中
13 7.5YR4/4 褐 色 ローム大多・中～粒中 黒色土粒中
14 10YR3/4 暗褐色 炭化物微 ローム小～粒中
15 7.5YR3/4 暗褐色 ローム小～粒少 黒色土粒少
16 10YR3/4 暗褐色 ローム粒少
17 10YR3/4 暗褐色 ローム粒中
18 7.5YR4/4 褐 色 ローム大微・小多
19 7.5YR3/3 暗褐色 焼土粒微 炭化粒微 ローム小中・粒少 締り強
20 10YR3/4 暗褐色 ローム大・粒少、中～小中 ロームブロック少 黒色土中
21 7.5YR3/2 黒褐色 焼土粒微 炭化粒微 ローム小～粒少
22 7.5YR3/4 暗褐色 炭化粒微 ローム粒少 締り強
23 10YR3/4 暗褐色 ローム大・粒少 締り強
24 10YR3/4 暗褐色 ローム大・粒少、中中
25 7.5YR3/4 暗褐色 ローム小～粒多 黒色土小多
26 10YR2/3 黒褐色 焼土粒微 炭化粒少 ローム小～粒微
27 10YR3/3 暗褐色 炭化粒微 ローム小少・粒中
28 10YR3/4 暗褐色 ローム中少・粒多 黒色土小中
29 10YR3/4 暗褐色 ローム小中・粒多
30 10YR3/3 暗褐色 炭化物微 ローム粒少
31 10YR3/4 暗褐色 炭化物少 ローム小～粒多
32 10YR3/4 暗褐色 ローム大少・小～粒中 ロームブロック少

**第140図 方形竪穴状遺構(SX-10)**

**SX-10**(第140図、PL24・35)＜鎌倉時代＞

**位置** B～C-36～37区 **規模** 6.78×2.74×0.48m **形態** 長方形 **長軸方向** N-20°-E **壁** 南北で傾斜が異なり南側が緩やか。**床** 平坦で南側に向かって僅かに高くなる。**覆土** 中央付近で斜めに入る不連続面がある。中央部の覆土中位には板状の炭化物層(10層)が挟まれている。全体的にはロームブロックを多く混入する褐色土によって埋め戻した状態である。**ピット** $P_1$ 0.26×0.24×0.50m $P_2$ 0.16×0.12×0.21m $P_3$ 0.22×0.20×0.33m 長軸方向に並ぶ。**遺物** 大半の遺物は土師器細片。その中に少数の渥美甕片(第140図1)などが含まれる。

| 図版番号 | 器 種 | 法量(cm) | 器 形 の 特 徴 | 技 法 の 特 徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第140図 1 | 壺 甕 類 陶 器 | B (7.5) | 胴部片。 | 外面に格子状押印文を施し、自然釉が付着する。内面には粘土紐輪積み痕と指頭痕が巡る。 | 長石・黒色粒 黄灰色・灰黄褐色 良好 | 100% 渥美 |



1 10YR3/4 暗褐色 焼土粒微 炭化物中・粒少 ローム大中・中～粒多 ロームブロック微 締り強
2 7.5YR3/3 暗褐色 ローム中微・小少・粒中
3 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒少
4 7.5YR3/4 暗褐色 焼土粒微 炭化粒微 ローム小中・粒多
5 7.5YR4/4 褐 色 焼土粒微 炭化粒少 ローム大・粒中、小多 締り強
6 10YR3/3 暗褐色 炭化粒微 ローム粒少
7 7.5YR3/3 暗褐色 炭化粒微 ローム中微・小少・粒中
8 7.5YR3/3 暗褐色 炭化物少 ローム小少・粒中 締り強
9 10YR3/4 暗褐色 炭化物少 ローム大少・小～粒中
10 10YR3/4 暗褐色 焼土粒少 炭化物微 ローム小中・粒少 ロームブロック微 灰中
11 10YR3/4 暗褐色 炭化物少 ローム小少・粒中
12 7.5YR4/4 褐 色 ローム粒多 ロームブロック少
13 7.5YR3/3 暗褐色 ローム中～小中・粒多

**第141図 方形竪穴状遺構(SX-11)**

**SX-11**(第141図、PL24・35)＜鎌倉時代＞

**位置** C～D-36区 **規模** 6.48×3.10×0.36m **形態** 長方形 **長軸方向** N-29°-E **床** 西側のSI-11を一部削平して構築。住居跡覆土の褐色土壌部にはロームブロックを使用した貼床を構築する。**ピット** **P₁** 0.28×0.11×0.42m **P₂** 0.32×0.30×0.44m **P₃** 0.38×0.32×0.40m **P₄** 0.24×0.22×0.34m **P₅** 0.18×0.14×0.17m **P₆** 0.18×0.16×0.21m ピットは長軸方向に2列平行に並ぶ。**覆土** 南側に灰を含む層(10層)が堆積する。

| 図版番号 | 器 種 | 法量(cm) | 器 形 の 特 徴 | 技 法 の 特 徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第141図<br>1 | 小 皿<br>土師質土器 | A [ 8.6]<br>B 1.6<br>C 6.1 | 平底。全体に薄手。体部は直線的に外傾して開き、口縁部で肥厚して内彎気味になる。内底面は平坦。 | 底部回転糸切り。内・外面横ナデ。 | 長石・石英・雲母<br>にぶい橙色<br>普通 | 60% |

**土壙**

**SK-23**(第142図、PL 25・26)〈中世〉

**位置**　D-33区　**規模**　1.58×1.25×0.33m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　N-26°-E　**検出状況**　北側に馬歯1組と下顎骨や椎骨の一部、南側に骨粉を検出。歯列の内側には歯垢が付着していた。**遺物**　土師器細片を検出したが、副葬品と認められる遺物は出土していない。

**SK-57**(第142図、PL26)〈中世〉

**位置**　L-56区　**規模**　1.84×1.07×0.42m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　N-73°-W　**覆土**　中央の1・2層には砂質粘土を含んでいる。骨の周囲の土は硬化が著しい。**検出状況**　馬1頭を検出。頭部を東側に向けている。頭蓋骨は頭頂部から鼻孔にかけて直線的に内側に陥没している。脊柱は撹乱により失われている。肋骨は部分的に脊柱に残るが、大部分は消失しており骨粉も認められない。中足骨から先は壙外にはみ出した状況で確認時には失っていた。**遺物**　土師器細片は検出したが、副葬品と認められる遺物は出土していない。

**SK-77**(第142図)〈中世〉

**位置**　K-56区　**規模**　1.64×1.20×0.24m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　N-50°-W　**検出状況**　馬1頭を検出。頭部を北西に向けている。頭蓋骨の頭頂部分は内側に陥没している。肋骨は消失し骨粉も残っていなかった。遺物としては土師器細片を検出したが副葬品と認められる遺物は出土していない。

**SK-80**(第142図)〈中世〉

**位置**　K-55区　**規模**　1.40×1.06×0.09m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　N-90°-W　**検出状況**　SI-22の西側にあり範囲が一部重複する。腰骨から後肢の部分は消失。頭蓋骨は頭頂部から鼻孔にかけて直線的に内側に陥没している。**遺物**　土師器細片は検出したが、副葬品と認められる遺物は出土していない。

**SK-82**(第142図、PL26)＜中世＞

**位置**　E-63区　**検出状況**　SI-106の覆土中に検出。遺構範囲は確認できなかった。歯の一部と肩甲骨や骨粉が1.48×1.08mの範囲に分布する。歯と骨粉の分布より頭部は西向きと思われる。**遺物**　刀子1点が出土。副葬品の可能性がある。

**SK-105**(第142図)〈中世〉

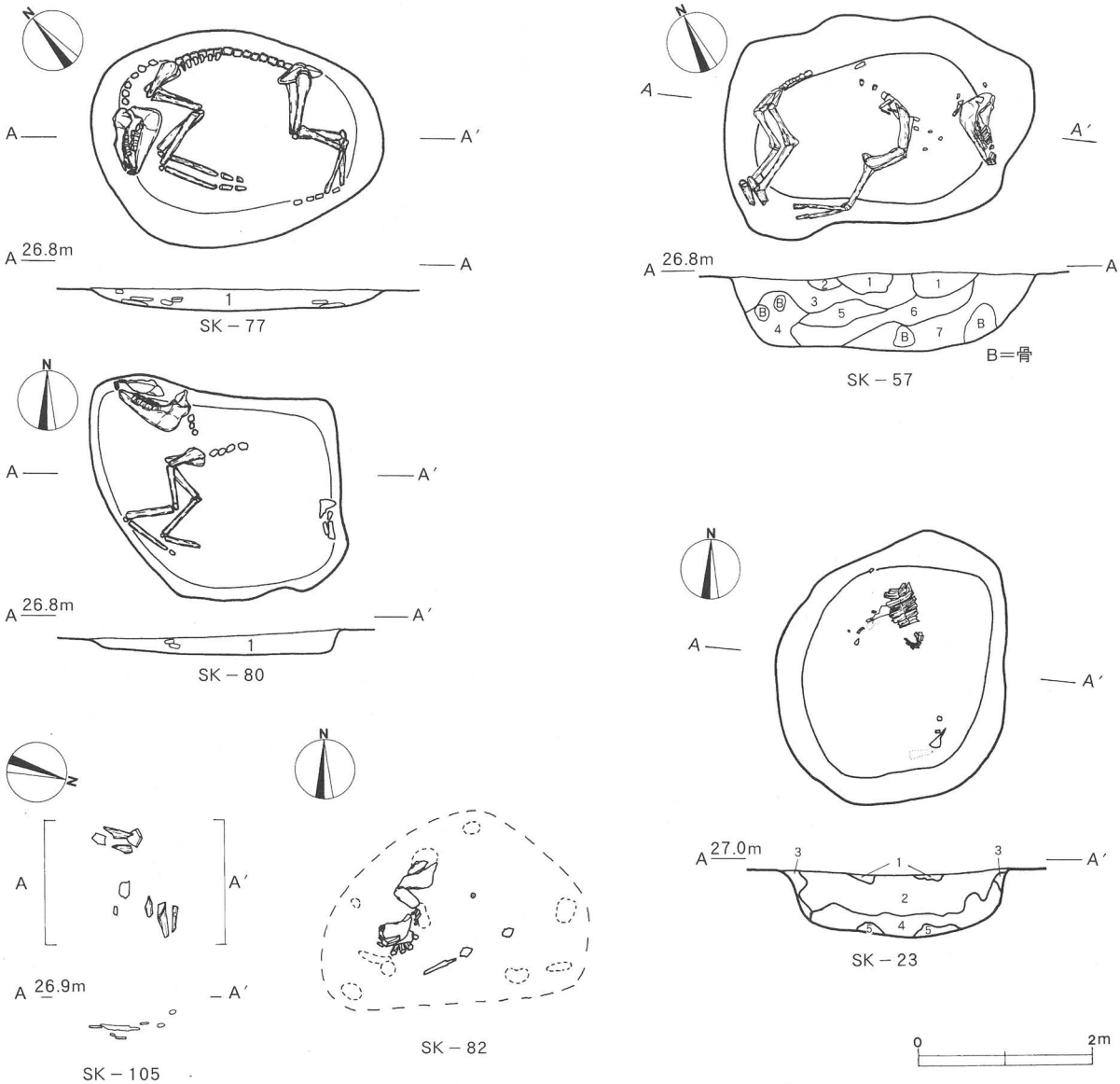
**位置**　P-64区　**検出状況**　歯と肢骨の一部を検出。歯の形状から馬の骨と思われる。SI-49bと重複。覆土を削平して埋葬している。

**SK-51**(第143図)〈中世〉

**位置**　H-25区　**規模**　1.30×0.64×0.24m　**形態**　長方形　**長軸方向**　N-8°-E　**遺物**　人骨片、歯冠、鉄製品、土師器細片が出土。**所見**　大腿骨と見られる骨片が南側に、歯や歯冠が北側に分布することから頭部を北に向けて埋葬していたものと思われる。鉄製品は副葬品の可能性あり。

**SK-62**(第143・144図、PL25)〈中世〉

**位置**　O-71区　**規模**　1.22×0.89×0.55m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　真北　**遺物**　人骨1体、土師質土器小皿2枚(第144図10・11)出土。**所見**　骨は頭部を北に置き、顔を西に向けた屈葬状態。左腕は頬骨の上、右腕は折りたたんだ状態。頭骨、四肢骨は比較的形状が残ったままで、頸椎から腰骨は骨粉に近い状態にまで軟化していた。骨より高い位置に土師質土器小皿が2枚出土。




**SK-23**
1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒微 締り強
2 7.5YR3/4 暗褐色 ローム大～小少・粒微 黒色土粒中
3 7.5YR4/4 褐 色 ローム小少 締り強
4 7.5YR4/3 褐 色 ローム粒微 締り強
5 10YR4/6 褐 色 締り強

**SK-57**
1 7.5YR5/6 明褐色 灰白色砂質粘土小少
2 7.5YR4/6 褐 色 ローム中少 灰白色砂質粘土小少
3 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒中
4 7.5YR3/4 暗褐色 ローム小～粒中
5 7.5YR3/4 暗褐色 ローム大少・粒中
6 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒少
7 7.5YR4/4 褐 色 ローム中～粒中

**SK-77**
1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム小～粒少

**SK-80**
1 7.5YR2/3 極暗褐色 ローム粒少

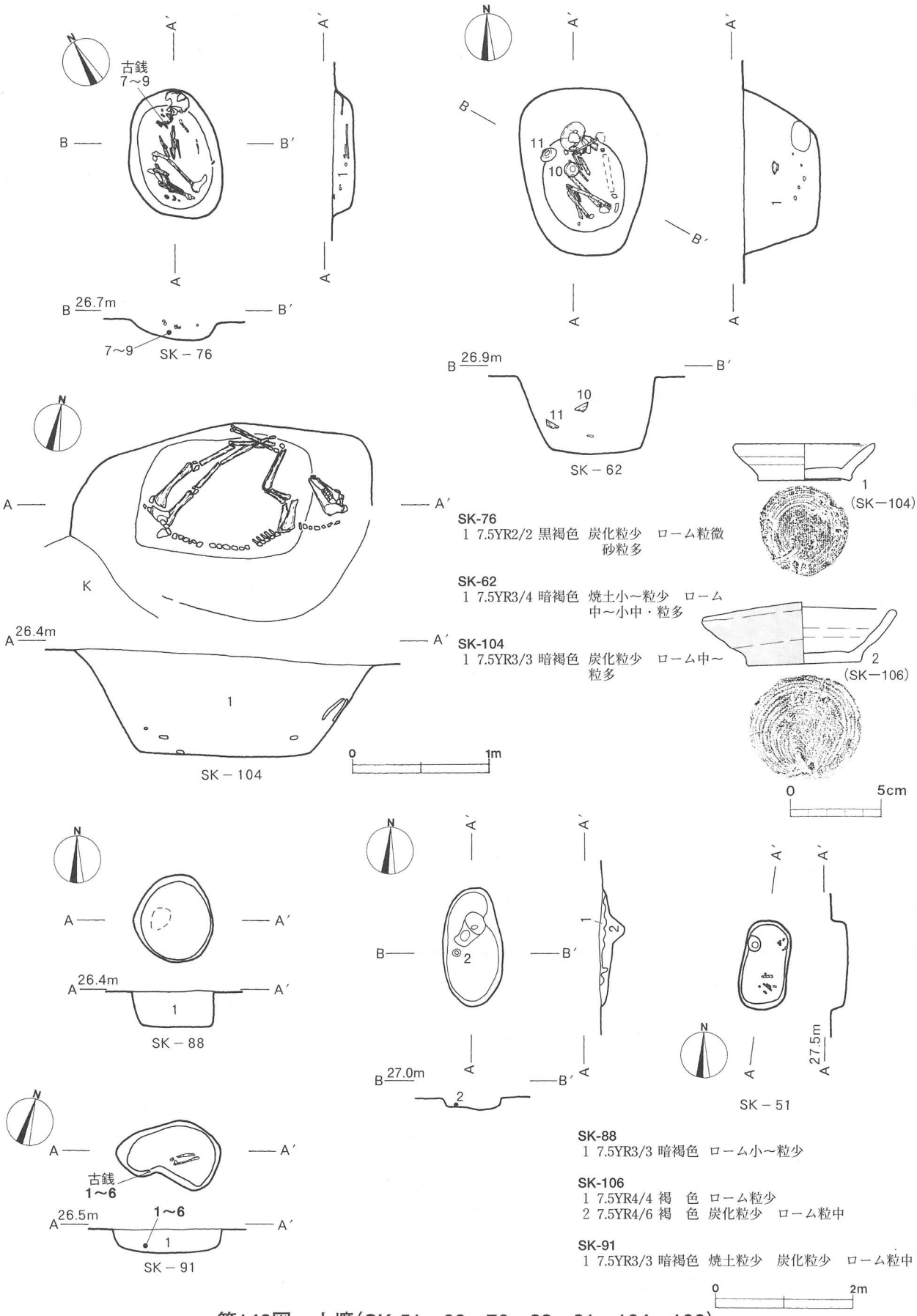
**第142図 土壙(SK-23・57・77・80・82・105)**

**SK-76**(第143・144図、PL25・35)〈中世〉

**位置** K-63区 **規模** 0.95×0.65×0.14m **形態** 楕円形 **長軸方向** N-34°-E **遺物** 人骨1体、銭貨6枚。**所見** 頭骨を半截した段階で確認。頭骨内部には灰白色の物質が残っていた。手足を体に寄せるように折りたたみ、頭部を北に顔面を西に向けた状態で検出。顎下の付近に指骨が付着した銭貨6枚を検出。銭貨を手に握らせていた状態が想定できる。

**SK-88**(第143図、PL25)〈中世〉

**位置** G～H-57区 **規模** 1.26×1.14×0.51m **形態** 円形 **遺物** 西壁寄りに骨粉を検出。**所見** SI-134と重複、本遺構が新しい。




**第143図　土壙(SK-51・62・76・88・91・104・106)**

**SK-91**(第143・144図、PL25・35)〈中世〉

**位置**　H-57区　**規模**　1.50×0.66×0.24m　**形態**　不整円形　**長軸方向**　N-71.5°-E　**遺物**　人骨1体　銭貨6枚　**所見**　大腿骨のみ確認、南壁際より銭貨6枚出土。SI-126bと重複、本遺構が新しい。

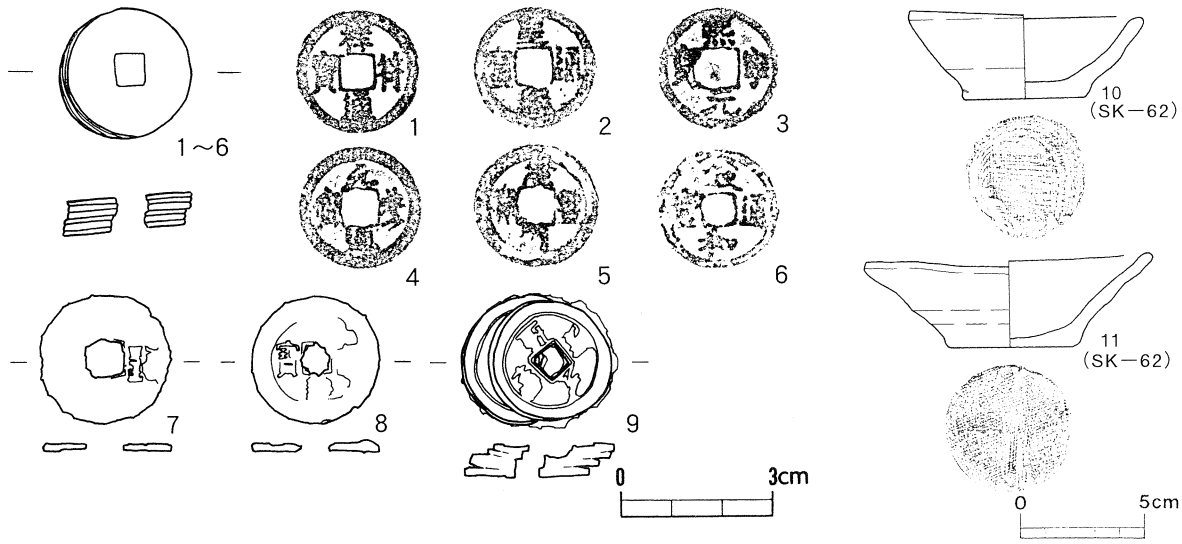
**SK-104**(第143図、PL26・35)〈中世〉

**位置**　L-71区　**規模**　2.16×1.40×0.69m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　N-79°-E　**検出状況**　鎌倉時代以降の土坑に南側を切られている。坑底に馬1頭が頭部を東向きに検出。頭部は坑壁に凭れ掛けた状態である。頭蓋骨は頭頂部から鼻孔にかけて直線的に内側に向けて陥没している。肋骨は消失しているが腹部に骨粉が分布していた。前肢と後肢は前肢を後肢ではさむ状態で交差している。**遺物**　頭骨上面から燈明皿として使用した痕跡の残る土師質土器小皿(第143図1)が1点出土した。副葬品の可能性がある。

**SK-106**(第143図)〈中世〉

**位置**　L-69区　**規模**　1.72×0.78×0.17m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　真北　**遺物**　中央西壁寄り底面上から土師質土器小皿(第143図2)が口縁を伏せた状態で検出した。

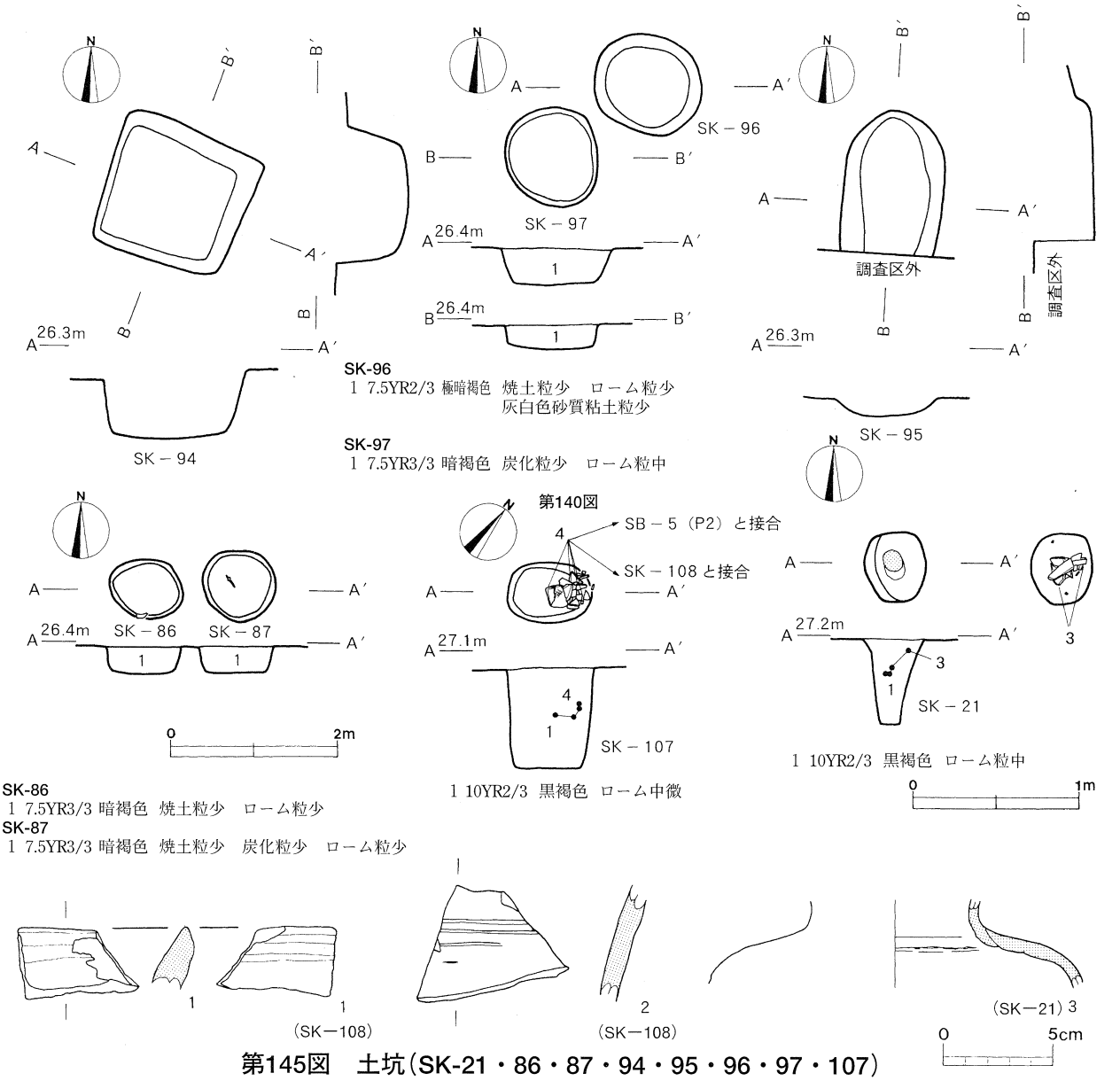
| 図版番号 | 器　種 | 法量(cm) | 器　形　の　特　徴 | 技　法　の　特　徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第143図<br>1<br>SK-104 | 小　　皿<br>土師質土器<br>(燈明皿) | A　7.5<br>B　2.0<br>C　5.0 | 平底。底部からやや直立し、体部は外反気味に開く。全体的に厚手である。 | 底部回転糸切り。内・外面横ナデ。内底面にナデ。 | 石英・赤色粒<br>にぶい橙色<br>良好 | 98%、口唇部3ヵ所にタール付着、覆土一括 |
| 2<br>SK-106 | 小　　皿<br>土師質土器 | A　10.3<br>B　3.3<br>C　6.1 | 平底。体部は底部からやや直立し、外傾して立ち上がる。 | 内・外面横ナデ。底部回転糸切り痕。内底面にナデを施す。 | 長石・雲母・赤色粒、にぶい橙色<br>普通 | 100%<br>体部外面に煤付着 |
| 第144図<br>10<br>SK-62 | 小　　皿<br>土師質土器 | A　9.2<br>B　3.6<br>C　4.8 | 平底。体部は底部からやや直立し、外傾気味に立ち上がる。全体的に厚手である。 | 底部回転糸切り痕とスノコ痕有り。内・外面横ナデ。内底面にナデ。体部底面寄りに糸状の沈線付着。 | 赤色粒・紛質<br>浅黄橙色<br>良好 | 100%<br>口唇部内面に1箇所煤付着 |
| 11<br>SK-62 | 小　　皿<br>土師質土器 | A　11.1<br>B　3.7<br>C　4.9 | 平底。体部は底部からやや直立し、外反気味に開く。全体的に歪んでいる。 | 内・外面横ナデ。底部回転糸切り後にナデ。スノコ痕有り。 | 石英・雲母・赤色粒、にぶい橙色<br>良好 | 100% |




第144図　SK-62・76・91出土遺物

土壙出土銭貨

| No. | 遺構名 | 銭　種 | 字　体 | 外径(cm) | | 内径(cm) | | 銭　厚 | 量　目 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 縦 | 横 | 縦 | 横 | (mm) | (g) | |
| 1 | SK-91 | 祥符通寶 | 真　書 | 24.73 | 24.62 | 19.44 | 19.61 | 1.56～1.66 | 3.4 | |
| 2 | 〃 | 皇宋通寶 | 篆　書 | 24.44 | 24.29 | 19.93 | 19.93 | 1.19～1.27 | 2.9 | |
| 3 | 〃 | 熙寧元寶 | 真　書 | 24.18 | 24.09 | 20.25 | 20.37 | 1.03～1.27 | 2.5 | |
| 4 | 〃 | 元豊通寶 | 行　書 | 24.68 | 24.44 | 18.66 | 19.63 | 1.15～1.24 | 3.3 | 星型孔銭 |
| 5 | 〃 | 元豊通寶 | 篆　書 | 24.72 | 24.90 | 18.69 | 18.40 | 1.01～1.05 | 2.5 | 星型孔銭 |
| 6 | 〃 | 政和通寶 | 真　書 | 23.80 | 24.83 | 19.96 | 19.86 | 1.48～2.18 | 2.5 | |
| 7 | SK-76 | [　]通[　] | 篆　書 | | | | | | | |
| 8 | 〃 | [　　]寶 | 真　書 | | | | | | | 星型孔銭 |
| 9 | 〃 | 元豊通寶 | 行　書 | | | | | | | 4枚錆で密着 |




**第145図　土坑(SK-21・86・87・94・95・96・97・107)**

## 土坑(第145図、PL 26・35)

### SK-86 〈中世〉

**位置**　D-60区　**規模**　0.88×0.72×0.30m　**形態**　円形　**覆土**　単一層からなる。**遺物**　南壁際に鉄

製鎌1点が確認面レベルで検出。**所見**　SI-124と重複、本遺構が新しい。骨粉等は未検出ながら土壙の可能性がある。

**SK-87**　〈中世〉

**位置**　D-60区　**規模**　0.88×0.84×0.31m　**形態**　円形　**覆土**　単一層からなる。**遺物**　中央付近の確認面レベルで鉄製刀子1点が出土。**所見**　SI-124と重複。本遺構が新しい。骨粉等は未検出ながら土壙の可能性がある。

**SK-94**　〈中世〉

**位置**　F-71区　**規模**　1.76×1.54×0.75m　**形態**　方形　**長軸方向**　N-70°-W　**覆土**　3層からなる。ロームブロックを多く含む層が底面上にあるが、天井を構成していた程の土量は認められない。**所見**　規模や形態から中世の地下式坑と思われる。

**SK-95**　〈中世〉

**位置**　F-73区　**規模**　1.74×(1.08)×0.19m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　真北　**所見**　SI-95と重複、本遺構が新しい。

**SK-96**　〈中世〉

**位置**　E-61区　**規模**　1.20×1.12×0.28m　**形態**　円形　**覆土**　単一層からなる。**所見**　SI-135と重複、本遺構が新しい。

**SK-97**　〈中世〉

**位置**　D～E-61～62区　**規模**　1.32×1.12×0.41m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　N-14°-W　**覆土**　単一層からなる。**所見**　SI-135と重複、本遺構が新しい。

**SK-21**(PL26・35)〈鎌倉時代〉

**位置**　C-26区　**規模**　0.42×0.37×0.51m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　N-23°-W　**覆土**　単一層からなる。**遺物**　常滑甕の破片が坑内中位から出土。**所見**　遺物は柱撤去後に投入したものと思われる。

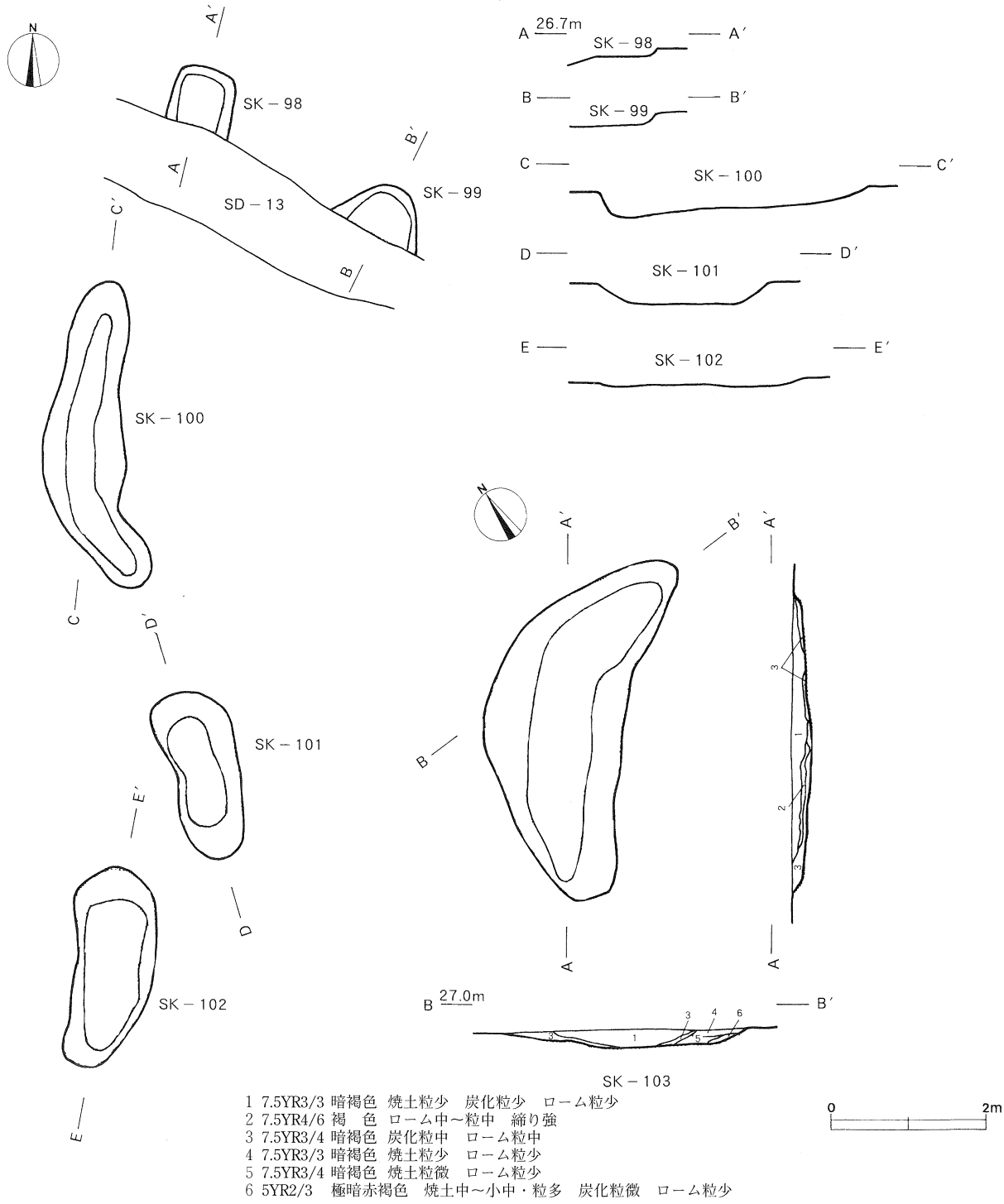
**SK-107**(PL26)〈鎌倉時代〉

**位置**　B-25区　**規模**　0.51×0.36×0.60m　**形態**　楕円形　**長軸方向**　N-48.5°-E　**覆土**　単一層から成る。**遺物**　渥美甕、常滑甕の破片が坑内中位から出土。渥美甕破片はSB-5-$P_2$内とSK-108出土の破片と接合している。**所見**　SD-10と重複、本遺構が新しい。

**SK-108**(PL35)〈鎌倉時代〉

**位置**　C-25区　**検出状況**　SI-8の覆土中に常滑・渥美の破片が集中して出土したことから、本時代の土坑として分離した。遺構の規模等は不明。

| 図版番号 | 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第145図<br>1<br>SK-108 | 壺甕類<br>陶器 | B(2.8) | 口縁部片。斜め上方に大きく立ち上がるも、減厚する。 | 内外面に黒灰色の自然釉が付く。口唇部は面取られる。 | 黒色粒<br>黄灰色・暗灰色<br>良好 | 100%<br>渥美 |
| 2<br>SK-108 | 壺甕類<br>陶器<br>(三筋壺) | B(5.1) | 胴部片。中位以下の部位か。 | 外面に工具により三条の沈線が彫られ、一部自然釉が付着する。内面に指頭痕と横ナデ。 | 長石・石英・黒色粒、にぶい赤褐色・黄褐色、良好 | 100%<br>常滑 |
| 3<br>SK-21 | 壺甕類<br>陶器 | B(8.2) | 頸～肩部片。肩部からゆるやかにすぼまり、頸部は直立して外反する。口唇部は失われる。 | 外面に自然釉(オリーブ灰色)と、別粘土の付着が認められる。内面は粘土紐接合痕と指頭痕。 | 長石・石英・黒色粒、黄灰色・暗灰黄色、良好 | 25%<br>常滑 |




**第146図 土坑(SK-98・99・100・101・102・103)**

**SK-98** **位置** K-70区 **規模** (0.84)×0.78×0.10m **長軸方向** N-15°-E

**SK-99** **位置** K-70区 **規模** (0.68)×1.24×0.18m **長軸方向** N-26°-E

**SK-100** **位置** J-71区 **規模** 3.84×0.76×0.10m **長軸方向** N-9.5°-E **遺物** 南側底面に接して内耳土器1個体出土。

**SK-101** **位置** K-72区 **規模** 2.20×0.80×0.25m **長軸方向** N-15.5°-W

**SK-102** **位置** J-72区 **規模** 2.66×1.10×0.07m **長軸方向** N-11°-E

**SK-103　位置**　L-68区　**規模**　4.44×1.78×0.23m　**長軸方向**　N-49°-E　**遺物**　北東側から内耳土器片、花崗閃緑岩製の砥石片が出土。**所見**　2基の土坑からなり北側が古く南側が新しい。

**遺構外・その他出土遺物**(第147図、PL35)

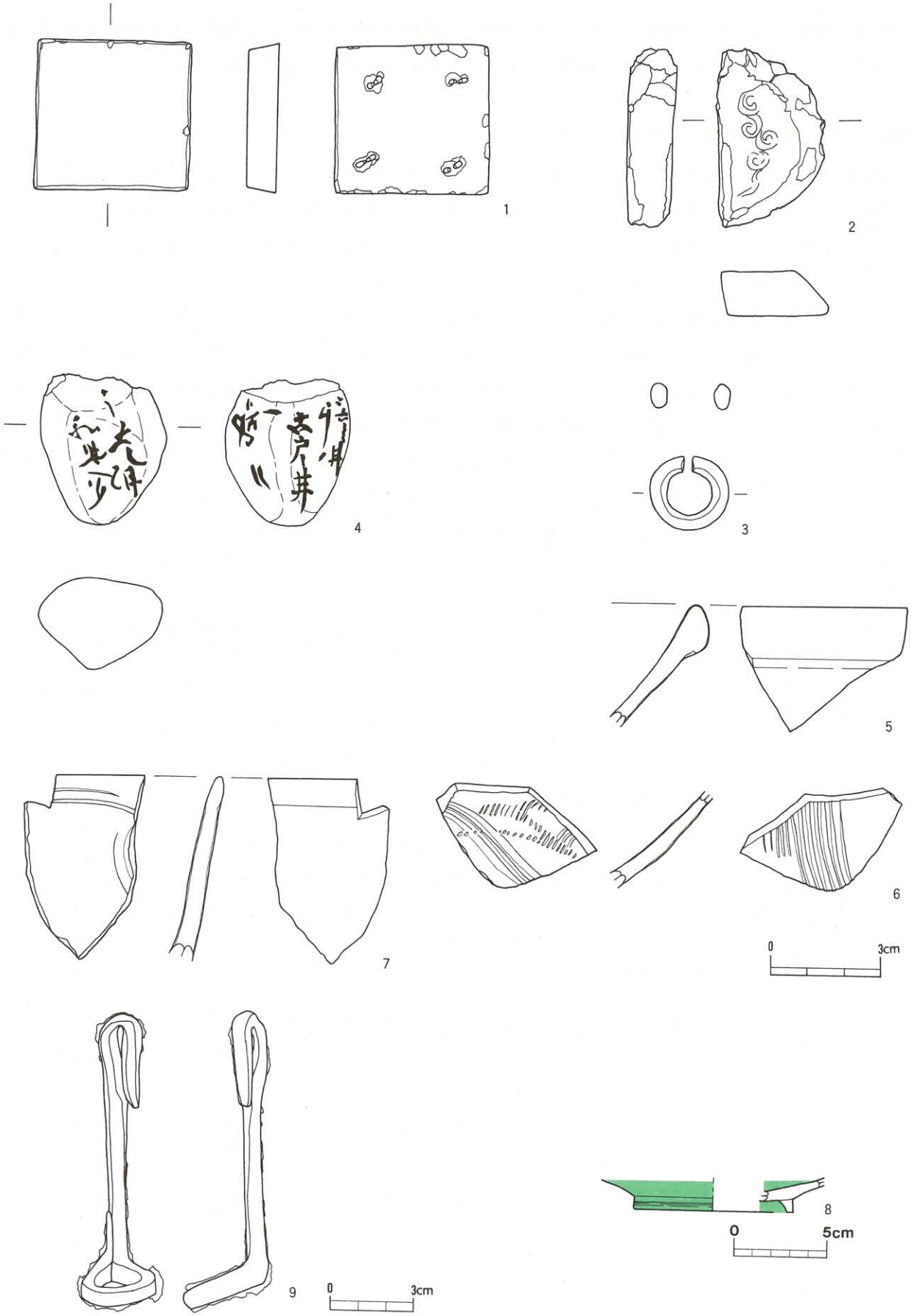
本遺跡では、特に調査区南側において非常に濃密な遺構の分布がみられる。そのため出土遺物の中には、伴出する遺構の特定が困難となっているものも少なからず存在する。本項では、それらの中でも注目すべき遺物を抽出し、遺構以外のグリッドにおいて検出した遺物や表採品、また遺構から出土したものの明らかに時期が異なる混入品と判断したものを含めて取り扱う。

本遺跡からは、報告対象外にも遺構内・外から青磁・白磁片が出土している。現時点でそれらの破片数は、青磁9片61.5g〔同安窯系櫛描文碗片(A)3片16.7g、龍泉窯系劃花文碗片(B)5片38.6g・蓮弁文碗片1片(C)6.2g〕、白磁15片142.9gである。文様の有無と構成、色調、接合を考慮した最小個体数は、青磁6点(A2点、B3点、C1点)、白磁13点(碗7点、皿2点、碗又は皿4点)である。

これら出土磁器の特徴は、供膳具たる碗皿類のみで器種が占められることと、現状での青・白両磁器の比率が白磁優勢にある点にある。龍泉窯系蓮弁文碗の少なさ、産地、出土比率等を勘案すると、これらの搬入から消費にかけての時期は、12世紀代を中心に、最長で13世紀前半まで及んだと考えたい。

| 図版番号 | 器種 | 法量 | | | | 特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 第147図 1 | 巡方 | 4.0 | 4.2 | 0.8 | 32.3 | 平面略正方形、断面台形を呈する。上面・側面の研磨は鏡面状にまで施す。裏面に2孔一対の小孔が4対あり、うち2対は細橋部を欠損。 | 石製品(灰白色蛇紋岩) M-64区 |
| 2 | 不明石製品 | 4.8 | 2.9 | 1.2 | 28.3 | 上下両面の研磨は比較的良好で側面はやや粗雑。上面には線刻により唐草文様を施す。奈良・平安時代の軒平瓦に見られる忍唐草文を模倣したものと思われる。 | 紡錘車の二次利用品か。(濃緑色蛇紋岩)J-48区 |
| 3 | 耳環 | 2.1 | 2.2 | 0.6 | 8.5 | 胴芯金張。環内側にのみ鍍金膜が残存する。 | 銅製品 SD-14覆土一括 |
| 4 | 経石 | 4.0 | 3.4 | 2.5 | 37.6 | 褐色のチャート円礫の平坦面3面に墨書。判読不能。 | I区表採 |
| 9 | 馬具 | 10.8 | 0.8 | | 40.2 | 角棒状素材の両端に環を形成する。馬具の引手部分と思われる。 | 鉄製品 L-64区 |

| 図版番号 | 器形 器種 | 法量(cm) | 器形の特徴 | 技法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 玉縁碗 白磁 | B (3.4) | 口縁部片。体部寄りから肥厚し、口唇部は玉縁状を呈する。 | 内・外面に施釉。 | 緻密 灰白色 良好 | 100% SD-3覆土一括 |
| 6 | 櫛描文碗 青磁 | B (2.8) | 体部片。外面釉が直線的に途切れており、底部寄りと判断される。 | 外面に7～5条の櫛描文、内面は3条の条線と細密な櫛描文が施される。 | 緻密 灰オリーブ色 良好 | 100% 同安窯系 大F-45区 |
| 7 | 劃花文碗 青磁 | B (4.9) | 口縁部片。体部寄りの部分から減厚し、微かに外反気味になる。内面に貫入あり。 | 外面口唇寄りに1条の沈線が周回する。内面には篦状工具による沈線文様(花文?)が施される。 | 緻密 灰オリーブ色 良好 | 100% 龍泉窯系 SD-5覆土一括 |
| 8 | 皿 緑釉陶器 | B (1.9) D [8.8] E 0.6 | 底部片。「ハ」の字状に開く高台が付く。、 | 全面に釉を施す。 | 緻密 緑色(素地・灰白色)、良好 | 20% K-66区 |




第147図　遺構外・その他出土遺物

# 第5章　結　語

今回の入ノ上A・B遺跡の発掘調査では、旧石器時代から近現代に至る遺構・遺物を検出した。資料の大半は、霞ケ浦を望む台地南端に集中しているが、時代が経るに従い遺跡の占地が台地縁辺から平坦地奥に拡大していった状況を認識するに至った。

旧石器時代では通常検出するブロックの状態では検出できず、後世の遺構内覆土中に混入した状態で検出した。遺物の技術形態的検討から、武蔵野編年のⅣ層下部～Ⅴ層段階と、次の「砂川」段階の2段階の資料を抽出した。特に前者の時期に栃木県高原山産の黒曜石の消費量が、大洗海岸産のガラス質黒色安山岩の消費量を上回る例で、東関東地域の石材流通傾向の研究上注目すべき点である。

縄文時代では台地平坦面に点在する陥し穴状遺構と少量の土器・石器が出土した。土器の時期としては、早期中葉から中期後半までのものが認められた。遺物出土量から考えて当時の居住域は調査範囲外に所在するものと思われる。

弥生時代では後期の竪穴住居跡1軒を検出した。遺物の出土範囲から見ると、古墳時代以降の土地利用によって失われた住居跡が他にも数軒存在していたと思われる。

古墳時代では前期から後期に至る竪穴住居跡を検出した。内訳は前期が9軒、中期が8軒、後期が24軒の合計41軒となる。前期では、複合口縁と棒状浮文による口縁部文様帯を持った東京湾西岸地域の土器や、篦状工具による放射状施文の沈線と螺旋状施文の刺突点列文による文様帯を肩部に持つ東海地方中部の影響を残す土器がある。

平安時代が本遺跡の主体をなし、調査区全域で住居構築を中心とする土地利用の様相が捉えられた。出土遺物では、多量に出土した灰釉陶器片、八稜鏡や丸鞆などの青銅製品、忍冬唐草文を彫刻した石製品、「青毛」と記された墨書土器などが注目すべき遺物である。そして、馬具の引手や鉄鉗、刀子などの器種が確認された鉄製品の大量出土が挙げられる。鍛冶工房跡の存在と合わせて、当地における鉄製品の生産と消費の様相が一部明らかとなった。一方、SI-123の竈内より白色針状物質の入った土師器甕が出土した。

中世以降も土地利用は活発で、方形竪穴状遺構や掘立柱建物跡の構築が行われている。掘立柱建物跡(SB-5)では上物撤去の際に、柱を抜いた後の柱穴内に常滑の甕や三筋壺、渥美の甕の破片を投入している例が見つかった。特に納骨外容器としての用途に限定できる三筋壺を破砕している例や、甕の破片が周囲のピット内出土の破片と接合関係を持つなど、個体破砕後に分割して遺構内に投入する点など、建物撤去に伴う祭祀行為の可能性が考えられる。そして、馬の埋葬土壙7基の検出からは、平安時代末期より中世にかけて「南野牧」と呼ばれていたことを示す資料として注目すべきものである。

今回は広大な遺跡の中に、南北のトレンチを入れた様な調査となった。そして、時代毎の占地の変遷が捉えられた。発見された資料は、古墳時代から平安時代以降の土地利用に関わる変化や物質消費の様相把握、中世以降の「南野牧」の解明に大きく役立つであろう。

なお、調査から本報告書作成に当たり、多くの関係機関並びに関係各位から御指導・御協力を賜ったことに対し、文末ながら深く感謝の意を表する次第である。

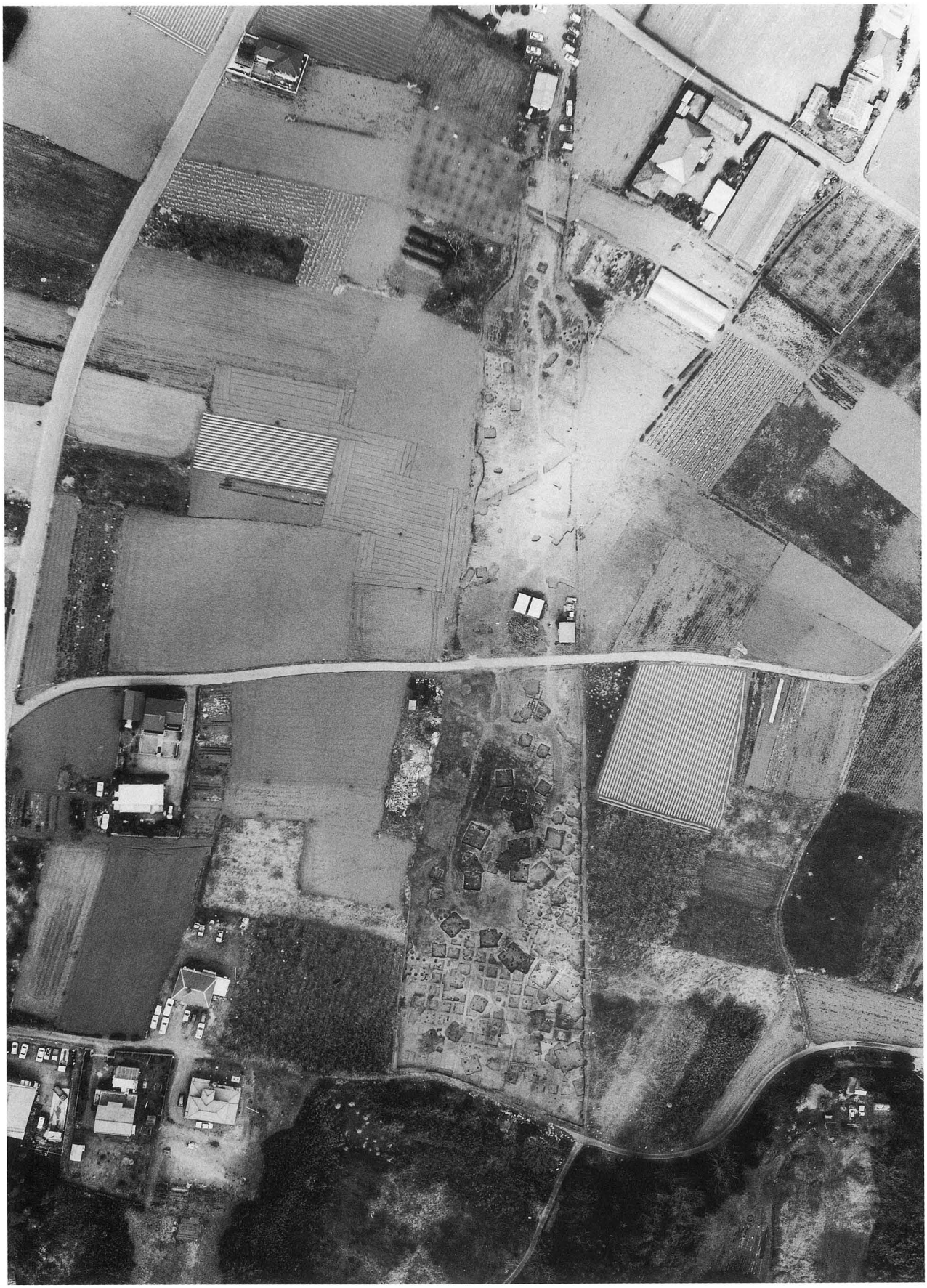
# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | いばらきけんつちうらし　いりのうえいせき |
| 書名 | 茨城県土浦市　入ノ上遺跡 |
| 副書名 | 都市計画道路田村沖宿線道路事業に伴う埋蔵文化発掘調査報告書 |
| 巻次 | |
| シリーズ名 | |
| シリーズ番号 | |
| 編著者名 | 窪田恵一・黒田友紀・黒澤春彦 |
| 編集機関 | 土浦市遺跡調査会 |
| 発行機関 | 土浦市教育委員会 |
| 所在地 | 〒300　茨城県土浦市下高津2-7-36　TEL 0298(26)1111代 |
| 発行年月日 | 西暦1997年8月29日 |

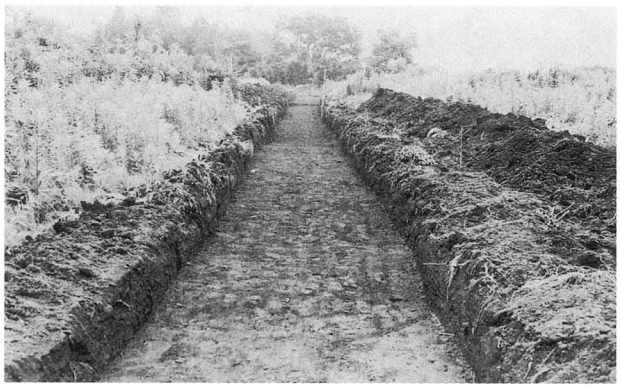
| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| いりのうえAいせき<br>入ノ上A遺跡 | いばらきけんつちうらし<br>茨城県土浦市 | D-97 | 5428 | 36°4′31″ | 140°15′35″ | 1996.7.25～1997.3.29 | 10,600m² | 都市計画道路田村・沖宿線道路事業に伴う埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査 |
| いりのうえBいせき<br>入ノ上B遺跡 | おきじゅくまち　ほか<br>沖宿町2014他 | D-98 | 5429 | | | | | |

| 所収遺跡名 | 時代 | 種別 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 入ノ上A遺跡<br>入ノ上B遺跡 | 旧石器時代 | | | 石器 | 古墳時代から平安時代の集落跡。鎌倉時代以降の馬の埋葬土壙を複数検出。「青毛」の墨所土器や馬具の出土など、馬に関わる集団の存在が考えられる。 |
| | 縄文時代 | | 陥し穴状遺構5基 | 土器(早期～中期)、石器 | |
| | 弥生時代 | | 竪穴住居跡1軒 | 土器(後期) | |
| | 古墳時代 | 集落跡 | 竪穴住居跡41軒 | 土師器、土製品 | |
| | 奈良・平安時代 | 集落跡<br>墓地 | 竪穴住居跡68軒、掘立柱建物跡9棟、土壙1基、土坑200基以上、溝跡1条、特殊遺構3基 | 土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、ミニチュア土器、石製品、青銅製品、鉄製品、木製品 | |
| | 鎌倉時代～江戸時代 | 集落跡<br>墓地 | 方形竪穴状遺構4基、掘立柱建物跡2棟、土壙13基、地下式坑1基、土坑14基、井戸跡3基、溝跡11条、道路跡4条 | 土師質土器、青磁、白磁、陶器、鉄製品、銅製品 | |

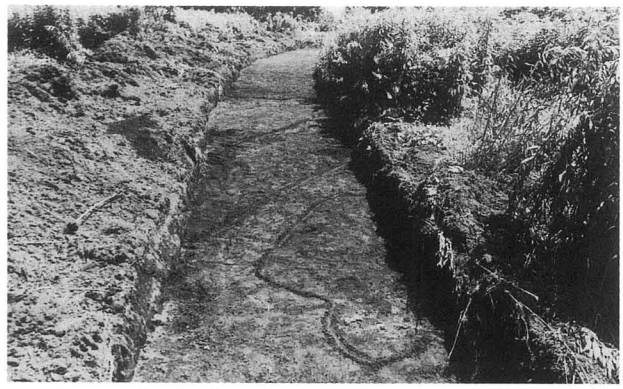
# 写　真　図　版



入ノ上遺跡調査区全景



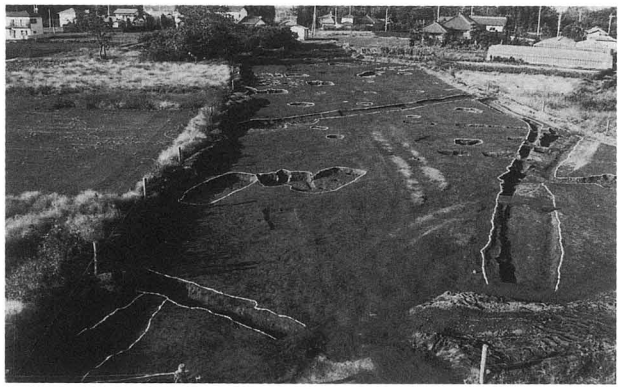
試掘



試掘

調査前風景

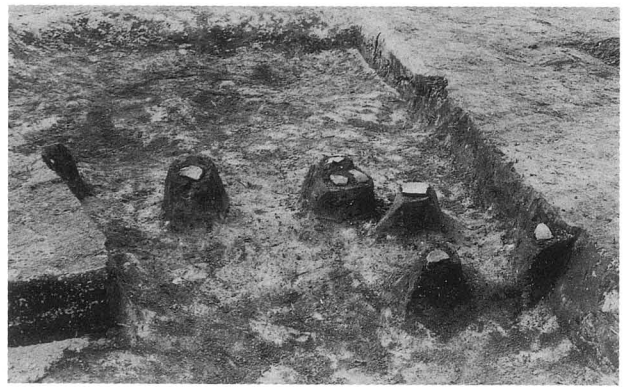
調査前風景



遺跡北部全景

基本層序

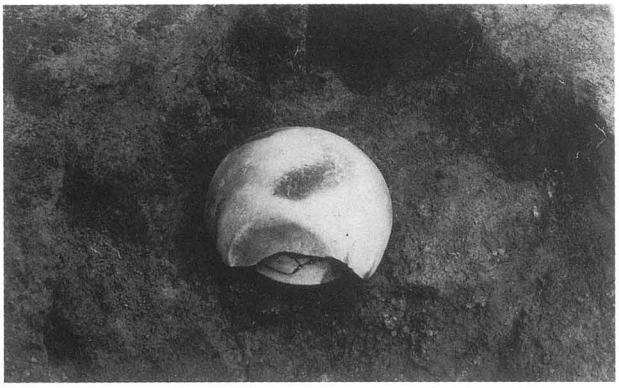
SK-4



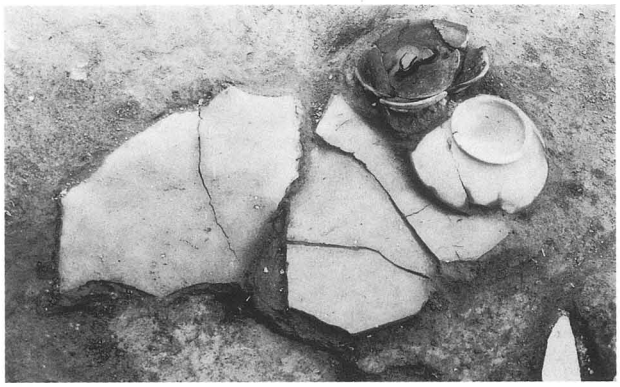
SI-66　遺物出土状況

SI-1

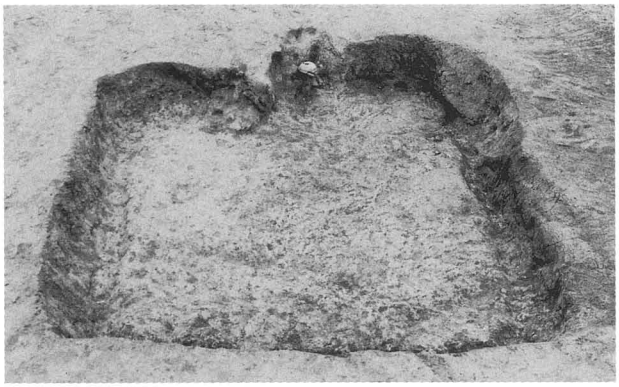
SI-1　遺物出土状況



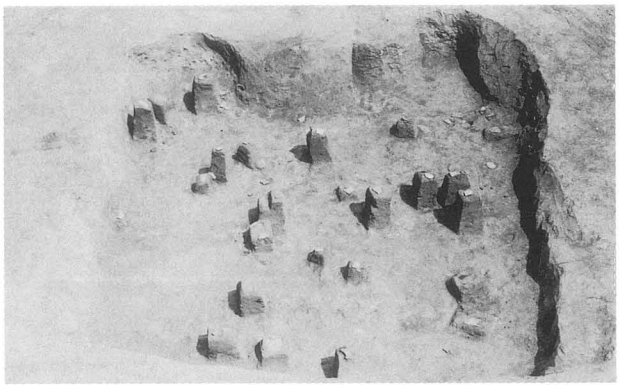
SI-1　竈　遺物出土状況



SI-1　遺物出土状況

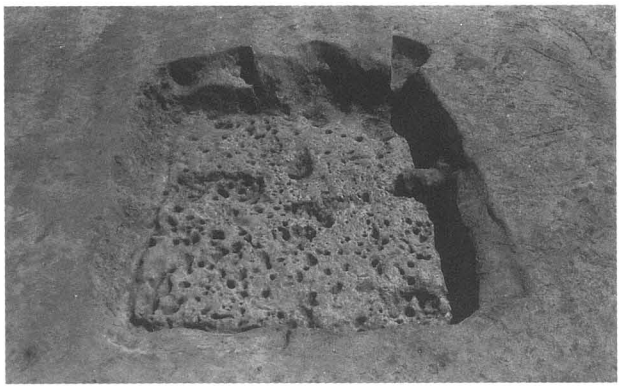


SI-2



SI-2　遺物出土状況

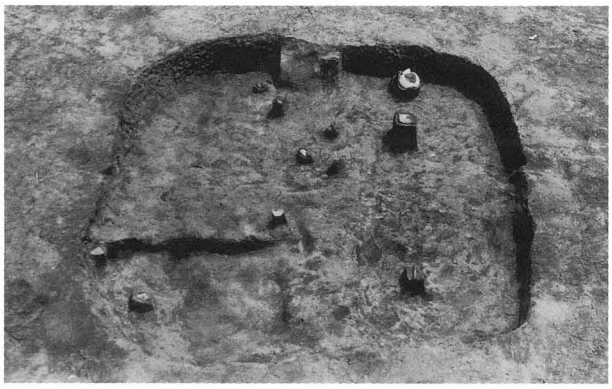
SI-2　竈　遺物出土状況



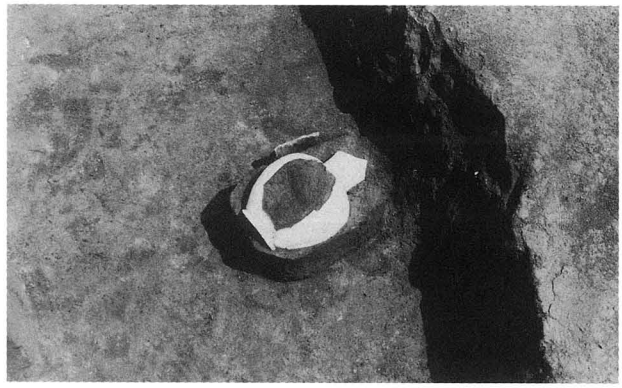
SI-3

SI-3　遺物出土状況

SI-4

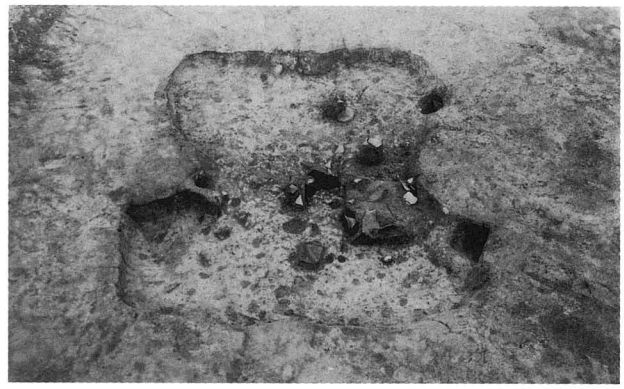


SI-4　遺物出土状況



SI-4　遺物出土状況

SI-5



SI-5　遺物出土状況

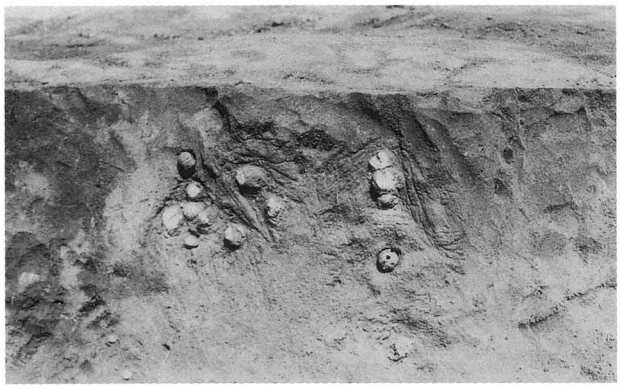
SI-5　遺物出土状況

SI-5　竈

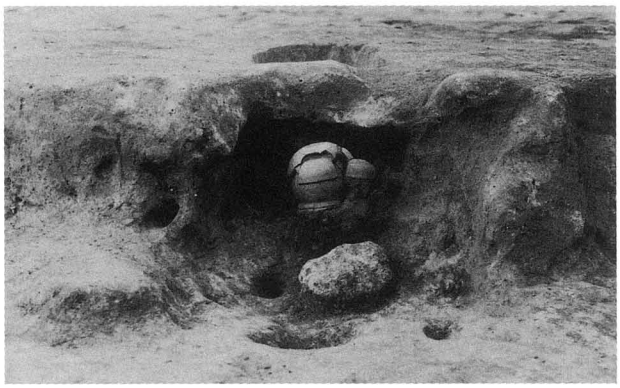
SI-6

SI-6　遺物出土状況

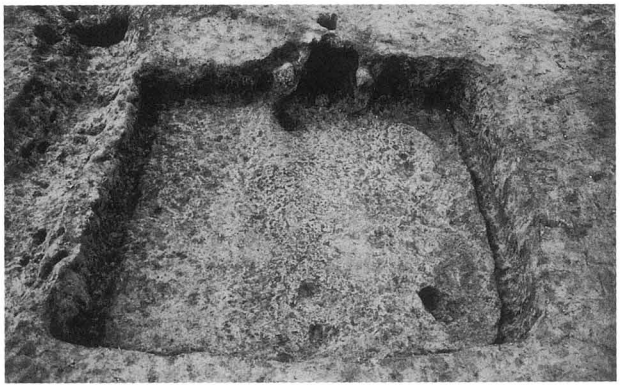
SI-7



SI-7　遺物出土状況



SI-7　竈

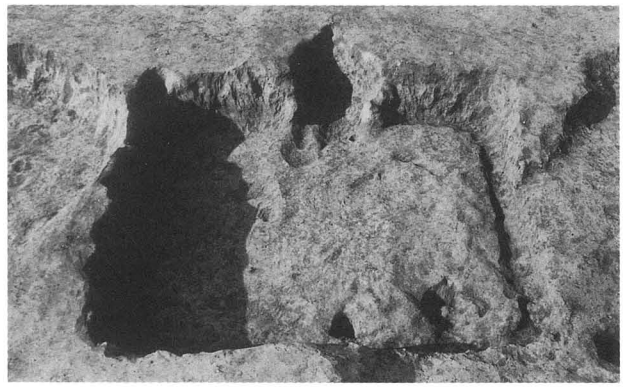


SI-8

SI-8　遺物出土状況

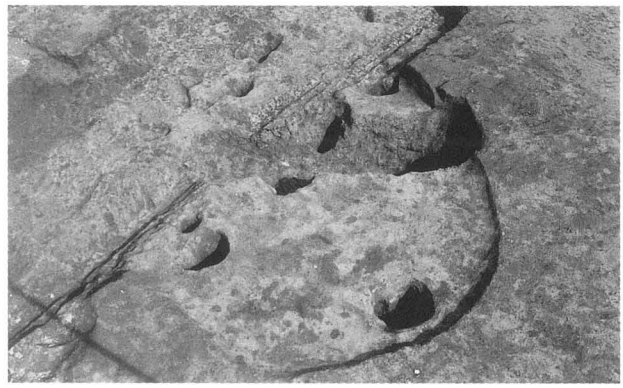
SI-8　竈

SI-8 竈 遺物出土状況

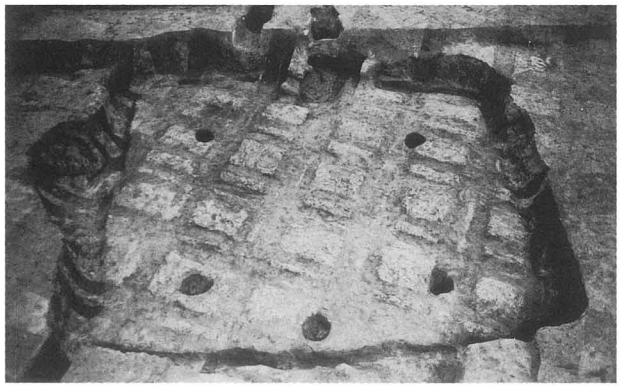


SI-11

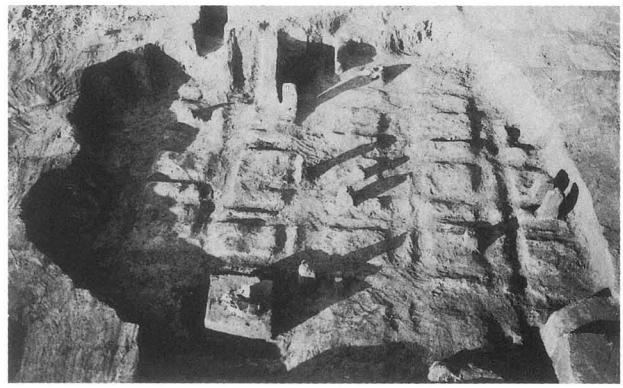
SI-11 遺物出土状況



SI-12

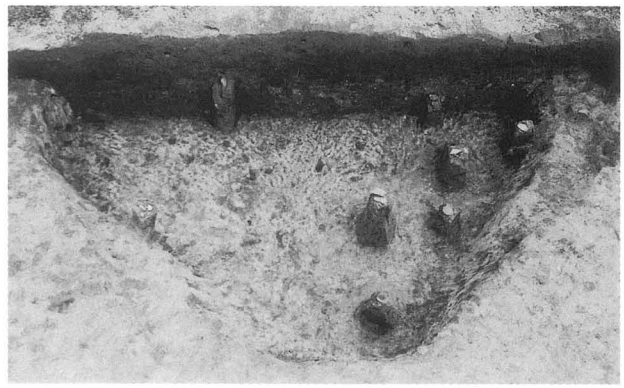


SI-14



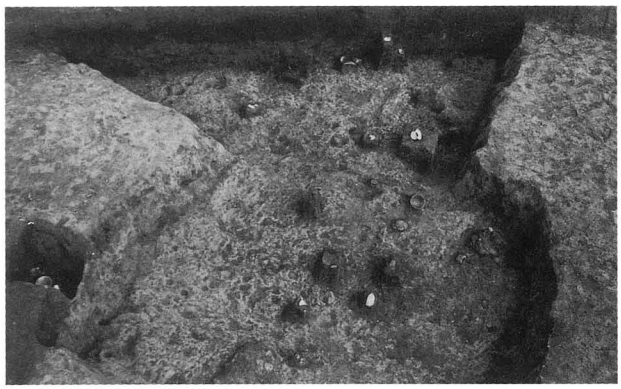
SI-14 遺物出土状況

SI-15



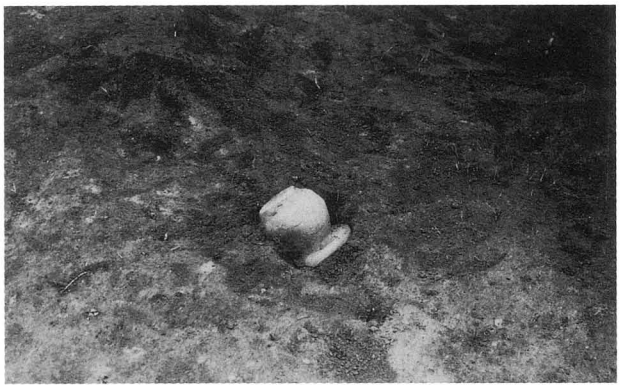
SI-15 遺物出土状況

SI-16・17

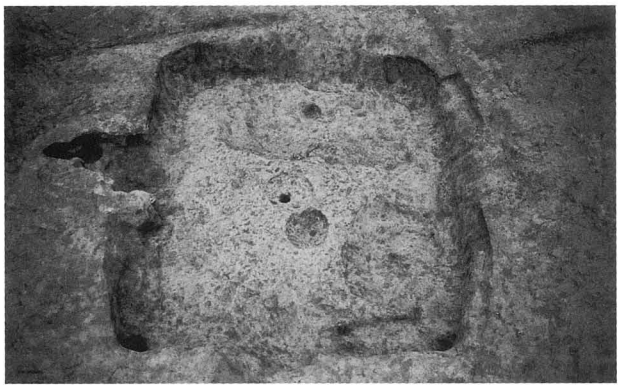


SI-16・17　遺物出土状況

SI-16　竈　遺物出土状況



SI-17　遺物出土状況



SI-18

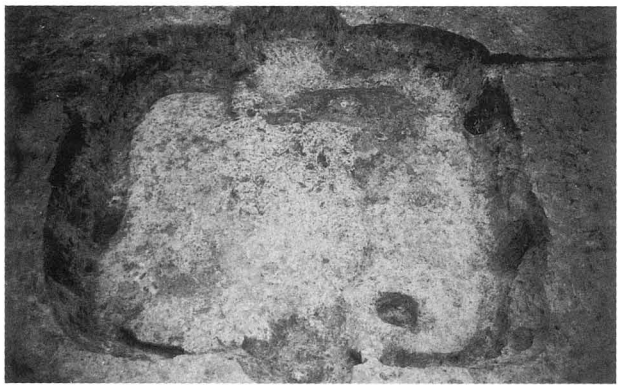
SI-18　遺物出土状況

SI-18　竈

SI-18　竈　遺物出土状況

SI-19

SI-20 a・b



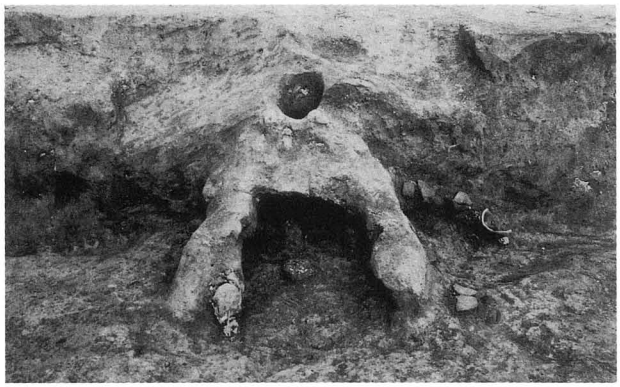
SI-21

SI-21　遺物出土状況

SI-21　竈　遺物出土状況

SI-22

SI-22　遺物出土状況



SI-22　竈

SI-23・24

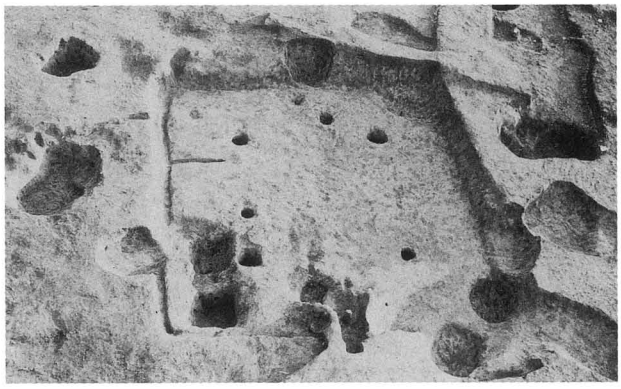
SI-23

SI-24

SI-23・24・25　遺物出土状況

SI-25

SI-25　竈　遺物出土状況



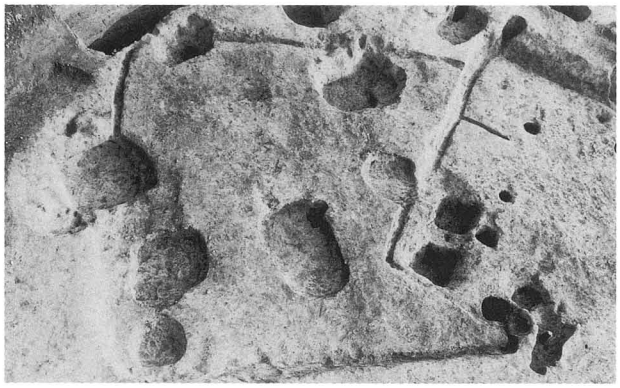
SI-26

SI-26　遺物出土状況

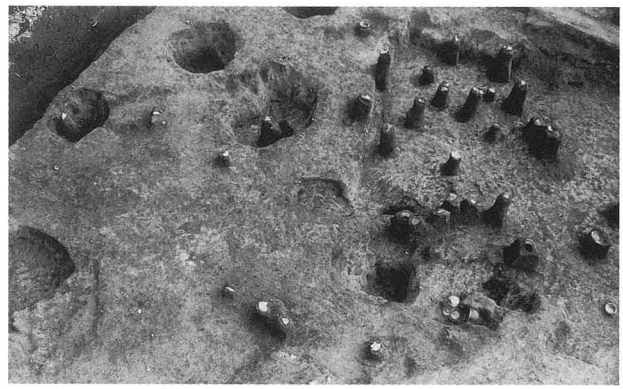
SI-26　遺物出土状況

SI-26　竈

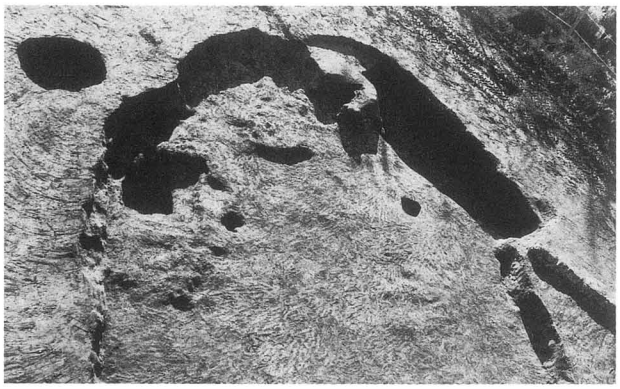
SI-26　遺物出土状況



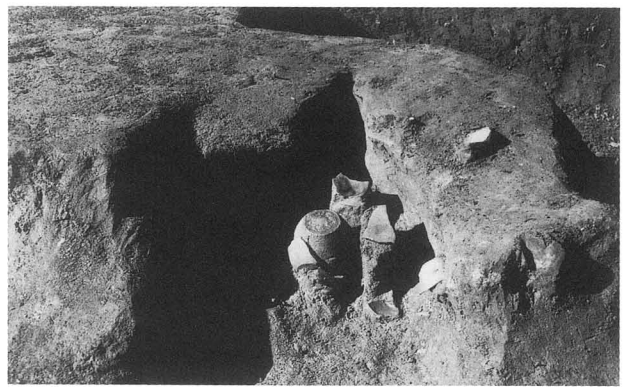
SI-27



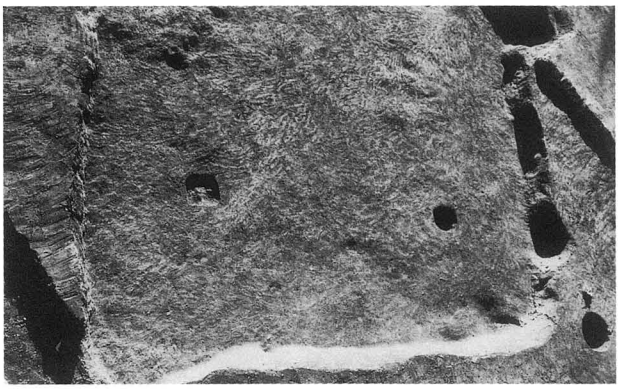
SI-27　遺物出土状況



SI-28

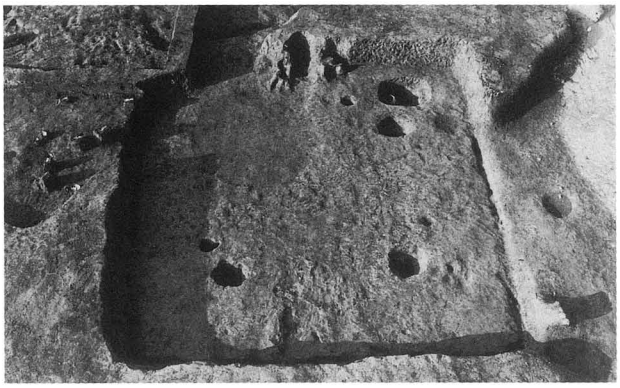


SI-28　竈　遺物出土状況

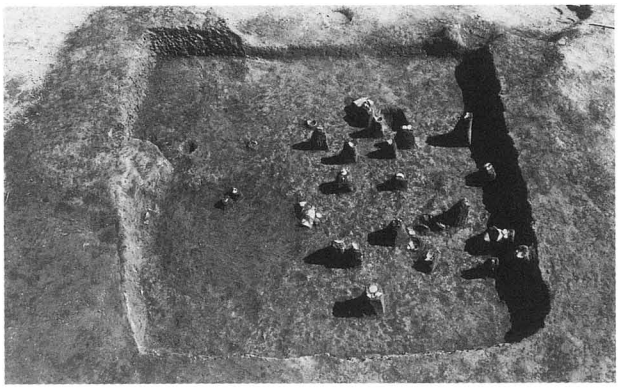


SI-30

SI-28・30　遺物出土状況



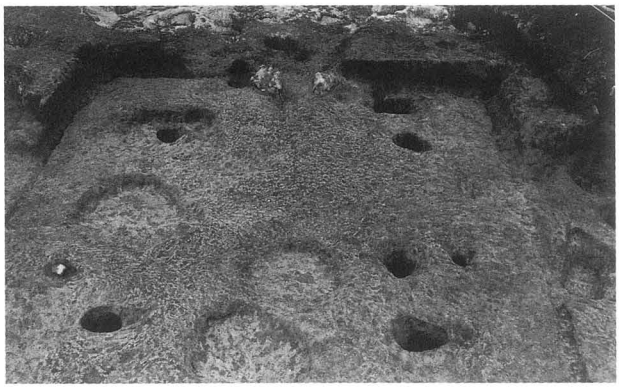
SI-31



SI-31　遺物出土状況

SI-31　遺物出土状況

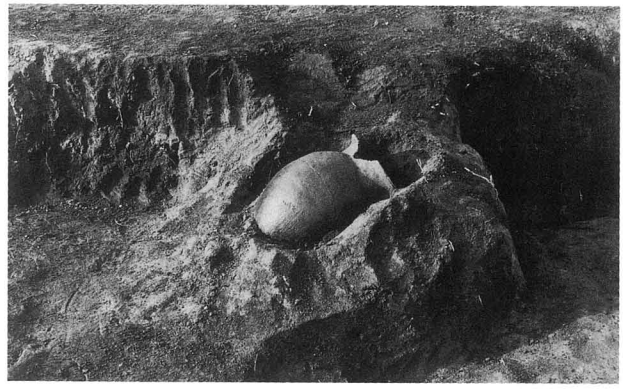
SI-32



SI-33

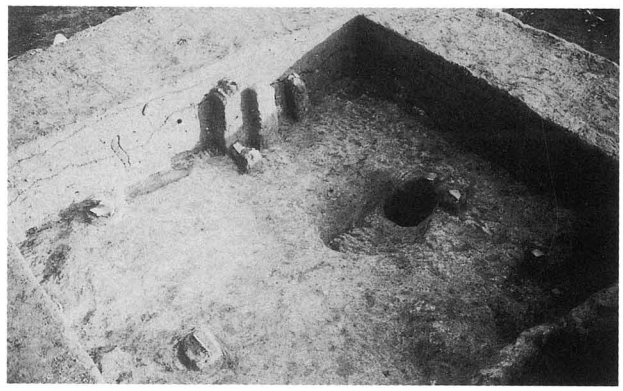
SI-33　遺物出土状況

SI-34



SI-34 竈 遺物出土状況

SI-36

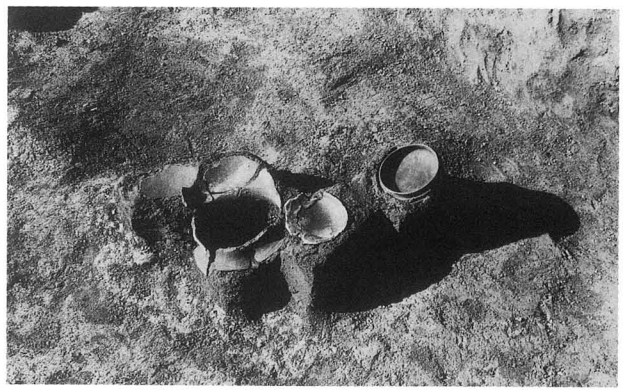


SI-36 遺物出土状況

SI-36 竈 遺物出土状況

SI-38 遺物出土状況

SI-39



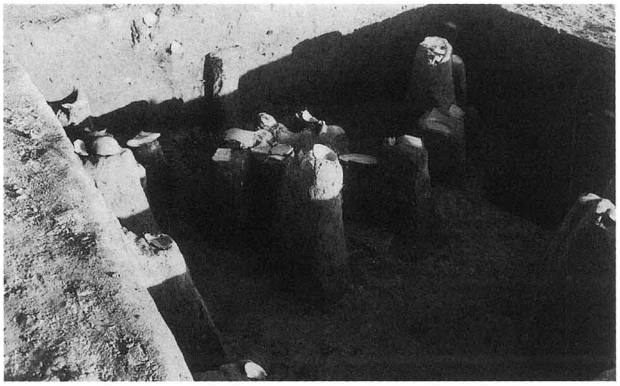
SI-39 遺物出土状況

SI-40

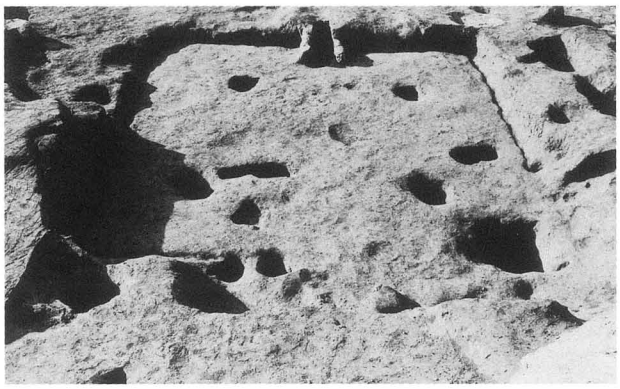
SI-40　遺物出土状況

SI-42

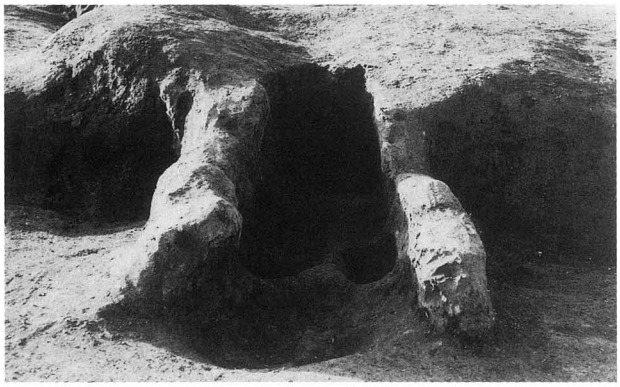
SI-42　遺物出土状況



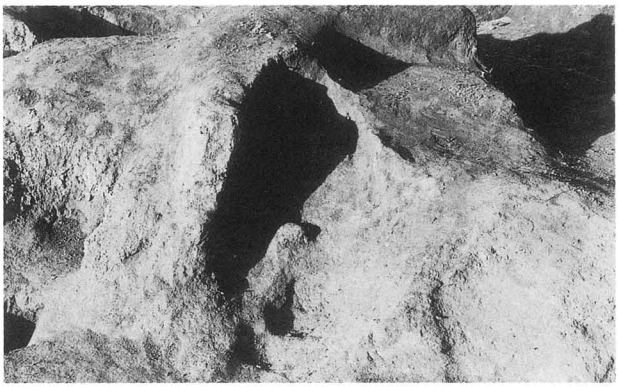
SI-42　遺物出土状況



SI-43・50

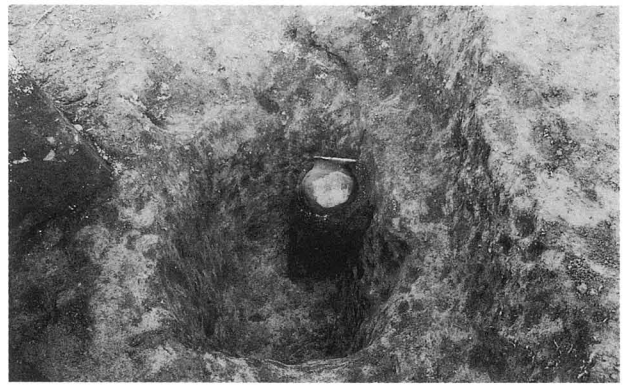


SI-43　竈



SI-50　竈

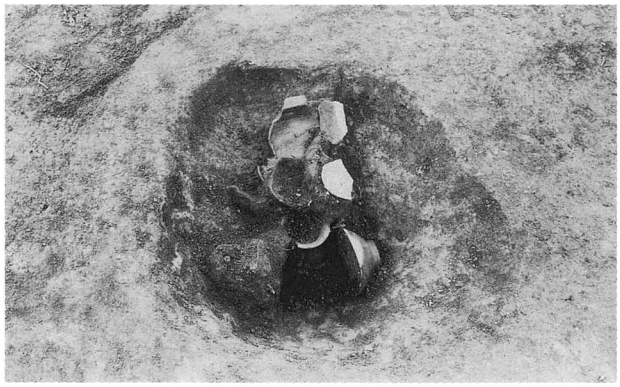
SI-47



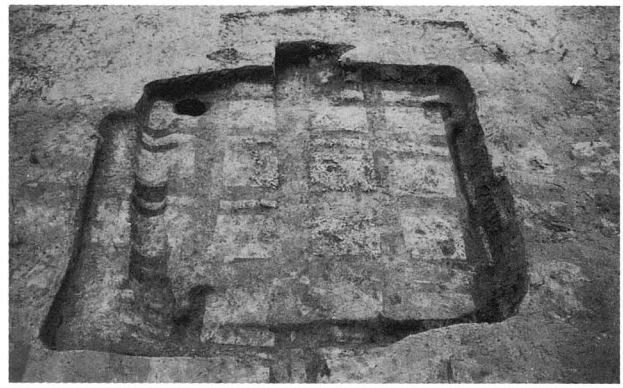
SI-47　貯蔵穴　遺物出土状況

SI-49a・b

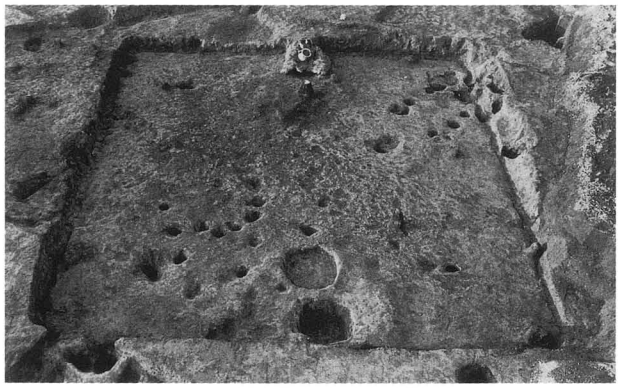
SI-51



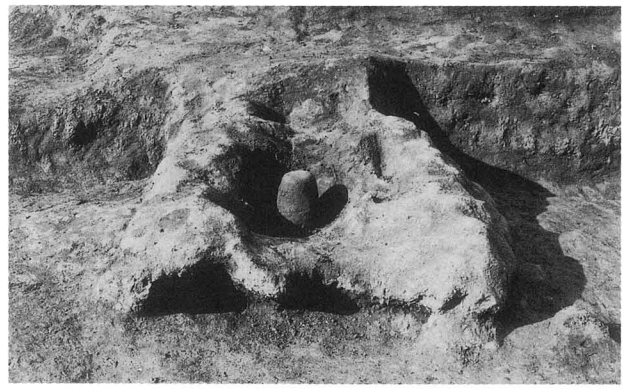
SI-51　p2　遺物出土状況



SI-52



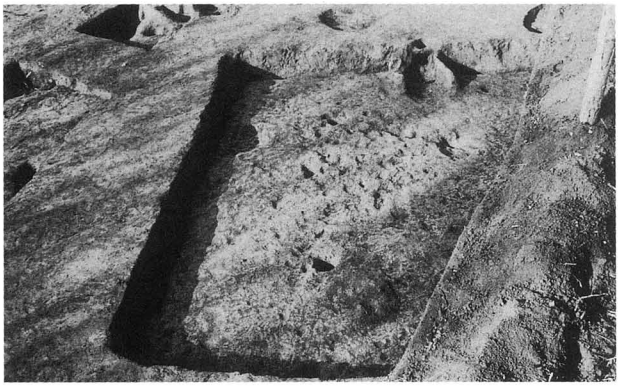
SI-57



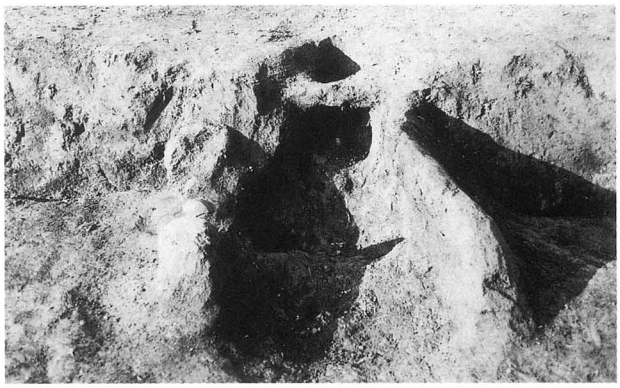
SI-57　竈

SI-57　竈　遺物出土状況

SI-57　竈　遺物出土状況



SI-58



SI-58　竈

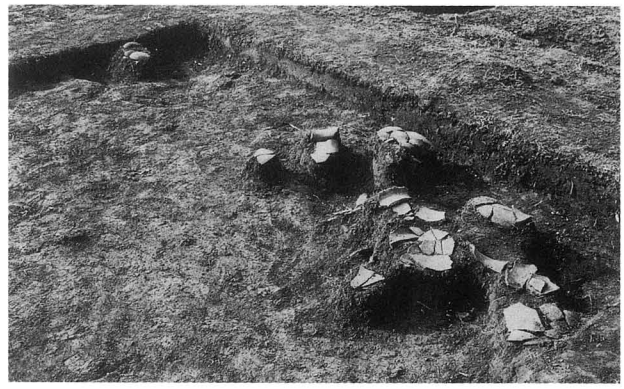
SI-64

SI-74　竈

SI-85　竈　遺物出土状況

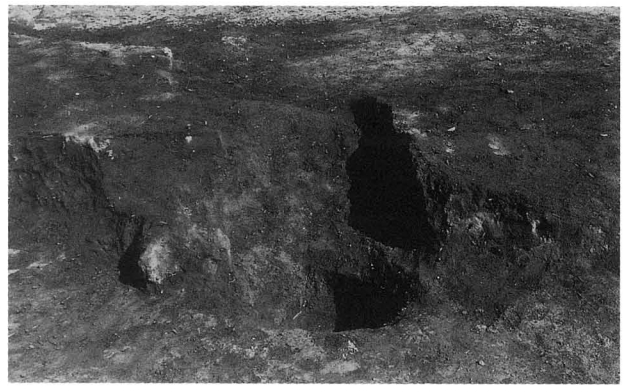
SI-87

SI-93

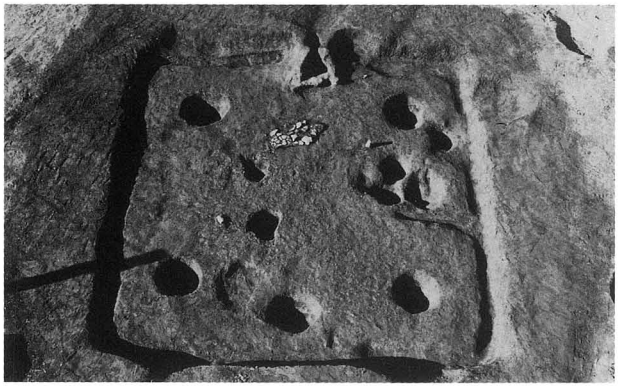


SI-93　遺物出土状況

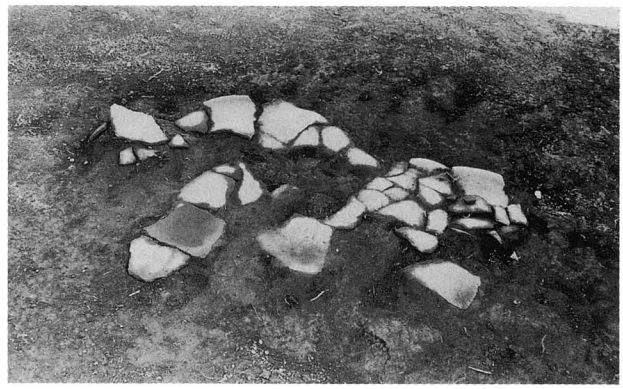
SI-96



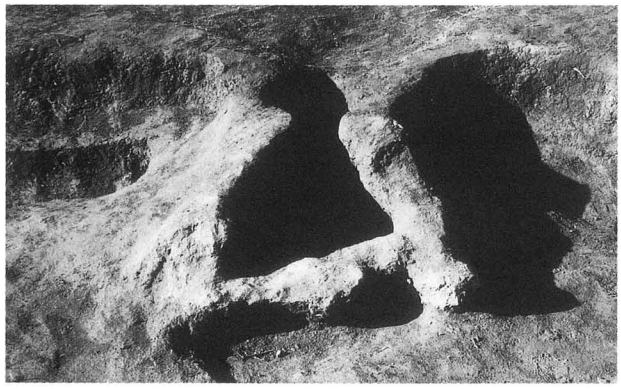
SI-96　竈



SI-97

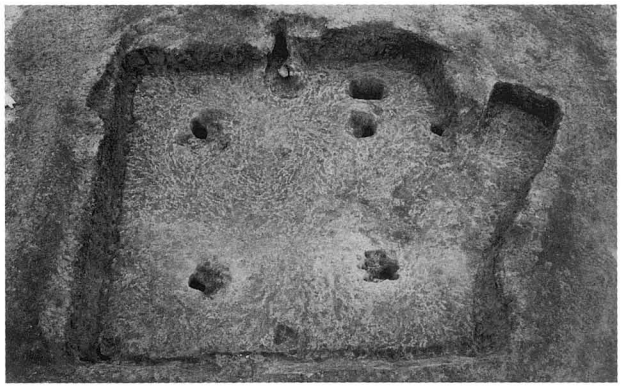


SI-97　遺物出土状況

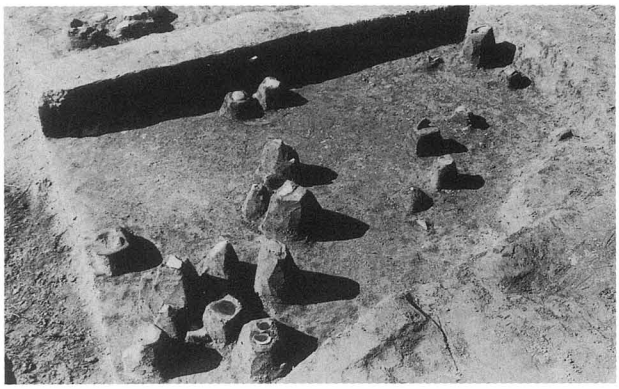


SI-97　竈

SI-14・19・20a・b



SI-100・105・122

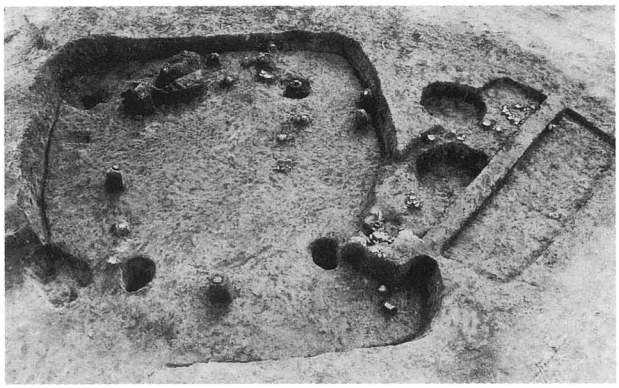


SI-105　遺物出土状況

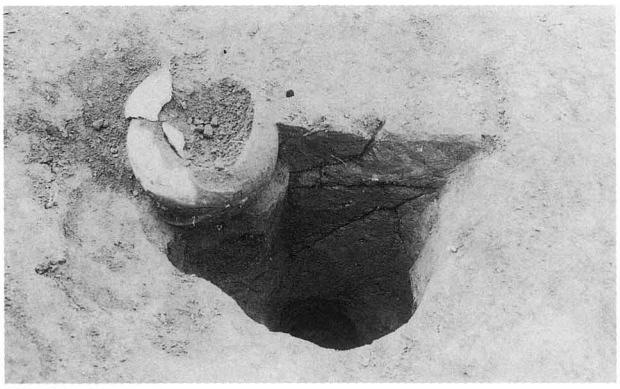
SI-105　遺物出土状況

SI-101　遺物出土状況

SI-106・119



SI-106・135　遺物出土状況

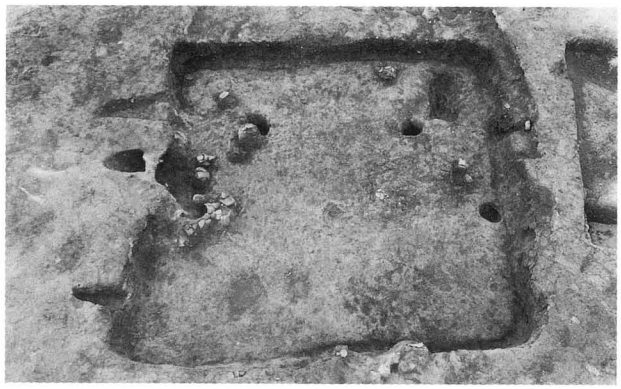


SI-106　P4　遺物出土状況

SI-113

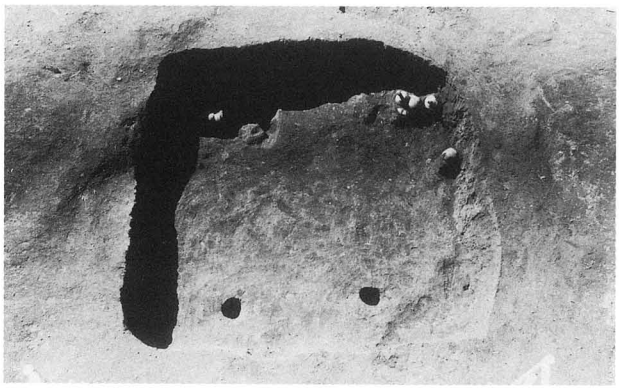
SI-113 P4

SI-117 遺物出土状況



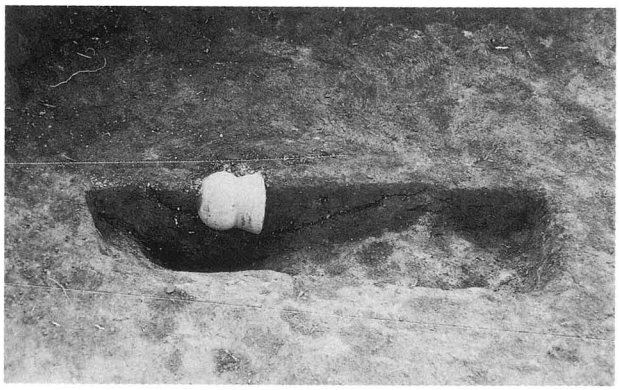
SI-118

SI-118 竈 遺物出土状況



SI-119

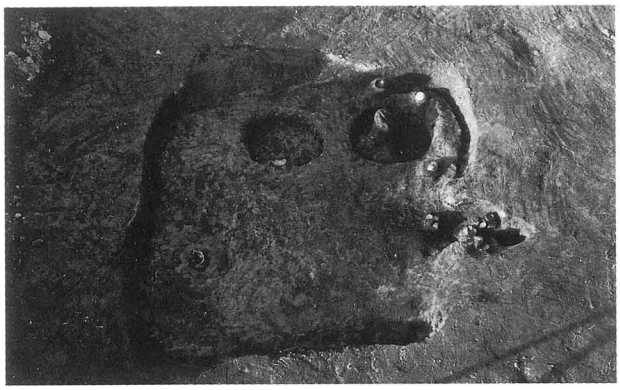
SI-119 遺物出土状況



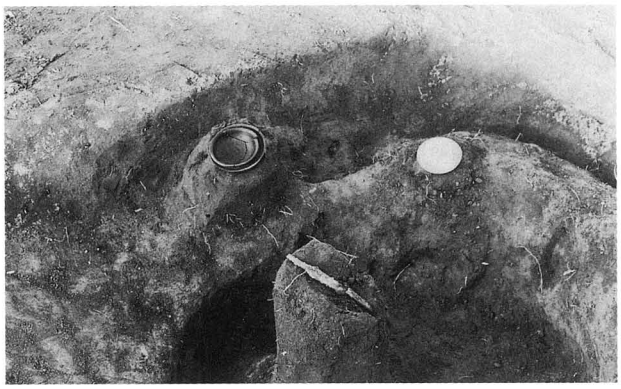
SI-119 貯蔵穴 遺物出土状況

SI-123 遺物出土状況

SI-123　竈　遺物出土状況

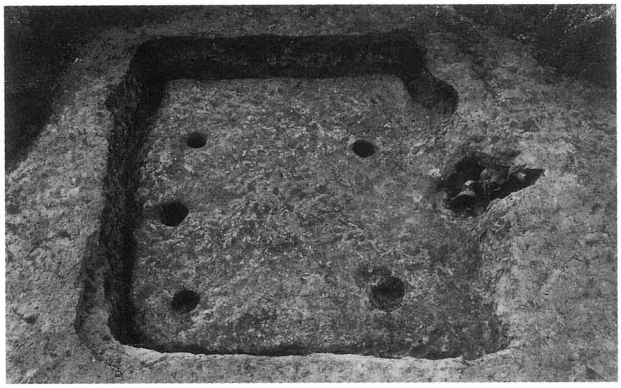


SI-124



SI-124　遺物出土状況

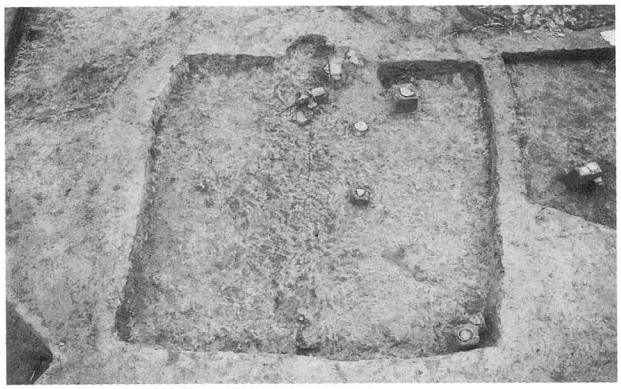
SI-124　竈　遺物出土状況



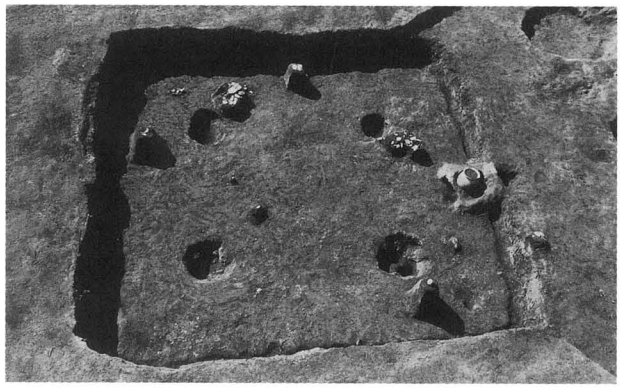
SI-126a

SI-126a　竈　遺物出土状況

SI-126b



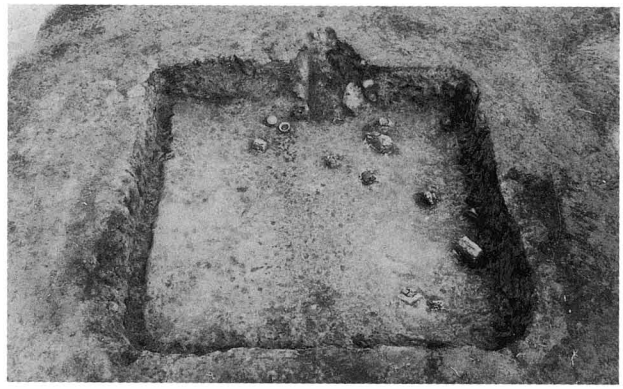
SI-128



SI-129

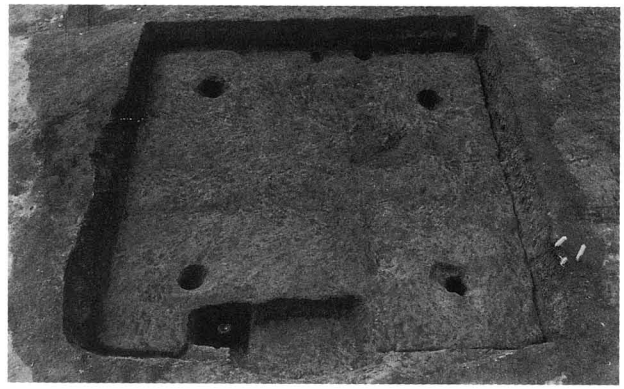
SI-129　遺物出土状況

SI-129　竈　遺物出土状況

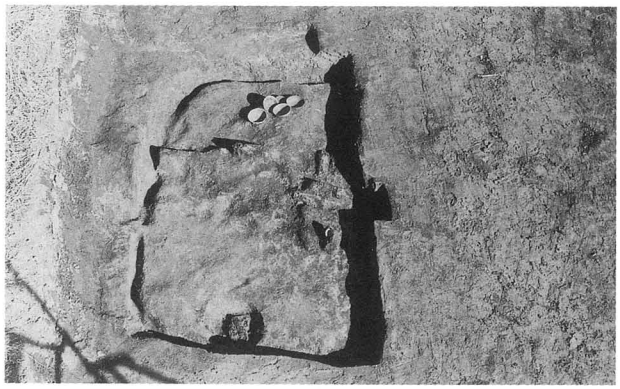


SI-130

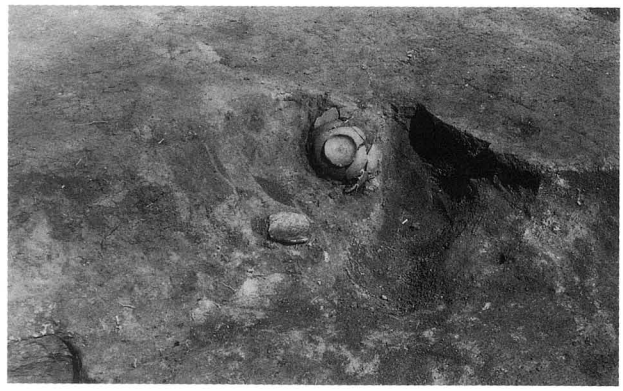
SI-130　竈　遺物出土状況



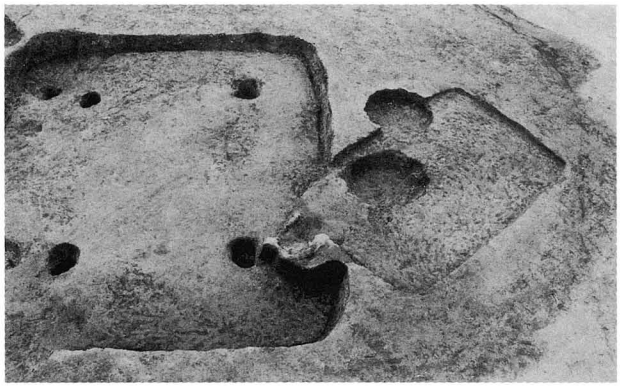
SI-131



SI-133　遺物出土状況

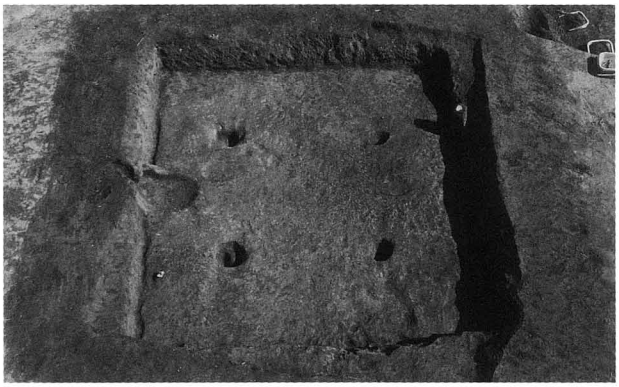


SI-134　竈　遺物出土状況



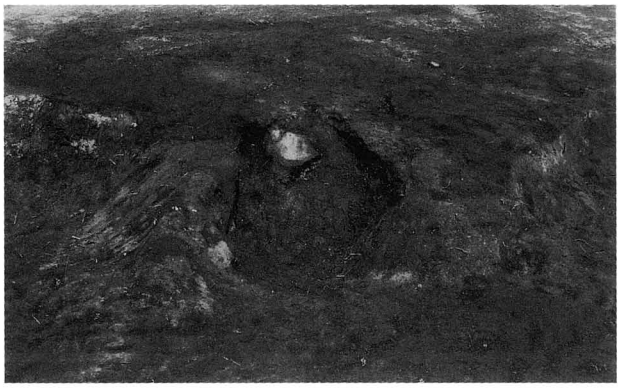
SI-135

SI-135　竈　遺物出土状況



SI-136

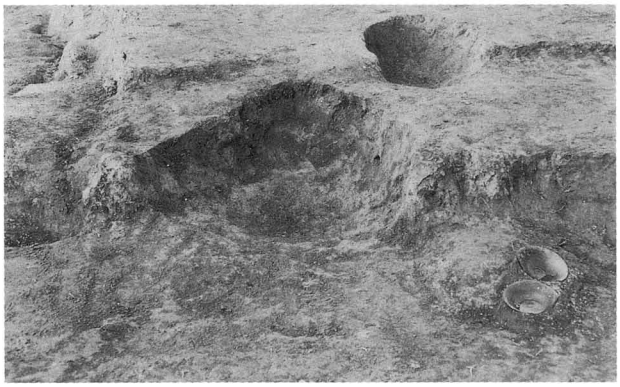
SI-137



SI-137　竈

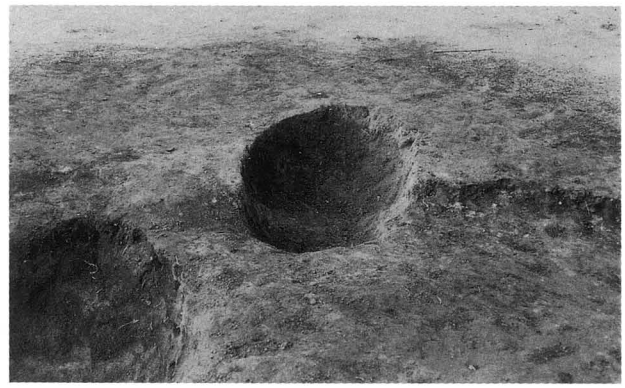
SI-140・141・142・143・144・146・147

SI-140　竈　遺物出土状況



SI-141　竈

SI-143 竈 遺物出土状況



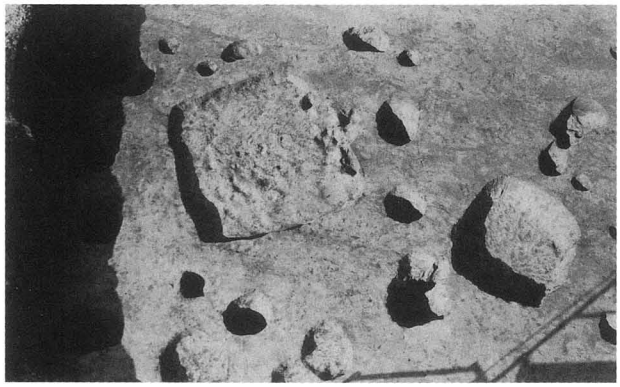
SI-144 竈

SI-146 竈 遺物出土状況

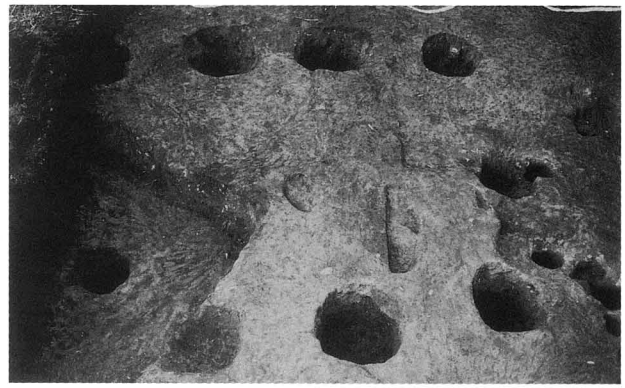
SB-1

SB-2

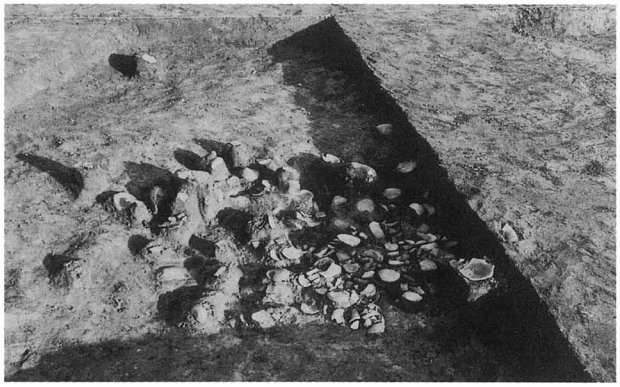
SB-2 P10 遺物出土状況



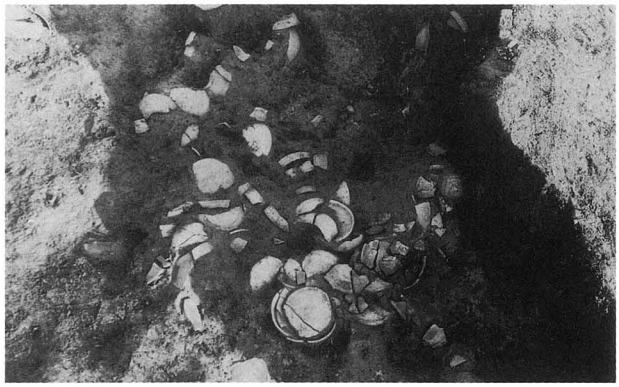
SB-3



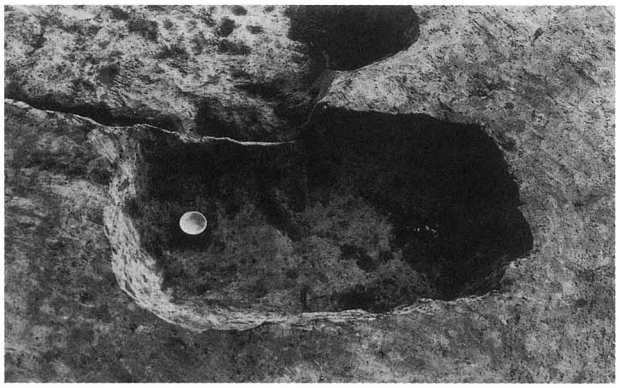
SB-9



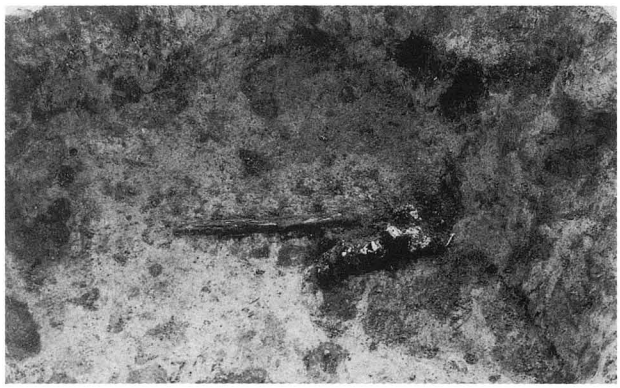
SX-12　遺物出土状況



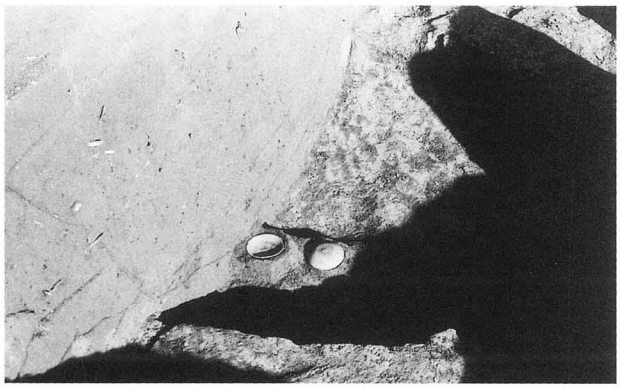
SX-12　遺物出土状況



SK-5



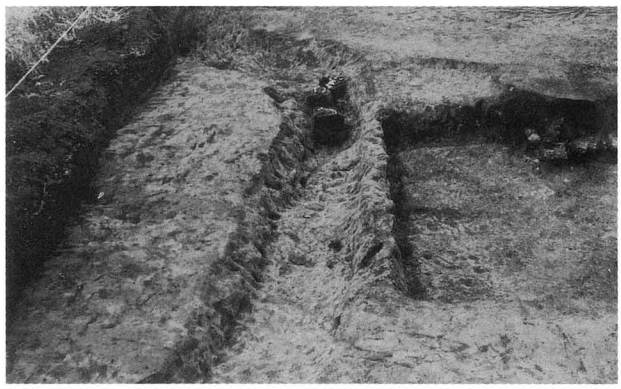
SK-5　遺物出土状況



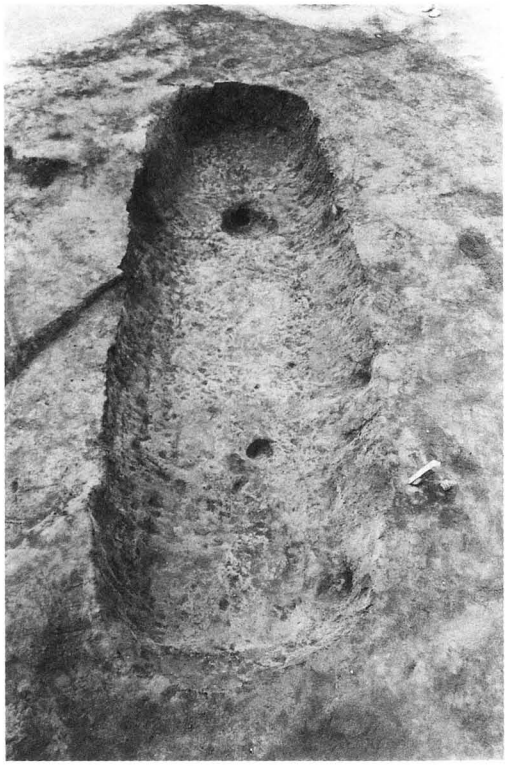
SK-110

SK-116

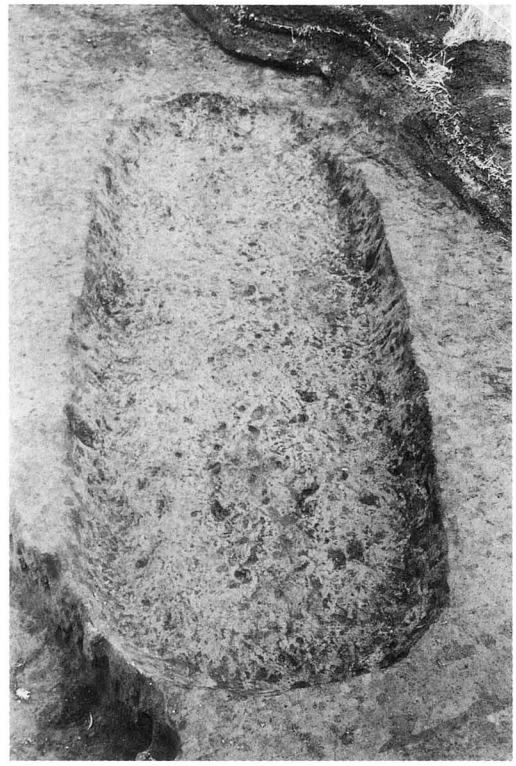
SK-122



SD-10



SX-1

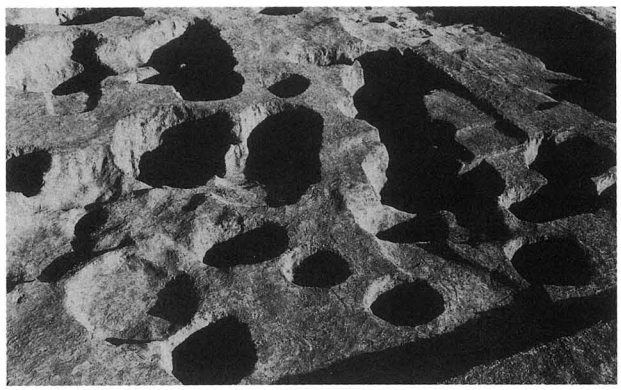


SX-10

SX-11

SX-1　遺物出土状況

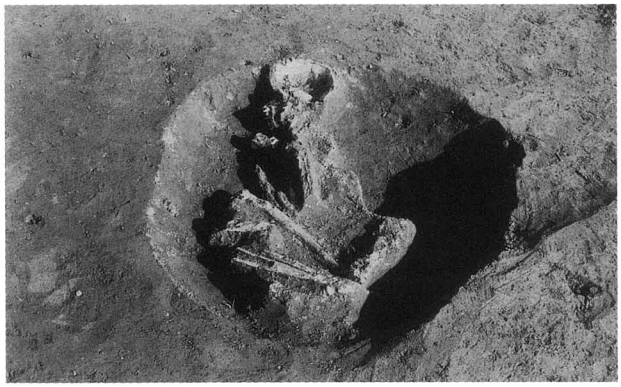
土坑集中部



土坑集中部

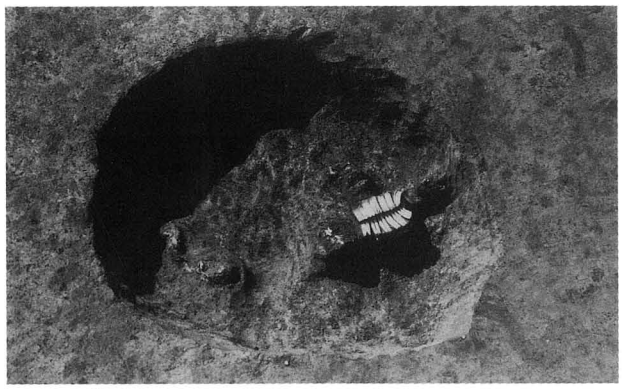
SK-62

SK-91

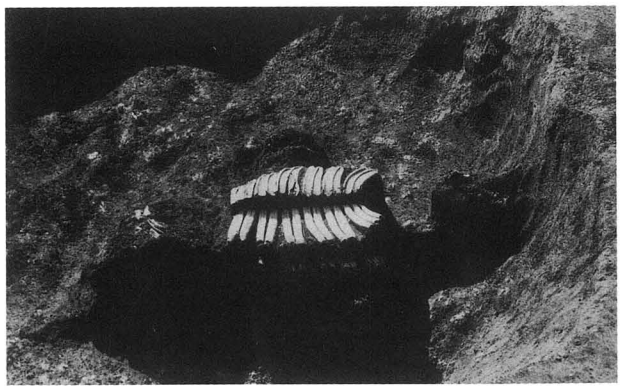


SK-76

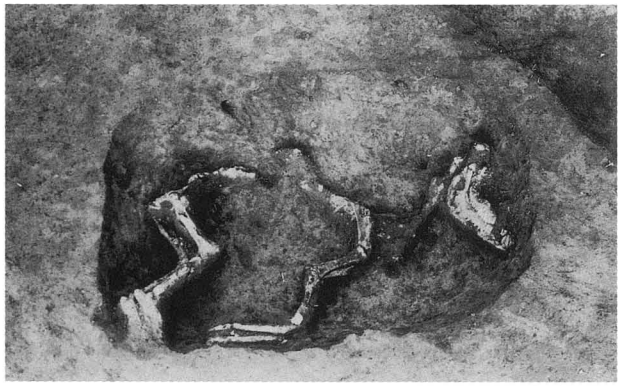
SK-76



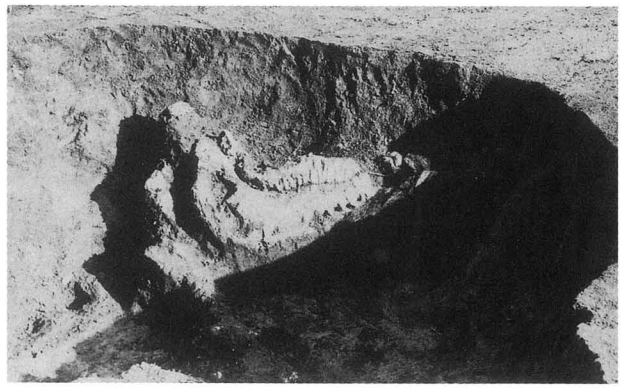
SK-23



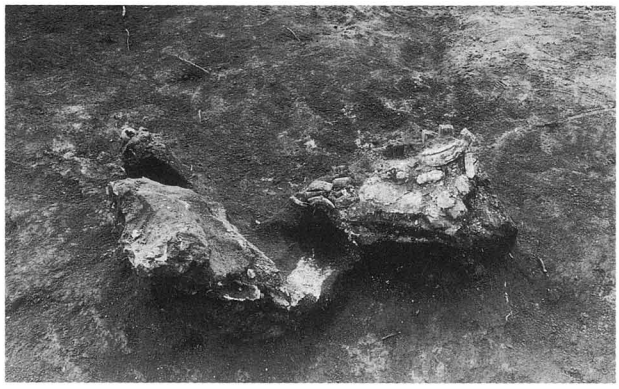
SK-23



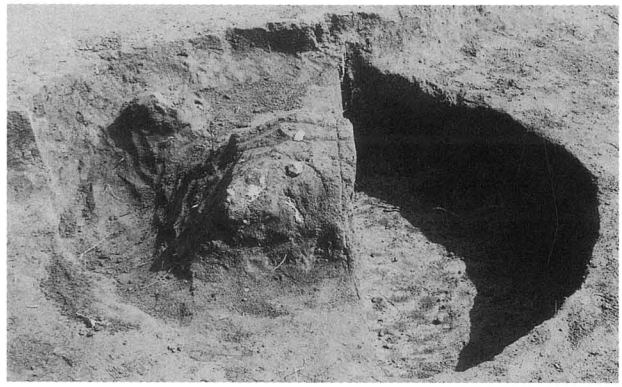
SK-57



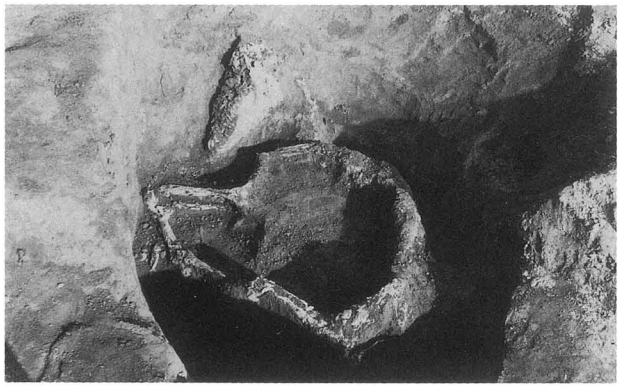
SK-57



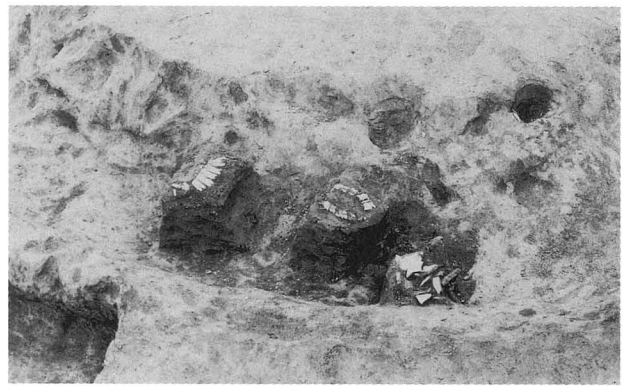
SK-82



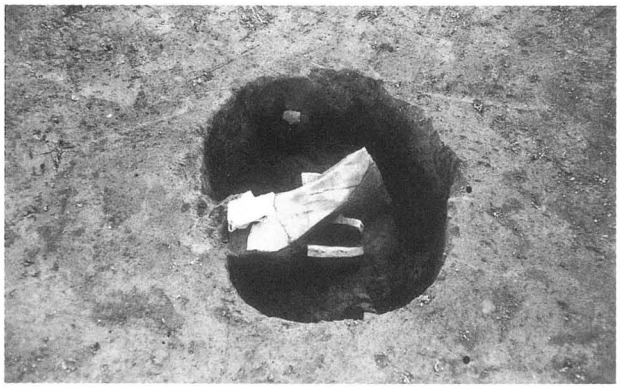
SK-88



SK-104

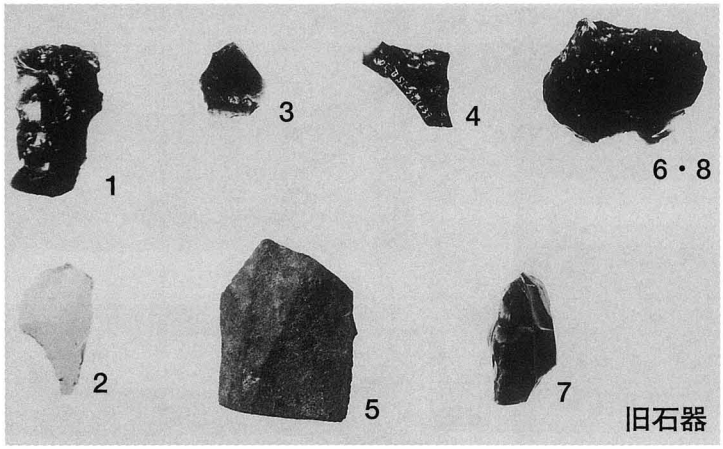


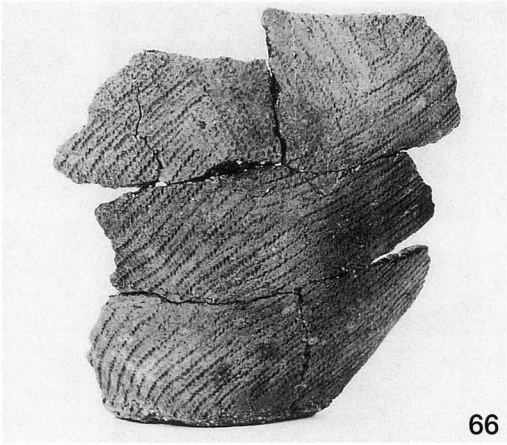
SK-107



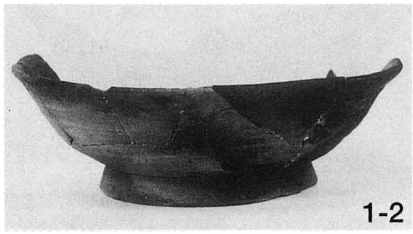
SK-21

現地説明会風景

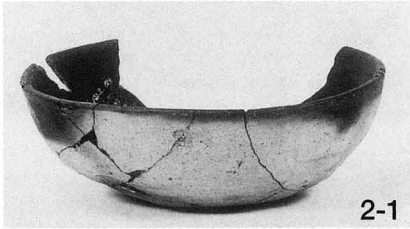

1
2
3
4
5
6・8
7
旧石器

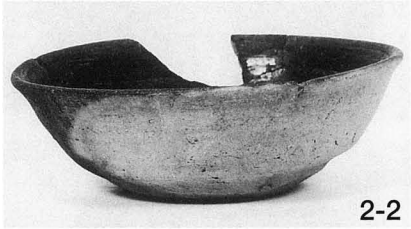

66

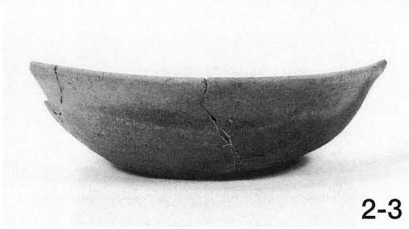
1-1


1-2

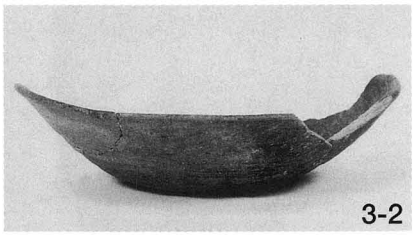
1-3


2-1

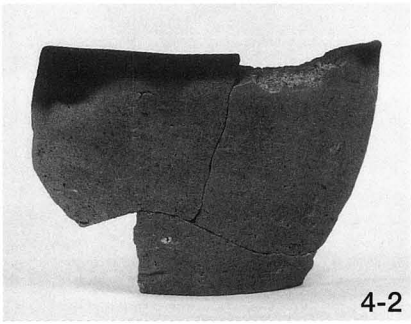

2-2

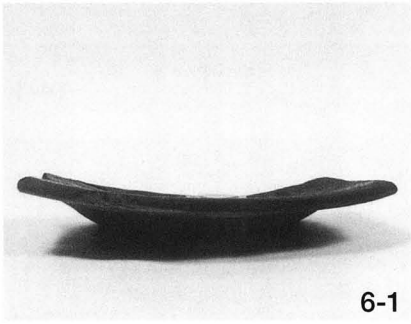

2-3

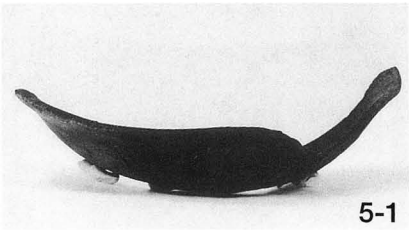
3-1

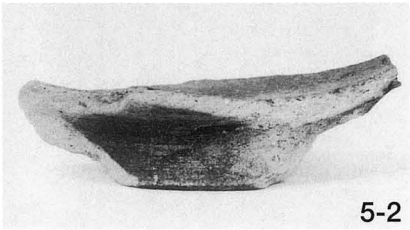

3-2

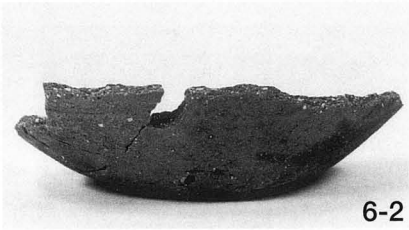
4-1


4-2

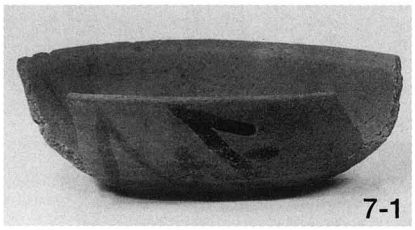

6-1

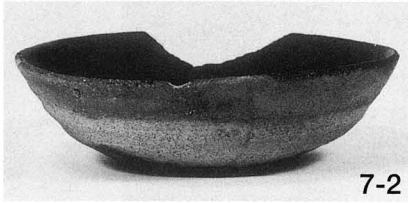

5-1

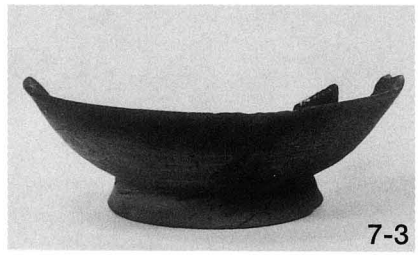

5-2

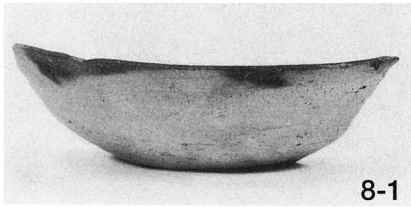

6-2

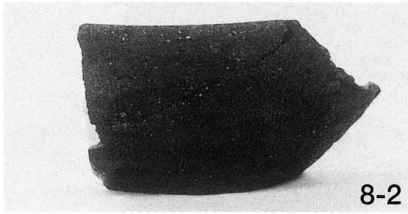
PL 28


7-1

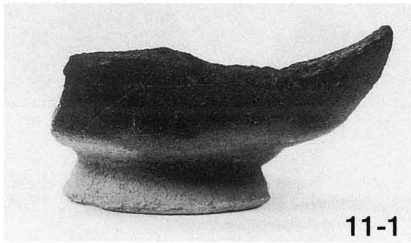

7-2

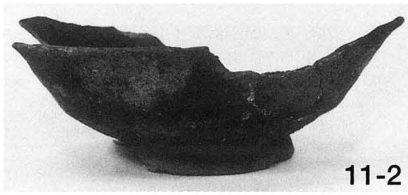

7-3

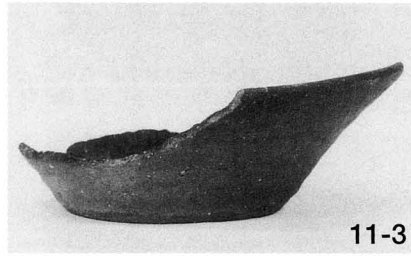

8-1


8-2

8-3


11-1


11-2


11-3

16

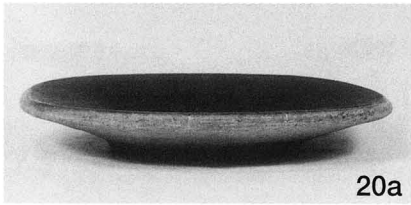
14-1

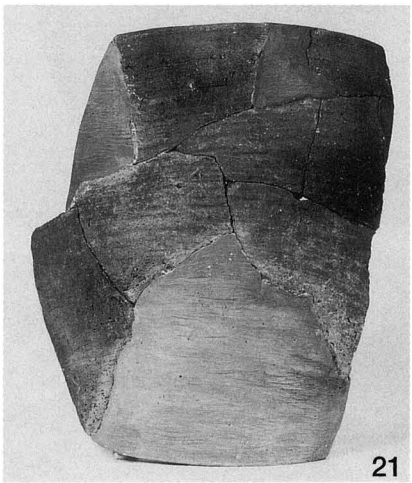
18-1

17

14-1

18-2

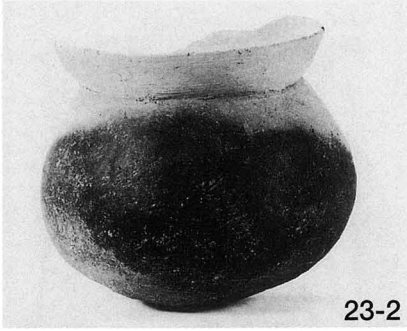

20a

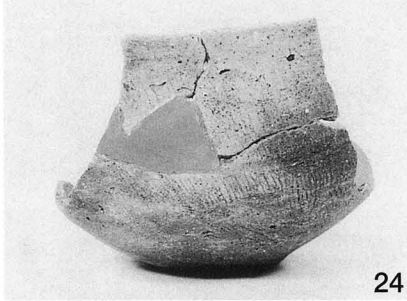

21

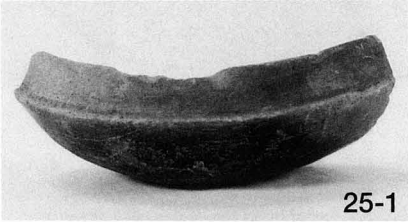
20b

22

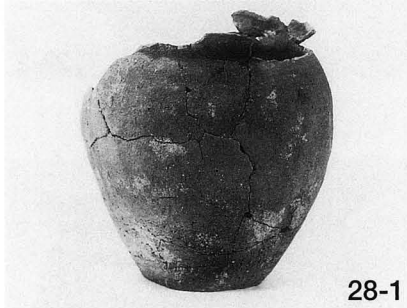
23-1

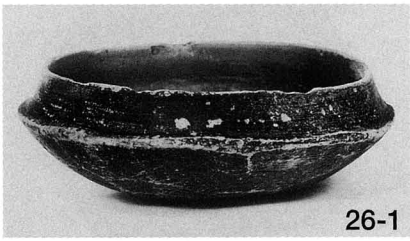

23-2

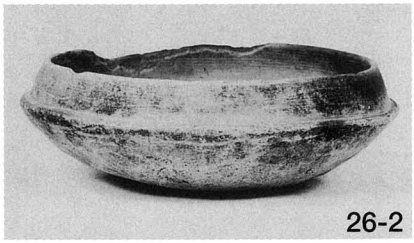

24

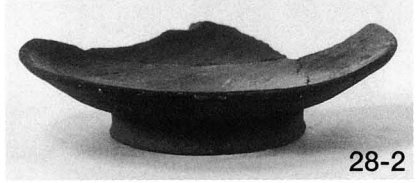

25-1

25-2


28-1


26-1

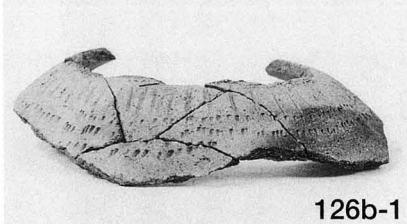

26-2

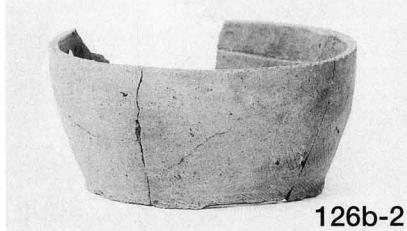

28-2

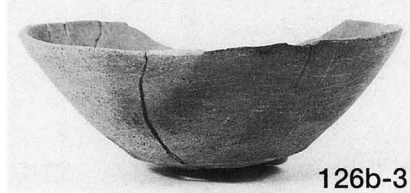
31

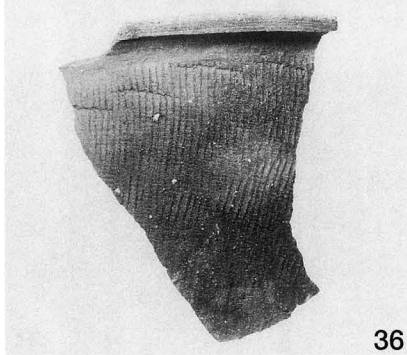
32

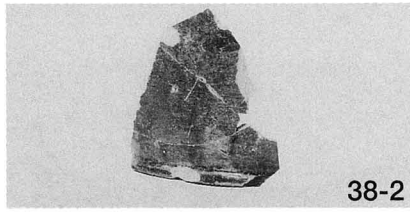
34

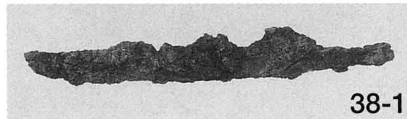

126b-1


126b-2


126b-3

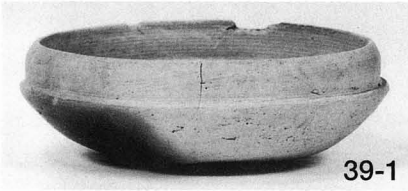

36

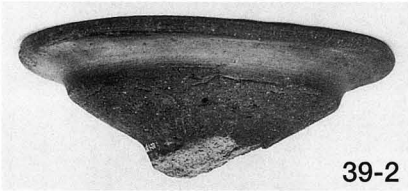

38-2

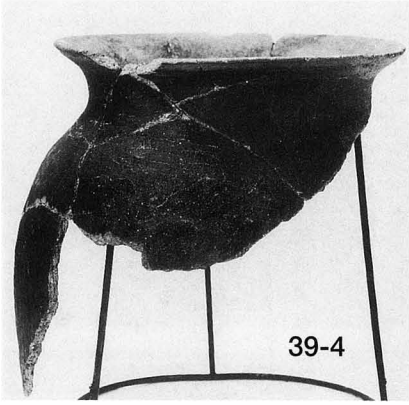

38-1

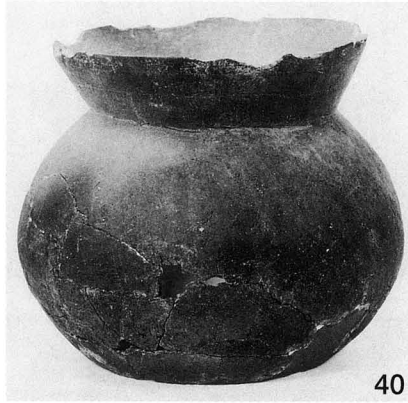
38-3

PL 30


39-1


39-2

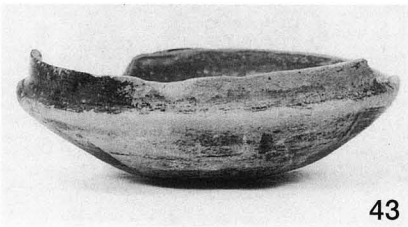

39-4


40

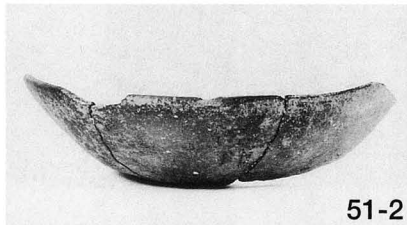
42

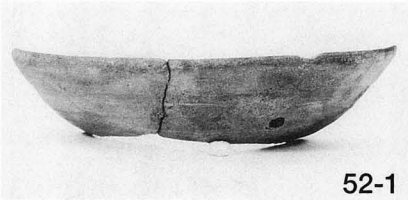
46

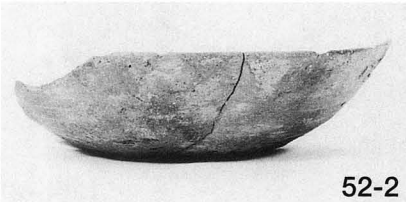
47

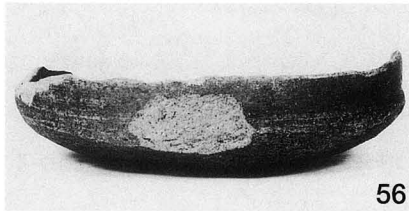

43

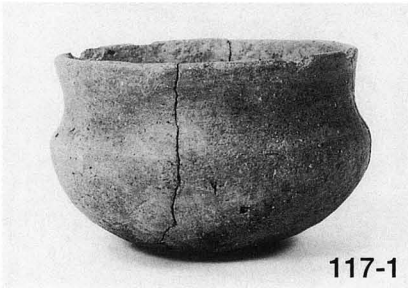
51-1

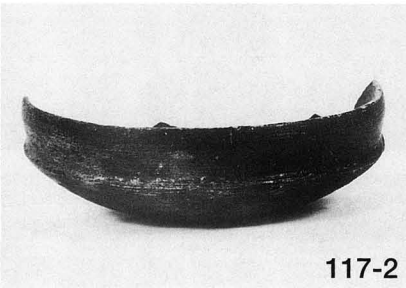

51-2


52-1


52-2


56


117-1


117-2

54

57-1

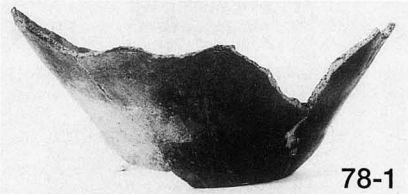
59

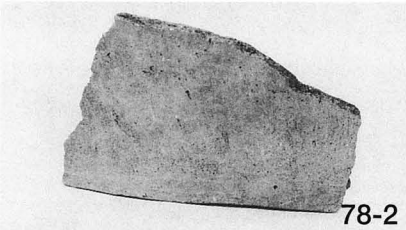
74-1

57-2

78-3

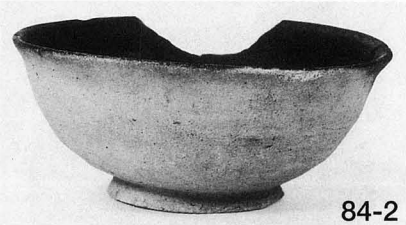
74-2

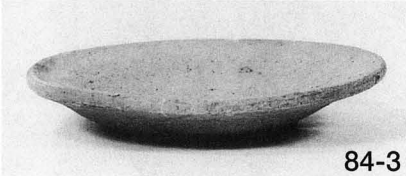

78-1

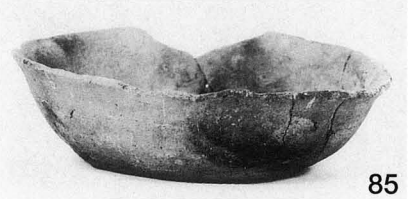

78-2

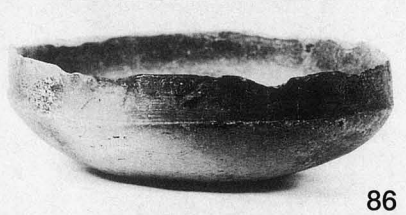
77

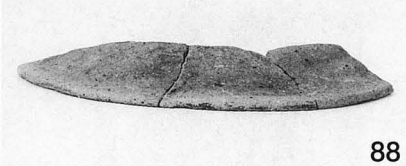
84-1

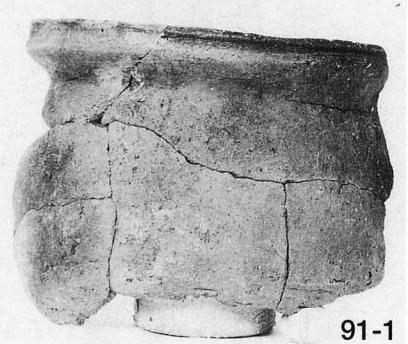

84-2

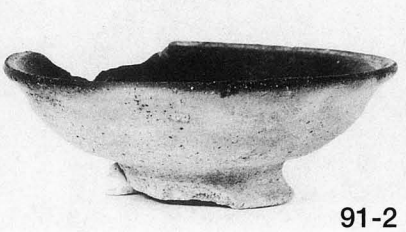

84-3


85


86


88

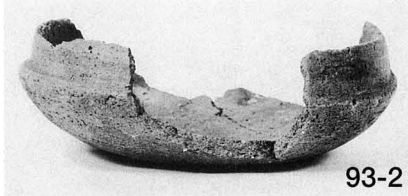

91-1

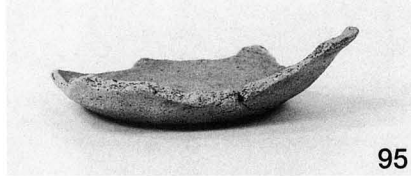

91-2

92

PL 32

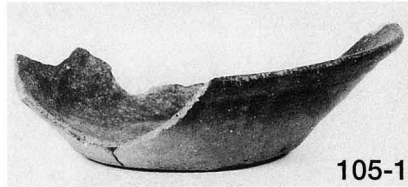
93-1


93-2

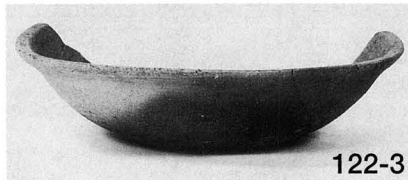

95

96

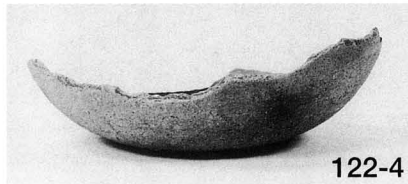
97


105-1

105-2

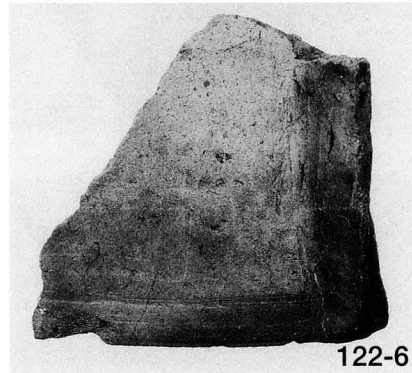

122-3

100-5

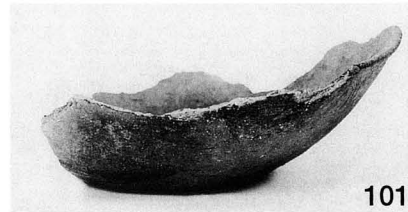

122-4

119

106-3

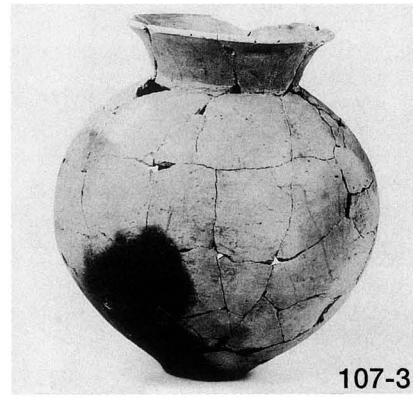

122-6

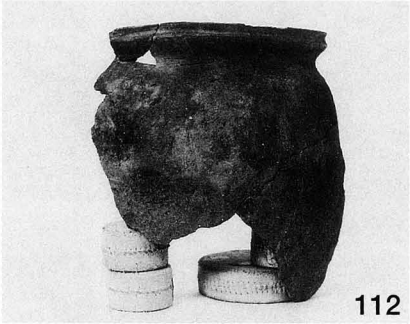
106-2


101

107-2

107-1

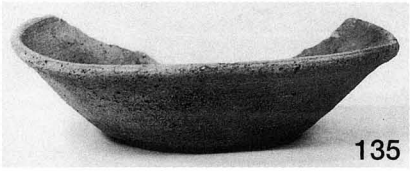

107-3

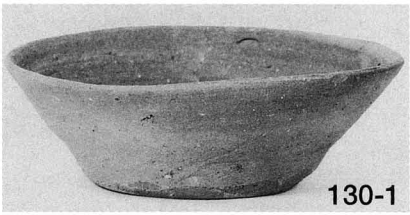

112

123-1

124-1

129-1


135


130-1

131-1

118

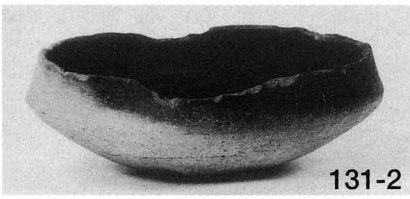
123-2

124-2

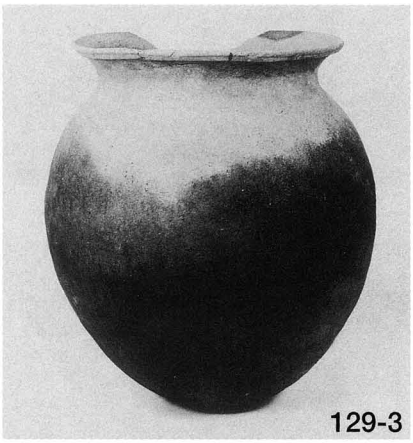
132-2

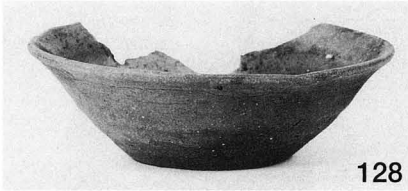
133-1

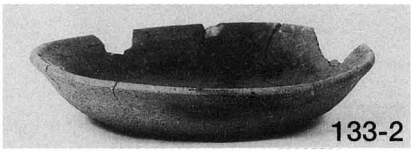
130-2

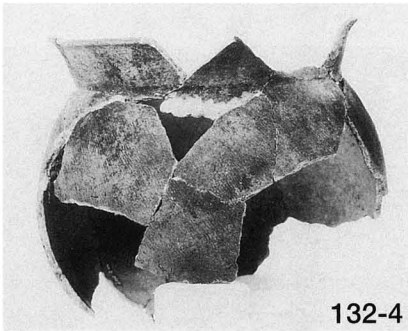

131-2

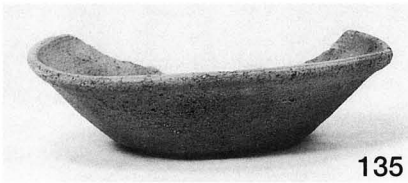
120


129-3


128


133-2


132-4

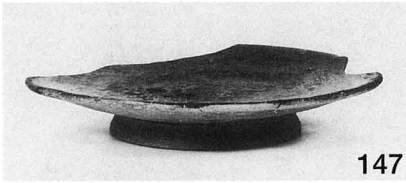

135

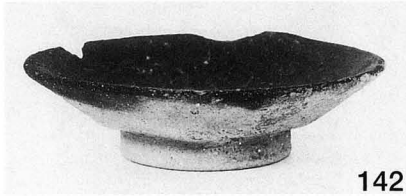
PL 34

140-1

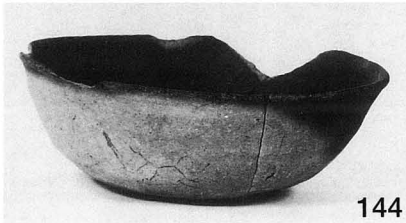
140-2

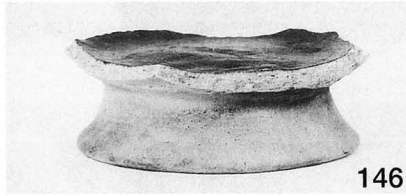
141

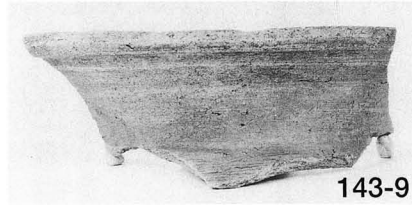

147


142

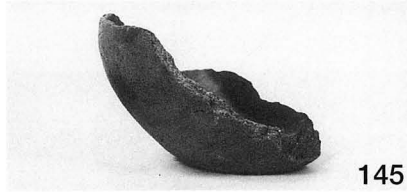
143-6


144


146

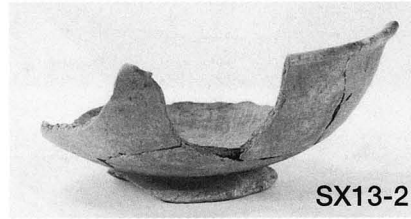

143-9

140-10

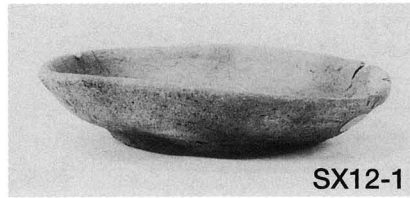

145

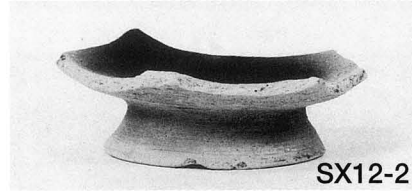
SX13-1

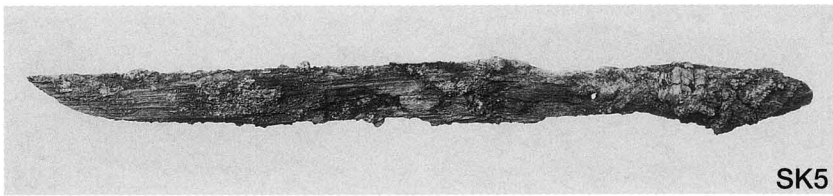
13

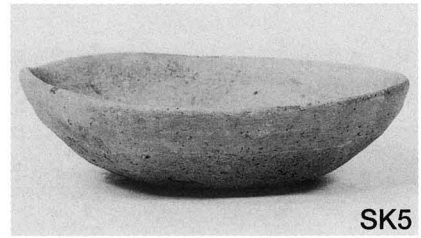

SX13-2

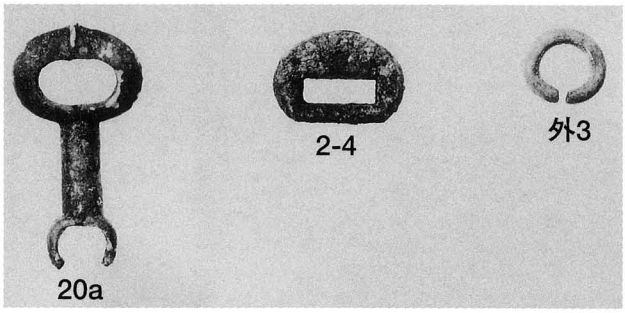
SB-2

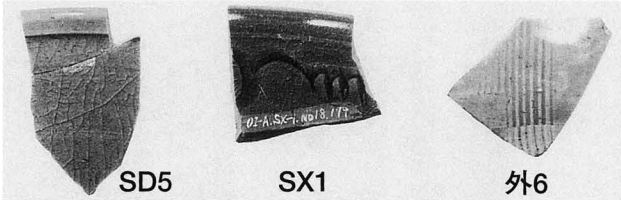

SX12-1

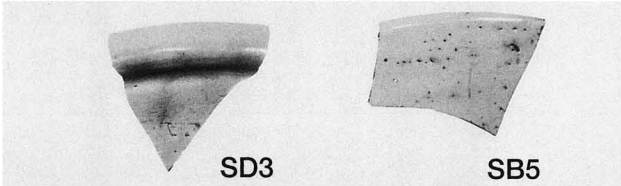

SX12-2

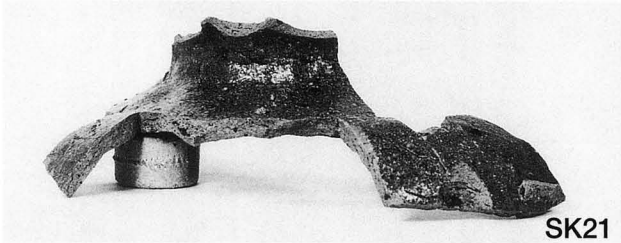

SK5


SK5

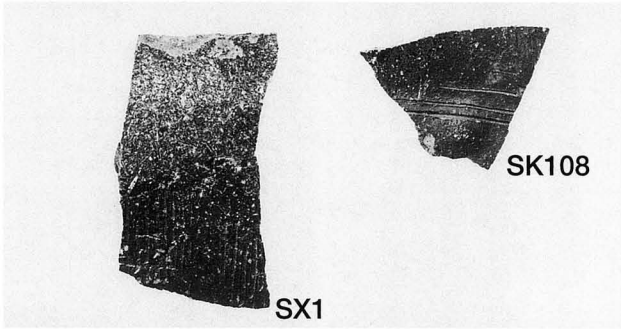

20a
2-4
外3

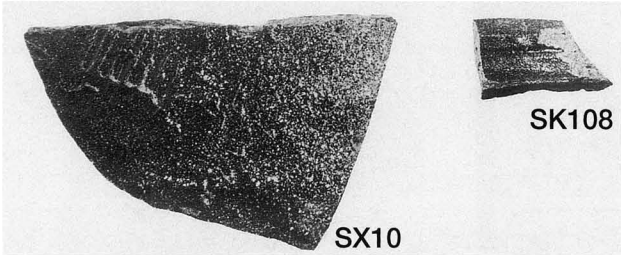

SD5
SX1
外6

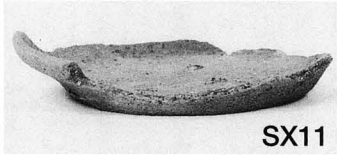

SD3
SB5

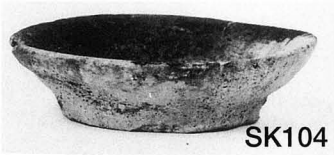

SK21

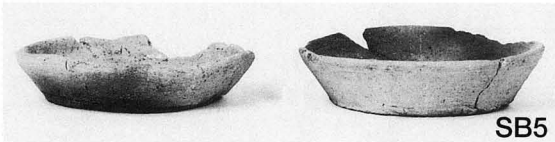
SB5

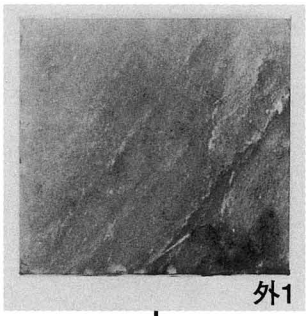

SK108
SX1


SK108
SX10

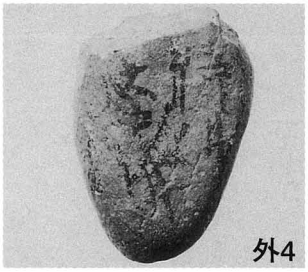

SX11

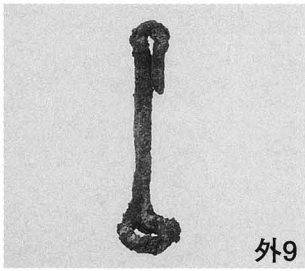

SK104

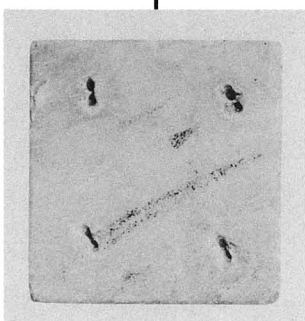

SB5

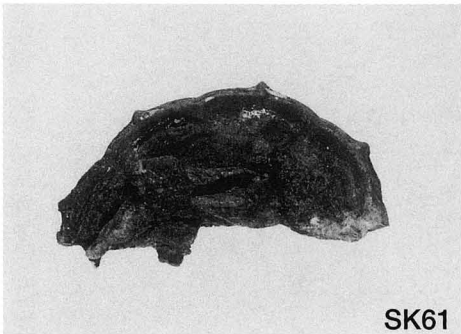

外1

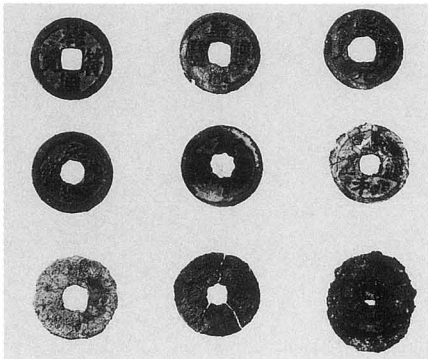
外2


外4


外9




SK61



茨城県土浦市　**入ノ上遺跡**
－都市計画道路田村沖宿線道路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

刊行　平成9年(1997)8月29日
編集　土浦市遺跡調査会
発行　土浦市教育委員会／土浦市下高津2-7-36
印刷　株式会社 ヘック アイ ティ